



令和 3 年度

第 62 回

県政に関する世論調査

報 告 書

令和 4 年 5 月

千 葉 県

は し が き

この調査は、県民の皆さまの生活意識や、県政に対してどのような関心や、期待などを
持っておられるかを把握し、県政推進の基礎資料とするため、昭和50年度から実施して
います。

令和3年度は、県内在住の満18歳以上の男女3,000名を対象に、昨年11月から
12月にかけて郵送法・オンライン調査法で実施しました。

具体的内容としては、環境と生活、健康、福祉などについて県民の意識等の経年変化を
調査する「県民意識調査」、県民のニーズの優先度を調査する「県政への要望」、主要計画
の策定や見直し等の基礎資料とする「県政の主要課題調査」を実施しました。

この報告書が、県の施策立案や諸事業の推進などに活用されるだけでなく、広く県民の
生活意識や県政に関心を寄せる方々にご活用いただければ幸いです。

終わりに、この調査にご協力いただきました県民の皆さまを始め、関係の方々に厚く
お礼申し上げます。

令和4年5月

千葉県総合企画部長 高橋 俊之

目 次

調査の概要	1
調査結果及び解説	9
1 環境と生活について	9
(1) 今後の居住意向	9
(2) 道路の整備の満足度	11
(3) 上水道の整備の満足度	13
(4) 住生活全般の満足度	15
(5) 消費生活全般の満足度	17
(6) 「気候変動による影響への適応」の認知度	19
(7) 環境に配慮した行動	21
(8) 普段の生活で環境に配慮した取組の実施状況	23
(9) 環境保全に関する講演やセミナー、 環境ボランティア活動への参加状況	32
(10) 市民活動団体やボランティア活動の関心度	34
(11) 市民活動団体の活動への参加経験	36
(12) ボランティア活動経験	38
(13) この1年間で文化芸術に触れた頻度	40
(13-1) 文化芸術に触れなかった理由	45
2 健康について	48
(1) 健康づくりへの取組状況	48
(2) 1年間に行った運動の程度	50
(3) 安心して受診できる医療体制	52
(4) かかりつけ医の有無	54
3 福祉について	58
(1) 地域の福祉の状況について	58
(2) 安心して暮らせる地域社会づくりについて	63
(3) 「共生社会」の認知度	65
4 地域リハビリテーションについて	67
(1) リハビリテーションを受けた経験	67
(2) 適切なリハビリテーションの提供体制について	69
(3) 適切なリハビリテーションが提供されるために重要だと思うこと	71
5 食育について	74
(1) 食育への関心度	74
(2) 食育に関心を持ったきっかけ	76
(3) 健康に悪影響を与えないための食品選択や調理の知識	79
(4) 農林漁業体験の参加状況	81

(5) 食に関する文化の認知状況 -----	83
(6) 食に関する文化の伝承 -----	85
6 観光について -----	87
(1) 県内でより快適な旅行をするために充実してほしいこと -----	87
(2) お土産や贈答品として選ぶ県産品 -----	90
7 県の農林水産物について -----	93
(1) 千葉県産農林水産物の購入意向 -----	93
(1-1) 千葉県産農林水産物を購入したいと思う理由 -----	95
(1-2) 千葉県産農林水産物を購入したいと思わない理由 -----	97
(2) 環境にやさしい農産物や制度の認知度 -----	99
(3) 「千葉ブランド水産物」の認知度 -----	102
8 都市農業について -----	104
(1) 県内都市農地の保全について -----	104
(2) 千葉県の都市農業・都市農地に期待する機能や役割 -----	106
9 防災に関する取組について -----	109
(1) 大地震や風水害への不安 -----	109
(2) 防災情報の警戒レベルの意味・取るべき行動の認知度 -----	112
(3) 飲料水や食料、災害用トイレ（簡易・携帯）の備蓄状況 -----	115
(4) 災害伝言板・災害用伝言ダイヤルの認知度 -----	119
(5) 地震の被害を防ぐための対策 -----	121
10 男女共同参画について -----	124
(1) 社会全体での男女の地位の平等感 -----	124
(2) 男女共同参画社会を実現するための取組 -----	126
11 S D G s 等について -----	129
(1) S D G s の言葉の認知度 -----	129
(2) 「ダイバーシティ」概念の認知度 -----	131
(3) 千葉県における「ダイバーシティ社会」の実現について -----	133
(4) 千葉県の魅力 -----	135
12 広報について -----	139
(1) 県政に関する情報を得る手段 -----	139
13 県政への要望 -----	142
(1) 県政への要望 -----	142
(1-1) 各政策への具体的な要望 -----	149
14 自由回答 -----	162
(付) 調査票および単純集計結果 -----	170

調 査 の 概 要

1. 調査の目的

この調査は、県民の生活と県政の主要分野にわたる県民の関心、要望、意向などをとらえ、県政推進の基礎資料とすることを目的とする。

2. 調査の項目

（１）県民意識調査

- ・ 環境と生活について
- ・ 健康について
- ・ 福祉について
- ・ 観光について
- ・ 県の農林水産物について
- ・ 防災に関する取組について
- ・ 男女共同参画について
- ・ S D G s 等について
- ・ 広報について

（２）県政の主要課題

- ・ 地域リハビリテーションについて
- ・ 食育について
- ・ 都市農業について

（３）県政への要望

3. 調査の設計

- （１）調査地域 千葉県全域
- （２）調査対象 満18歳以上の男女個人
- （３）標本数 3,000人
- （４）抽出方法 層化二段無作為抽出法

※層化二段無作為抽出法とは、行政単位と地域によって県内をブロックごとに分類し（層化）、各層に調査地点を人口に応じて比例配分し、国勢調査における調査区域及び住民基本台帳を利用して（二段）、地点ごとに一定数のサンプル抽出を行うものである。

- （５）調査方法 郵送法・オンライン調査法の併用
(郵送配付－郵送・オンライン回収)
- （６）調査時期 令和３年11月26日～令和３年12月17日

4. 調査機関

株式会社サーベイリサーチセンター

5. 回収結果

標本数	(A)	3,000件
総回収数	(B)	1,665件
有効回収数	(C)	1,659件
うちネット回収数		420件
無効回収数		3件
うちネット回収数		3件
回収率	(B / A)	55.50%
有効回収率	(C / A)	55.30%

標本抽出方法

調査対象：千葉県内の市町村に居住する満18歳以上の男女個人
標本数：3,000人
地点数：市部 194地点
 郡部 6地点
 計 200地点
抽出法：層化二段無作為抽出法

〔層 化〕

1. 県内を、次の11地域に分類した。

地域名	該 当 市 郡 名
①千葉地域	千葉市、市原市
②葛南地域	市川市、船橋市、習志野市、八千代市、浦安市
③東葛飾地域	松戸市、野田市、柏市、流山市、我孫子市、鎌ヶ谷市
④印旛地域	成田市、佐倉市、四街道市、八街市、印西市、白井市、富里市、印旛郡
⑤香取地域	香取市、香取郡
⑥海匝地域	銚子市、旭市、匝瑺市
⑦山武地域	東金市、山武市、大網白里市、山武郡
⑧長生地域	茂原市、長生郡
⑨夷隅地域	勝浦市、いすみ市、夷隅郡
⑩安房地域	館山市、鴨川市、南房総市、安房郡
⑪君津地域	木更津市、君津市、富津市、袖ヶ浦市

2. 各地域内においては、
さらに市部、郡部に分け、層とした。

（注）ここでいう市とは、
令和3年4月1日現在市制施行の
地域をさす。



〔標本数の配分〕

各地域・市郡規模別の層における満18歳以上の人口（令和3年4月1日現在の推定数）に対して、3,000の標本数を比例配分した。

〔抽 出〕

1. 平成27年国勢調査時に設定された調査区を、第1次抽出単位となる調査単位として使用した。
 2. 調査地点の抽出は、調査地点が2地点以上に割り当てられた層については、

$$\left(\frac{\text{層における調査区数の合計}}{\text{層で算出された調査地点数}} = \text{抽出間隔} \right)$$
を算出し、等間隔抽出法によって抽出した。
 3. 抽出に際しての各層内における市町村の配列順序は、平成27年国勢調査時の「標準地域コード一覧」に従った。
 4. 調査地点における対象者の抽出は、調査地点の範囲内（町・丁目・番地等を指定）を、住民基本台帳から等間隔抽出法によって抽出した。
- 以上の結果、各地域・市郡別（層別）の標本数・調査地点数は、次のとおりである。

地域 \ 市郡	市 部	郡 部	計
① 千葉地域	1,070,492 600 40	0 0 0	1,070,492 600 40
② 葛南地域	1,432,253 795 53	0 0 0	1,432,253 795 53
③ 東葛飾地域	1,296,425 720 48	0 0 0	1,296,425 720 48
④ 印旛地域	581,835 330 22	36,062 15 1	617,897 345 23
⑤ 香取地域	65,407 30 2	29,937 15 1	95,344 45 3
⑥ 海匝地域	139,323 75 5	0 0 0	139,323 75 5
⑦ 山武地域	136,968 75 5	40,448 15 1	177,416 90 6
⑧ 長生地域	77,029 45 3	51,661 30 2	128,690 75 5
⑨ 夷隅地域	48,069 30 2	14,411 15 1	62,480 45 3
⑩ 安房地域	101,233 60 4	6,700 0 0	107,933 60 4
⑪ 君津地域	279,702 150 10	0 0 0	279,702 150 10
計	5,228,736 2,910 194	179,219 90 6	5,407,955 3,000 200

（注）上段は満18歳以上の人口（令和3年4月1日現在）、中段は標本数、下段は調査地点数である。

調査地点一覧

地域	調査地点名	標本数	地域	調査地点名	標本数
① 千葉地域	千葉市中央区鵜の森町	15	① 千葉地域	市原市金沢	15
	千葉市中央区白旗 2 丁目	15		市原市国分寺台中央 2 丁目	15
	千葉市中央区蘇我 4 丁目	15		市原市五井西 5 丁目	15
	千葉市中央区間屋町	15		市原市ちはら台南 5 丁目	15
	千葉市中央区浜野町	15	② 葛南地域	市川市国府台 5 丁目	15
	千葉市中央区松波 4 丁目	15		市川市新田 1 丁目	15
	千葉市中央区村田町	15		市川市東大和田 1 丁目	15
	千葉市花見川区柏井 1 丁目	15		市川市南八幡 4 丁目	15
	千葉市花見川区作新台 3 丁目	15		市川市宮久保 4 丁目	15
	千葉市花見川区浪花町	15		市川市若宮 3 丁目	15
	千葉市花見川区み春野 2 丁目	15		市川市国分 6 丁目	15
	千葉市花見川区宮野木台 4 丁目	15		市川市須和田 1 丁目	15
	千葉市稲毛区稲毛東 5 丁目	15		市川市東国分 1 丁目	15
	千葉市稲毛区あやめ台	15		市川市南大野 1 丁目	15
	千葉市稲毛区天台 5 丁目	15		市川市伊勢宿	15
	千葉市稲毛区作草部 1 丁目	15		市川市新井 1 丁目	15
	千葉市若葉区小倉町	15		市川市塩浜 4 丁目	15
	千葉市若葉区桜木 5 丁目	15		市川市日之出	15
	千葉市若葉区千城台西 3 丁目	15		船橋市宮本 2 丁目	15
	千葉市若葉区中田町	15		船橋市市場 4 丁目	15
	千葉市若葉区多部田町	15		船橋市若松 1 丁目	15
	千葉市緑区誉田町 1 丁目	15		船橋市海神 3 丁目	15
	千葉市緑区あすみが丘 4 丁目	15		船橋市印内 1 丁目	15
	千葉市緑区おゆみ野 4 丁目	15		船橋市本中山 5 丁目	15
	千葉市緑区おゆみ野南 2 丁目	15		船橋市前貝塚町	15
	千葉市美浜区磯辺 4 丁目	15		船橋市藤原 8 丁目	15
	千葉市美浜区真砂 2 丁目	15		船橋市夏見 2 丁目	15
	千葉市美浜区幕張西 3 丁目	15		船橋市金杉 1 丁目	15
	市原市青柳	15		船橋市二和東 6 丁目	15
	市原市西広 5 丁目	15		船橋市南三咲 2 丁目	15
	市原市五井東 1 丁目	15		船橋市みやぎ台 4 丁目	15
	市原市五所	15		船橋市前原西 2 丁目	15
	市原市大厩	15		船橋市飯山満町 3 丁目	15
	市原市惣社 1 丁目	15		船橋市三山 1 丁目	15
	市原市桜台 4 丁目	15		船橋市田喜野井 3 丁目	15
	市原市永吉	15		船橋市高根台 7 丁目	15

地域	調 査 地 点 名	標 本 数	地域	調 査 地 点 名	標 本 数
② 葛南地域	船橋市新高根 5 丁目	15	③ 東葛飾地域	野田市山崎梅の台	15
	船橋市大穴南 3 丁目	15		野田市小山	15
	船橋市西習志野 1 丁目	15		野田市岡田	15
	船橋市習志野台 8 丁目	15		野田市光葉町一丁目	15
	船橋市坪井西 2 丁目	15		柏市伊勢原 1 丁目	15
	習志野市津田沼 4 丁目	15		柏市柏 2 丁目	15
	習志野市大久保 1 丁目	15		柏市南逆井 1 丁目	15
	習志野市新栄 1 丁目	15		柏市新柏 1 丁目	15
	習志野市秋津 2 丁目	15		柏市富里 1 丁目	15
	八千代市大和田	15		柏市十余二	15
	八千代市萱田	15		柏市根戸	15
	八千代市高津団地	15		柏市光ヶ丘 4 丁目	15
	八千代市米本団地	15		柏市松葉町 1 丁目	15
	八千代市八千代台東 2 丁目	15		柏市南増尾 3 丁目	15
	八千代市八千代台北 7 丁目	15		柏市増尾 8 丁目	15
	八千代市高津東 3 丁目	15		柏市大津ヶ丘 1 丁目	15
	浦安市富士見 5 丁目	15		柏市手賀の杜 4 丁目	15
	浦安市猫実 5 丁目	15		流山市大字鰯ヶ崎	15
	浦安市堀江 4 丁目	15		流山市大字東深井	15
③ 東葛飾地域	浦安市入船 4 丁目	15		流山市こうのす台	15
	浦安市舞浜 3 丁目	15		流山市向小金 2 丁目	15
	松戸市大橋	15		流山市西初石 2 丁目	15
	松戸市旭町 1 丁目	15		我孫子市つくし野 3 丁目	15
	松戸市古ヶ崎 1 丁目	15		我孫子市栄	15
	松戸市小金原 6 丁目	15		我孫子市柴崎	15
	松戸市栄町 8 丁目	15		我孫子市湖北台 7 丁目	15
	松戸市河原塚	15		我孫子市布佐	15
	松戸市常盤平 3 丁目	15		我孫子市南新木 1 丁目	15
	松戸市中根長津町	15		鎌ヶ谷市東道野辺 5 丁目	15
	松戸市新松戸 5 丁目	15		鎌ヶ谷市中央 1 丁目	15
	松戸市平賀	15		鎌ヶ谷市道野辺中央 2 丁目	15
	松戸市松戸新田	15	④ 印旛地域	成田市橋賀台 2 丁目	15
	松戸市稔台 2 丁目	15		成田市三里塚	15
	松戸市六高台 2 丁目	15		成田市はなのき台 1 丁目	15
	松戸市栄町西 5 丁目	15		佐倉市高岡	15
	松戸市五香西 2 丁目	15		佐倉市江原台 2 丁目	15
	野田市上花輪	15		佐倉市井野町	15
	野田市中根	15		佐倉市中志津 1 丁目	15

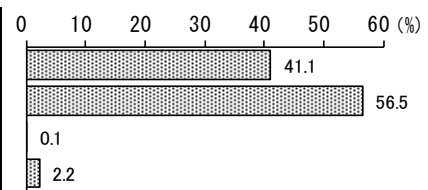
第62回県政に関する世論調査（R 3 年度）

地域	調 査 地 点 名	標 本 数	地域	調 査 地 点 名	標 本 数
④ 印旛地域	佐倉市ユーカリが丘 4 丁目	15	⑦ 山武地域	山武市埴谷	15
	佐倉市大崎台 1 丁目	15		大網白里市大網	15
	佐倉市染井野 5 丁目	15		大網白里市みずほ台 2 丁目	15
	四街道市四街道	15		山武郡九十九里町細屋敷	15
	四街道市鷹の台 2 丁目	15	⑧ 長生地域	茂原市高師台 1 丁目	15
	四街道市千代田 5 丁目	15		茂原市東郷	15
	四街道市美しが丘 1 丁目	15		茂原市早野	15
	八街市滝台	15		長生郡一宮町一宮	15
	印西市小林北 4 丁目	15	⑨ 夷隅地域	長生郡長生村一松丙	15
	印西市木刈 7 丁目	15		勝浦市興津	15
	印西市吉高船戸西	15		いすみ市小池	15
	白井市富士	15	⑩ 安房地域	夷隅郡御宿町浜	15
	白井市七次台 3 丁目	15		館山市八幡	15
	富里市七栄	15		鴨川市太尾	15
	富里市日吉台 5 丁目	15		南房総市富浦町原岡	15
	印旛郡栄町竜角寺台 4 丁目	15		南房総市大井	15
⑤ 香取地域	香取市佐原イ	15	⑪ 君津地域	木更津市真舟 4 丁目	15
	香取市山倉	15		木更津市畑沢南 5 丁目	15
	香取郡東庄町新宿	15		木更津市永井作 2 丁目	15
⑥ 海匝地域	銚子市天王台	15		木更津市本郷 1 丁目	15
	銚子市今宮町	15		君津市外箕輪 4 丁目	15
	銚子市長山町	15		君津市大和田	15
	旭市琴田	15		君津市杉谷	15
	匝瑳市飯倉台	15		富津市小久保	15
⑦ 地山武域	東金市田間 3 丁目	15		袖ヶ浦市今井 3 丁目	15
	東金市上武射田	15		袖ヶ浦市滝の口	15

回答者の属性

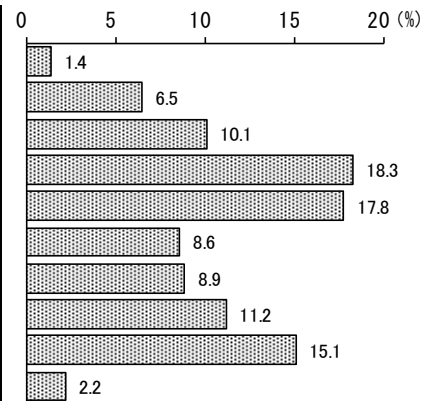
1. 性

	基数	構成比
1 男性	682	41.1
2 女性	938	56.5
3 その他	2	0.1
(無回答)	37	2.2
全 体	1,659	100.0



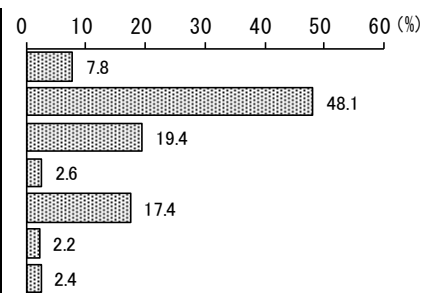
2. 年 代

	基数	構成比
1 18～19歳	24	1.4
2 20代	108	6.5
3 30代	167	10.1
4 40代	303	18.3
5 50代	296	17.8
6 60～64歳	142	8.6
7 65～69歳	147	8.9
8 70～74歳	186	11.2
9 75歳以上	250	15.1
(無回答)	36	2.2
全 体	1,659	100.0



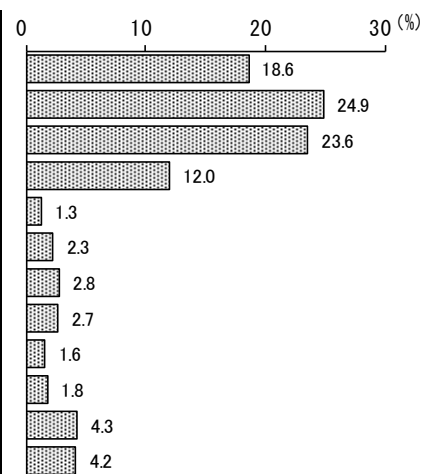
3. 職 業

	基数	構成比
1 自営業者	130	7.8
2 勤め人	798	48.1
3 主婦・主夫	322	19.4
4 学生	43	2.6
5 無職	289	17.4
6 その他	37	2.2
(無回答)	40	2.4
全 体	1,659	100.0



4. 地 域

	基数	構成比
1 千葉地域	308	18.6
2 葛南地域	413	24.9
3 東葛飾地域	392	23.6
4 印旛地域	199	12.0
5 香取地域	22	1.3
6 海匝地域	38	2.3
7 山武地域	46	2.8
8 長生地域	44	2.7
9 夷隅地域	27	1.6
10 安房地域	30	1.8
11 君津地域	71	4.3
(無回答)	69	4.2
全 体	1,659	100.0



（報告書の見方）

本報告書を読む際に、次の点に留意してください。

- （１）比率はすべて百分比で表し、小数点以下第２位を四捨五入して算出した。このために、百分比の合計が100%にならないことがある。
- （２）基数となるべき実数はnとして掲載した。その比率はnの件数を100%として算出した。
- （３）１人の回答者が複数回答で行う設問では、その比率の合計が100%を上回ることがある。
- （４）複数の選択肢を合わせた表記の回答割合は、選択肢の回答者人数を合わせた値を、全回答者で割った値を採用しているため、選択肢の回答割合を単純に足した値と異なることがある。
- （５）回答の基数（サンプル数）が少ない場合は、解説で当該集計結果に触れていない場合がある。また、派生的設問において、基数が少ない属性が多い場合は、解説を行わない場合がある。
- （６）地域別、性・年代別の解説において、全体の数値との差が認められる確率が一定の基準を超えない属性の数値については、触れていない場合がある。
- （７）この調査の標本誤差は次の式によって得られる。但し、信頼度を95%とする。

$$b = 2 \sqrt{\frac{N - n}{N - 1} \times \frac{P(1 - P)}{n}}$$

b = 標本誤差
 N = 母集団数
 n = 比率算出の基数（サンプル数）
 P = 回答比率

次に、本調査の標本誤差の早見表をあげる。

回答比率（P） 基数（n）		10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
総 数	1,659人	± 2.08	± 2.78	± 3.18	± 3.40	± 3.47
千葉地域	308	± 4.83	± 6.45	± 7.39	± 7.90	± 8.06
葛南地域	413	± 4.18	± 5.57	± 6.38	± 6.82	± 6.96
東葛飾地域	392	± 4.29	± 5.71	± 6.55	± 7.00	± 7.14
印旛地域	199	± 6.02	± 8.02	± 9.19	± 9.82	± 10.03
香取地域	22	± 18.09	± 24.12	± 27.63	± 29.54	± 30.15
海匝地域	38	± 13.76	± 18.35	± 21.03	± 22.48	± 22.94
山武地域	46	± 12.51	± 16.68	± 19.11	± 20.43	± 20.85
長生地域	44	± 12.79	± 17.06	± 19.54	± 20.89	± 21.32
夷隅地域	27	± 16.33	± 21.77	± 24.94	± 26.67	± 27.22
安房地域	30	± 15.49	± 20.66	± 23.66	± 25.30	± 25.82
君津地域	71	± 10.07	± 13.43	± 15.38	± 16.44	± 16.78
男 性	682	± 3.25	± 4.33	± 4.96	± 5.31	± 5.42
女 性	938	± 2.77	± 3.69	± 4.23	± 4.52	± 4.62

調査の結果 調査結果の解説

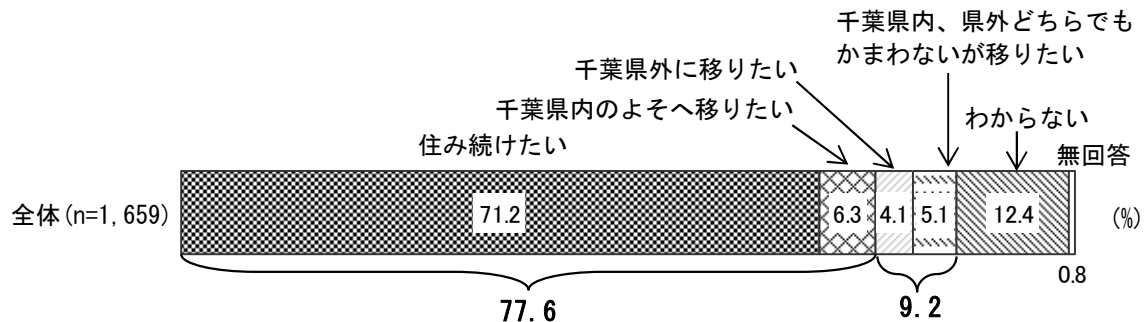
1 環境と生活について

(1) 今後の居住意向

◇『千葉県内に住み続けたい（計）』が約 8 割

問 1 あなたは、現在お住まいの地域に、ずっと住み続けたいと思いますか。（○は 1 つ）

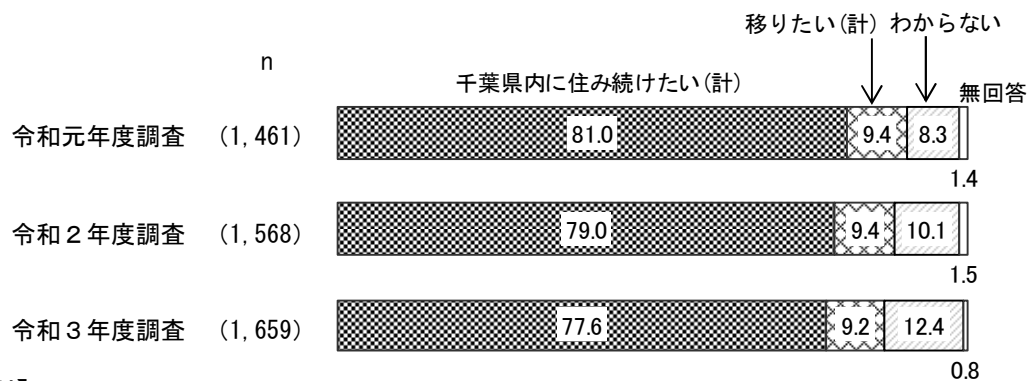
＜図表 1－1＞今後の居住意向



現在お住まいの地域の今後の居住意向を聞いたところ、「住み続けたい」(71.2%) が 7 割を超え、これと「千葉県内のよそへ移りたい」(6.3%) を合わせた『千葉県内に住み続けたい（計）』(77.6%) が約 8 割となっている。

一方、「千葉県外に移りたい」(4.1%) と「千葉県内、県外どちらでもかまわないが移りたい」(5.1%) を合わせた『移りたい（計）』(9.2%) が約 1 割となっている。（図表 1－1）

〔参考〕令和元年度・2 年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）



【地域別】

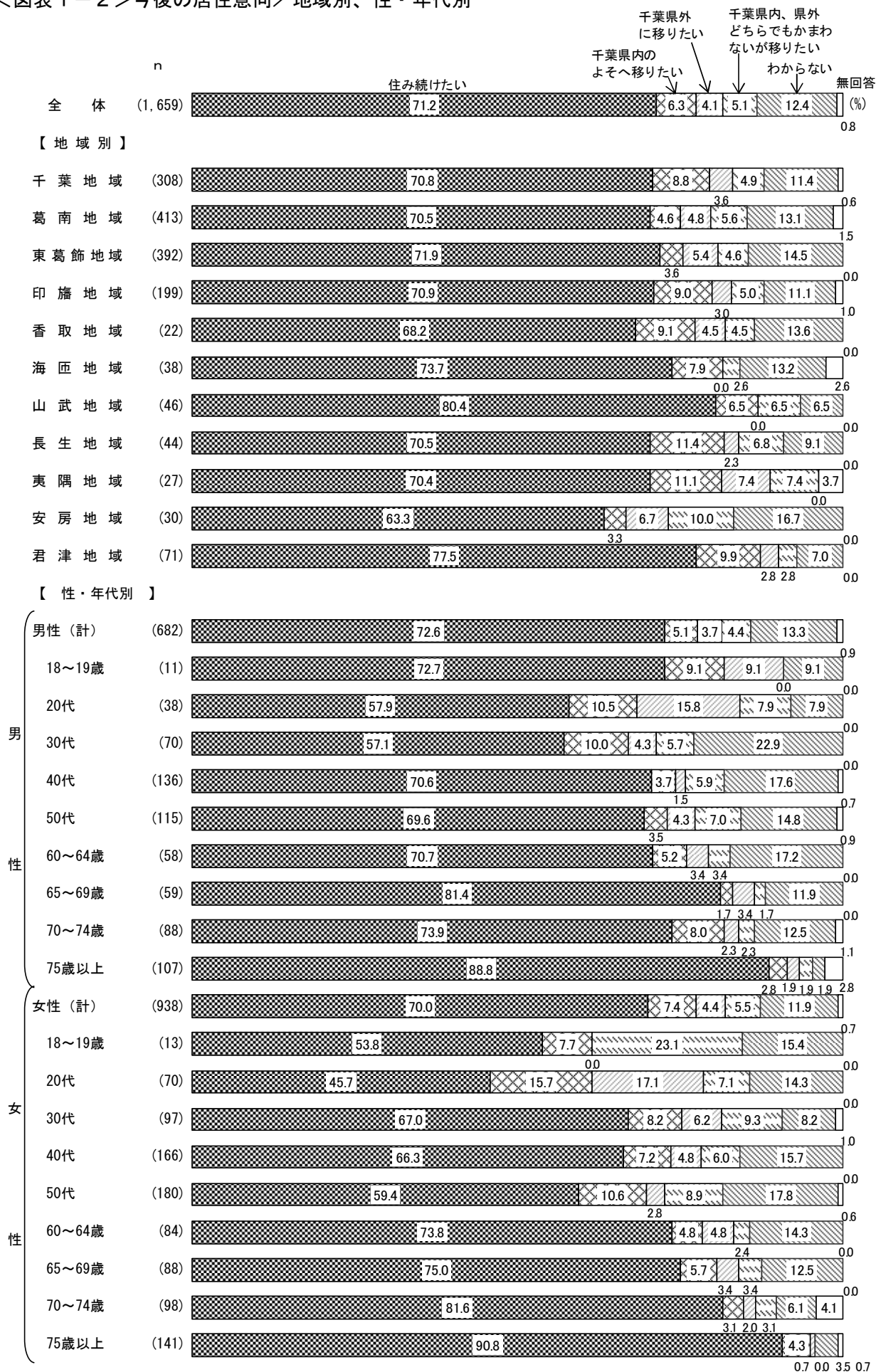
地域別にみると、『千葉県内に住み続けたい（計）』は“君津地域” (87.3%) が約 9 割で高くなっている。（図表 1－2）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『千葉県内に住み続けたい（計）』は女性の 75 歳以上 (95.0%) が 9 割台半ば、男性の 75 歳以上 (91.6%) が 9 割を超えて高くなっている。

一方、『移りたい（計）』は女性の 20 代 (24.3%) と男性の 20 代 (23.7%) が 2 割台半ばで高くなっている。（図表 1－2）

＜図表 1－2＞今後の居住意向／地域別、性・年代別

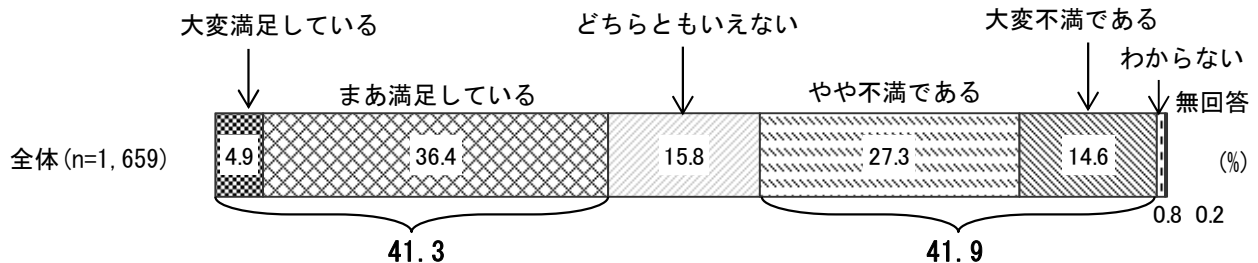


（２）道路の整備の満足度

◇『満足している（計）』が４割を超える

問２ 現在お住まいの地域の、道路の整備についてどうお感じですか。（○は１つ）

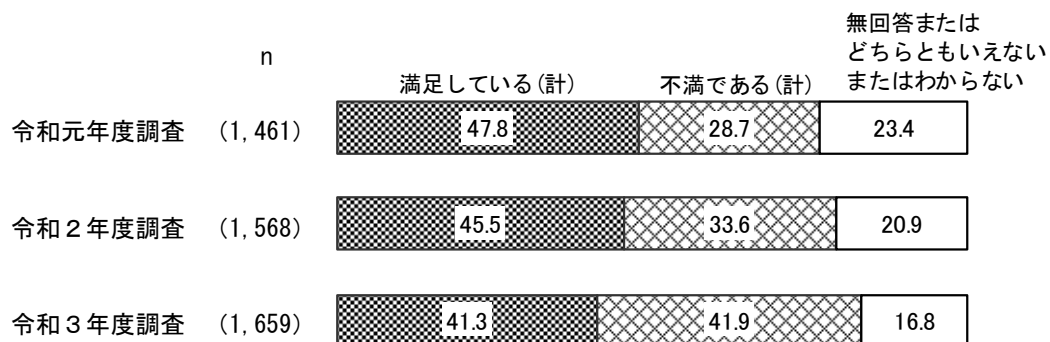
＜図表１－３＞道路の整備の満足度



現在お住まいの地域の道路の整備の満足度を聞いたところ、「大変満足している」（4.9％）と「まあ満足している」（36.4％）を合わせた『満足している（計）』（41.3％）が４割を超えている。

一方、「やや不満である」（27.3％）と「大変不満である」（14.6％）を合わせた『不満である（計）』（41.9％）も４割を超えている。（図表１－３）

〔参考〕令和元年度・２年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）



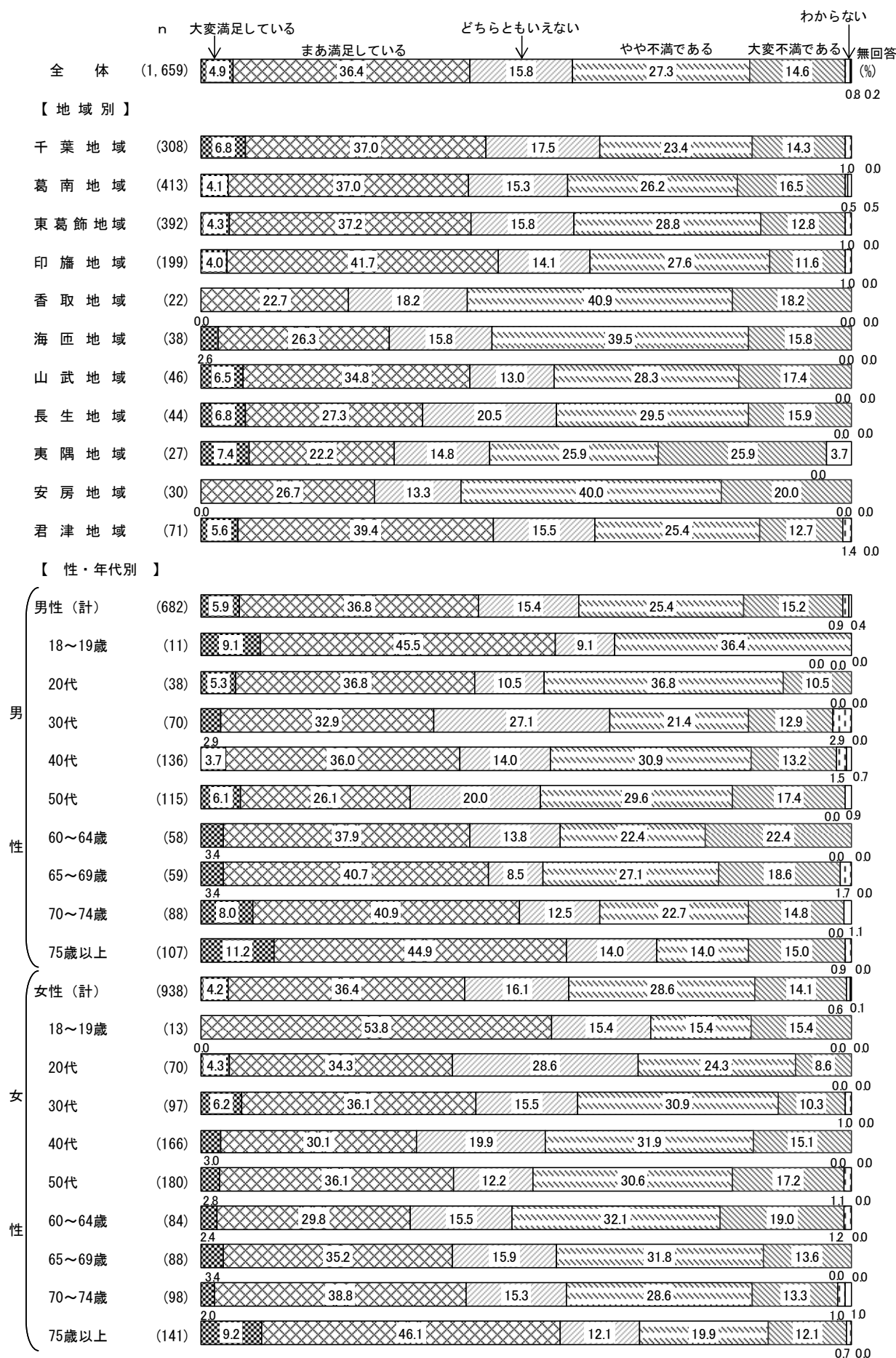
【地域別】

地域別にみると、『不満である（計）』は“安房地域”（60.0％）が６割、“香取地域”（59.1％）が約６割、“海匝地域”（55.3％）が５割台半ば、“夷隅地域”（51.9％）が５割を超えて高くなっている。（図表１－４）

【性・年代別】

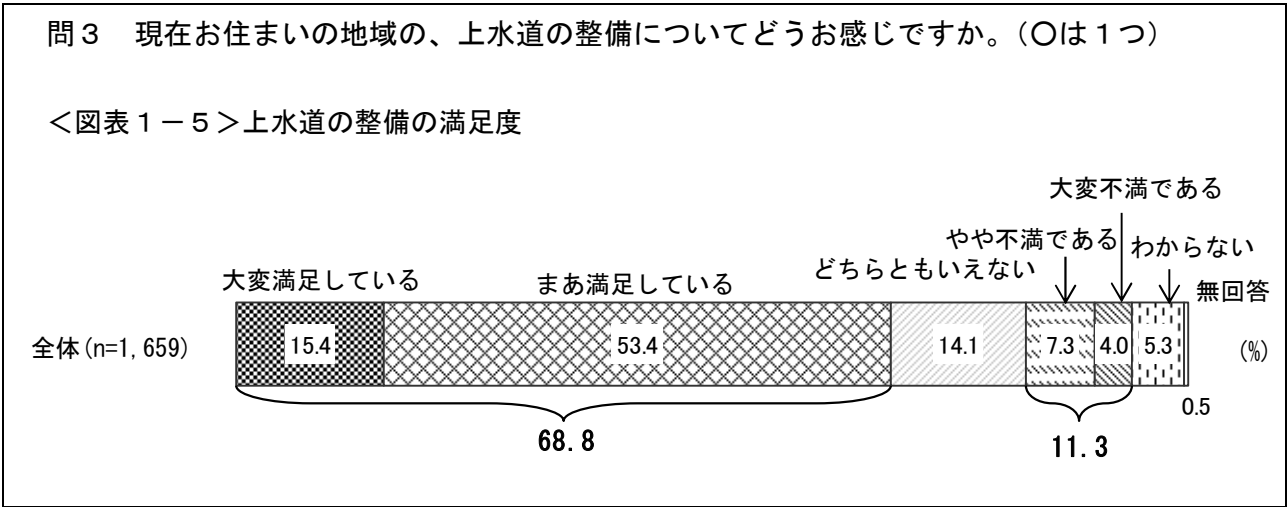
性・年代別にみると、『満足している（計）』は男性の75歳以上（56.1％）と女性の75歳以上（55.3％）が５割台半ばで高くなっている。（図表１－４）

<図表 1－4>道路の整備の満足度／地域別、性・年代別



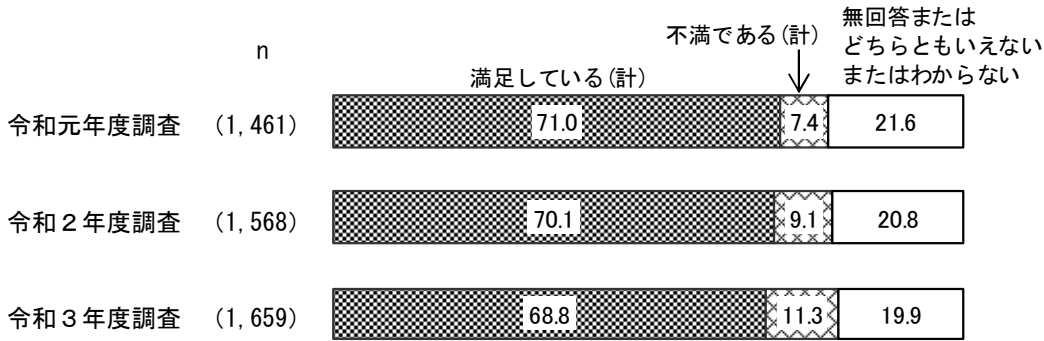
（3）上水道の整備の満足度

◇『満足している（計）』が約7割



現在お住まいの地域の上水道の整備の満足度を聞いたところ、「大変満足している」（15.4％）と「まあ満足している」（53.4％）を合わせた『満足している（計）』（68.8％）が約7割となっている。一方、「やや不満である」（7.3％）と「大変不満である」（4.0％）を合わせた『不満である（計）』（11.3％）が1割を超えている。（図表1-5）

〔参考〕令和元年度・2年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）



【地域別】

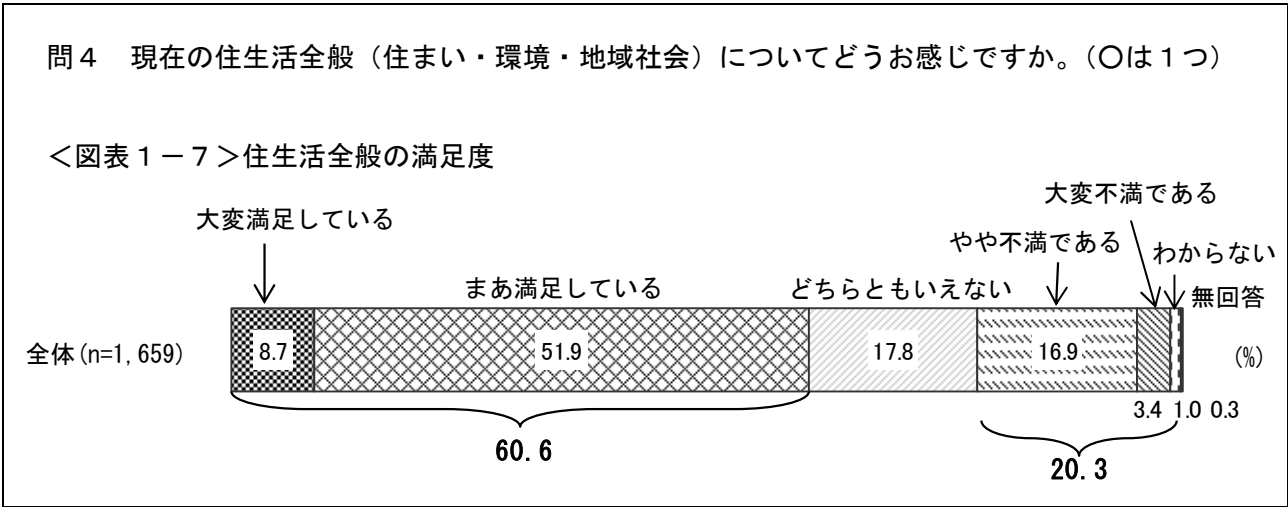
地域別にみると、『満足している（計）』は“印旛地域”（75.4％）が7割台半ばで高くなっている。（図表1-6）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『満足している（計）』は男性の75歳以上（79.4％）が約8割、女性の75歳以上（76.6％）が7割台半ばで高くなっている。（図表1-6）

（４）住生活全般の満足度

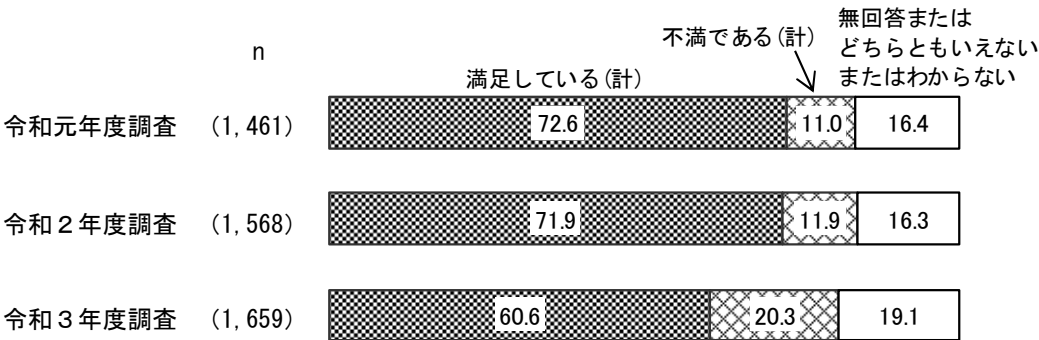
◇『満足している（計）』が６割



現在の住生活全般（住まい・環境・地域社会）について、その満足度を聞いたところ、「大変満足している」（8.7%）と「まあ満足している」（51.9%）を合わせた『満足している（計）』（60.6%）が６割となっている。

一方、「やや不満である」（16.9%）と「大変不満である」（3.4%）を合わせた『不満である（計）』（20.3%）が２割となっている。（図表１－７）

〔参考〕令和元年度・２年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）



【地域別】

地域別にみると、『満足している（計）』は“葛南地域”（68.8%）が約７割で高くなっている。一方、『不満である（計）』は“海匠地域”（34.2%）が３割台半ばで高くなっている。

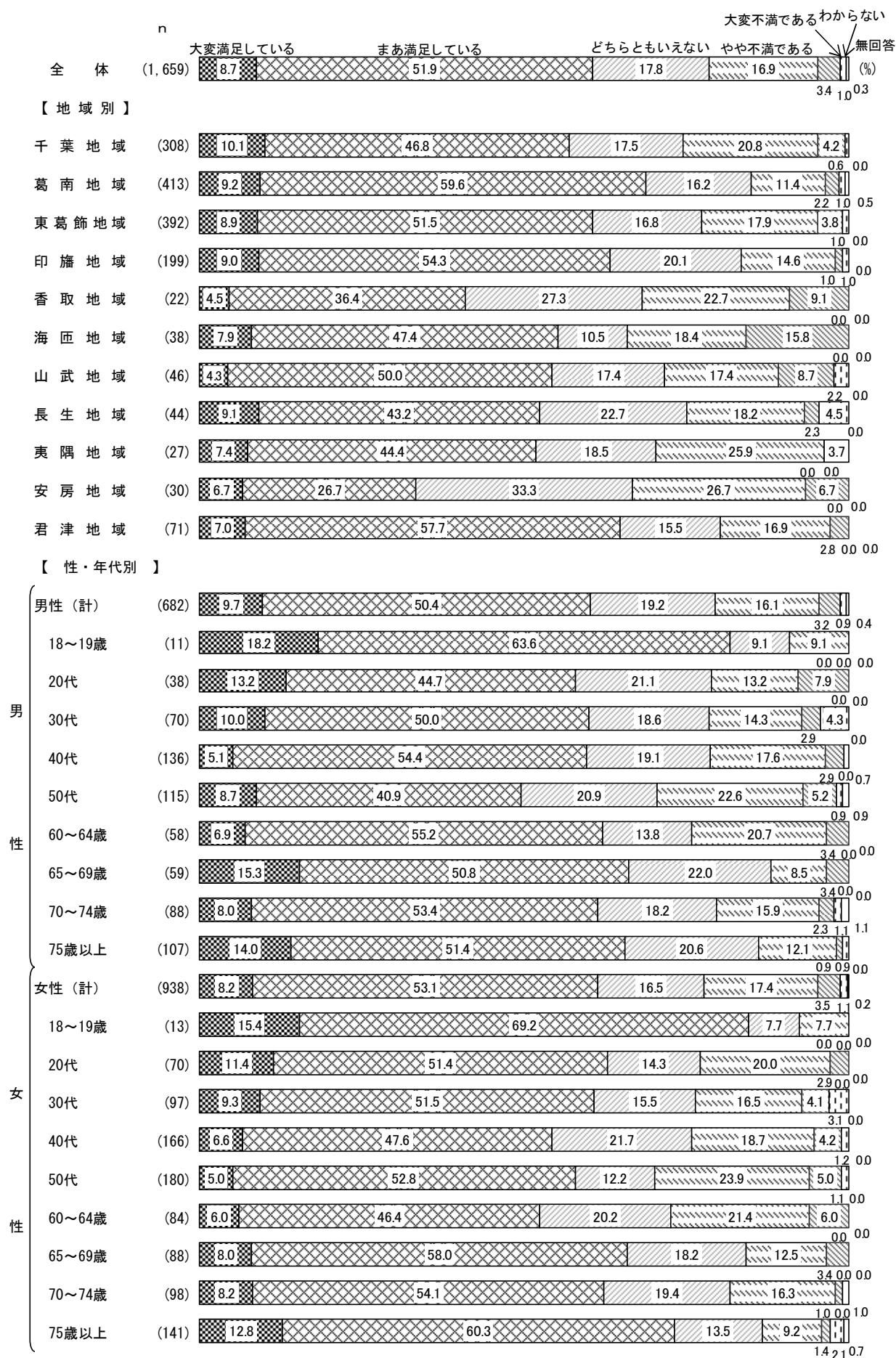
（図表１－８）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『満足している（計）』は女性の75歳以上（73.0%）が７割を超えて高くなっている。

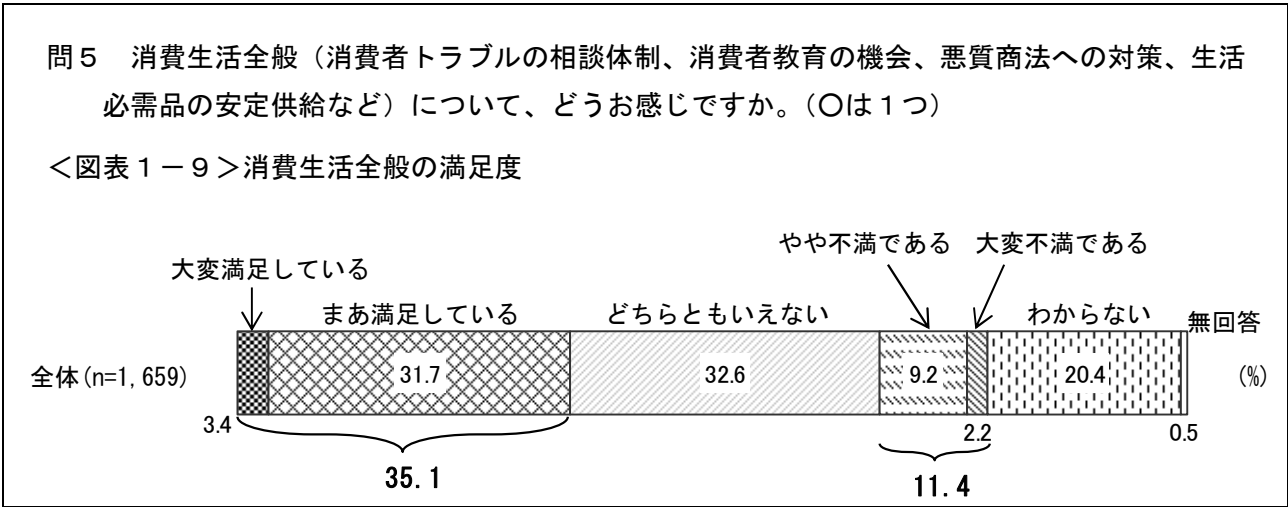
一方、『不満である（計）』は女性の50代（28.9%）、男性の50代（27.8%）と女性の60～64歳（27.4%）が約３割で高くなっている。（図表１－８）

＜図表 1－8＞住生活全般の満足度／地域別、性・年代別



（５）消費生活全般の満足度

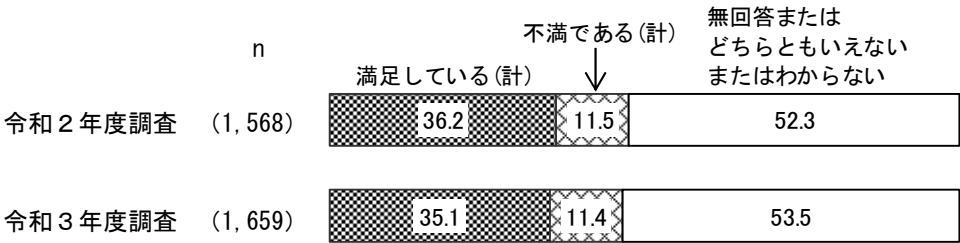
◇『満足している（計）』が３割台半ば



消費生活全般（消費者トラブルの相談体制、消費者教育の機会、悪質商法への対策、生活必需品の安定供給など）について、その満足度を聞いたところ、「大変満足している」（3.4％）と「まあ満足している」（31.7％）を合わせた『満足している（計）』（35.1％）が３割台半ばとなっている。

一方、「やや不満である」（9.2％）と「大変不満である」（2.2％）を合わせた『不満である（計）』（11.4％）が１割を超えている。（図表１－９）

〔参考〕令和２年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）



【地域別】

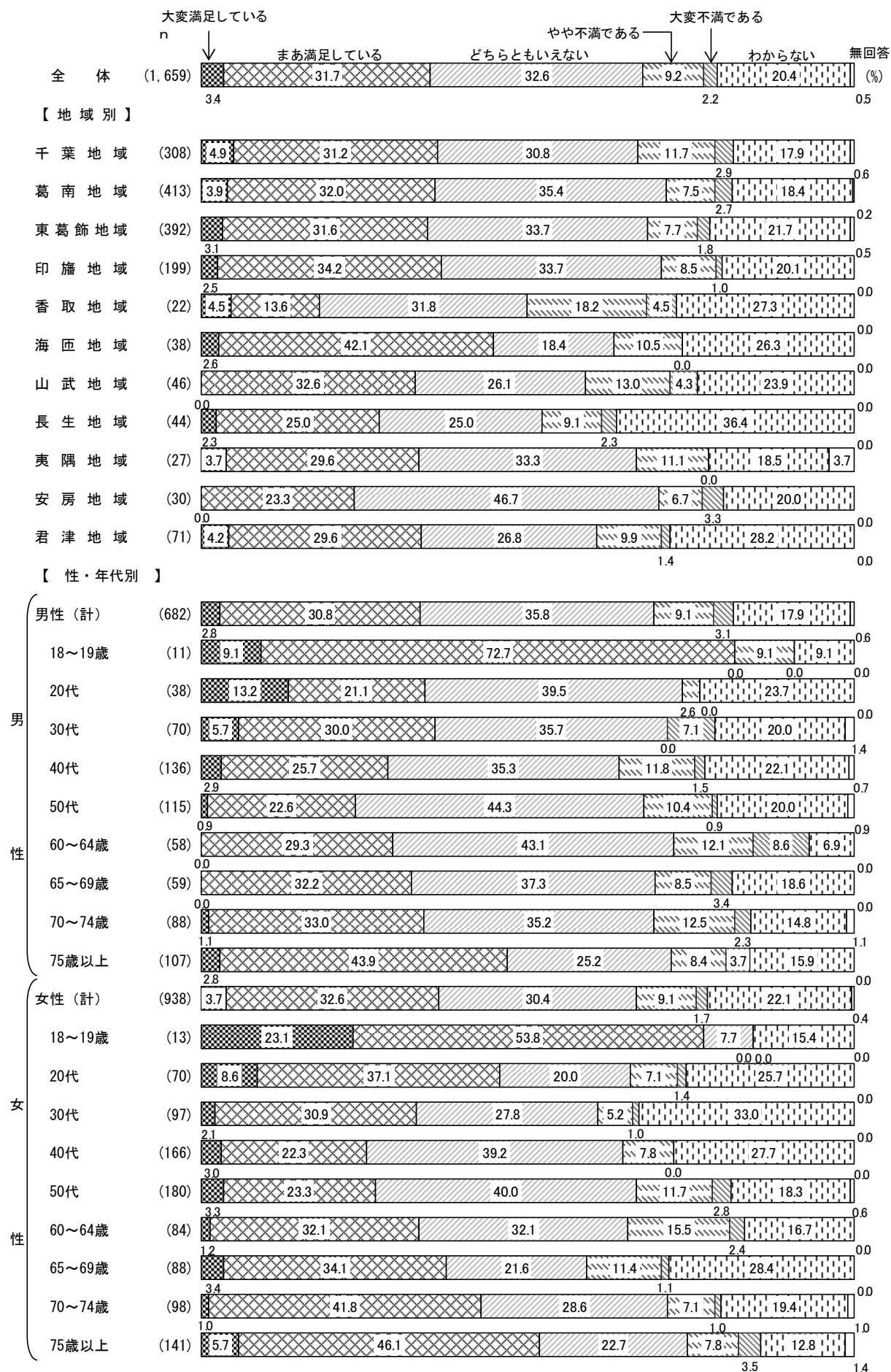
地域別にみると、大きな傾向の違いはみられない。（図表１－10）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『満足している（計）』は女性の75歳以上（51.8％）が５割を超え、男性の75歳以上（46.7％）が４割台半ばで高くなっている。

一方、『不満である（計）』は男性の60～64歳（20.7％）が２割で高くなっている。（図表１－10）

<図表 1-10>消費生活全般の満足度／地域別、性・年代別



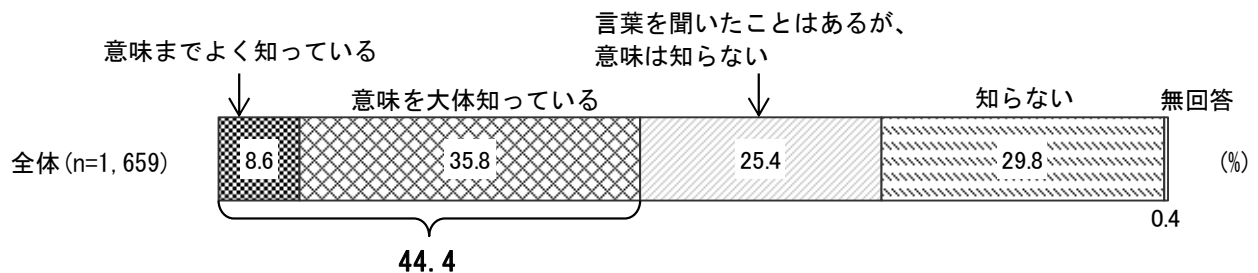
（６）「気候変動による影響への適応」の認知度

◇『意味を知っている（計）』が４割台半ば

問６ 気候変動による影響に対応し、被害を回避・軽減させることを「気候変動による影響への適応」と言います。「気候変動による影響への適応」という言葉を知っていますか。

（○は１つ）

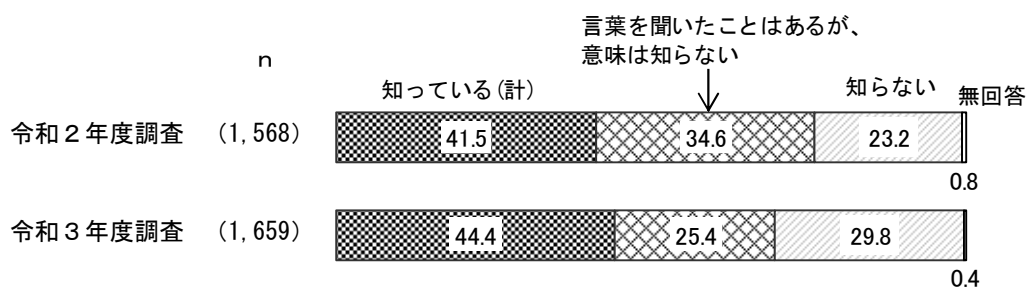
＜図表１－１１＞「気候変動による影響への適応」の認知度



「気候変動による影響への適応」について、その認知度を聞いたところ、「意味までよく知っている」（8.6%）と「意味を大体知っている」（35.8%）を合わせた『意味を知っている（計）』（44.4%）が４割台半ばとなっている。

一方、「言葉を聞いたことはあるが、意味は知らない」（25.4%）は２割台半ば、「知らない」（29.8%）は約３割となっている。（図表１－１１）

〔参考〕令和２年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）



【地域別】

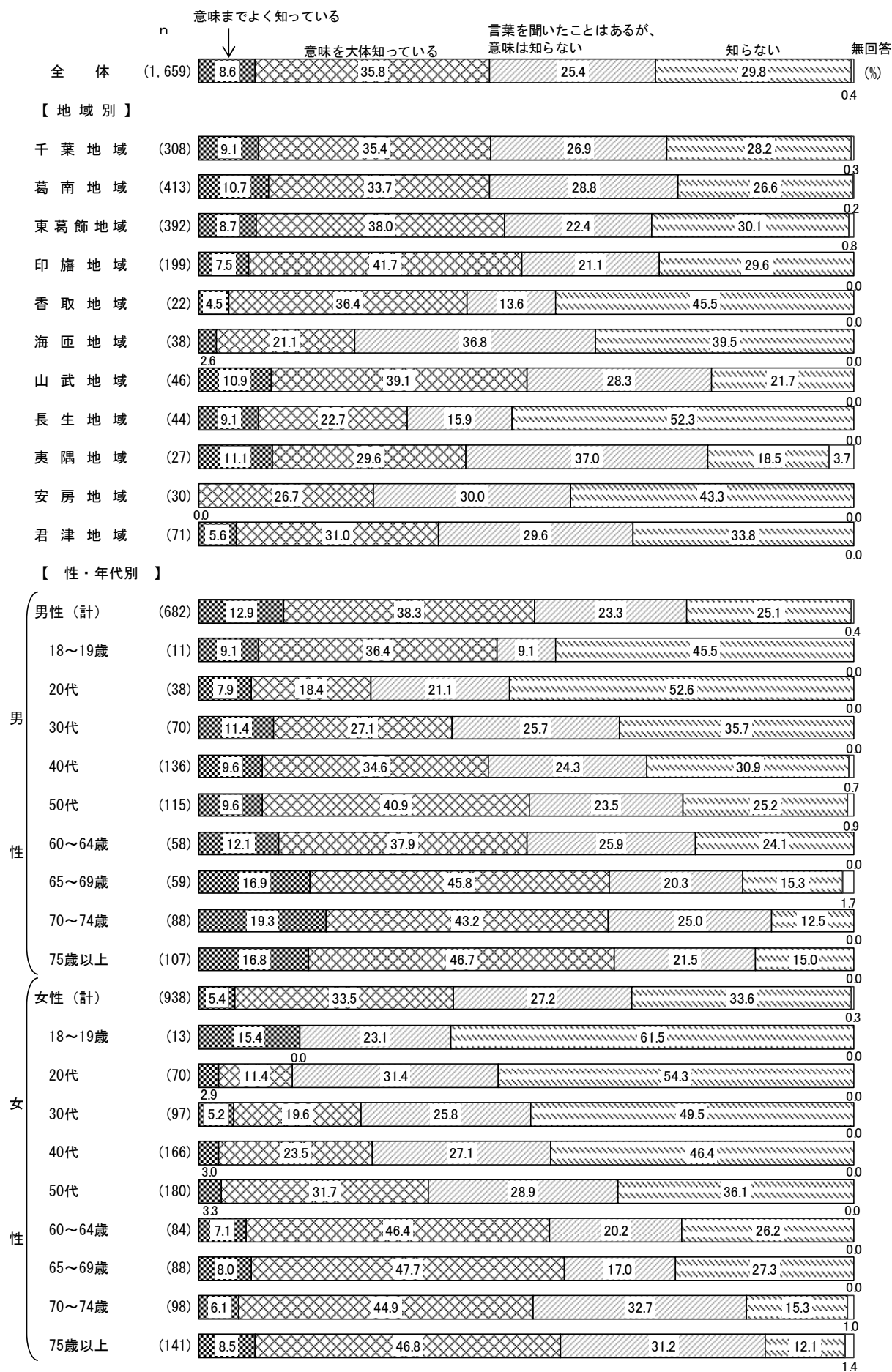
地域別にみると、大きな傾向の違いはみられない。（図表１－１２）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『意味を知っている（計）』は男性の75歳以上（63.6%）が６割台半ば、男性の65～69歳（62.7%）と70～74歳（62.5%）が６割を超え、女性の65～69歳（55.7%）と75歳以上（55.3%）が５割台半ばで高くなっている。

一方、「知らない」は女性の20代（54.3%）が５割台半ば、男性の20代（52.6%）が５割を超え、女性の30代（49.5%）が約５割、女性の40代（46.4%）が４割台半ばで高くなっている。（図表１－１２）

＜図表 1－12＞「気候変動による影響への適応」の認知度／地域別、性・年代別

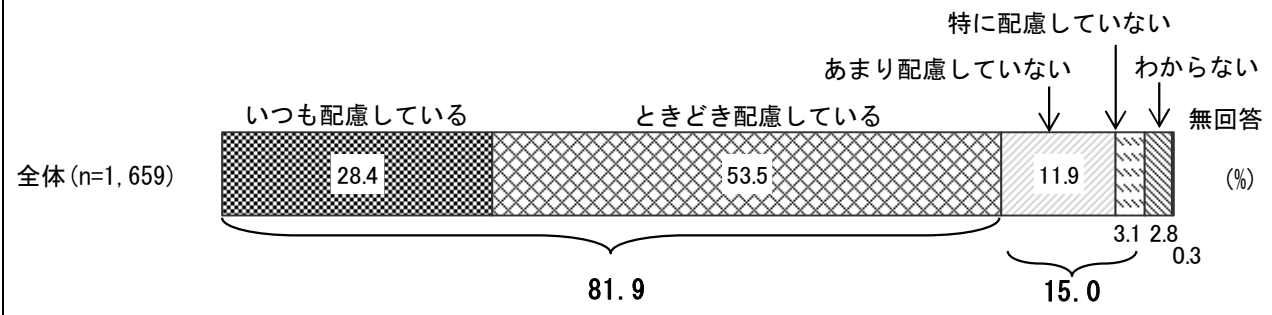


（７）環境に配慮した行動

◇『配慮している（計）』が8割を超える

問７ 日常生活の中で環境に配慮して行動していますか。（○は１つ）

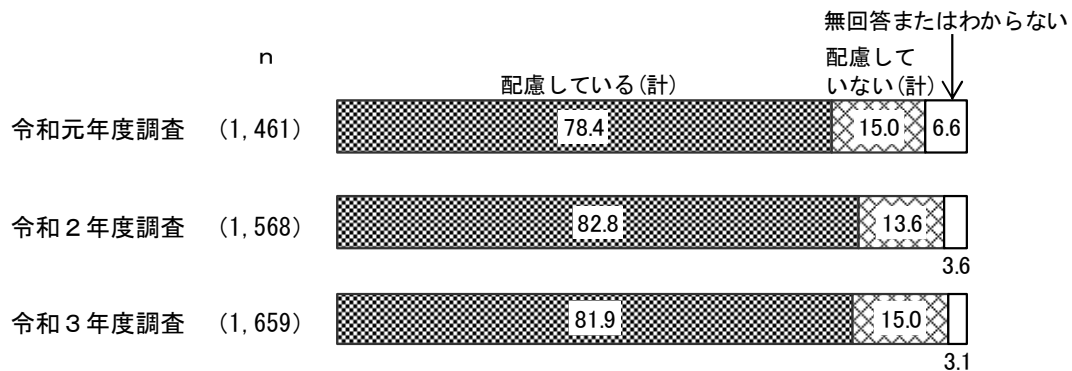
＜図表１－13＞環境に配慮した行動



日常生活の中で環境に配慮して行動しているか聞いたところ、「いつも配慮している」（28.4%）と「ときどき配慮している」（53.5%）を合わせた『配慮している（計）』（81.9%）が8割を超えている。

一方、「あまり配慮していない」（11.9%）と「特に配慮していない」（3.1%）を合わせた『配慮していない（計）』（15.0%）が1割台半ばとなっている。（図表１－13）

〔参考〕令和元年度・２年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）



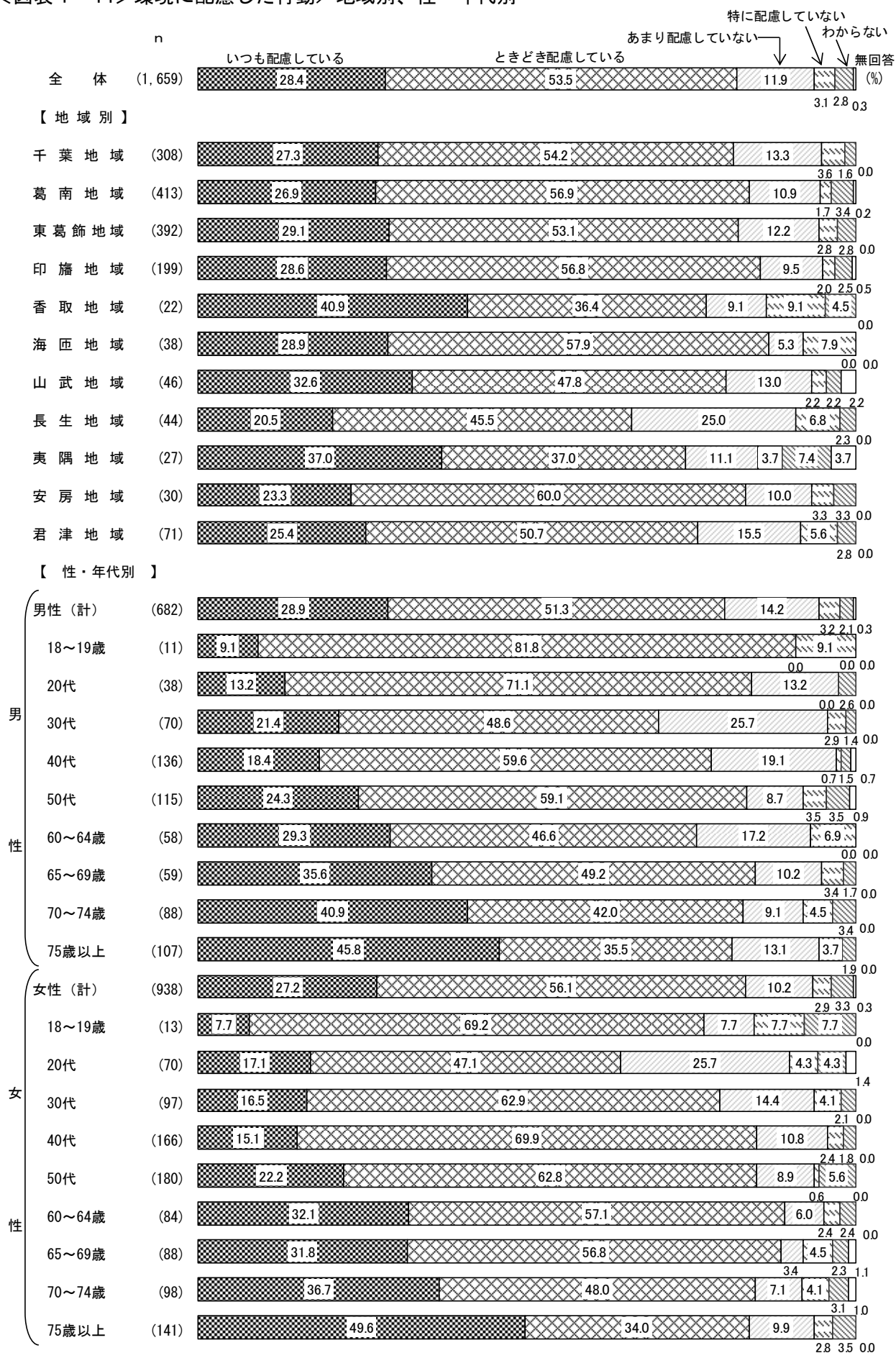
【地域別】

地域別にみると、『配慮していない（計）』は“長生地域”（31.8%）が3割を超えて高くなっている。（図表１－14）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『配慮していない（計）』は女性の20代（30.0%）が3割、男性の30代（28.6%）が約3割で高くなっている。（図表１－14）

<図表1-14>環境に配慮した行動／地域別、性・年代別



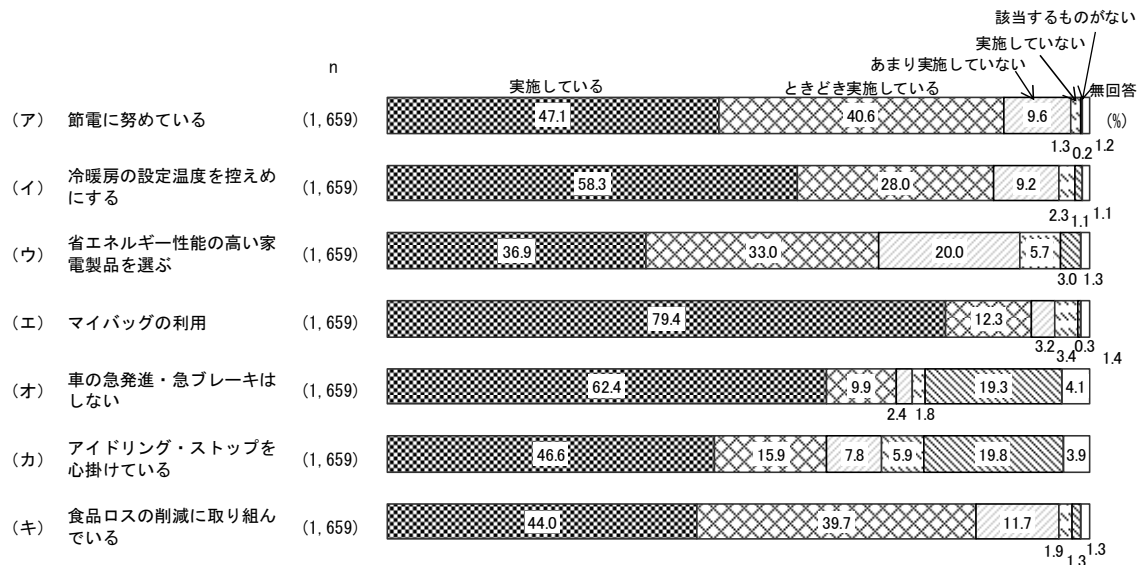
（８）普段の生活で環境に配慮した取組の実施状況

◇『実施している（計）』が最も高いのは〈マイバッグの利用〉で９割を超える

問 8 あなたは、普段の生活で環境に配慮した次のような取組を行っていますか。

（○はそれぞれ１つずつ）

＜図表 1－15＞普段の生活で環境に配慮した取組の実施状況

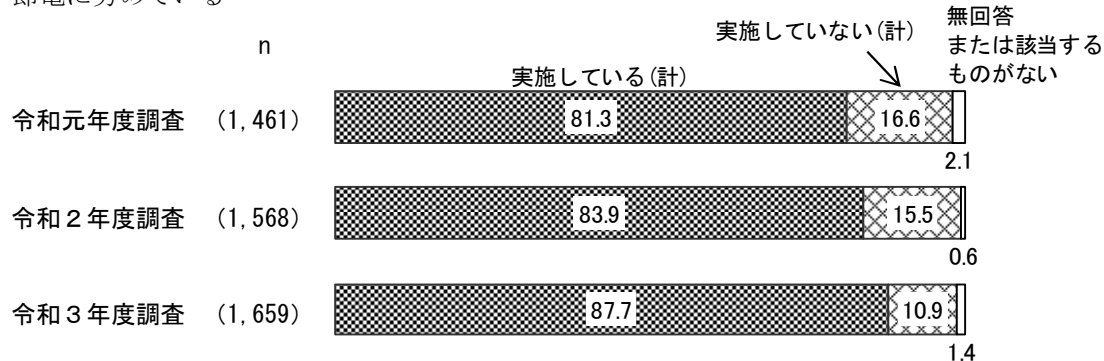


普段の生活で行っている環境保全の取組に関する7つの項目について、それぞれの実施状況を聞いたところ、「実施している」と「ときどき実施している」を合わせた『実施している（計）』が最も高いのは、「(エ) マイバッグの利用」(91.7%)で9割を超え、以下、「(ア) 節電に努めている」(87.7%)が約9割、「(イ) 冷暖房の設定温度を控えめにする」(86.3%)と「(キ) 食品ロスの削減に取り組んでいる」(83.7%)が8割台半ばで続く。

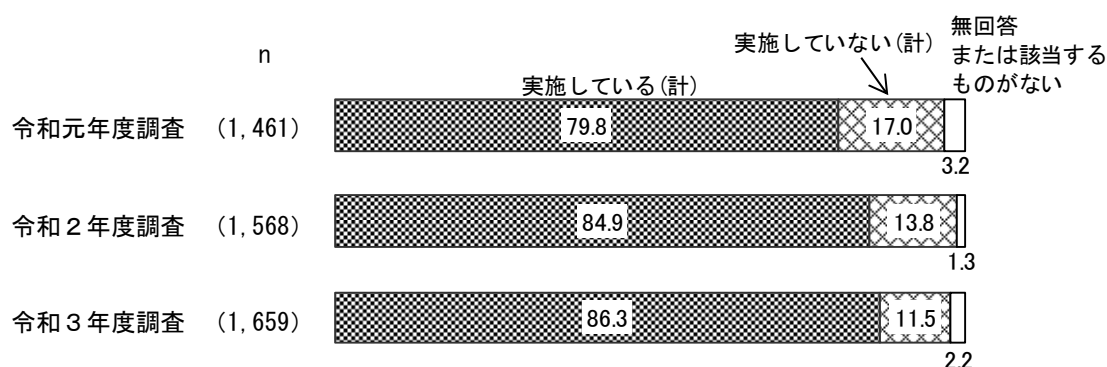
一方、「あまり実施していない」と「実施していない」を合わせた『実施していない（計）』が最も高いのは、「(ウ) 省エネルギー性能の高い家電製品を選ぶ」(25.7%)で2割台半ばとなっており、以下、「(カ) アイドリング・ストップを心掛けている」(13.7%)と「(キ) 食品ロスの削減に取り組んでいる」(13.6%)が1割台半ばで続く。(図表1－15)

[参考] 令和元年度・2年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）

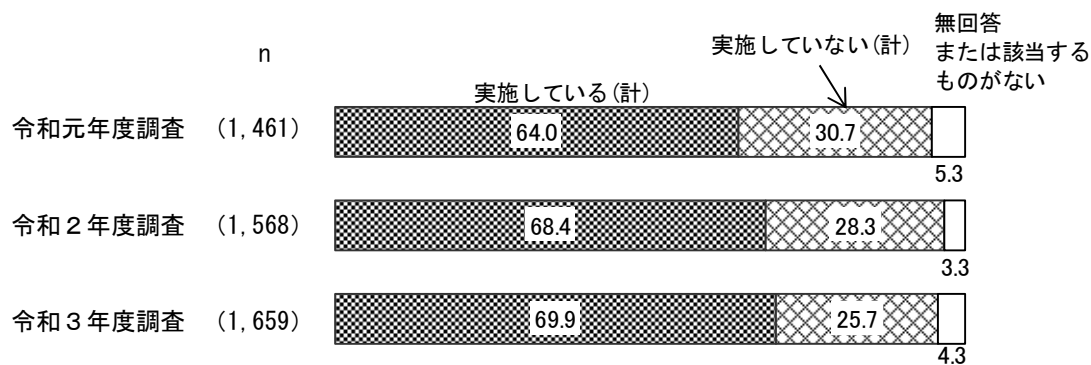
(ア) 節電に努めている



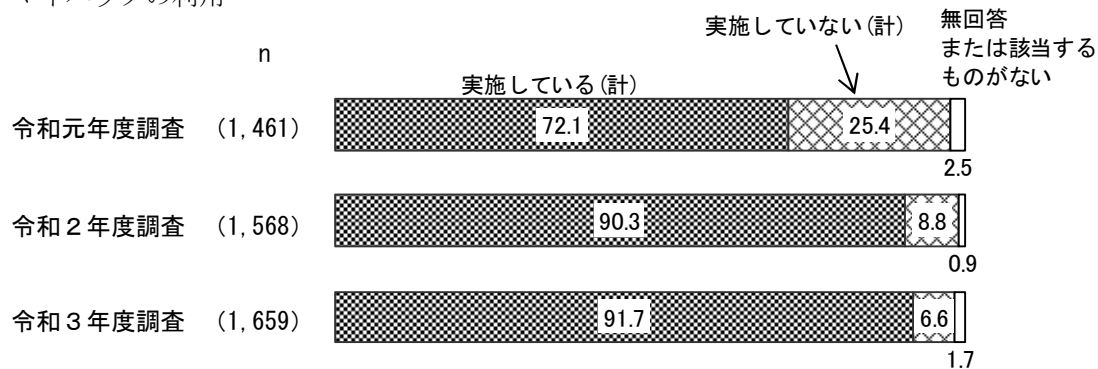
(イ) 冷暖房の設定温度を控えめにする



(ウ) 省エネルギー性能の高い家電製品を選ぶ

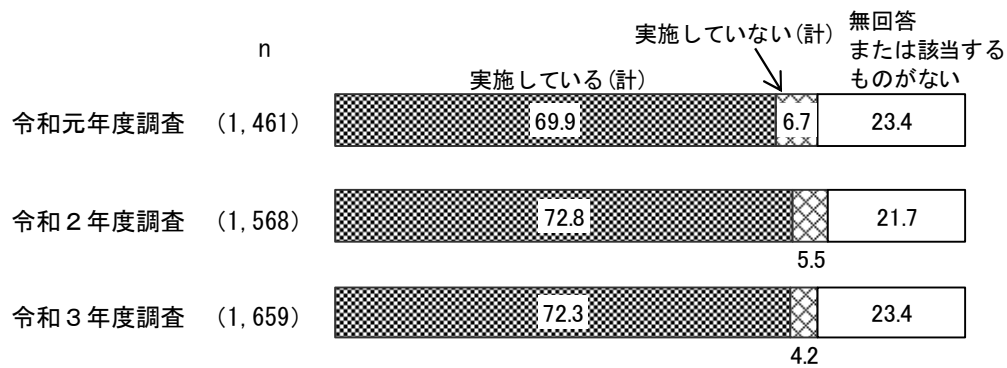


(エ) マイバッグの利用



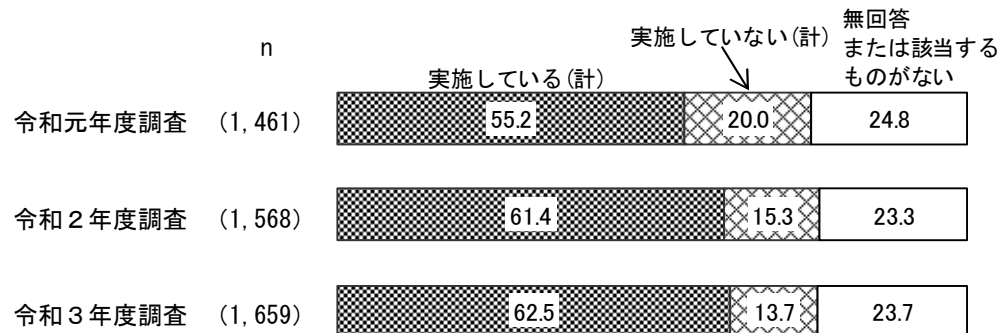
※令和元年度・2年度調査で「レジ袋をもらわない」の項目結果を参考に示した。

(オ) 車の急発進・急ブレーキはしない



※令和元年度・2年度調査で「車の急発進・急加速はしない」の項目結果を参考に示した。

(カ) アイドリング・ストップを心掛けている



※「(キ) 食品ロスの削減に取り組んでいる」は今回調査からの新規項目

【地域別】

地域別にみると、「(ア) 節電に努めている」の『実施していない（計）』は“海匠地域”（21.1%）が2割を超えて高くなっている。

「(イ) 冷暖房の設定温度を控えめにする」の『実施している（計）』は“海匠地域”（97.4%）が約10割で高くなっている。

「(ウ) 省エネルギー性能の高い家電製品を選ぶ」の『実施している（計）』は“印旛地域”（76.4%）が7割台半ばで高くなっている。

「(オ) 車の急発進・急ブレーキはしない」の『実施している（計）』は“香取地域”（90.9%）が9割、“君津地域”（87.3%）が約9割、“海匠地域”（86.8%）が8割台半ば、“印旛地域”（79.9%）が約8割で高くなっている。

「(カ) アイドリング・ストップを心掛けている」の『実施している（計）』は“夷隅地域”（85.2%）が8割台半ば、“香取地域”（81.8%）が8割を超え、“山武地域”（78.3%）が約8割、“印旛地域”（71.9%）が7割を超えて高くなっている。

「(キ) 食品ロスの削減に取り組んでいる」の『実施している（計）』は“山武地域”（95.7%）が9割台半ばで高くなっている。（図表1-16）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「(ア) 節電に努めている」の『実施している（計）』は女性の65～69歳（96.6%）が9割台半ば、女性の50代（92.8%）が9割を超えて高くなっている。

一方、『実施していない（計）』は男性の20代（23.7%）が2割台半ば、男性の30代と女性の20代（18.6%）が約2割で高くなっている。

「(イ) 冷暖房の設定温度を控えめにする」の『実施している（計）』は女性の65～69歳（94.3%）が9割台半ば、女性の50代（92.8%）が9割を超えて高くなっている。

一方、『実施していない（計）』は女性の20代（24.3%）が2割台半ば、男性の30代（21.4%）が2割を超え、男性の40代（18.4%）が約2割で高くなっている。

「(ウ) 省エネルギー性能の高い家電製品を選ぶ」の『実施している（計）』は男性の65～69歳（84.7%）が8割台半ば、女性の65～69歳（80.7%）が8割、女性の60～64歳（79.8%）が約8割で高くなっている。

一方、『実施していない（計）』は女性の20代（51.4%）が5割を超え、男性の20代（47.4%）が約5割、男女の30代（37.1%）が約4割で高くなっている。

「(エ) マイバッグの利用」の『実施している（計）』は女性の60～64歳（100.0%）が10割、女性の30代（99.0%）と50代（97.8%）が約10割、女性の40代（96.4%）9割台半ばで高くなっている。

一方、『実施していない（計）』は男性の30代（20.0%）が2割、男性の20代（15.8%）と65～69歳（15.3%）が1割台半ば、男性の60～64歳（13.8%）が1割台半ば、男性の40代（12.5%）と50代（11.3%）が1割を超えて高くなっている。

「(オ) 車の急発進・急ブレーキはしない」の『実施している（計）』は男性の50代（88.7%）が約9割、男性の60～64歳（86.2%）、40代（84.6%）と70～74歳（84.1%）が8割台半ば、女性の50代（82.2%）が8割を超えて高くなっている。

一方、『実施していない（計）』は男性の30代（10.0%）が1割で高くなっている。

「(カ) アイドリング・ストップを心掛けている」の『実施している（計）』は男性の70～74歳（72.7%）

と女性の50代（72.2%）が7割を超えて高くなっている。

一方、『実施していない（計）』は男性の40代（29.4%）と30代（27.1%）が約3割、男性の50代（23.5%）が2割台半ばで高くなっている。（図表1－16）

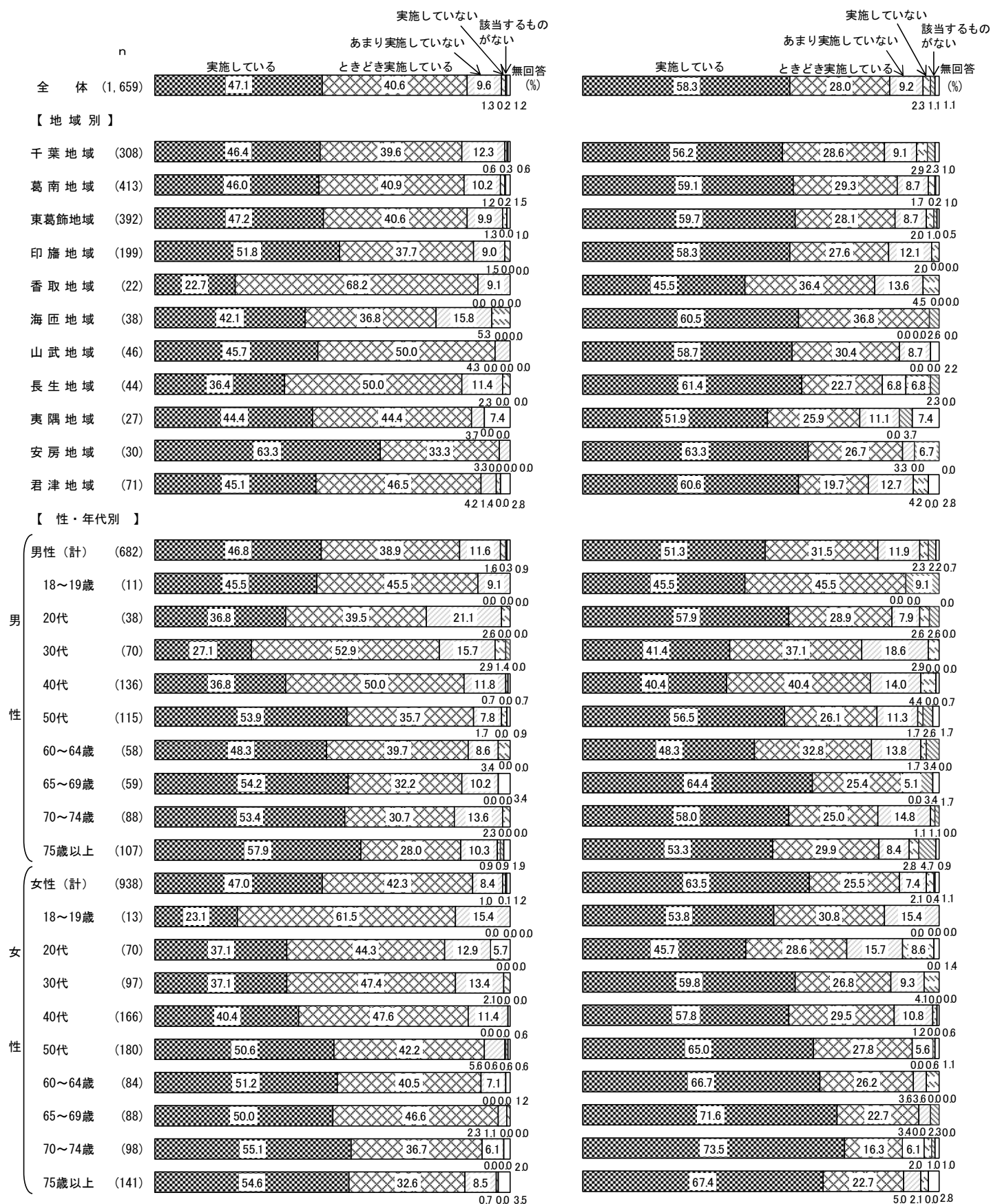
「(キ) 食品ロスの削減に取り組んでいる」の『実施している（計）』は女性の65～69歳（95.5%）が9割台半ば、男性の65～69歳（93.2%）が9割を超えて高くなっている。

一方、『実施していない（計）』は男性の40代（23.5%）が2割台半ば、男性の30代（22.9%）が2割を超えて高くなっている。（図表1－16）

＜図表 1－16＞普段の生活で環境に配慮した取組の実施状況／地域別、性・年代別

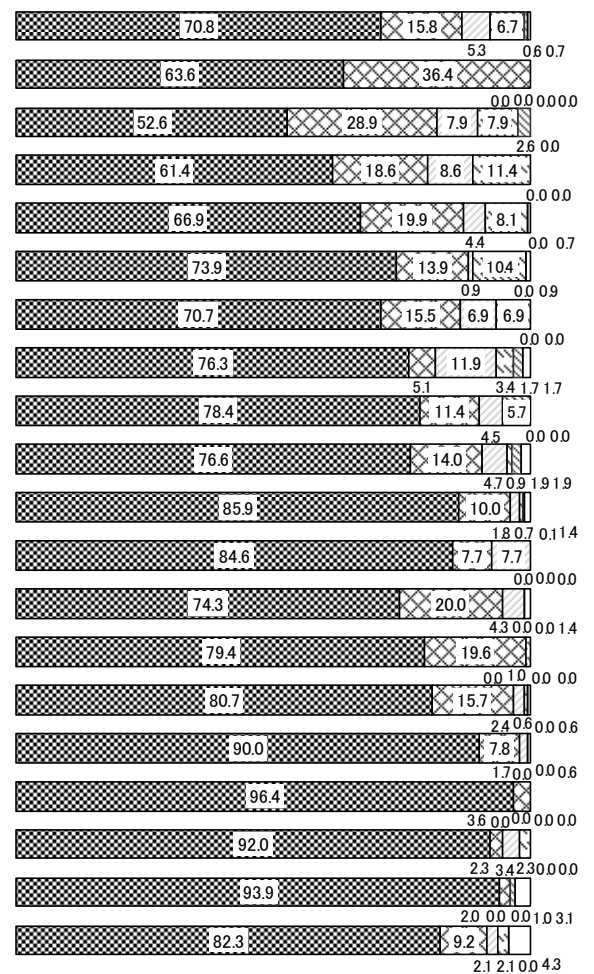
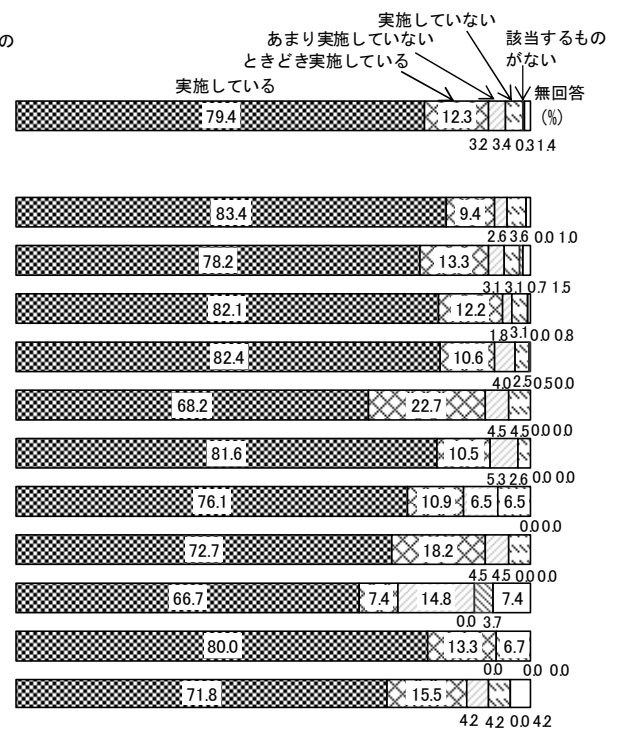
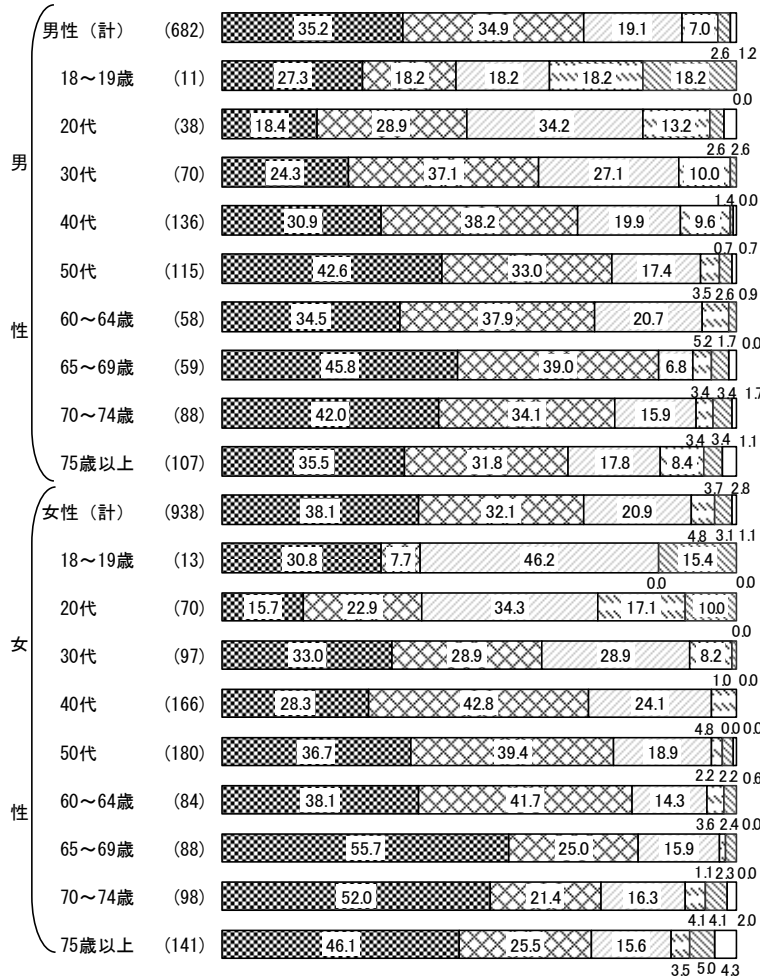
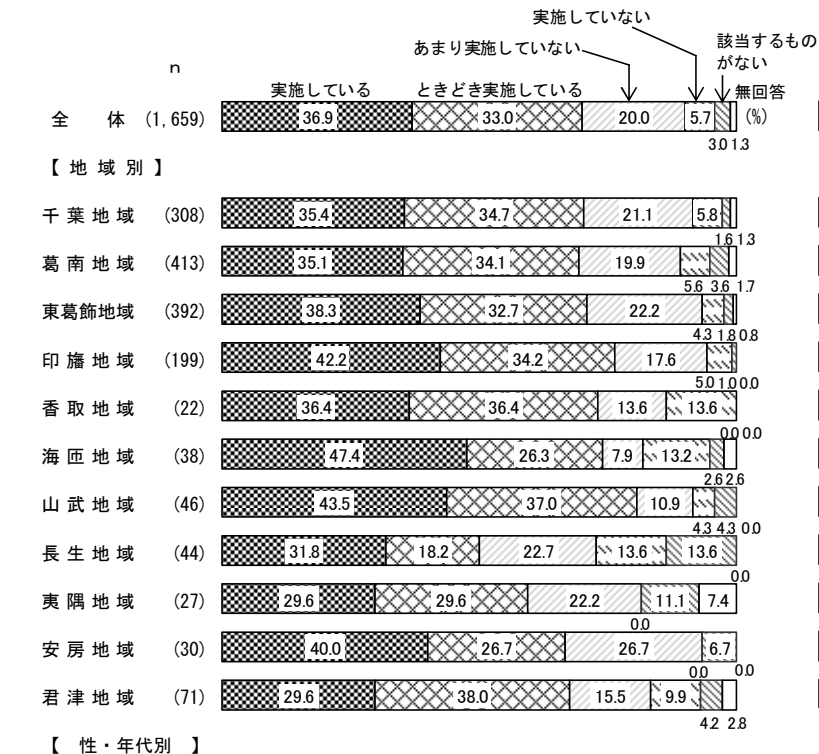
（ア）節電に努めている

（イ）冷暖房の設定温度を控えめにする



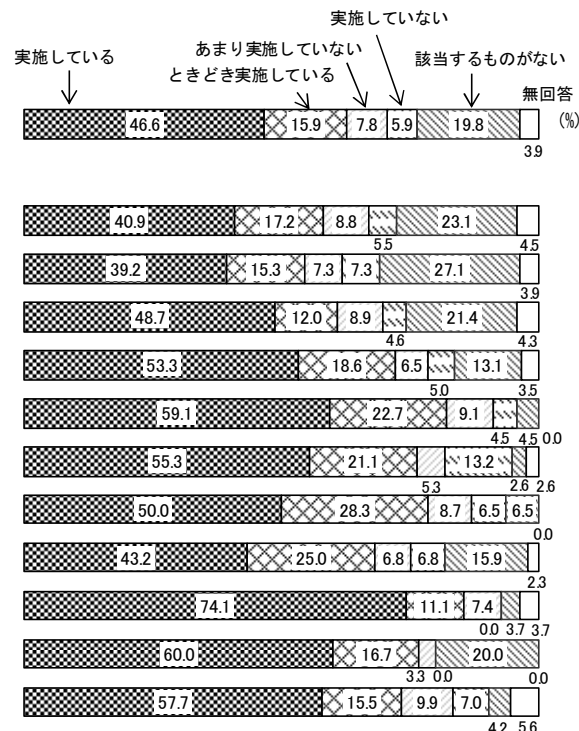
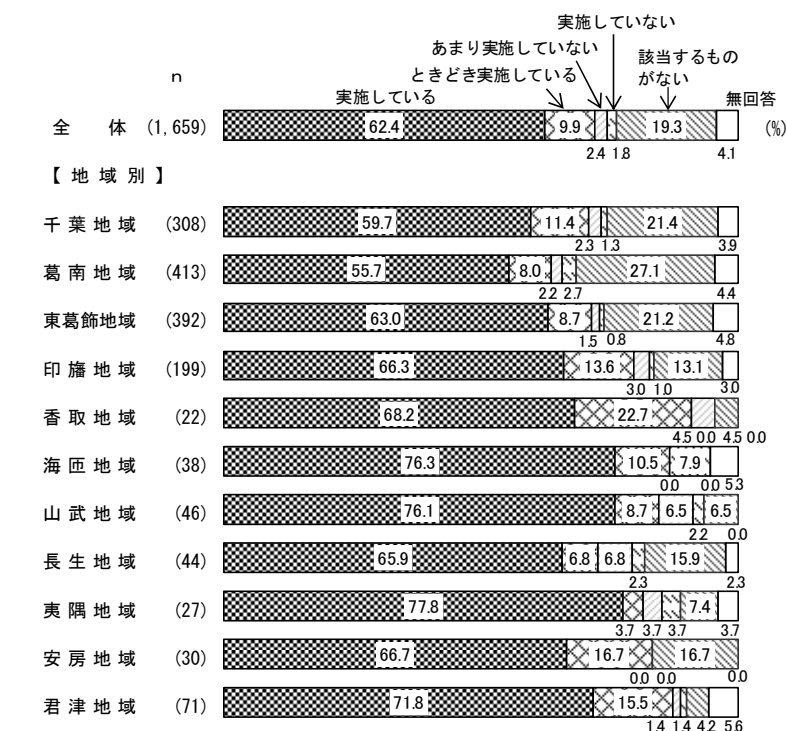
(ウ) 省エネルギー性能の高い家電製品を選ぶ

(エ) マイバッグの利用

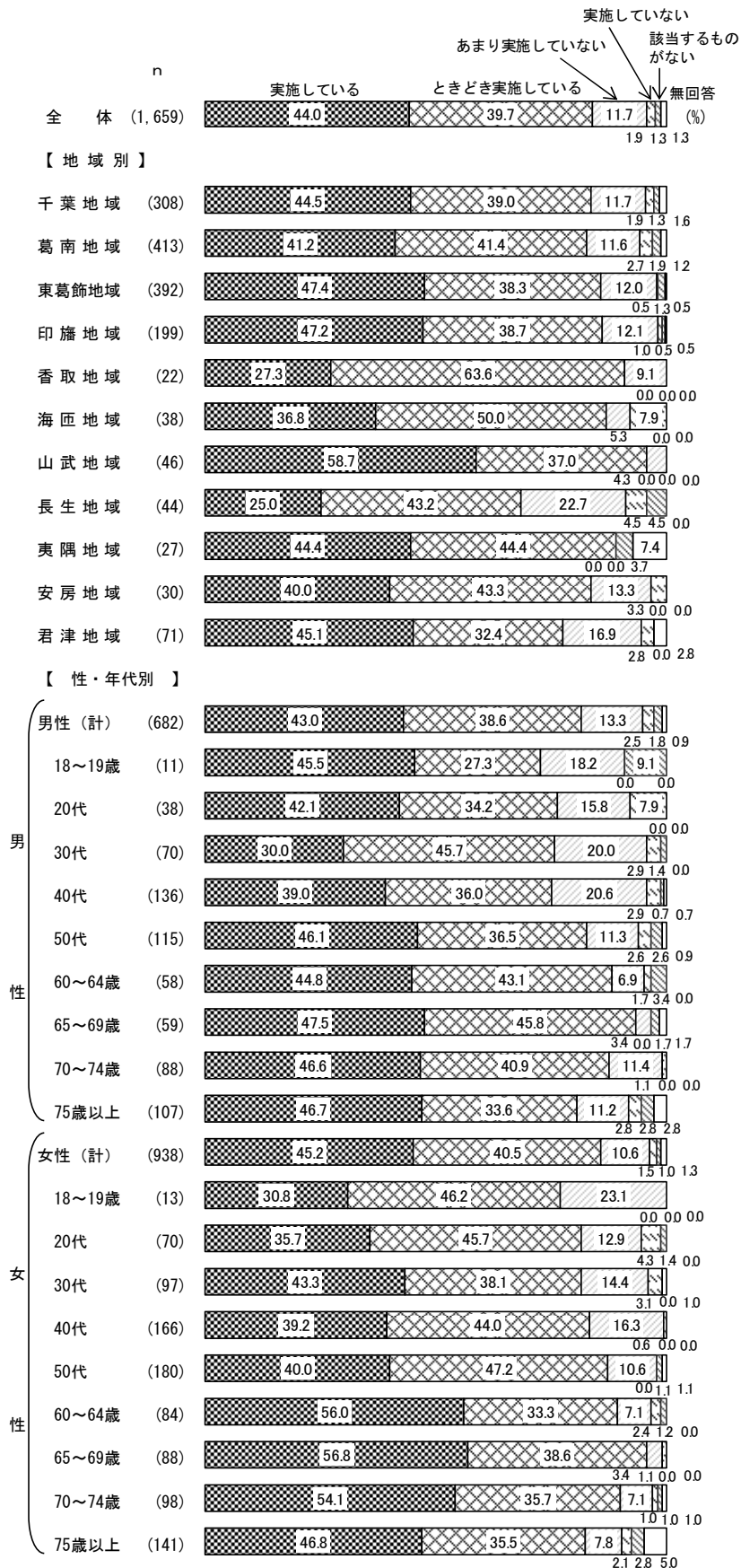


（オ）車の急発進・急ブレーキはしない

（カ）アイドリング・ストップを心掛けている



(キ) 食品ロスの削減に取り組んでいる



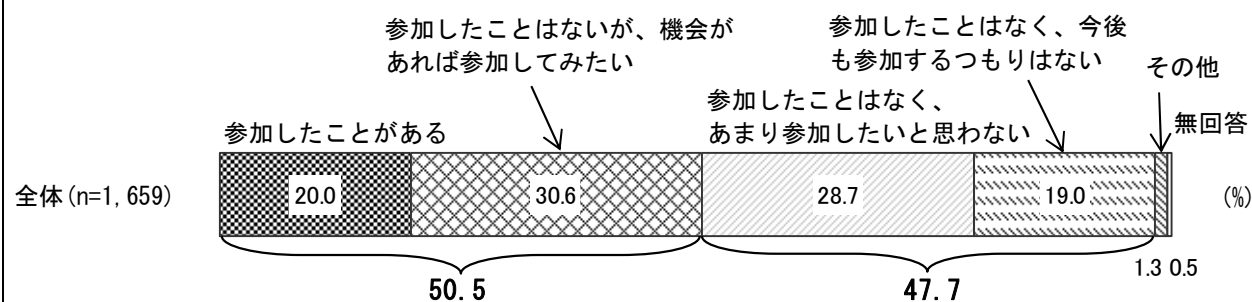
（９）環境保全に関する講演やセミナー、環境ボランティア活動への参加状況

◇『参加意向あり（計）』が5割

問9 これまでに環境保全に関する講演やセミナー（オンラインでの参加を含む）、あるいは環境ボランティア活動（植林や清掃活動など）などに参加したことがありますか。

（○は1つ）

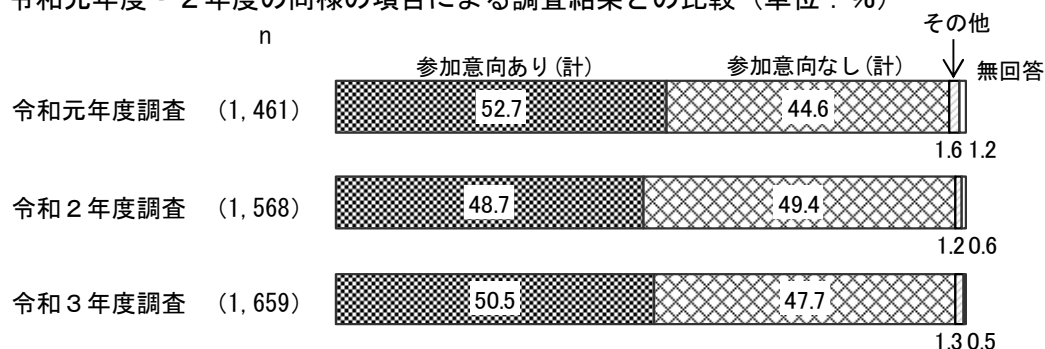
＜図表1-17＞環境保全に関する講演やセミナー、環境ボランティア活動への参加状況



環境保全に関する講演やセミナー（オンライン参加含む）、環境ボランティア活動への参加状況を聞いたところ、「参加したことがある」（20.0%）が2割となっており、これと「参加したことはないが、機会があれば参加してみたい」（30.6%）を合わせた『参加意向あり（計）』（50.5%）が5割となっている。

一方、「参加したことはなく、あまり参加したいと思わない」（28.7%）と「参加したことはなく、今後も参加するつもりはない」（19.0%）を合わせた『参加意向なし（計）』（47.7%）が約5割となっている。（図表1-17）

【参考】令和元年度・2年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



（※）令和元年度、令和2年度調査で、「これまでに環境保全に関する講演やセミナー（オンラインでの参加を含む）、あるいは環境ボランティア活動（植林や清掃活動など）に参加したことがありますか。（○は1つ）」と質問した結果を参考に示した。

【地域別】

地域別にみると、『参加意向あり（計）』は“安房地域”（70.0%）が7割で高くなっている。

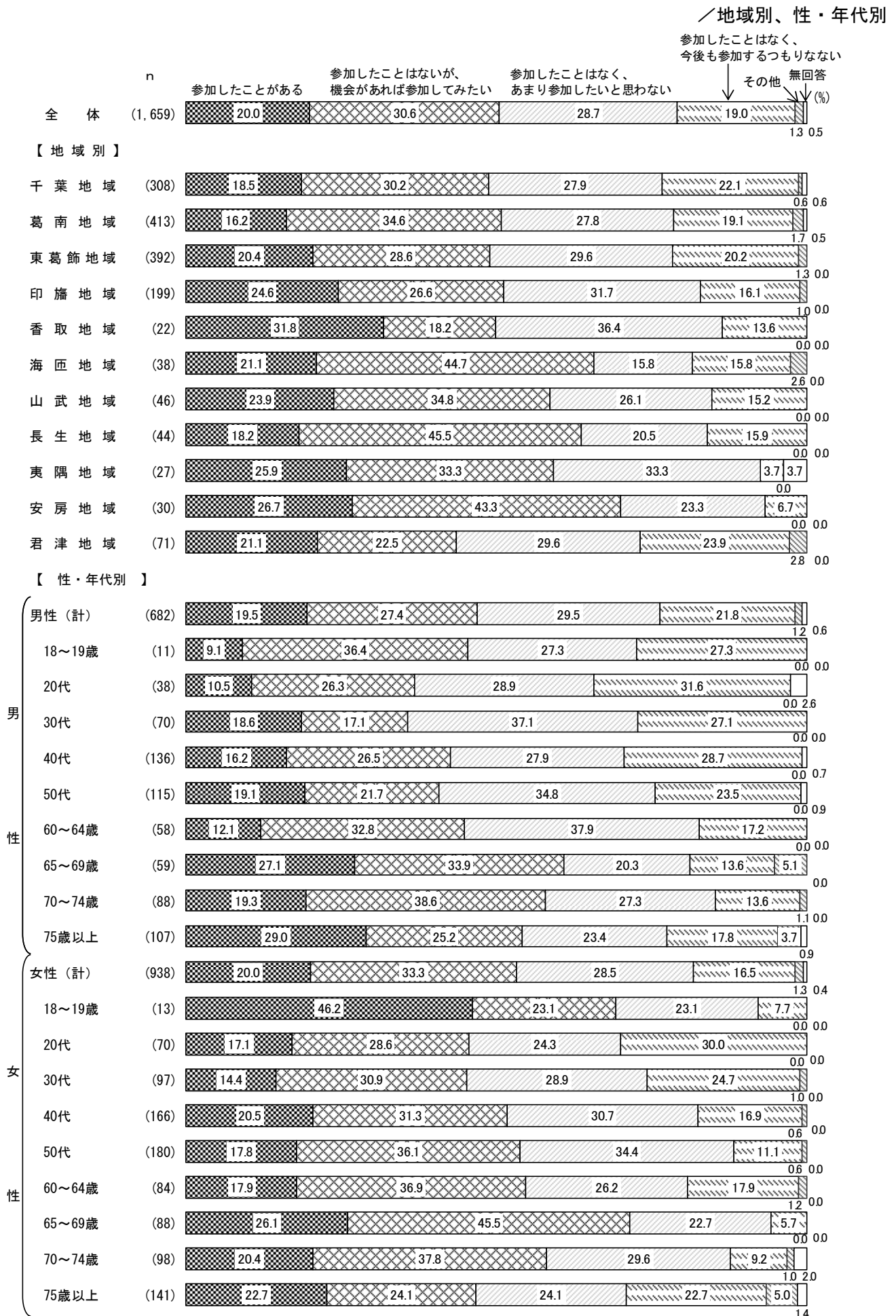
（図表1-18）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『参加意向あり（計）』は女性の65～69歳（71.6%）が7割を超えて高くなっている。

一方、『参加意向なし（計）』は男性の30代（64.3%）が6割台半ば、男性の20代（60.5%）が6割、男性の50代（58.3%）が約6割で高くなっている。（図表1-18）

＜図表 1－18＞環境保全に関する講演やセミナー、環境ボランティア活動への参加状況



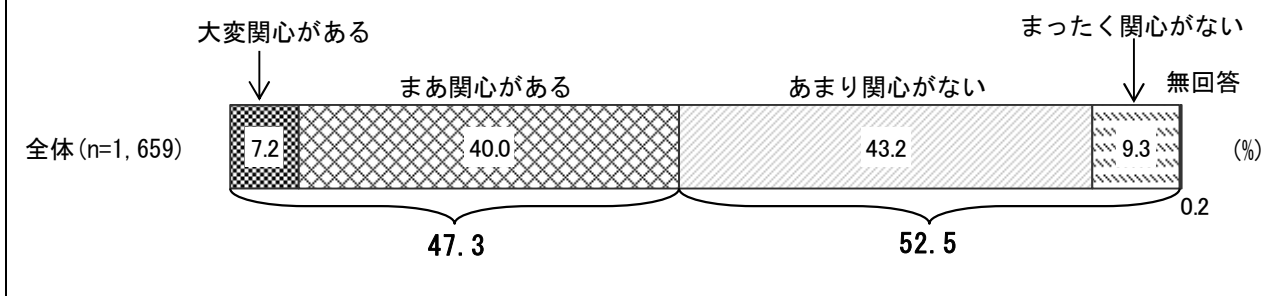
(10) 市民活動団体やボランティア活動の関心度

◇『関心がある（計）』が約5割

問10 市民活動団体※の活動や、ボランティア活動に関心がありますか。（○は1つ）

※ 「市民活動団体」とは、市民の自発性に基づき、福祉や子育て支援、まちづくり、環境等様々な分野の地域課題の解決のために、自立的・継続的に社会貢献活動を行う営利を目的としない団体（行政が認証したNPO法人やボランティア団体等任意団体）です。

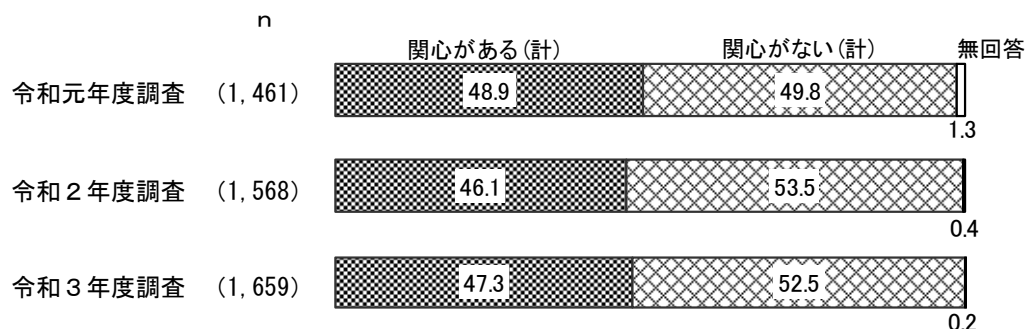
<図表 1-19>市民活動団体やボランティア活動の関心度



市民活動団体の活動や、ボランティア活動の関心度を聞いたところ、「大変関心がある」(7.2%)と「まあ関心がある」(40.0%)を合わせた『関心がある(計)』(47.3%)が約5割となっている。

一方、「あまり関心がない」(43.2%)と「まったく関心がない」(9.3%)を合わせた『関心がない(計)』(52.5%)が5割を超えている。(図表 1-19)

〔参考〕令和元年度・2年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）



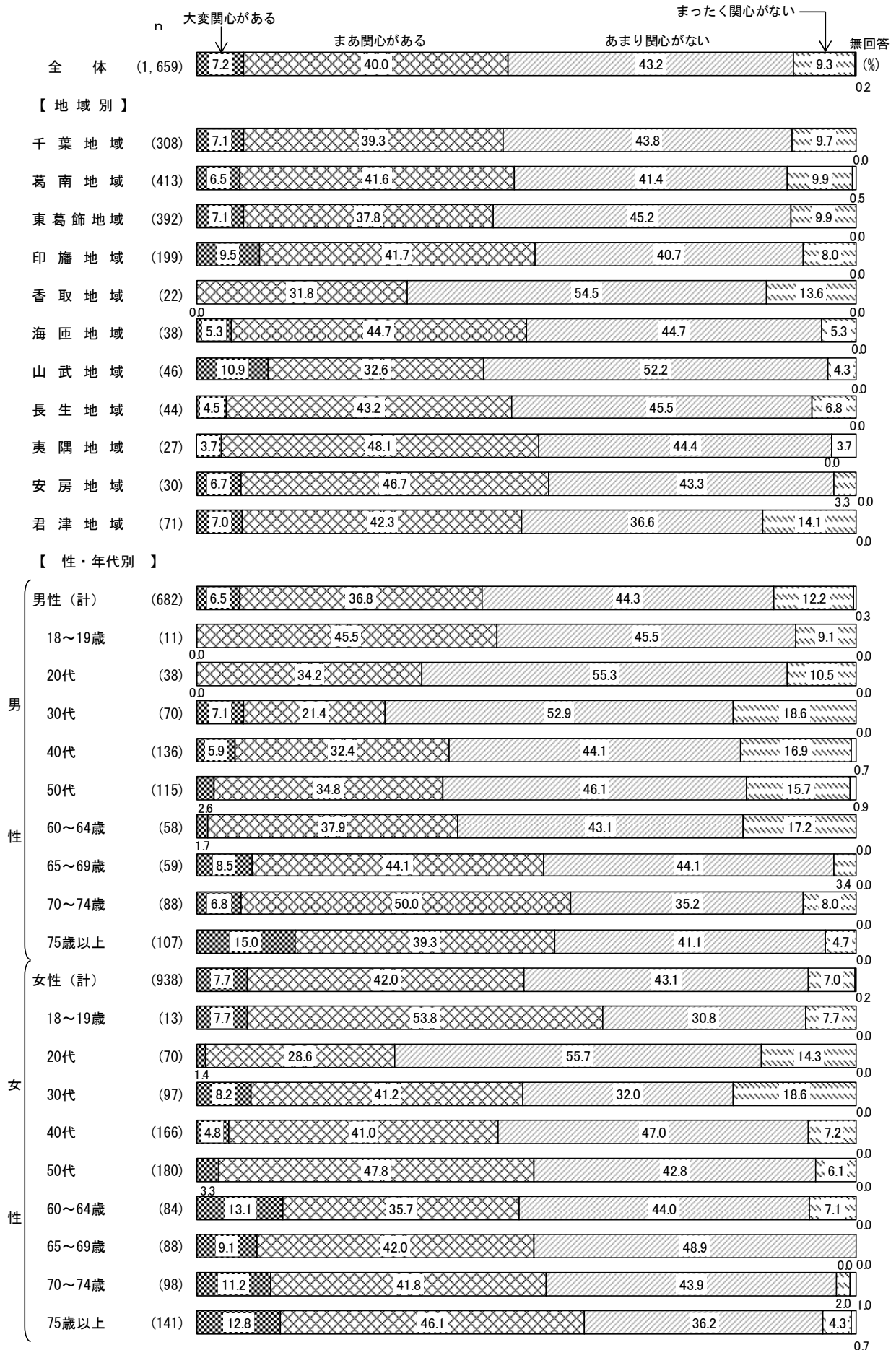
【地域別】

地域別にみると、大きな傾向の違いはみられない。(図表 1-20)

【性・年代別】

性・年代別にみると、『関心がある(計)』は女性の75歳以上(58.9%)が約6割で高くなっている。一方、『関心がない(計)』は男性の30代(71.4%)が7割を超え、女性の20代(70.0%)が7割で高くなっている。(図表 1-20)

＜図表 1－20＞市民活動団体やボランティア活動の関心度／地域別、性・年代別



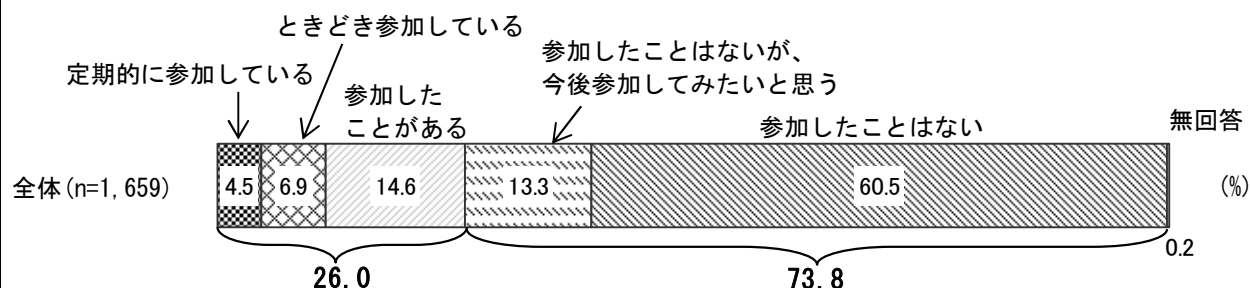
(11) 市民活動団体の活動への参加経験

◇『参加したことがある（計）』が2割台半ば

問11 市民活動団体の活動に参加※したことがありますか。（○は1つ）

※ ここでいう「参加」とは、団体の会員やボランティアとしての参加のみならず、団体への資金・物品・技術・場所等の提供・寄付などの支援を通しての参加や、団体が提供するサービスの利用・イベントへの参加などを指します。

＜図表 1－21＞市民活動団体の活動への参加経験

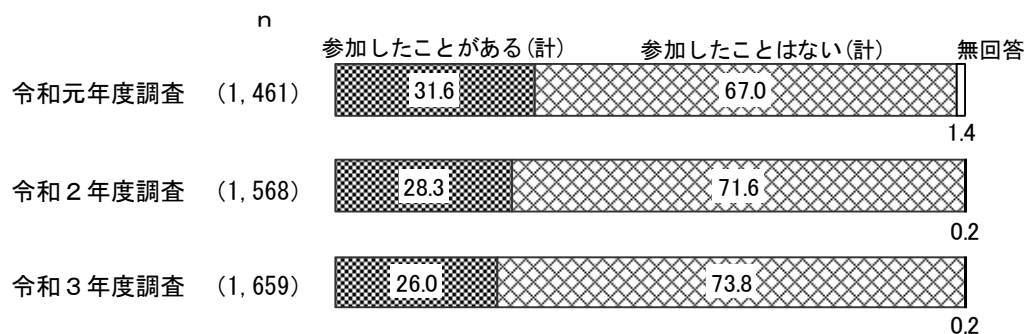


市民活動団体の活動への参加経験を聞いたところ、「定期的に参加している」（4.5%）、「ときどき参加している」（6.9%）、「参加したことがある」（14.6%）の3つを合わせた『参加したことがある（計）』（26.0%）が2割台半ばとなっている。

一方、「参加したことはないが、今後参加してみたいと思う」（13.3%）と「参加したことはない」（60.5%）を合わせた『参加したことはない（計）』（73.8%）が7割台半ばとなっている。

（図表 1－21）

【参考】令和元年度・2年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）



【地域別】

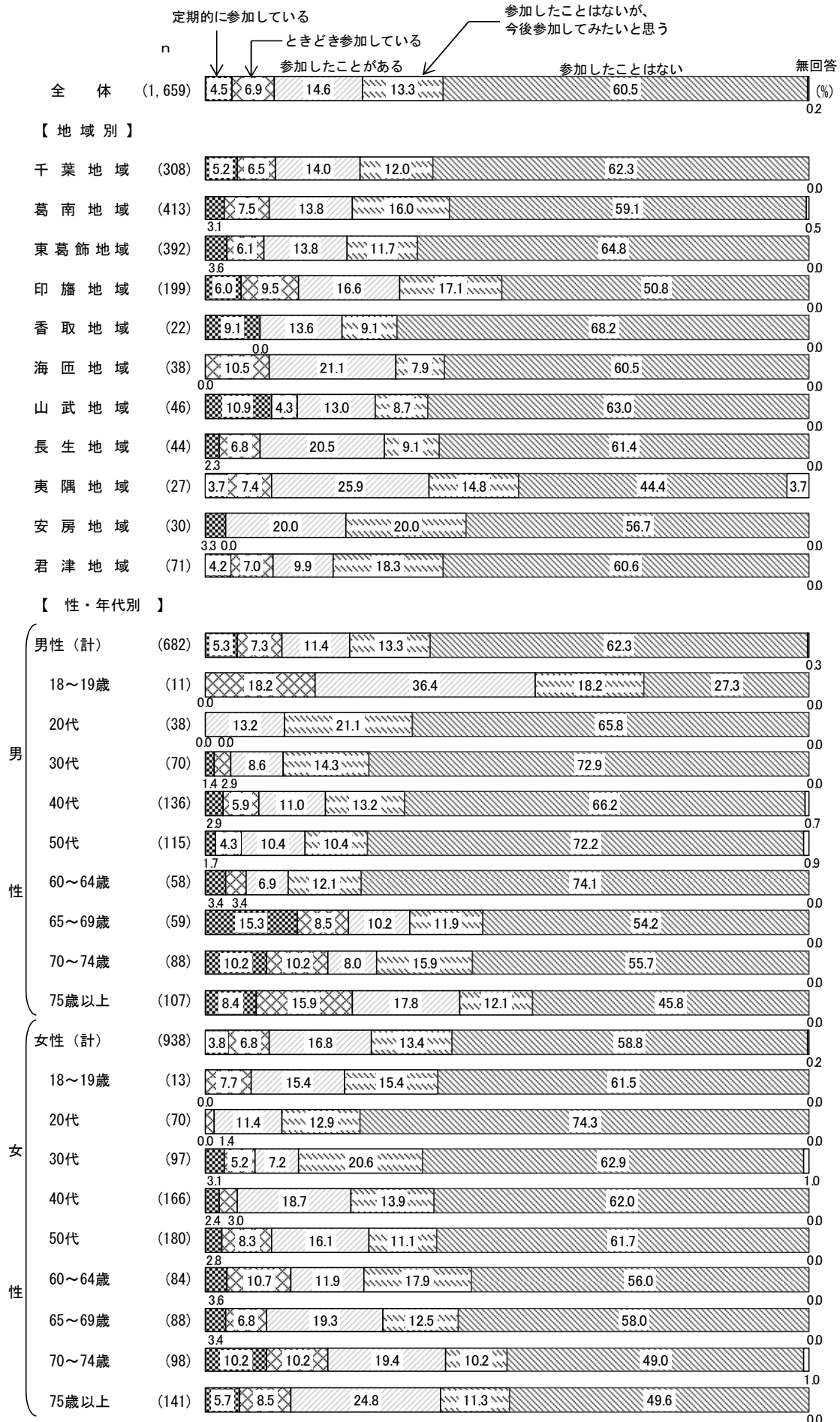
地域別にみると、『参加したことがある（計）』は“夷隅地域”（37.0%）が約4割、“印旛地域”（32.2%）が3割を超えて高くなっている。（図表 1－22）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『参加したことがある（計）』は男性の75歳以上（42.1%）が4割を超え、女性の70～74歳（39.8%）と75歳以上（39.0%）が約4割で高くなっている。

一方、『参加したことはない（計）』は男性の30代と女性の20代（87.1%）が約9割、男性の60～64歳（86.2%）と女性の30代（83.5%）が8割台半ば、男性の50代（82.6%）が8割を超えて高くなっている。（図表 1－22）

<図表 1-22> 市民活動団体の活動への参加経験／地域別、性・年代別



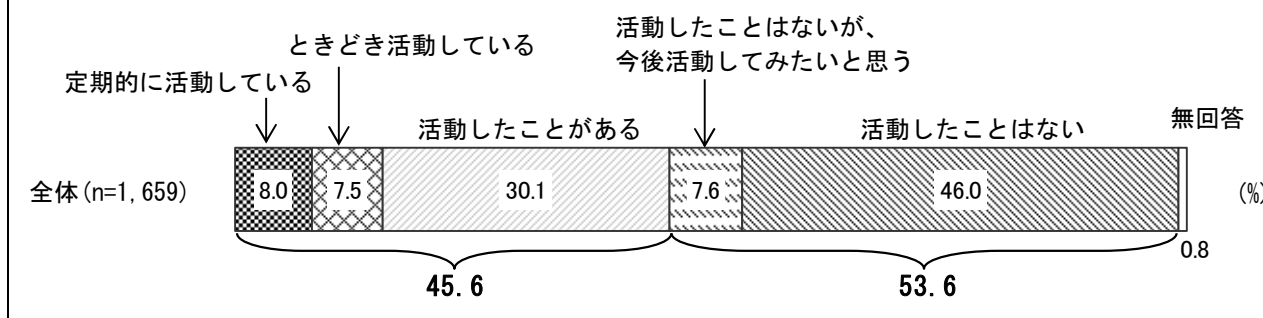
(12) ボランティア活動経験

◇『活動したことがある（計）』が4割台半ば

問12 ボランティアとして活動※したことがありますか。（○は1つ）

※ ここでいう「ボランティア活動」とは、市民の自発性に基づき地域や社会に貢献する活動（町会・自治会の活動、PTAの活動や学校行事の手伝い、子ども会の活動、交通安全運動、道路や公園等の清掃なども含む）のことであり、市民活動団体が行うボランティア活動への参加のみならず、個人として行うものを含むボランティア活動全般を指します。

＜図表 1－23＞ボランティア活動経験

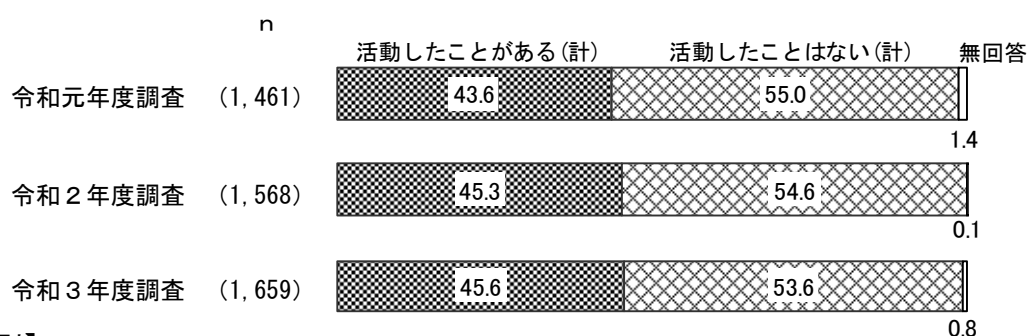


ボランティアとして活動したことがあるか聞いたところ、「定期的に活動している」（8.0%）、「ときどき活動している」（7.5%）、「活動したことがある」（30.1%）の3つを合わせた『活動したことがある（計）』（45.6%）が4割台半ばとなっている。

一方、「活動したことはないが、今後活動してみたいと思う」（7.6%）と「活動したことはない」（46.0%）を合わせた『活動したことはない（計）』（53.6%）が5割台半ばとなっている。

（図表 1－23）

〔参考〕令和元年度・2年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）



【地域別】

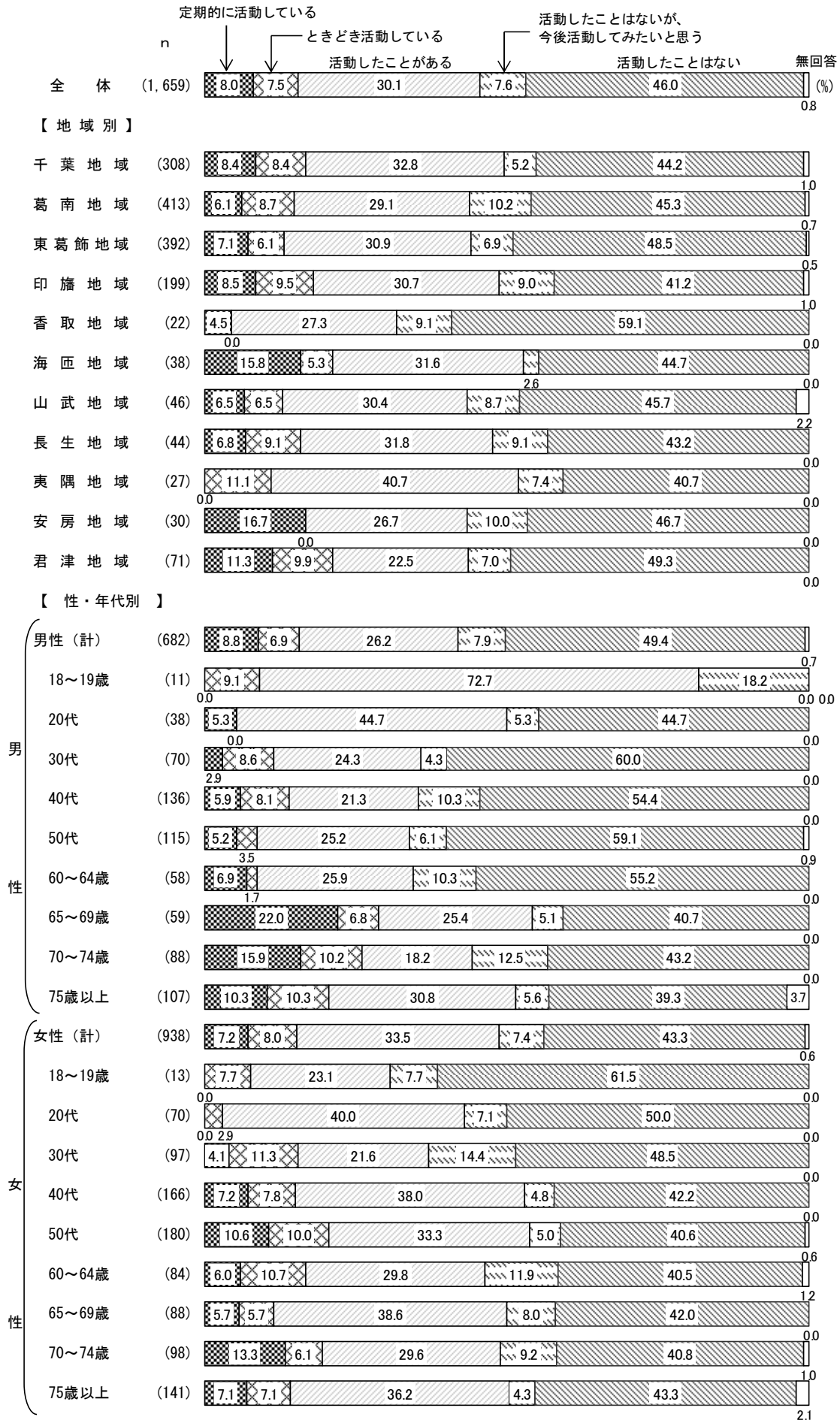
地域別にみると、大きな傾向の違いはみられない。（図表 1－24）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『活動したことがある（計）』は女性の50代（53.9%）が5割台半ばで高くなっている。

一方、『活動したことはない（計）』は男性の60～64歳（65.5%）、50代（65.2%）、40代（64.7%）と30代（64.3%）が6割台半ばで高くなっている。（図表 1－24）

＜図表 1－24＞ボランティア活動経験／地域別、性・年代別



(13) この1年間で文化芸術に触れた頻度

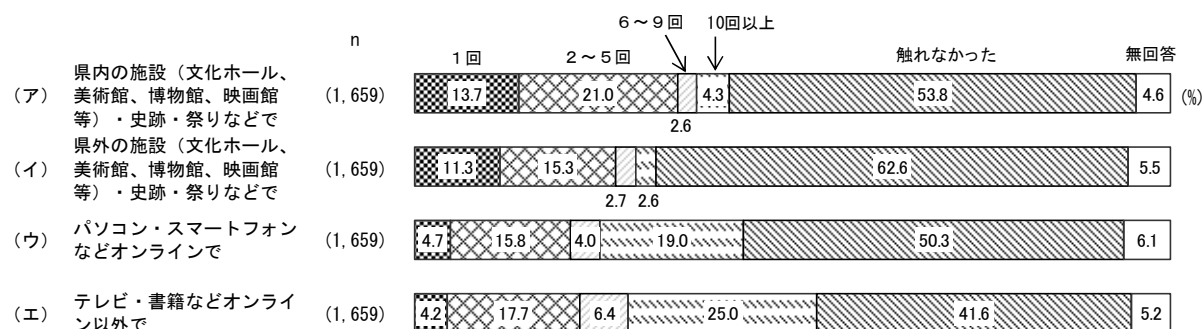
◇『触れたことがある（計）』が最も高いのは<（エ）テレビ・書籍などオンライン以外で>で5割を超える

問13 この1年間に、どのような方法で（どこで・どの手段で）何回くらい文化芸術※に触れましたか。（〇はそれぞれ1つつ）

※「文化芸術」とは、映画（アニメ含む）、音楽（クラシックやポップス等）、美術（写真・デジタルアート含む）、文芸（マンガ含む）、ダンス、茶道・華道、歌舞伎、地域に伝わる祭り、文化財など幅広いジャンルの文化芸術を指します。

※「触れる」とは、映画・舞台公演・展覧会等の鑑賞、地域の祭り等への参加、演奏・創作活動、史跡めぐり、読書（マンガを含む）などを指します。（いずれもオンラインでの視聴・鑑賞を含みます。）

<図表1-25>この1年間で文化芸術に触れた頻度

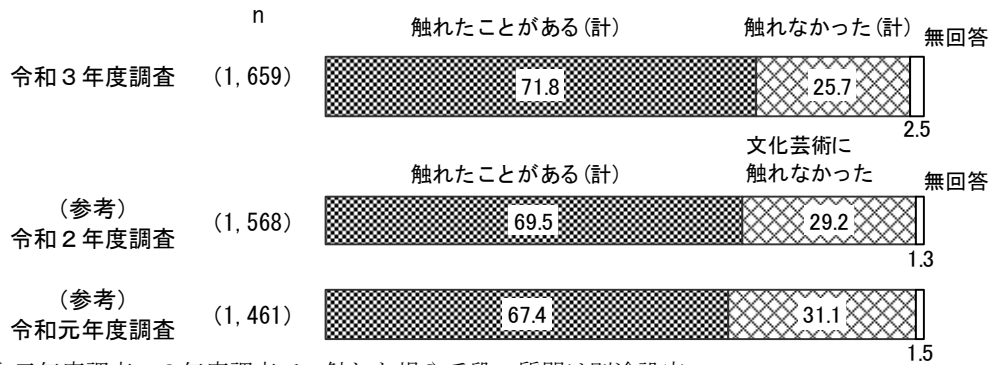


この1年間で何回くらい文化芸術に触れたか聞いたところ、「年に1回」、「年に2～5回（3～6か月に1回程度）」、「年に6～9回（1～2か月に1回程度）」、「年に10回以上（おおよそ月に1回以上）」の4つを合わせた『触れたことがある（計）』が最も高いのは、「（エ）テレビ・書籍などオンライン以外で」（53.2%）で5割を超え、以下、「（ウ）パソコン・スマートフォンなどオンラインで」（43.6%）が4割台半ば、「（ア）県内の施設・史跡・祭りなどで」（41.6%）が4割を超えて続く。

一方、「文化芸術に触れなかった」が最も高いのは、「（イ）県外の施設・史跡・祭りなどで」（62.6%）で6割を超え、以下、「（ア）県内の施設・史跡・祭りなどで」（53.8%）が5割台半ば、「（ウ）パソコン・スマートフォンなどオンラインで」（50.3%）が5割と続く。（図表1-25）

（ア）～（エ）のいずれかを通じてこの1年間で文化芸術に触れた県民の割合は71.8%となった。（（ア）～（エ）のいずれかで文化芸術に『触れたことがある（計）』と回答した方の割合）

〔参考〕令和元年度・2年度の類似の項目による調査結果との比較（単位：％）



(※) 令和元年度調査・2年度調査で、触れた場や手段の質問は別途設定

(※) 令和元年度調査で、「あなたは、県内の施設などでこの1年間に何回くらい文化芸術に触れましたか。(○は1つ)」と質問した結果を参考に示した。

また、令和元年度・2年度にそれぞれ「文化芸術」の説明を変更した。

令和2年度の説明は以下のとおりである。

「ここでいう「文化芸術」とは、映画（アニメ含む）、音楽（クラシックやポップス等）、美術（写真・デジタルアート含む）、文芸（マンガ含む）、ダンス、茶道・華道、歌舞伎、地域に伝わる祭り、文化財など幅広いジャンルの文化芸術を指します。「触れる」とは映画・舞台公演・展覧会等の鑑賞（オンラインでの鑑賞を含む）、地域の祭り等への参加、演奏・創作活動、史跡めぐり、読書などを指します。」

令和元年度の説明は以下のとおりである。

「ここでいう「文化芸術」とは、映画（アニメ含む）、音楽（クラシックやポップス等）、美術（写真・デジタルアート含む）、文芸（マンガ含む）、ダンス、茶道・華道、歌舞伎、地域に伝わる祭り、文化財など幅広いジャンルの文化芸術を指します。「触れる」とは映画・舞台公演・展覧会等の鑑賞、祭り等への参加、演奏・創作活動、史跡めぐり、読書などを指します。」

【地域別】

地域別にみると、「(ア) 県内の施設・史跡・祭りなどで」の『触れたことがある(計)』は“葛南地域”(44.8%)が4割台半ばで高くなっている。

一方、「触れなかった」は“山武地域”(69.6%)が約7割で高くなっている。

「(イ) 県外の施設・史跡・祭りなどで」の『触れたことがある(計)』は“葛南地域”(38.3%)が約4割で高くなっている。

一方、「触れなかった」は“長生地域”(84.1%)が8割台半ば、“山武地域”(80.4%)が8割で高くなっている。

「(ウ) パソコン・スマートフォンなどオンラインで」の『触れたことがある(計)』は“印旛地域”(50.3%)が5割で高くなっている。

一方、「触れなかった」は“海匝地域”(65.8%)が6割台半ばで高くなっている。

「(エ) テレビ・書籍などオンライン以外で」の『触れたことがある(計)』は“君津地域”(60.6%)が6割で高くなっている。

一方、「触れなかった」は“香取地域”(59.1%)が約6割で高くなっている。(図表1-26)

【性・年代別】

性・年代別にみると、「(ア) 県内の施設・史跡・祭りなどで」の『触れたことがある(計)』は女性の20代(57.1%)が約6割、女性の30代(51.5%)が5割を超えて高くなっている。

一方、「触れなかった」は男性の60～64歳(74.1%)が7割台半ば、女性の60～64歳(65.5%)が

6割台半ばで高くなっている。

「(イ) 県外の施設・史跡・祭りなどで」の『触れたことがある(計)』は女性の20代(55.7%)が5割台半ば、女性の30代(47.4%)が約5割、男性の40代(40.4%)が4割で高くなっている。

一方、「触れなかった」は男性の60～64歳(70.7%)と女性の60～64歳(70.2%)が7割で高くなっている。

「(ウ) パソコン・スマートフォンなどオンラインで」の『触れたことがある(計)』は女性の20代(75.7%)と男性の20代(73.7%)が7割台半ば、女性の30代(66.0%)が6割台半ば、男性の30代(60.0%)が6割、女性の40代(59.6%)が約6割、男性の40代(53.7%)が5割台半ば、女性の50代(52.2%)が5割を超えて高くなっている。

一方、「触れなかった」は女性の70～74歳(72.4%)と65～69歳(71.6%)が7割を超え、女性の75歳以上(66.7%)と男性の75歳以上(64.5%)が6割台半ばで高くなっている。

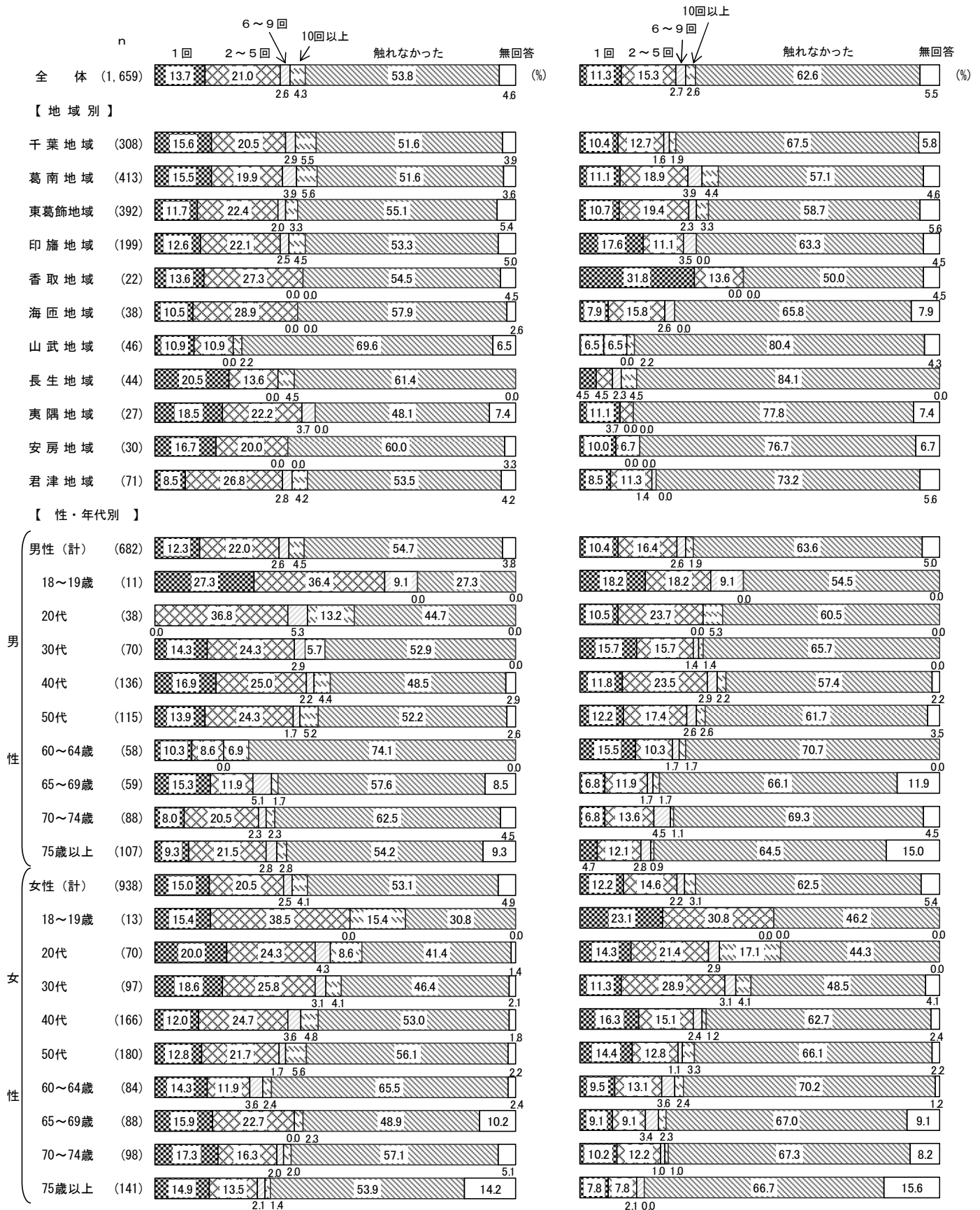
「(エ) テレビ・書籍などオンライン以外で」の『触れたことがある(計)』は男性の20代(73.7%)が7割台半ば、女性の20代(67.1%)と40代(65.1%)が6割台半ばで高くなっている。

一方、「触れなかった」は男性の75歳以上(50.5%)が5割、男性の65～69歳(49.2%)と70～74歳(48.9%)と女性の75歳以上(48.2%)が約5割で高くなっている。(図表1-26)

<図表 1-26>この 1 年間で文化芸術に触れた頻度／地域別、性・年代別

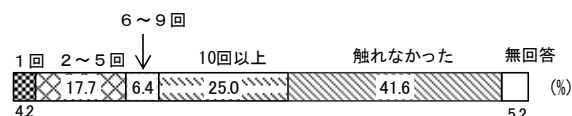
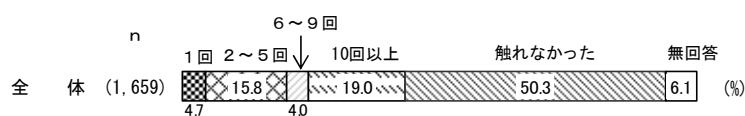
(ア) 県内の施設（文化ホール、
美術館、博物館、映画館等）・
史跡・祭りなどで

(イ) 県外の施設（文化ホール、
美術館、博物館、映画館等）・
史跡・祭りなどで

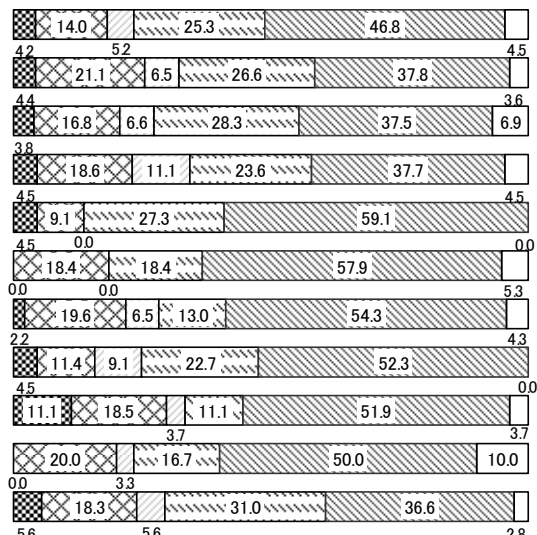
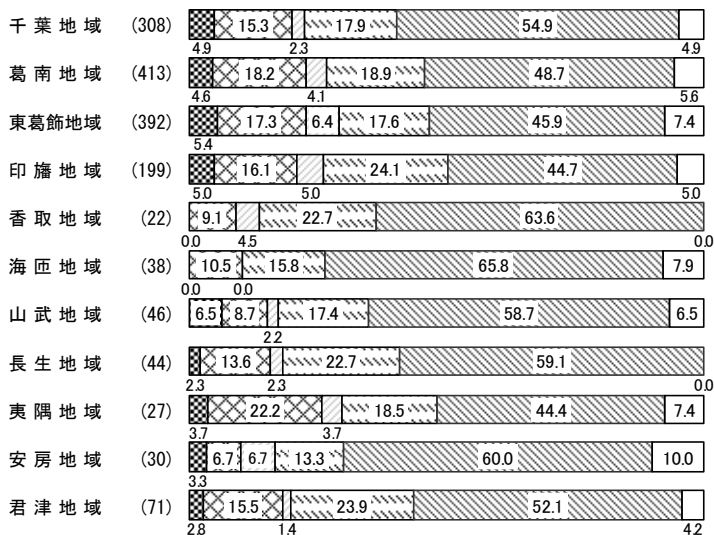


(ウ) パソコン・スマートフォンなど
オンラインで

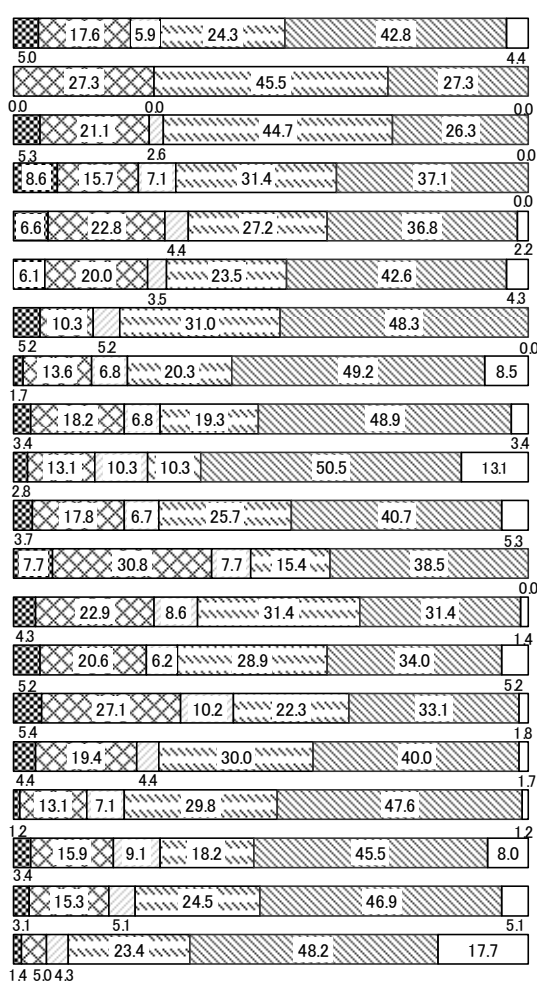
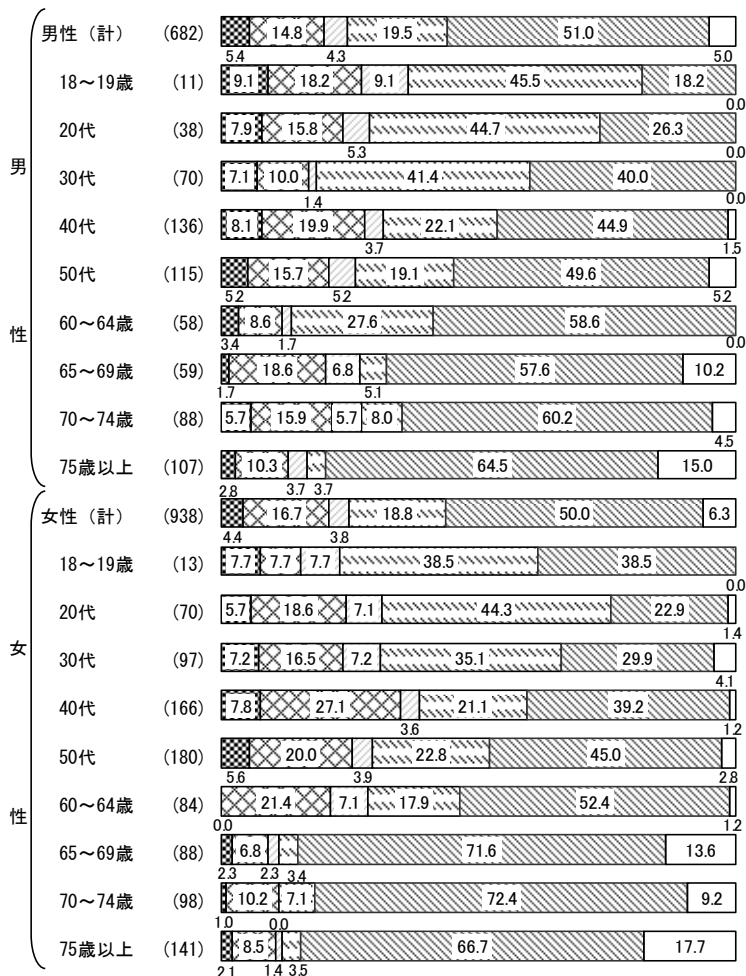
(エ) テレビ・書籍などオンライン以外で



【地域別】



【性・年代別】



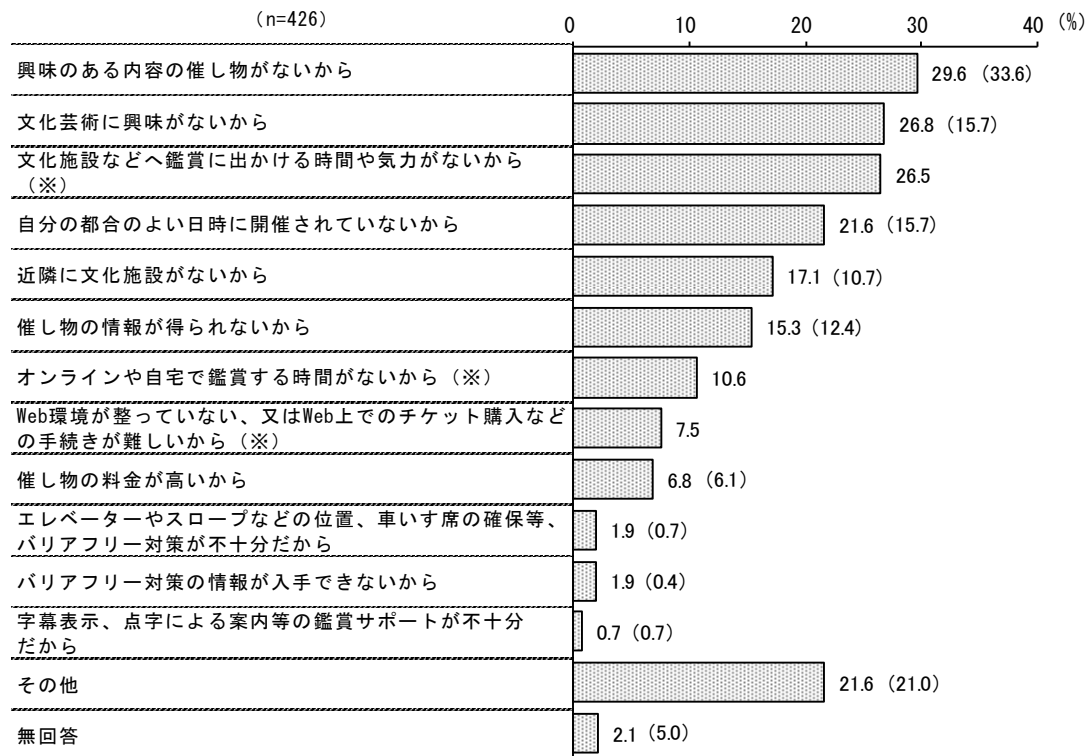
(13－1) 文化芸術に触れなかった理由

◇「興味のある内容の催し物がないから」が約3割

(問13で「県内の施設」「県外の施設」「パソコン・スマートフォンなどオンラインで」「テレビ・書籍などオンライン以外で」全てに「触れなかった」とお答えの方に)

問13－1 その主な理由は何ですか。(〇はいくつでも)

<図表1－27>文化芸術に触れなかった理由（複数回答）



注) () の数字は令和2年度の同様の項目による調査結果 n = 458

(※) 今回調査からの新規項目

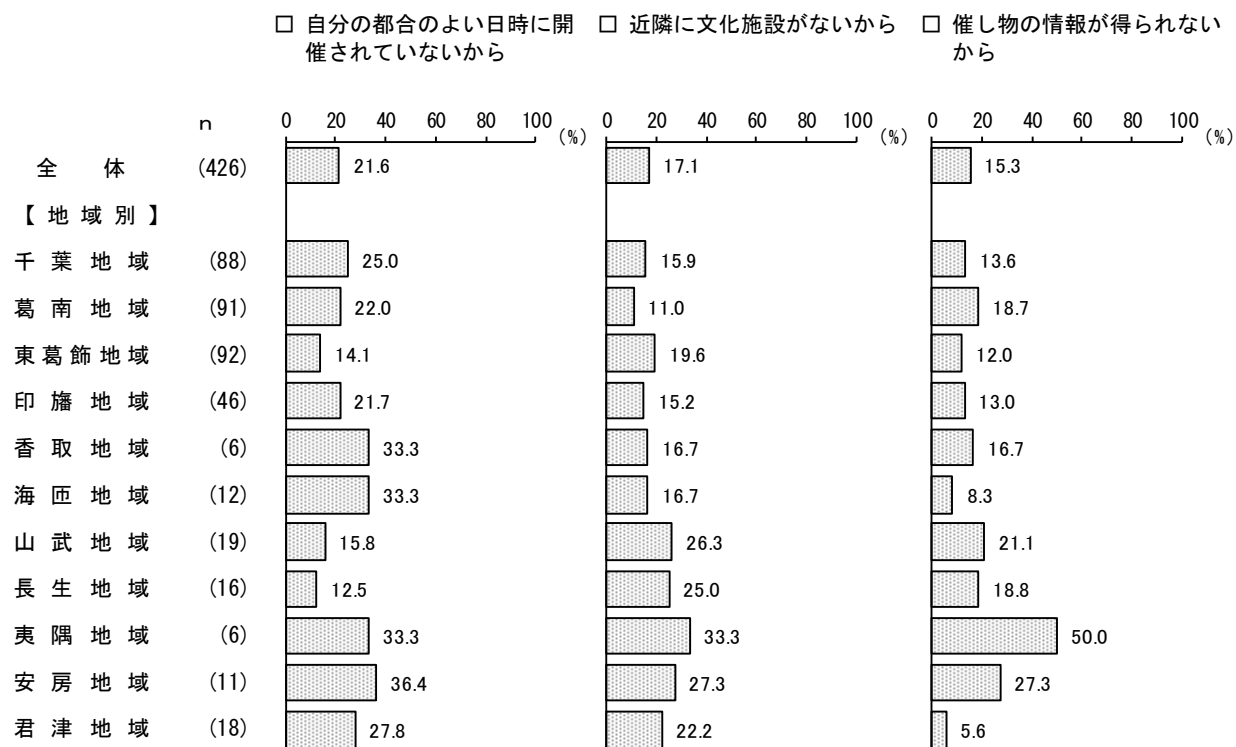
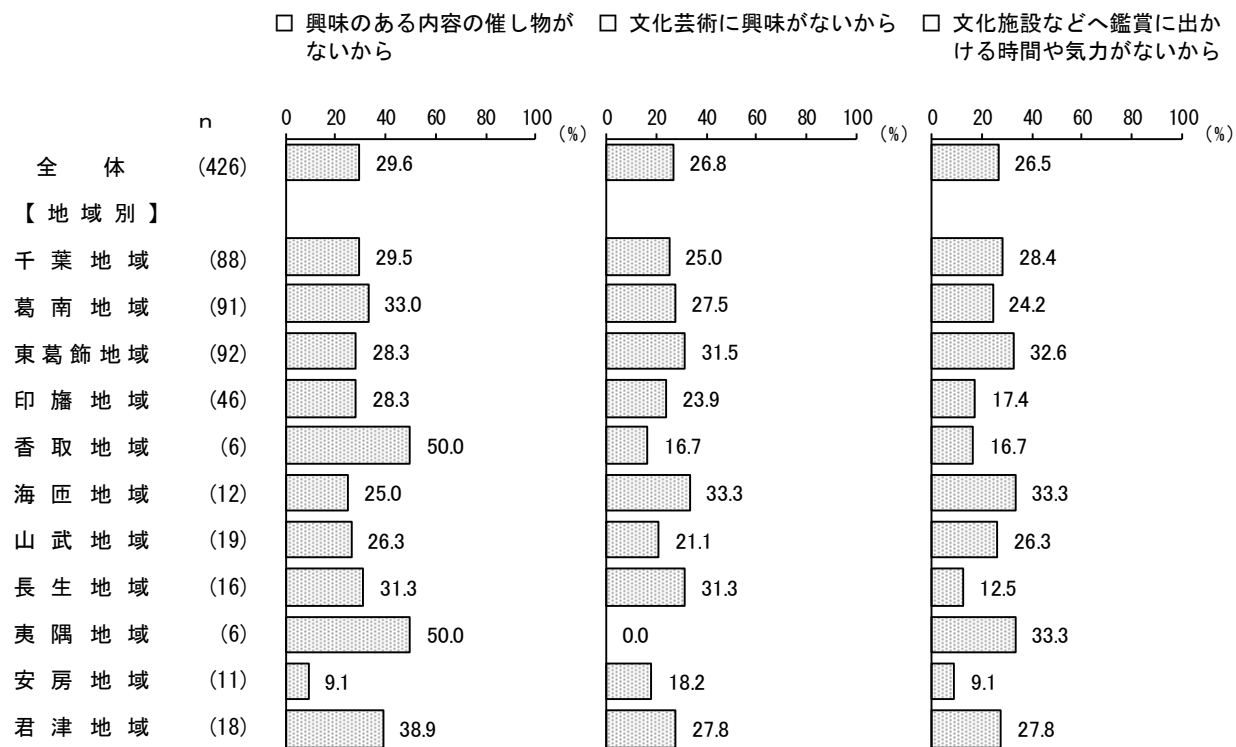
「文化芸術に触れなかった」と回答した426人を対象に、文化芸術に触れなかった理由を聞いたところ、「興味のある内容の催し物がないから」(29.6%) が約3割で最も高く、以下、「文化芸術に興味がないから」(26.8%)、「文化施設などへ鑑賞に出かける時間や気力がないから」(26.5%)、「自分の都合のよい日時に開催されていないから」(21.6%)が続く。(図表1－27)

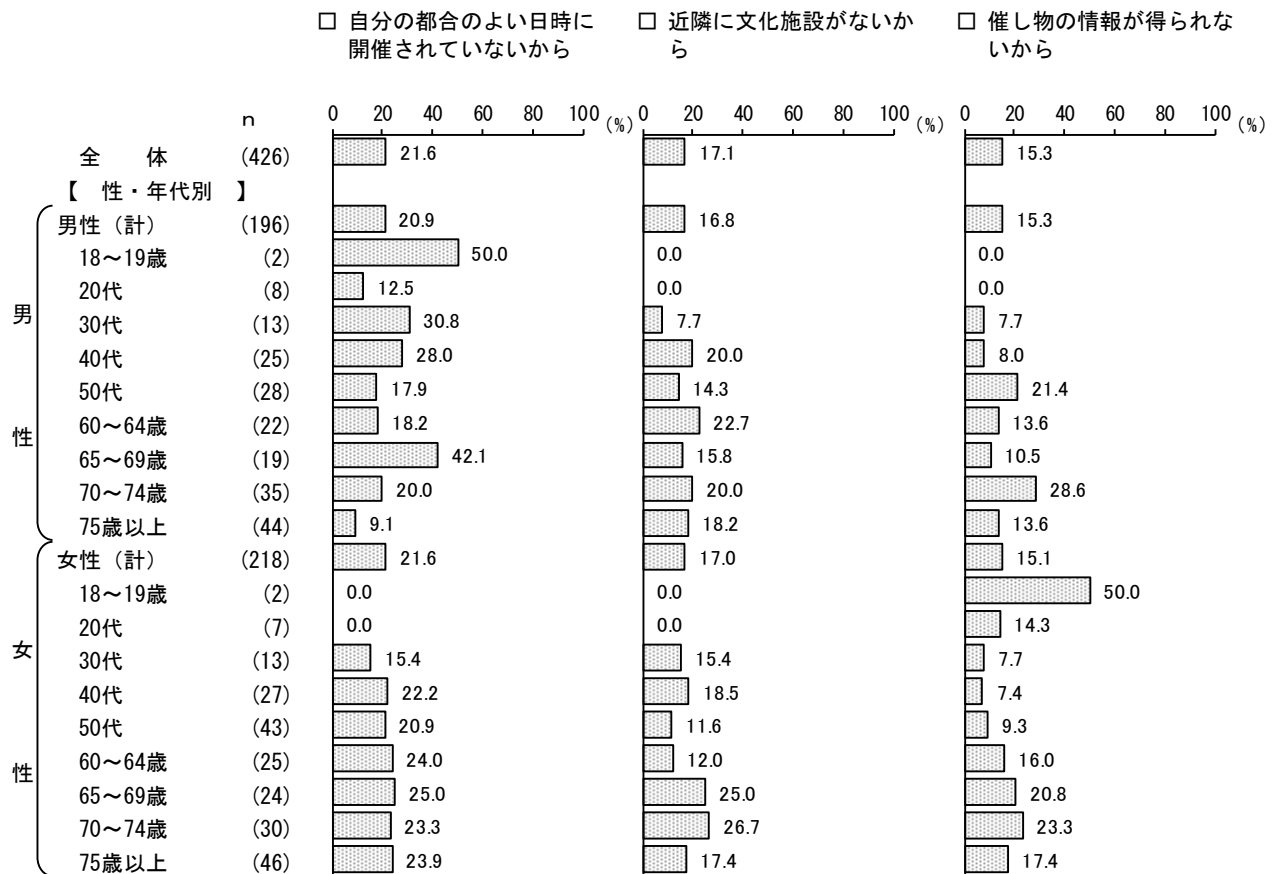
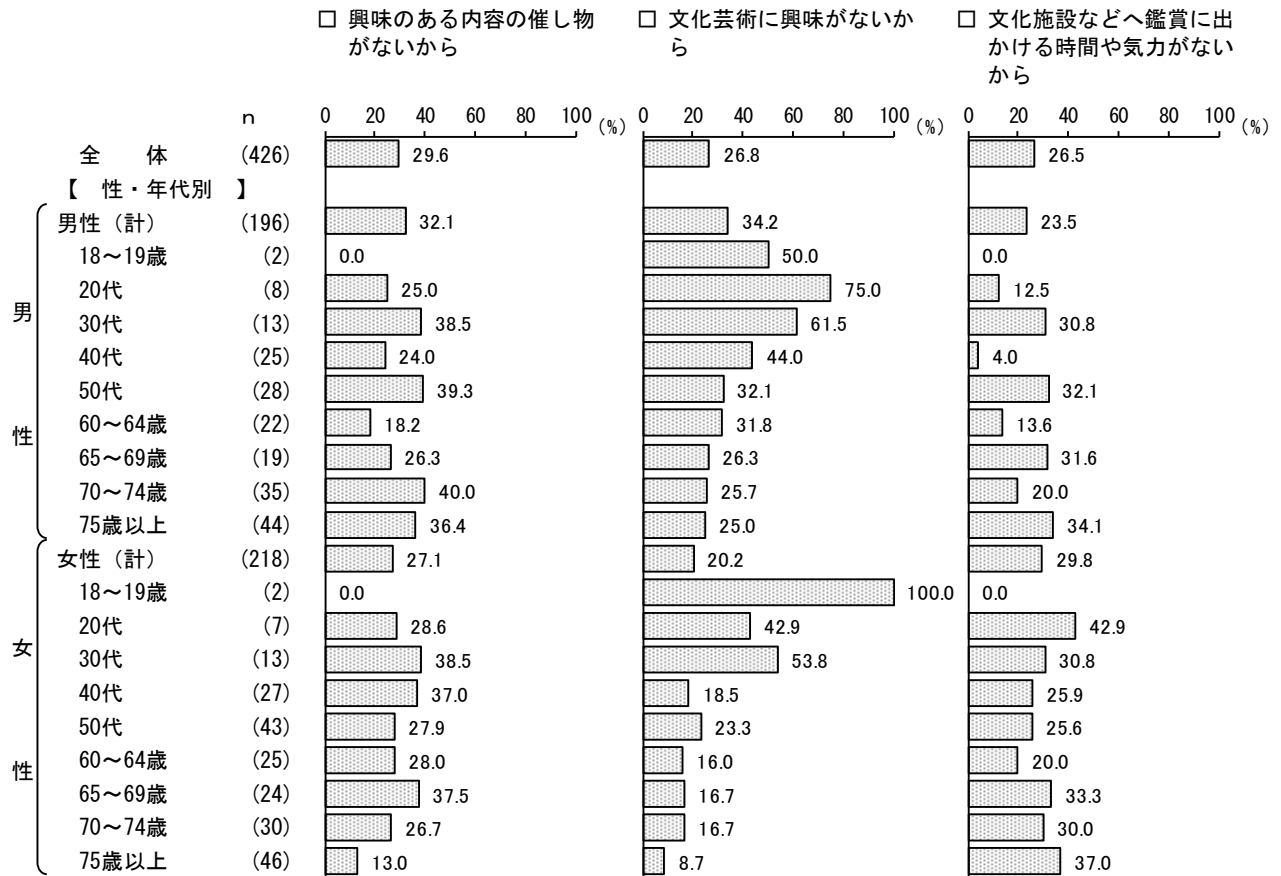
※サンプル数が少ないため、【地域別】、【性・年代別】は参考までに図示するにとどめる。

(8ページ「報告書の見方(5)」を参照)

(図表1－28)

[参考] <図表 1-28> 文化芸術に触れなかった理由（複数回答）／地域別、性・年代別（上位 6 項目）

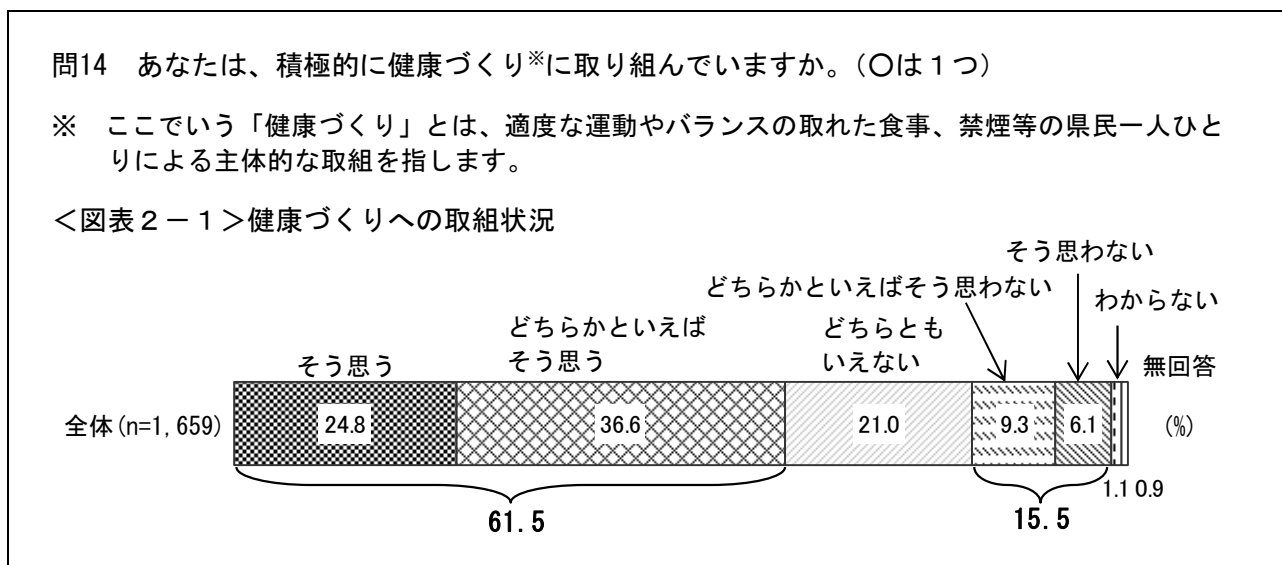




2 健康について

（１）健康づくりへの取組状況

◇『そう思う（計）』が6割を超える



積極的に健康づくりに取り組んでいるか聞いたところ、「そう思う」（24.8％）と「どちらかといえばそう思う」（36.6％）を合わせた『そう思う（計）』（61.5％）が6割を超えている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」（9.3％）と「そう思わない」（6.1％）を合わせた『そう思わない（計）』（15.5％）が1割台半ばとなっている。（図表 2－1）

【地域別】

地域別にみると、『そう思う（計）』は“海匠地域”（71.1％）が7割を超えている。

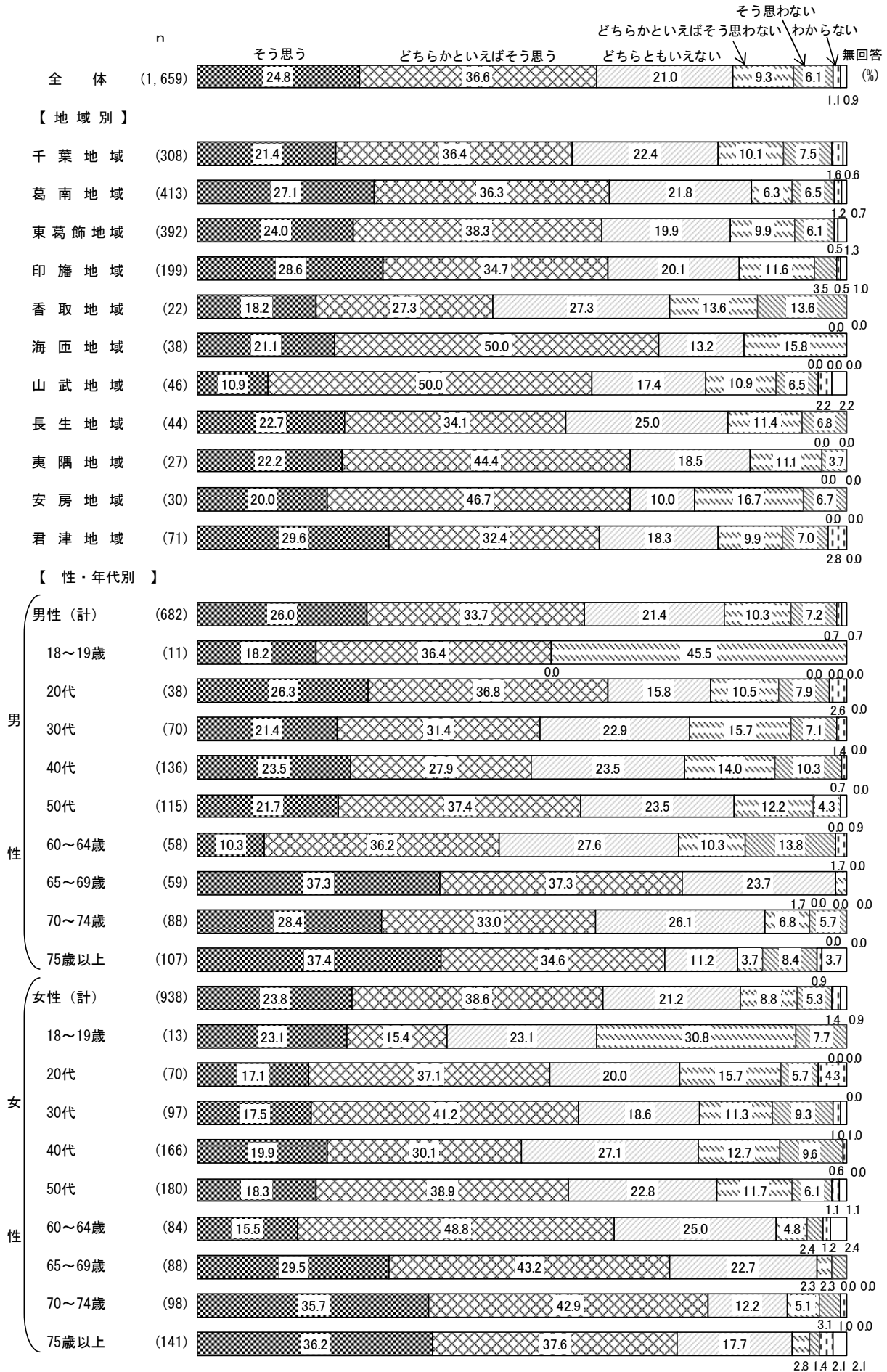
（図表 2－2）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『そう思う（計）』は女性の70～74歳（78.6％）が約8割、男性の65～69歳（74.6％）と女性の75歳以上（73.8％）が7割台半ば、女性の65～69歳（72.7％）と男性の75歳以上（72.0％）が7割を超えて高くなっている。

一方、『そう思わない（計）』は男性の40代（24.3％）が2割台半ば、女性の40代（22.3％）が2割を超えて高くなっている。（図表 2－2）

＜図表 2－2＞健康づくりへの取組状況／地域別、性・年代別



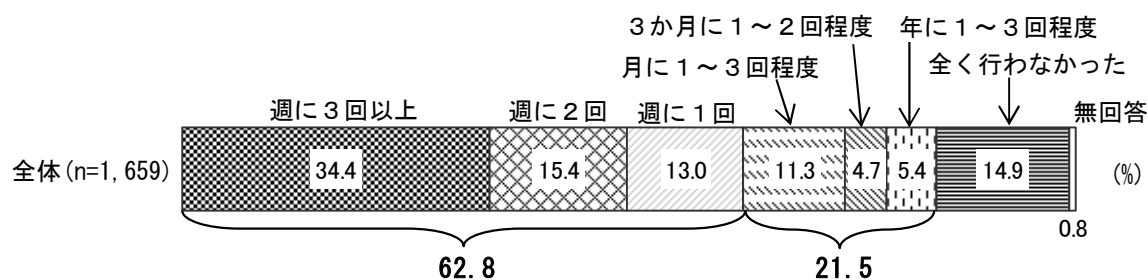
（２）１年間にを行った運動の程度

◇『週１回以上運動した（計）』が６割を超える

問15 この１年間に運動やスポーツ※をどの程度行いましたか。（○は１つ）

※ ここでいう「運動やスポーツ」とは、自転車の利用、階段昇降、散歩、ぶらぶら歩き、通勤時の一駅歩き等の比較的軽い運動やスポーツを含みます。

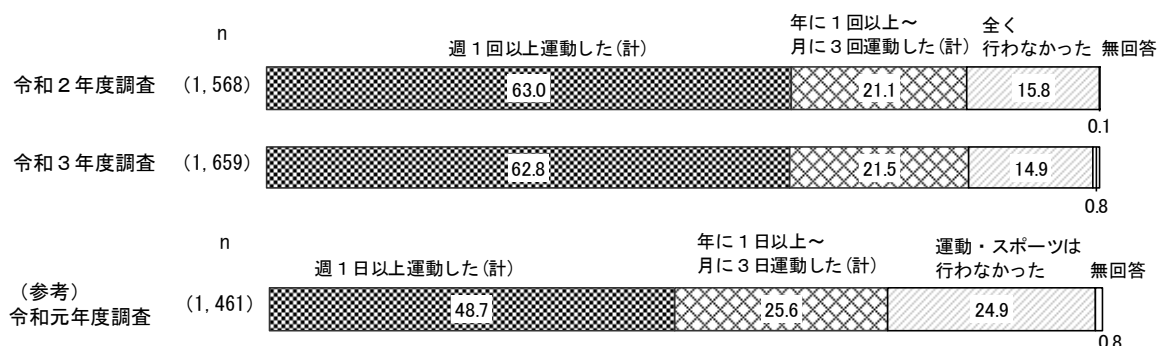
＜図表２－３＞１年間にを行った運動の程度



この１年間にどの程度運動やスポーツを行ったか聞いたところ、「週に３回以上」（34.4%）、「週に２回」（15.4%）、「週に１回」（13.0%）の３つを合わせた『週１回以上運動した（計）』（62.8%）が６割を超えている。

一方、「全く行わなかった」（14.9%）が１割台半ばとなっている。（図表２－３）

〔参考〕令和元年度・２年度の同様及び類似の項目による調査結果との比較（単位：％）



（※）令和元年度調査で、「あなたは、健康づくりなどのために１年間に何日くらい運動やスポーツを行いましたか。（○は１つ）

※ここでいう「運動やスポーツ」とは、比較的軽い運動やスポーツ（ウォーキングや軽い体操、ダンスなどのレクリエーション活動等）を含みます。」と質問した結果を参考に示した。

【地域別】

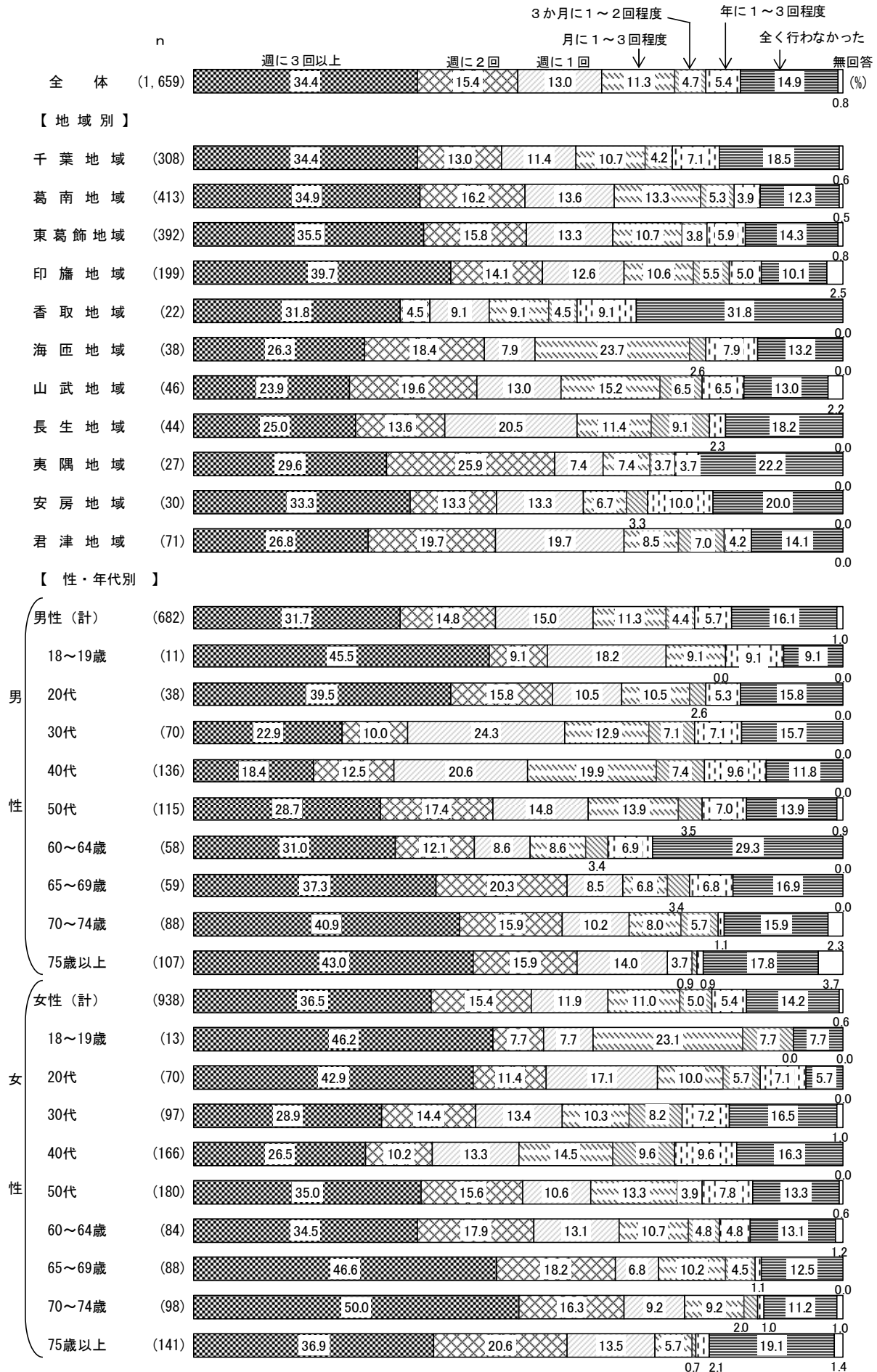
地域別にみると、『週１回以上運動した（計）』は“印旛地域”（66.3%）と“君津地域”（66.2%）が６割台半ばで高くなっている。（図表２－４）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『週１回以上運動した（計）』は女性の70～74歳（75.5%）が７割台半ば、男性の75歳以上（72.9%）が７割を超え、女性の75歳以上（70.9%）が７割で高くなっている。

（図表２－４）

<図表 2-4> 1 年間に行った運動の程度／地域別、性・年代別

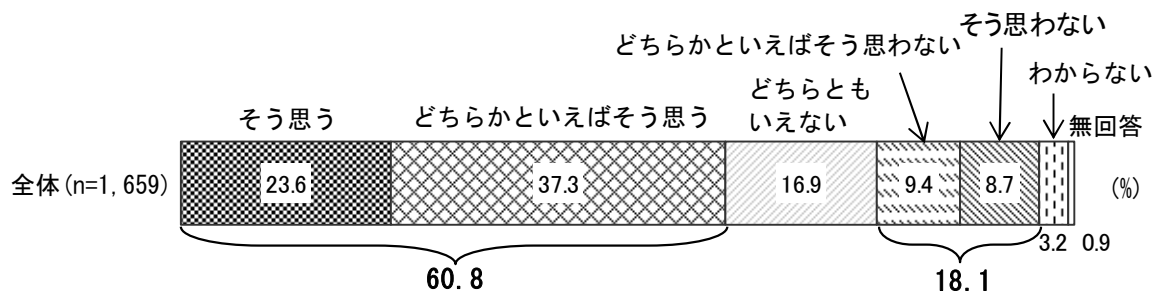


（３）安心して受診できる医療体制

◇『そう思う（計）』が６割

問16 あなたは、自分が住み慣れた地域で安心して受診できる医療体制にあると思いますか。
（○は１つ）

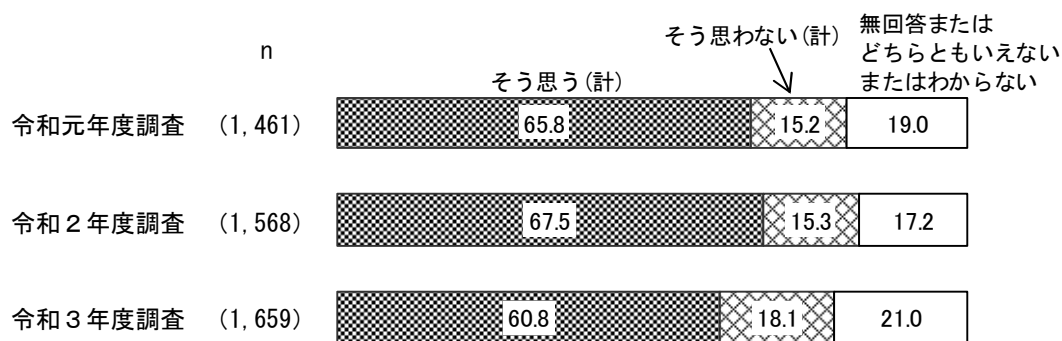
＜図表２－５＞安心して受診できる医療体制



住み慣れた地域で安心して受診できる医療体制にあると思うか聞いたところ、「そう思う」（23.6%）と「どちらかといえばそう思う」（37.3%）を合わせた『そう思う（計）』（60.8%）が６割となっている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」（9.4%）と「そう思わない」（8.7%）を合わせた『そう思わない（計）』（18.1%）が約２割となっている。（図表２－５）

〔参考〕令和元年度・２年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）



【地域別】

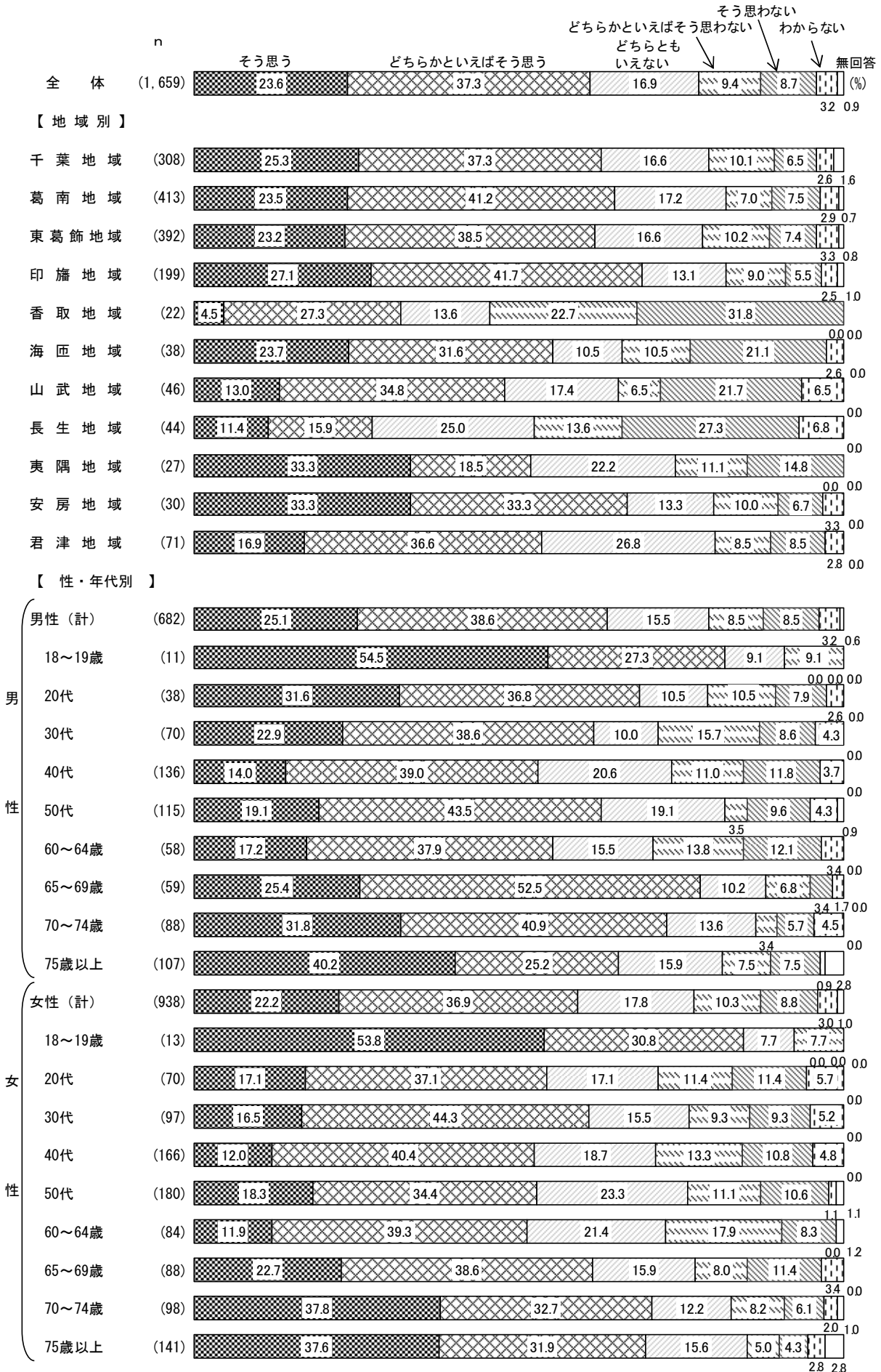
地域別にみると、『そう思う（計）』は“印旛地域”（68.8%）が約７割で高くなっている。

一方、『そう思わない（計）』は“香取地域”（54.5%）が５割台半ば、“長生地域”（40.9%）が４割、“海匝地域”（31.6%）が３割を超えて高くなっている。（図表２－６）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『そう思う（計）』は男性の65～69歳（78.0%）が約８割、70～74歳（72.7%）が７割を超え、女性の75歳以上（69.5%）が約７割で高くなっている。（図表２－６）

＜図表 2－6＞安心して受診できる医療体制／地域別、性・年代別

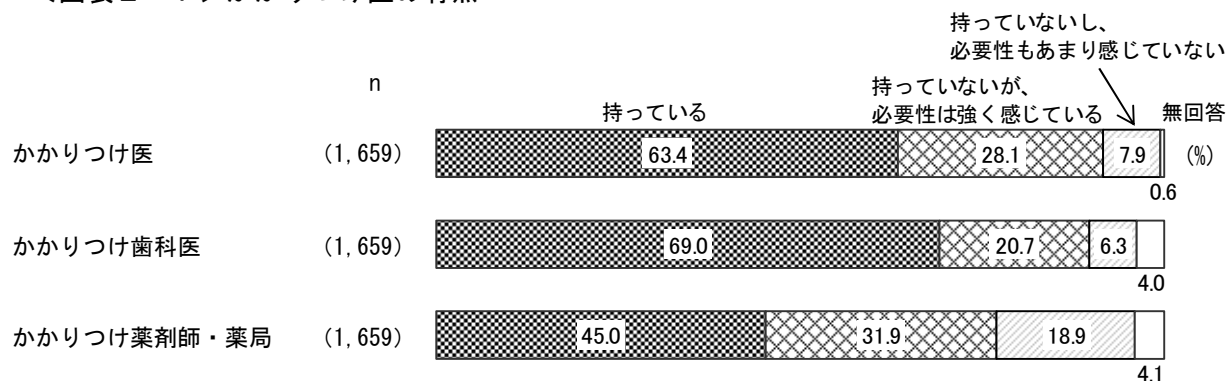


（４）かかりつけ医の有無

◇かかりつけ歯科医を持っているが約 7 割、かかりつけ医を持っているが 6 割を超える

問17 「かかりつけ医」、「かかりつけ歯科医」、「かかりつけ薬剤師・薬局」をお持ちですか。
（○はそれぞれ 1 つずつ）

＜図表 2－7＞かかりつけ医の有無



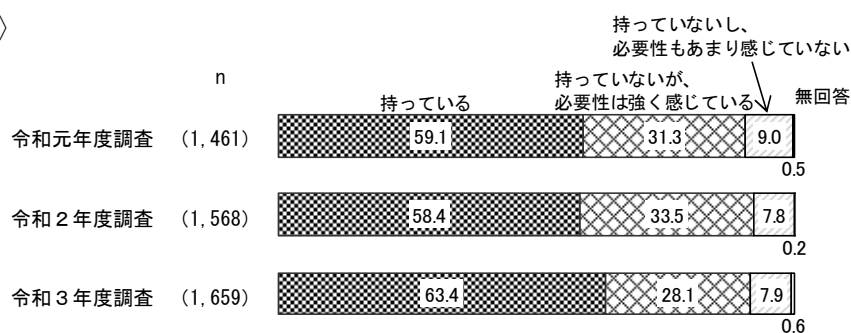
かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬剤師・薬局を持っているかどうかを聞いたところ、「持っている」は〈かかりつけ歯科医〉（69.0％）が約 7 割、〈かかりつけ医〉（63.4％）が 6 割を超え、〈かかりつけ薬剤師・薬局〉（45.0％）が 4 割台半ばとなっている。

また、「持っていないが、必要性は強く感じている」は〈かかりつけ薬剤師・薬局〉（31.9％）が 3 割を超えている。

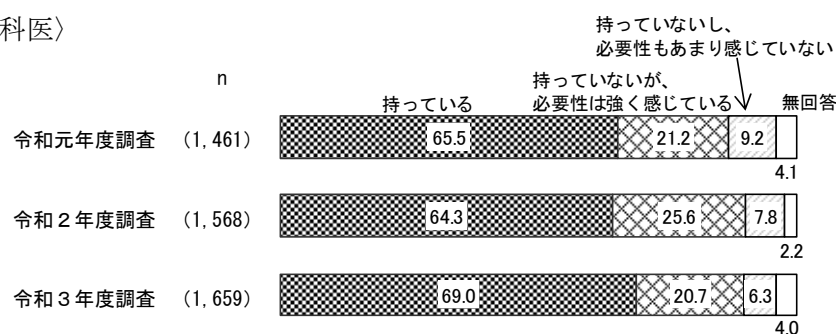
「持っていないし、必要性もあまり感じていない」は〈かかりつけ薬剤師・薬局〉（18.9％）が約 2 割となっている。（図表 2－7）

〔参考〕令和元年度・2 年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）

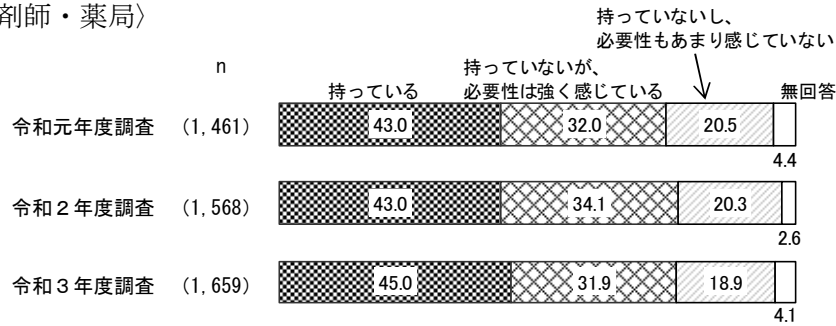
〈かかりつけ医〉



〈かかりつけ歯科医〉



〈かかりつけ薬剤師・薬局〉



【地域別】

地域別にみると、〈かかりつけ医〉を「持っている」は“夷隅地域”（77.8%）と“長生地域”（77.3%）が約8割で高くなっている。

「持っていないし、必要性もあまり感じていない」は“香取地域”（22.7%）が2割を超えて高くなっている。

〈かかりつけ歯科医〉を「持っている」は“東葛飾地域”（71.7%）が7割を超えて高くなっている。

〈かかりつけ薬剤師・薬局〉を「持っていないが、必要性は強く感じている」は“夷隅地域”（70.4%）が7割で高くなっている。

「持っていないし、必要性もあまり感じていない」は“葛南地域”（22.8%）が2割を超えて高くなっている。（図表2－8）

【性・年代別】

性・年代別にみると、〈かかりつけ医〉を「持っている」は女性の70～74歳（89.8%）と75歳以上（87.2%）が約9割、男性の75歳以上（81.3%）が8割を超え、男性の65～69歳（79.7%）が約8割で高くなっている。

「持っていないが、必要性は強く感じている」は男性の30代（45.7%）が4割台半ば、女性の20代（42.9%）と男性の40代（41.9%）が4割を超え、女性の30代（37.1%）が約4割、女性の40代（36.7%）が3割台半ばで高くなっている。

「持っていないし、必要性もあまり感じていない」は男性の30代（27.1%）が約3割、20代（26.3%）が2割台半ばで高くなっている。

〈かかりつけ歯科医〉を「持っている」は女性の70～74歳（84.7%）が8割台半ば、女性の75歳以上（78.0%）と50代（77.8%）が約8割で高くなっている。

「持っていないが、必要性は強く感じている」は女性の20代（38.6%）と男性の30代（37.1%）が約4割で高くなっている。

「持っていないし、必要性もあまり感じていない」は男性の20代（23.7%）が2割台半ば、男性の30代（20.0%）が2割、男性の40代（12.5%）と50代（11.3%）が1割を超えて高くなっている。

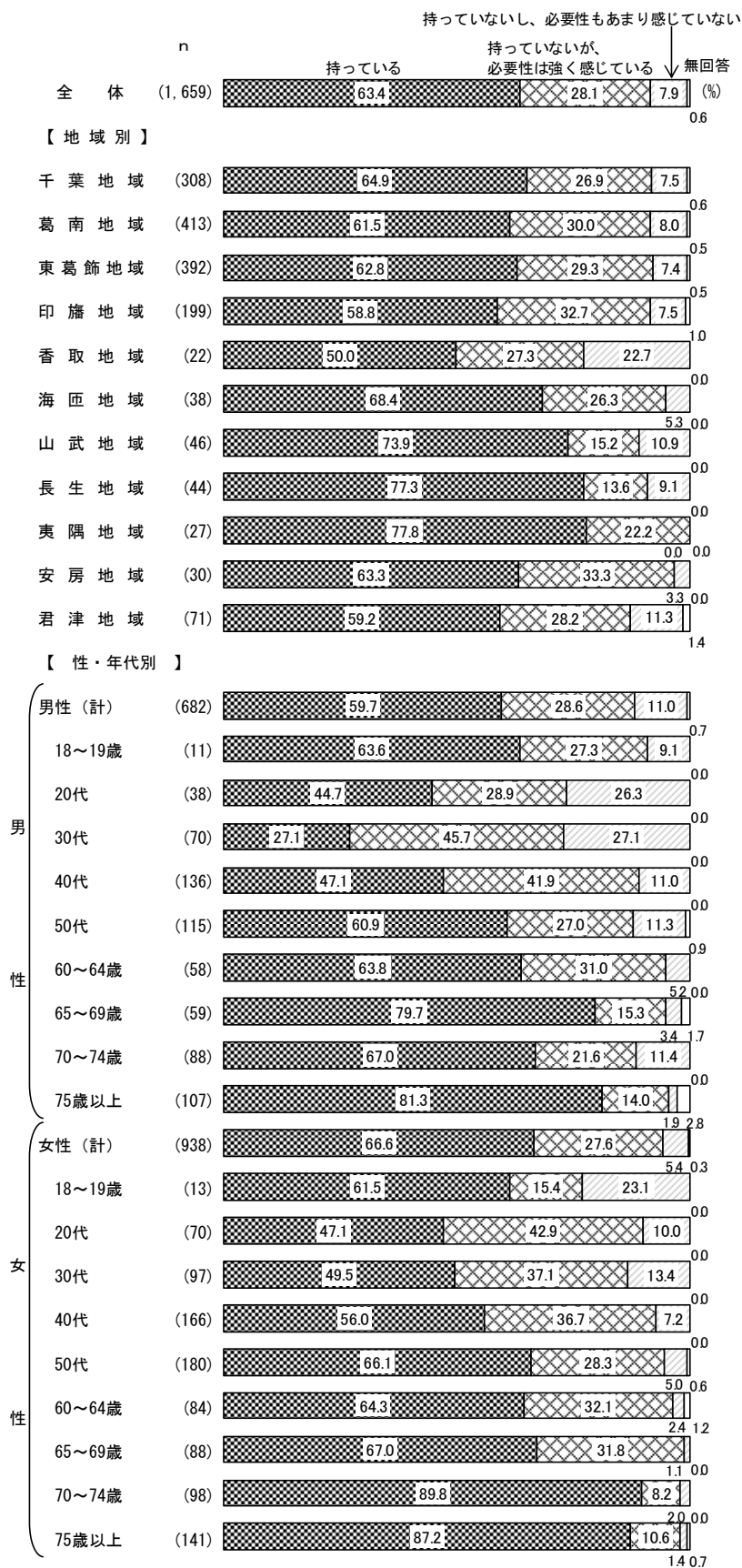
〈かかりつけ薬剤師・薬局〉を「持っている」は女性の70～74歳（70.4%）が7割、女性の75歳以上（69.5%）が約7割、女性の65～69歳（59.1%）が約6割、男性の75歳以上（56.1%）が5割台半ばで高くなっている。

「持っていないが、必要性は強く感じている」は女性の20代（58.6%）が約6割、男性の30代（50.0%）5割、女性の60～64歳（45.2%）が4割台半ばで高くなっている。

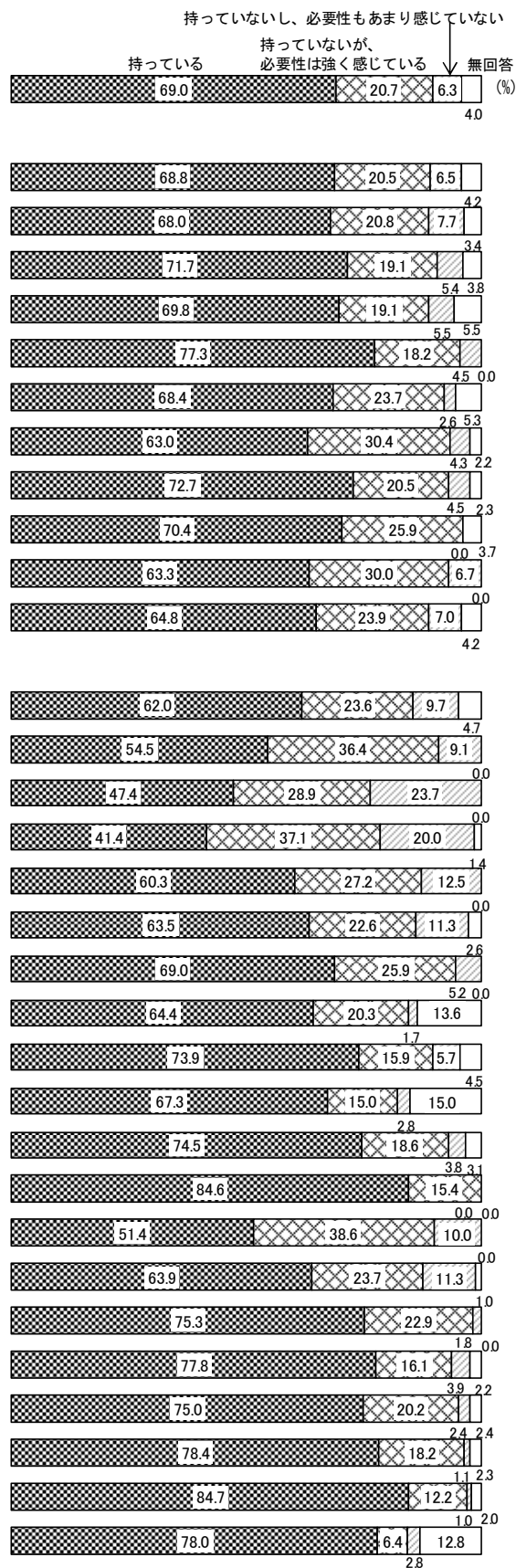
「持っていないし、必要性もあまり感じていない」は男性の20代（34.2%）が3割台半ば、男性の30代（32.9%）と40代（31.6%）が3割を超え、男性の50代（29.6%）が約3割で高くなっている。（図表2－8）

＜図表2－8＞かかりつけ医の有無／地域別、性・年代別

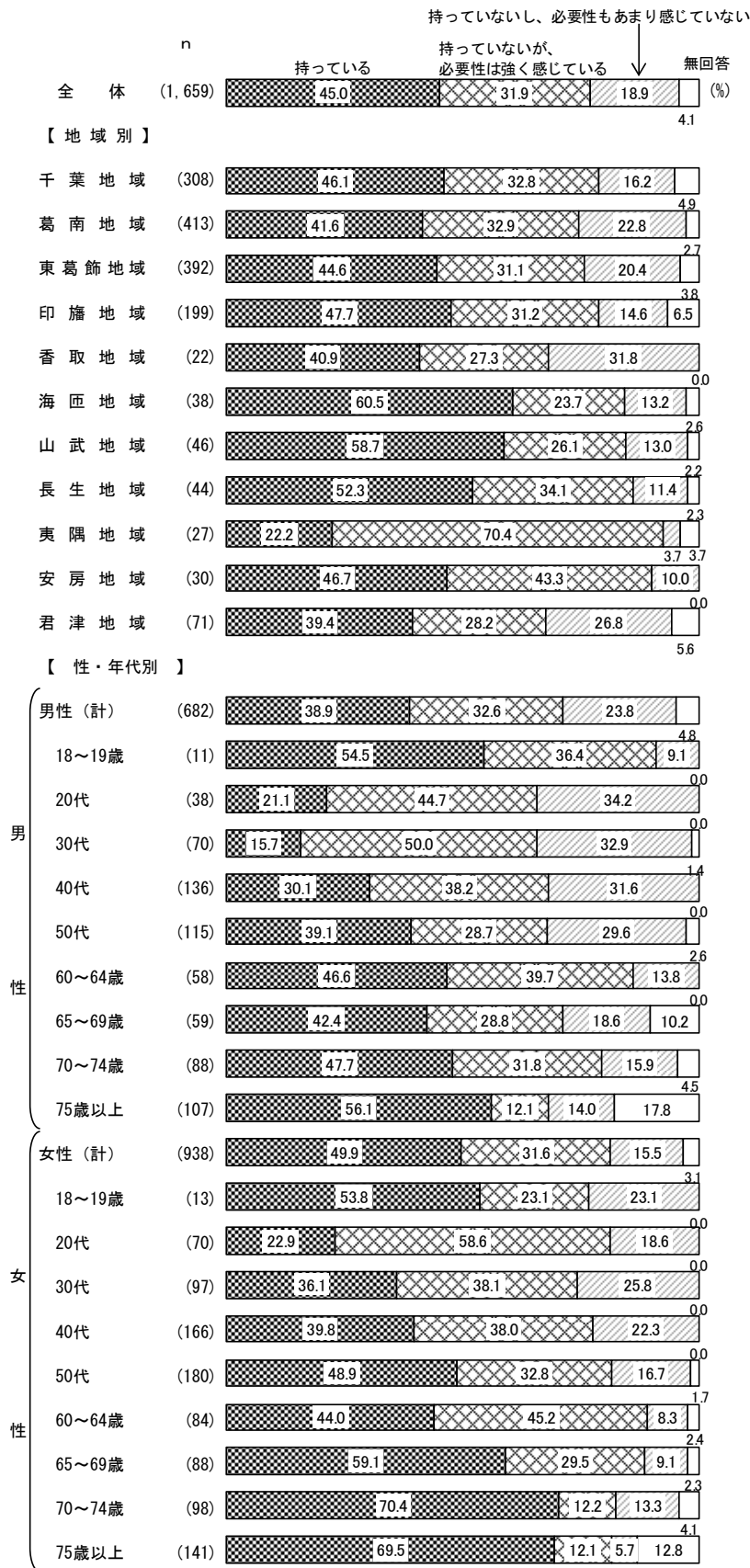
〈かかりつけ医〉



〈かかりつけ歯科医〉



〈かかりつけ薬剤師・薬局〉



3 福祉について

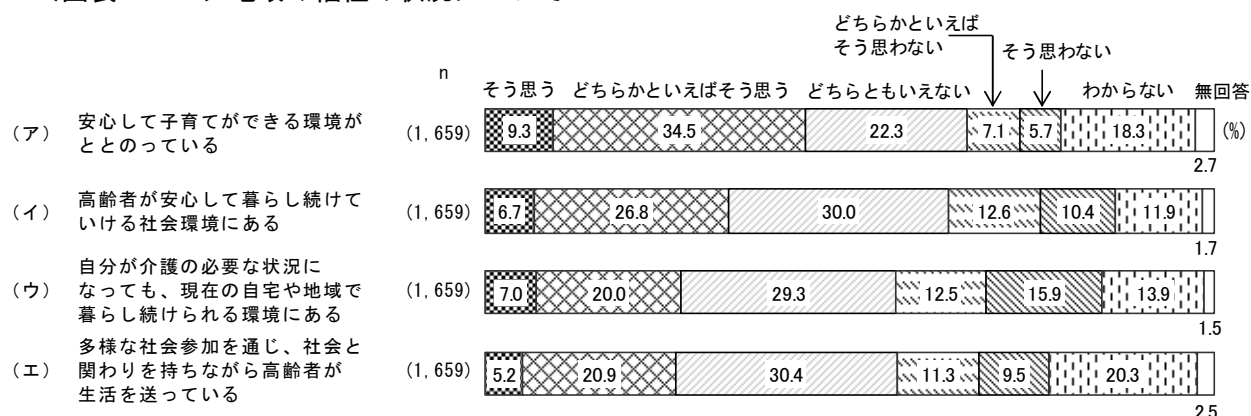
（１）地域の福祉の状況について

◇『そう思う（計）』が最も高いのは＜安心して子育てができる環境がととのっている＞で４割台半ば

問18 以下について、お住まいの地域はどのような状況だと思いますか。

（○はそれぞれ１つずつ）

＜図表３－１＞地域の福祉の状況について

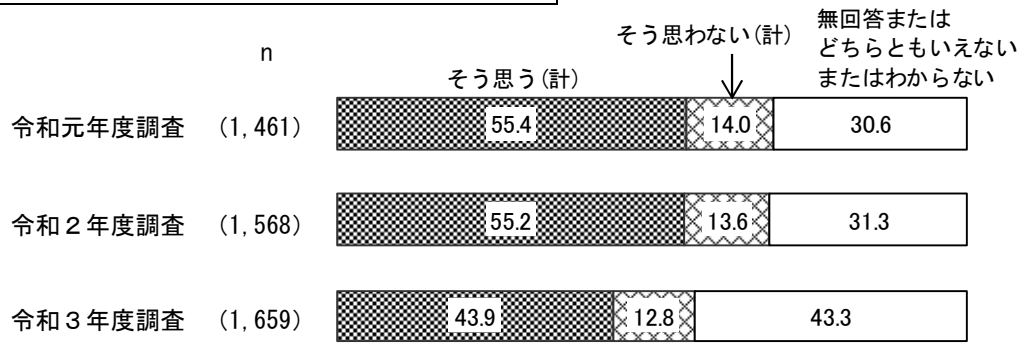


地域の福祉の状況に関する４項目について、お住まいの地域がどのような状況か聞いたところ、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う（計）』が最も高いのは、「(ア) 安心して子育てができる環境がととのっている」(43.9%)で４割台半ばとなっており、以下、「(イ) 高齢者が安心して暮らし続けていける社会環境にある」(33.5%)が３割台半ば、「(ウ) 自分が介護の必要な状況になっても、現在の自宅や地域で暮らし続けられる環境にある」(26.9%)と「(エ) 多様な社会参加を通じ、社会と関わりを持ちながら高齢者が生活を送っている」(26.1%)が２割台半ばで続く。

一方、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた『そう思わない（計）』が最も高いのは、「(ウ) 自分が介護の必要な状況になっても、現在の自宅や地域で暮らし続けられる環境にある」(28.3%)で約３割となっており、以下、「(イ) 高齢者が安心して暮らし続けていける社会環境にある」(23.0%)が２割を超え、「(エ) 多様な社会参加を通じ、社会と関わりを持ちながら高齢者が生活を送っている」(20.8%)が２割、「(ア) 安心して子育てができる環境がととのっている」(12.8%)が１割を超えて続く。（図表３－１）

〔参考〕 令和元年度・2年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）

安心して子育てができる環境がととのっている

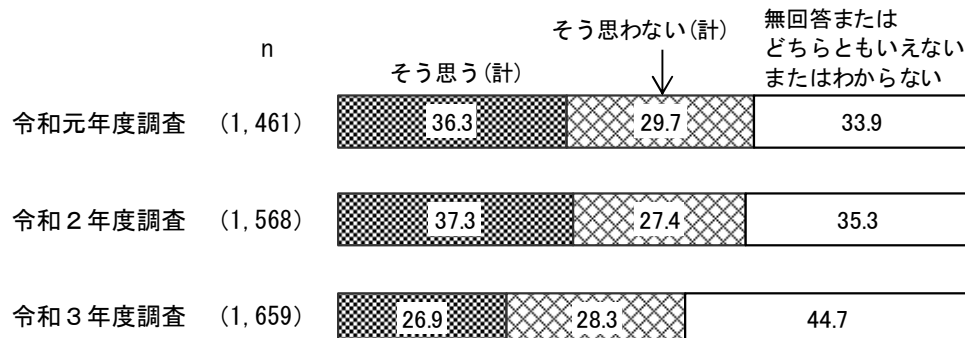


(※) 令和元年度・2年度調査で、「あなたは、自分が安心して子育てできる環境にあると思いますか。子育て中の方は自身のことをお答えください。お子さんがいらっしゃらない方や、すでに子育てを終えられた方は、ご家族や近所の方など、身の回りの子育て世代を想定してお答えください。（○は1つ）」と質問した結果を参考に示した。

高齢者が安心して暮らし続けていける社会環境にある

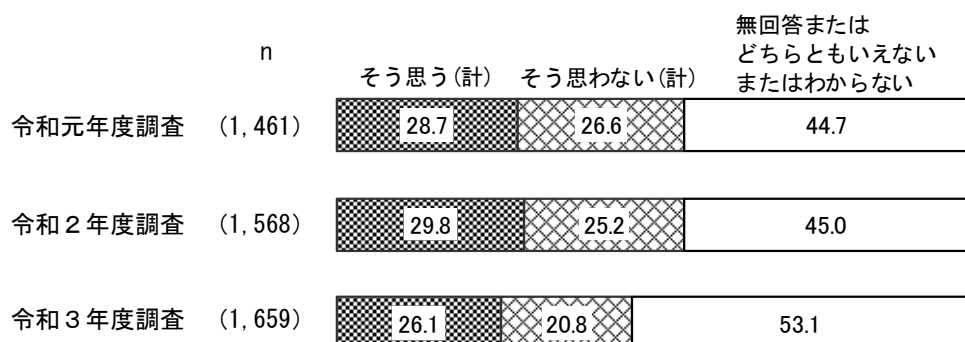
(※) 令和元年度・2年調査で、質問と項目が異なるため、比較不可

自分が介護の必要な状況になっても、現在の自宅や地域で暮らし続けられる環境にある



(※) 令和元年度・2年度調査で、「あなたは、自分が介護の必要な状況になっても、現在お住まいの自宅や地域で暮らし続けられると思いますか。（○は1つ）」と質問した結果を参考に示した。

多様な社会参加を通じ、社会と関わりを持ちながら高齢者が生活を送っている



(※) 令和元年度・2年度調査で、「あなたは、千葉県に住む高齢者が多様な社会参加を通じ、社会と関わりを持ちながら生活を送っていると思いますか。若年層の方は、ご家族や近所の方など、身の回り的高齢者を想定してお答えください。（○は1つ）」と質問した結果を参考に示した。

【地域別】

地域別にみると、「(ア) 安心して子育てができる環境がととのっている」の『そう思う（計）』は“印旛地域”（56.3%）が5割台半ばで高くなっている。

一方、「(ア) 安心して子育てができる環境がととのっている」の『そう思わない（計）』は“香取地域”（36.4%）が3割台半ば、“夷隅地域”（25.7%）が2割台半ば、“長生地域”（22.7%）が2割を超えて高くなっている。

「(イ) 高齢者が安心して暮らし続けていける社会環境にある」の『そう思う（計）』は“葛南地域”（39.0%）が約4割で高くなっている。

一方、「(イ) 高齢者が安心して暮らし続けていける社会環境にある」の『そう思わない（計）』は“香取地域”（63.6%）が6割台半ば、“海匝地域”（44.7%）と“夷隅地域”（44.4%）が4割台半ばで高くなっている。

「(ウ) 自分が介護の必要な状況になっても、現在の自宅や地域で暮らし続けられる環境にある」の『そう思わない（計）』は“香取地域”（63.6%）が6割台半ば、“長生地域”（43.2%）が4割を超えて高くなっている。

「(エ) 多様な社会参加を通じ、社会と関わりを持ちながら高齢者が生活を送っている」の『そう思わない（計）』は“千葉地域”（26.6%）が2割台半ばで高くなっている。（図表3－2）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「(ア) 安心して子育てができる環境がととのっている」の『そう思う（計）』は男性の50代（53.0%）が5割を超えて高くなっている。

「(イ) 高齢者が安心して暮らし続けていける社会環境にある」の『そう思う（計）』は男性の75歳以上（47.7%）が約5割、女性の75歳以上（41.8%）が4割を超えて高くなっている。

「(ウ) 自分が介護の必要な状況になっても、現在の自宅や地域で暮らし続けられる環境にある」の『そう思う（計）』は女性の75歳以上（35.5%）が3割台半ばで高くなっている。

「(エ) 多様な社会参加を通じ、社会と関わりを持ちながら高齢者が生活を送っている」の『そう思う（計）』は女性の75歳以上（36.9%）が3割台半ばで高くなっている。

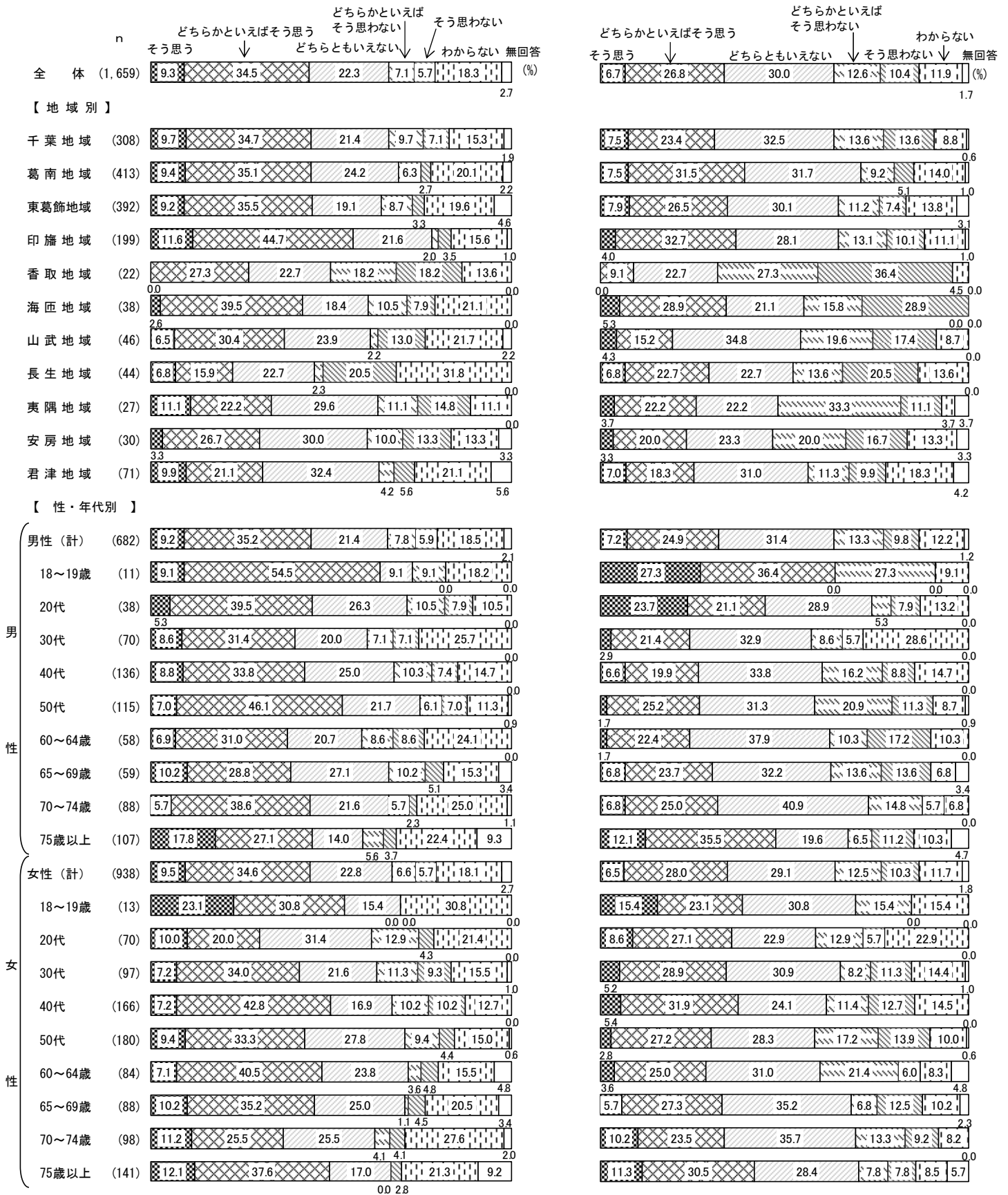
一方、「(ア) 安心して子育てができる環境がととのっている」の『そう思わない（計）』は女性の30代（20.6%）と40代（20.5%）が2割で高くなっている。

「(イ) 高齢者が安心して暮らし続けていける社会環境にある」の『そう思わない（計）』は男性の50代（32.2%）と女性の50代（31.1%）が3割を超えて高くなっている。

「(ウ) 自分が介護の必要な状況になっても、現在の自宅や地域で暮らし続けられる環境にある」の『そう思わない（計）』は女性の20代（41.4%）が4割を超え、50代（36.1%）が3割台半ばで高くなっている。

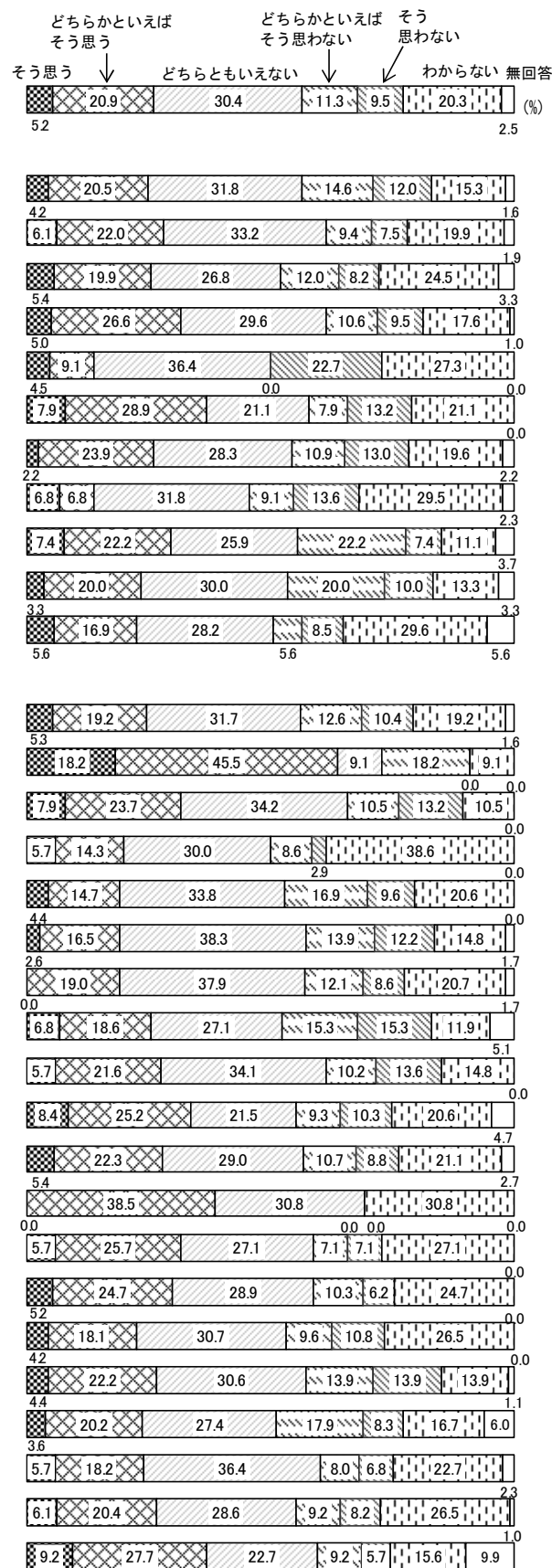
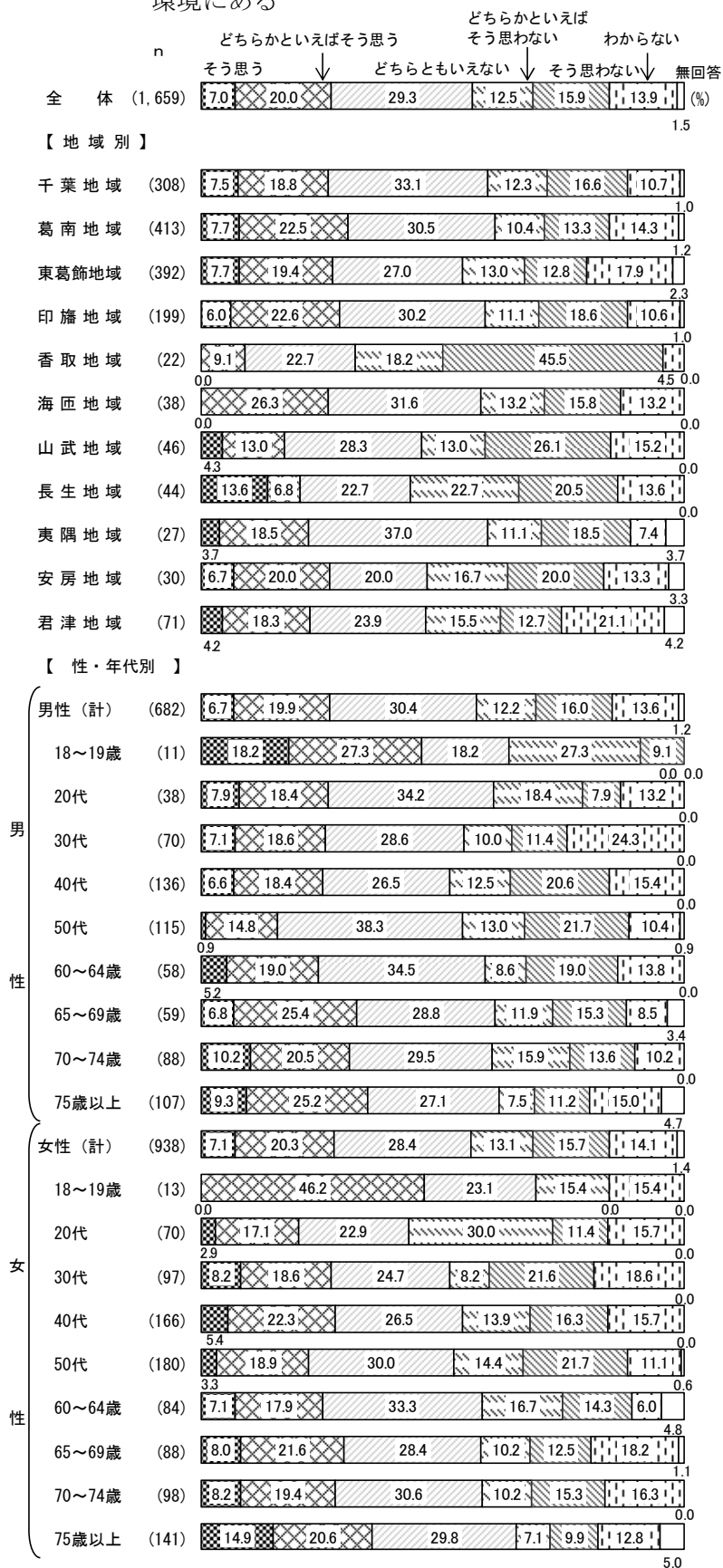
「(エ) 多様な社会参加を通じ、社会と関わりを持ちながら高齢者が生活を送っている」の『そう思わない（計）』は女性の50代（27.8%）が約3割で高くなっている。（図表3－2）

<図表 3-2>地域の福祉の状況について／地域別、性・年代別

(ア) 安心して子育てができる
環境がととのっている(イ) 高齢者が安心して暮らし続けていける
社会環境にある

(ウ) 自分が介護の必要な状況になっても、
現在の自宅や地域で暮らし続けられる
環境にある

(エ) 多様な社会参加を通じ、社会と関わりを
持ちながら高齢者が生活を送っている

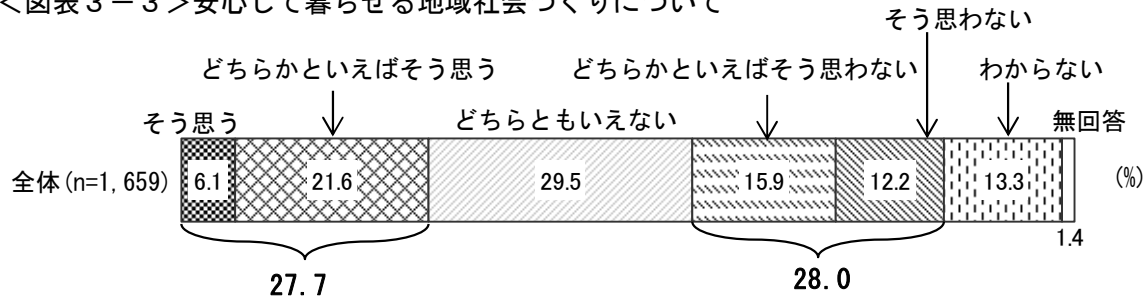


（２）安心して暮らせる地域社会づくりについて

◇『そう思う（計）』が約３割

問19 地域住民が互いに支え合い、安心して暮らせる地域社会づくりが進められていると思いますか。（○は１つ）

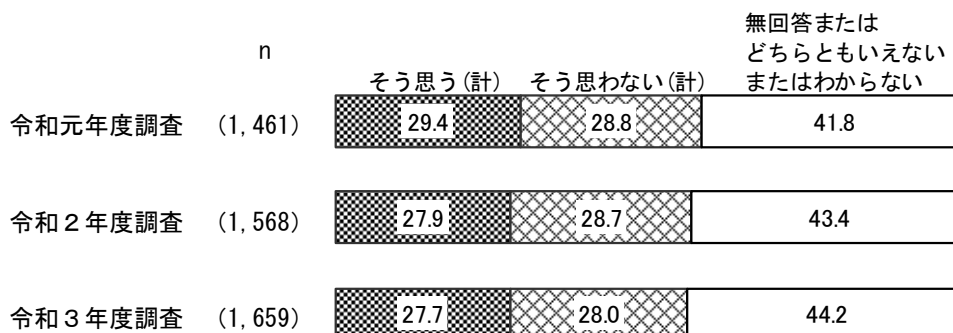
＜図表３－３＞安心して暮らせる地域社会づくりについて



地域住民が互いに支え合い、安心して暮らせる地域社会づくりが進められていると思うか聞いたところ、「そう思う」（6.1％）と「どちらかといえばそう思う」（21.6％）を合わせた『そう思う（計）』（27.7％）が約３割となっている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」（15.9％）と「そう思わない」（12.2％）を合わせた『そう思わない（計）』（28.0％）が約３割となっている。（図表３－３）

〔参考〕令和元年度・２年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）



【地域別】

地域別にみると、大きな傾向の違いはみられない。（図表３－４）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『そう思う（計）』は女性の75歳以上（36.9％）が３割台半ばで高くなっている。

一方、『そう思わない（計）』は男性の40代（39.0％）が約４割、男性の50代（36.5％）が３割台半ばで高くなっている。（図表３－４）

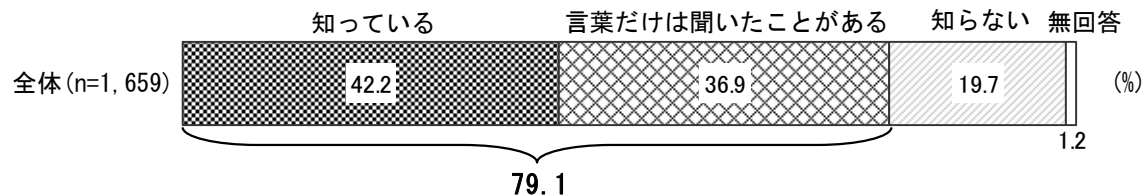


（３）「共生社会」の認知度

◇『聞いたことがある（計）』が約８割

問20 障害のある・なしにかかわらず、誰もが社会の一員としてお互いを尊重し、
支え合って暮らす「共生社会」という考え方を知っていますか。（○は１つ）

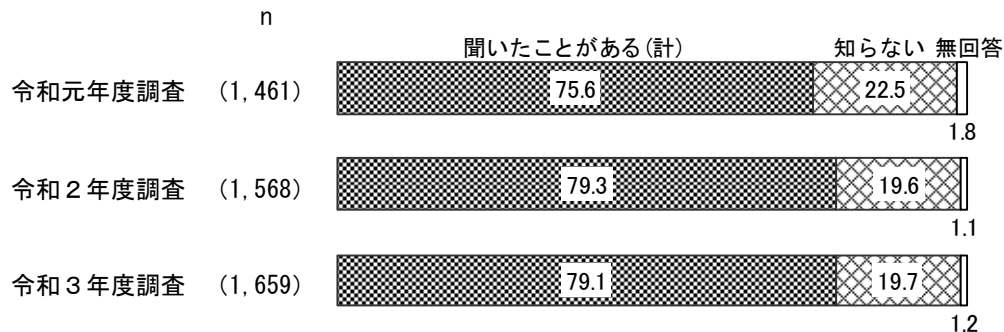
＜図表３－５＞「共生社会」の認知度



「共生社会」という考え方を知っているか聞いたところ、「知っている」（42.2％）と「言葉だけは聞いたことがある」（36.9％）を合わせた『聞いたことがある（計）』（79.1％）が約８割となっている。

一方、「知らない」（19.7％）が約２割となっている。（図表３－５）

〔参考〕令和元年度・２年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）



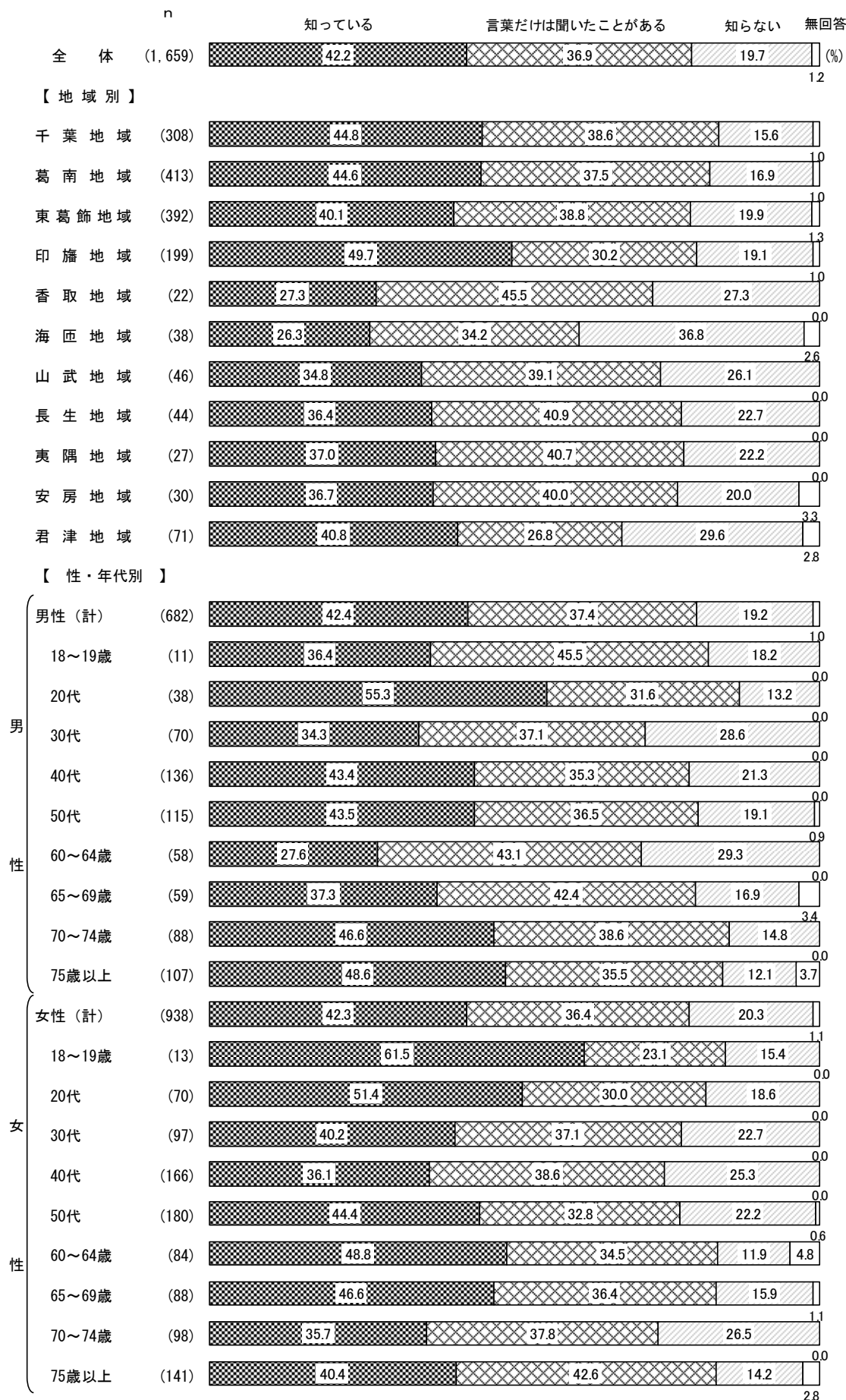
【地域別】

地域別にみると、「知らない」は“海匠地域”（36.8％）が３割台半ば、“君津地域”（29.6％）が約３割で高くなっている。（図表３－６）

【性・年代別】

性・年代別にみると、大きな傾向の違いはみられない。（図表３－６）

<図表3-6>「共生社会」の認知度／地域別、性・年代別



4 地域リハビリテーションについて

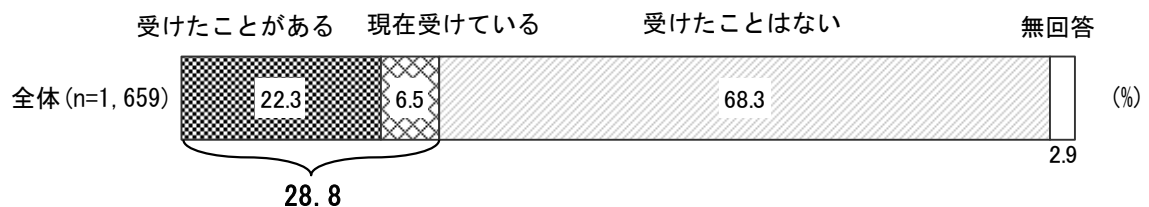
（１）リハビリテーションを受けた経験

◇『経験がある（計）』が約３割

障害のある子どもや成人・高齢者とその家族が、住み慣れたところで、一生安全に、その人らしくいきいきとした生活ができるよう、保健・医療・福祉・介護及び地域住民を含め生活にかかわるあらゆる人々や機関・組織がリハビリテーションの立場から協力し合って行う活動のすべてを地域リハビリテーションといいます。

問21 あなた又はあなたの家族は、地域や病院、施設などで、理学療法士、作業療法士又は言語聴覚士などの専門職による、リハビリテーションを受けたことがある、又は現在受けていますか。（○は１つ）

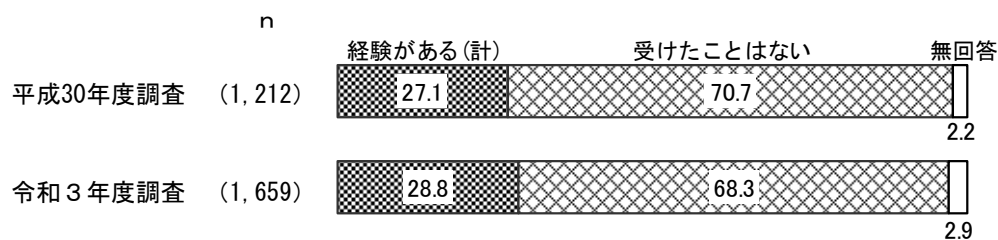
<図表４－１>リハビリテーションを受けた経験



自分又は自分の家族が地域や病院、施設などで、理学療法士、作業療法士又は言語聴覚士などの専門職による、リハビリテーションの経験を聞いたところ、「受けたことがある」（22.3%）と「現在受けている」（6.5%）を合わせた『経験がある（計）』（28.8%）が約３割となっている。

一方、「受けたことはない」（68.3%）が約７割となっている。（図表４－１）

〔参考〕平成30年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）



【地域別】

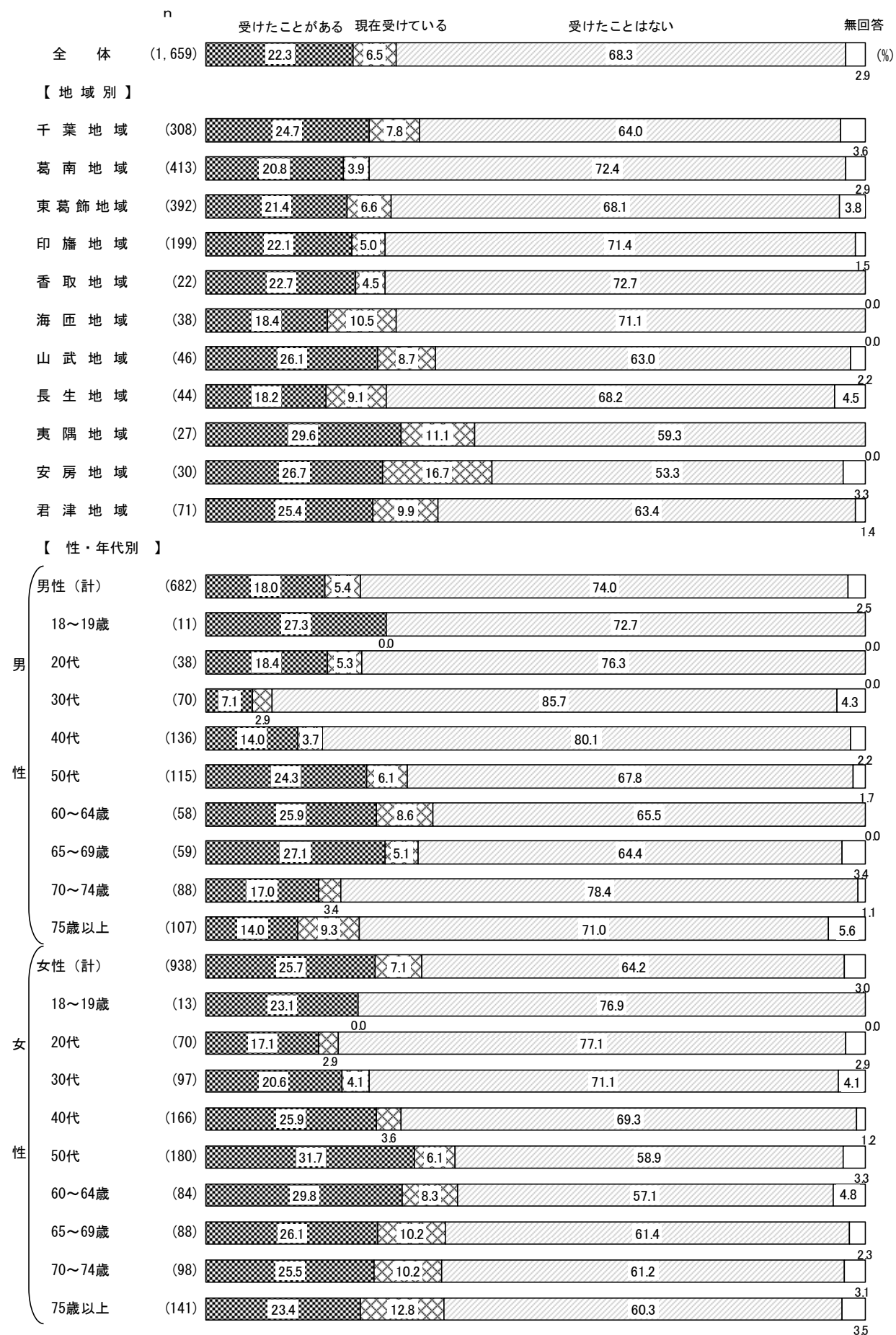
地域別にみると、大きな傾向の違いはみられない。（図表４－２）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『経験がある（計）』は女性の60～64歳（38.1%）と50代（37.8%）が約４割で高くなっている。

一方、「受けたことはない」は男性の30代（85.7%）が８割台半ば、男性の40代（80.1%）が８割、男性の70～74歳（78.4%）が約８割で高くなっている。（図表４－２）

＜図表４－２＞リハビリテーションを受けた経験／地域別、性・年代別



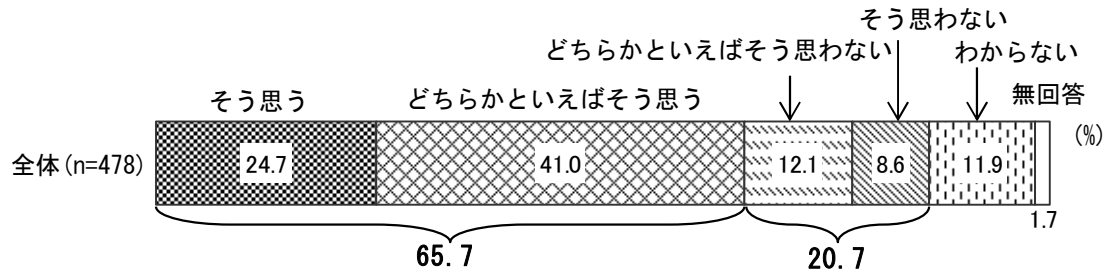
（２）適切なリハビリテーションの提供体制について

◇『そう思う（計）』が６割台半ば

（問21で「受けたことがある」、「現在受けている」とお答えの方に）

問22 あなた又はあなたの家族に対して、地域での介護予防から入院中・退院後の生活までそれぞれの段階で途切れのない適切なリハビリテーションが提供された、又は提供されていると思いますか。（○は１つ）

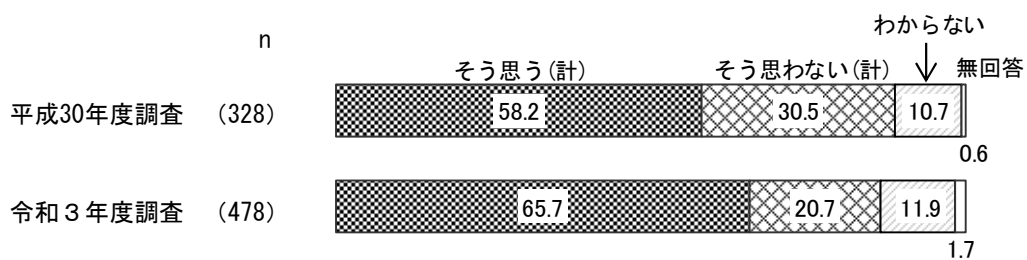
＜図表４－３＞適切なリハビリテーションの提供体制について



自分又は自分の家族に対して、地域での介護予防から入院中・退院後の生活までそれぞれの段階で途切れのない適切なリハビリテーションの提供体制を聞いたところ、「そう思う」（24.7%）と「どちらかといえばそう思う」（41.0%）を合わせた『そう思う（計）』（65.7%）が６割台半ばとなっている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」（12.1%）と「そう思わない」（8.6%）を合わせた『そう思わない（計）』（20.7%）が２割となっている。（図表４－３）

〔参考〕平成30年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）

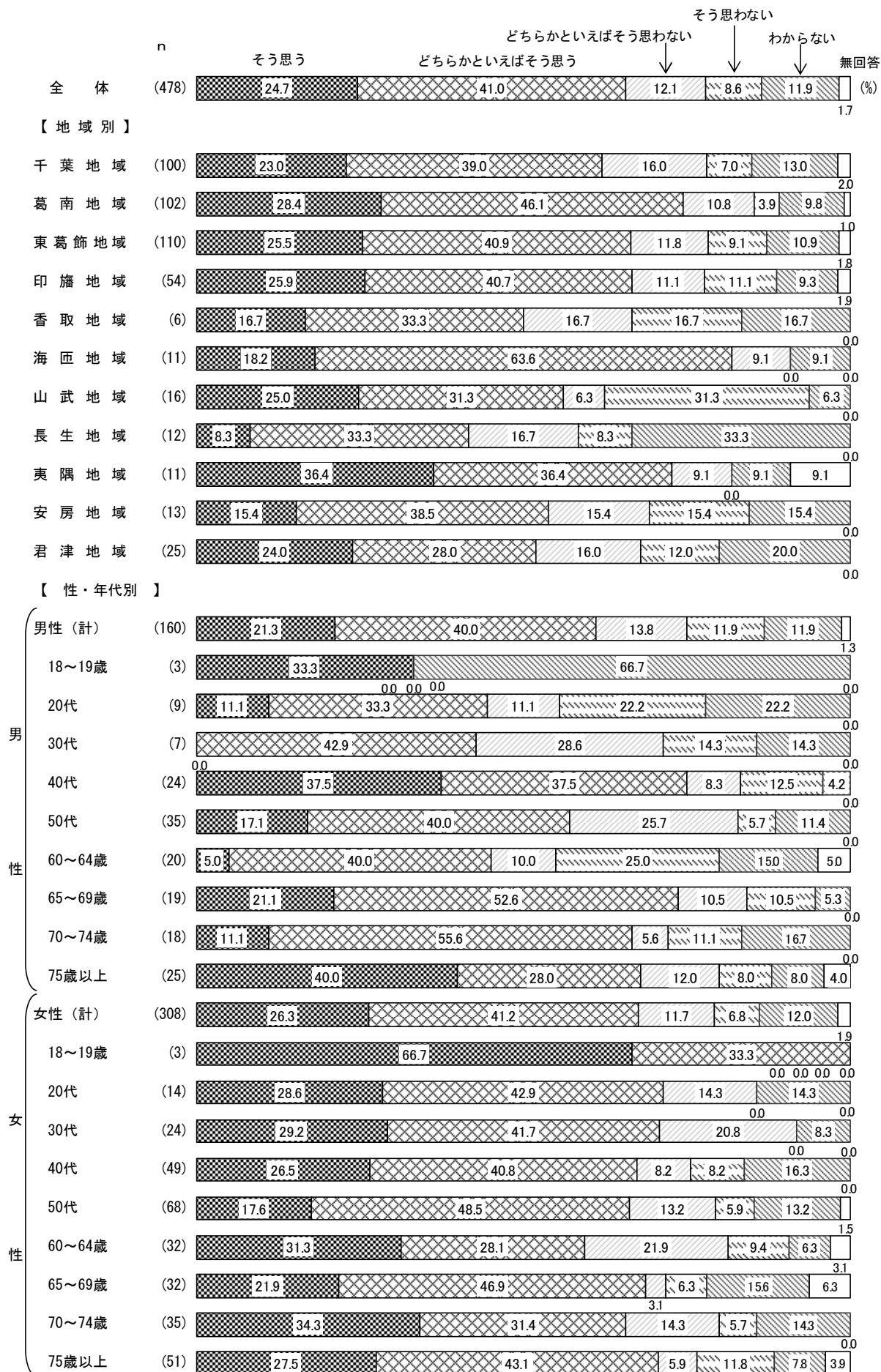


※ サンプル数が少ないため、【地域別】、【性・年代別】は参考までに図示するにとどめる。

（８ページ「報告書の見方（５）」を参照）

（図表４－４）

[参考]＜図表４－４＞適切なリハビリテーションの提供体制について／地域別、性・年代別

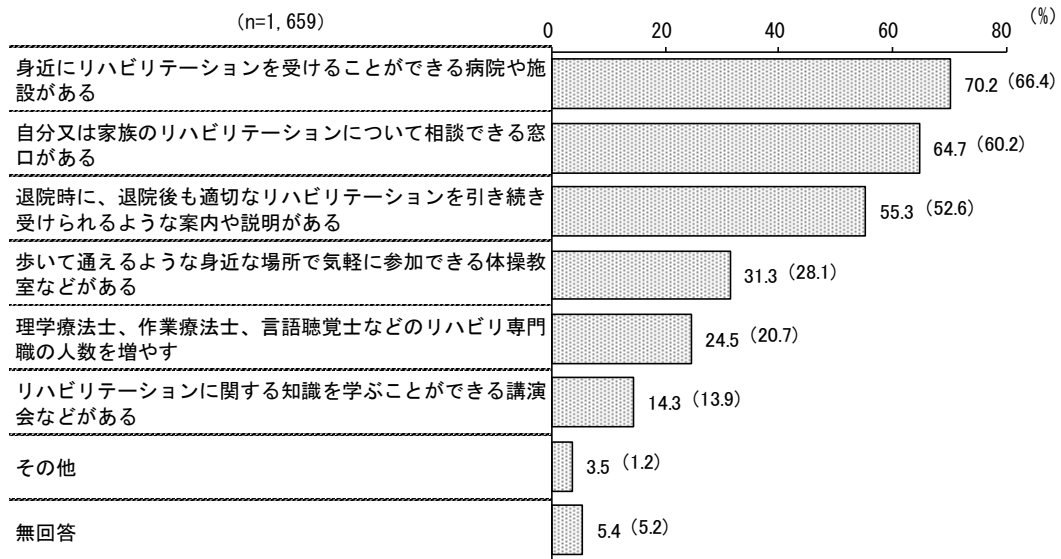


（３）適切なリハビリテーションが提供されるために重要だと思うこと

◇「身近にリハビリテーションを受けることができる病院や施設がある」が７割

問23 適切なリハビリテーションが提供されるためには、どのようなことが重要だと思いますか。（○はいくつでも）

＜図表４－５＞適切なリハビリテーションが提供されるために重要だと思うこと（複数回答）



注）（ ）の数字は平成30年度の同様の項目による調査結果 n = 1,212

適切なリハビリテーションが提供されるために重要だと思うことを聞いたところ、「身近にリハビリテーションを受けることができる病院や施設がある」(70.2%) が7割で最も高く、以下、「自分又は家族のリハビリテーションについて相談できる窓口がある」(64.7%)、「退院時に、退院後も適切なリハビリテーションを引き続き受けられるような案内や説明がある」(55.3%)、「歩いて通えるような身近な場所で気軽に参加できる体操教室などがある」(31.3%)が続く。(図表４－５)

【地域別】

地域別にみると、「身近にリハビリテーションを受けることができる病院や施設がある」は“香取地域” (77.3%) が約8割で高くなっている。(図表４－６)

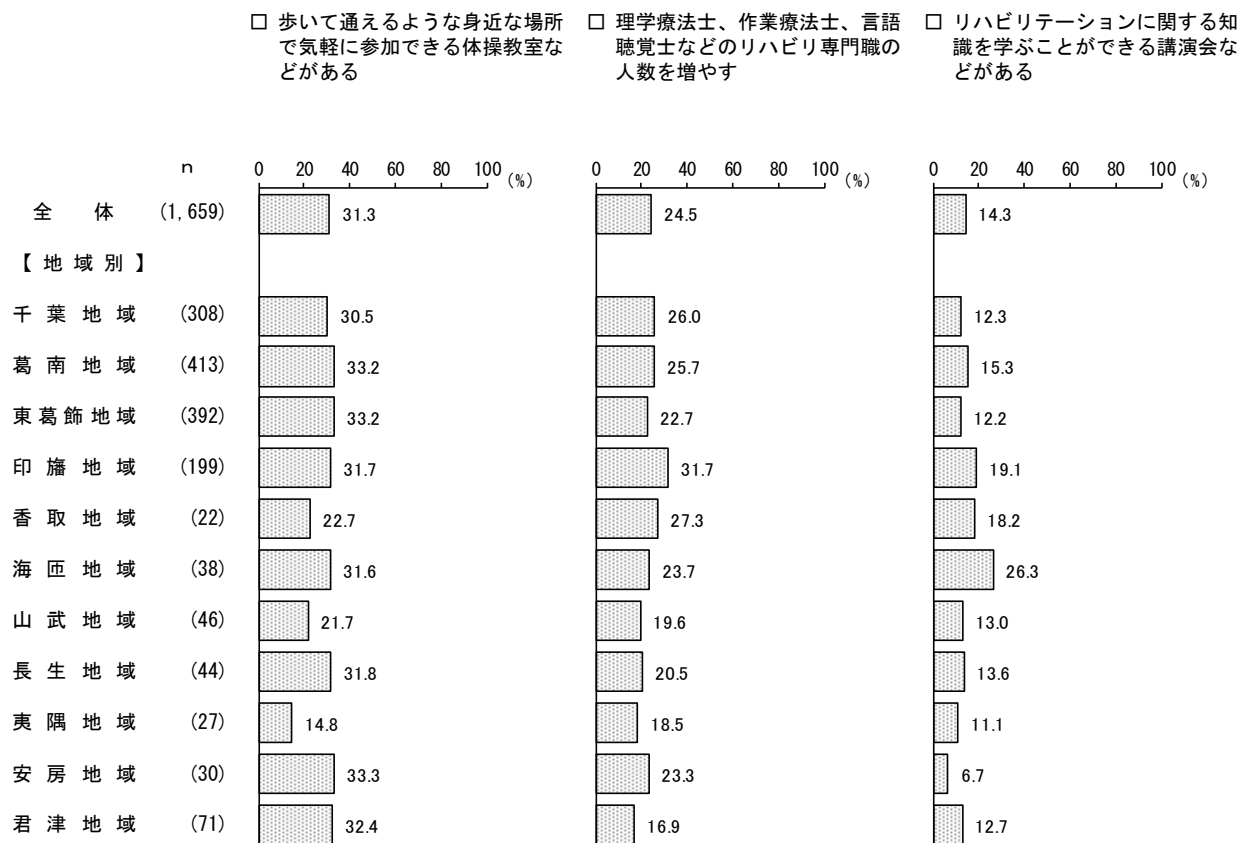
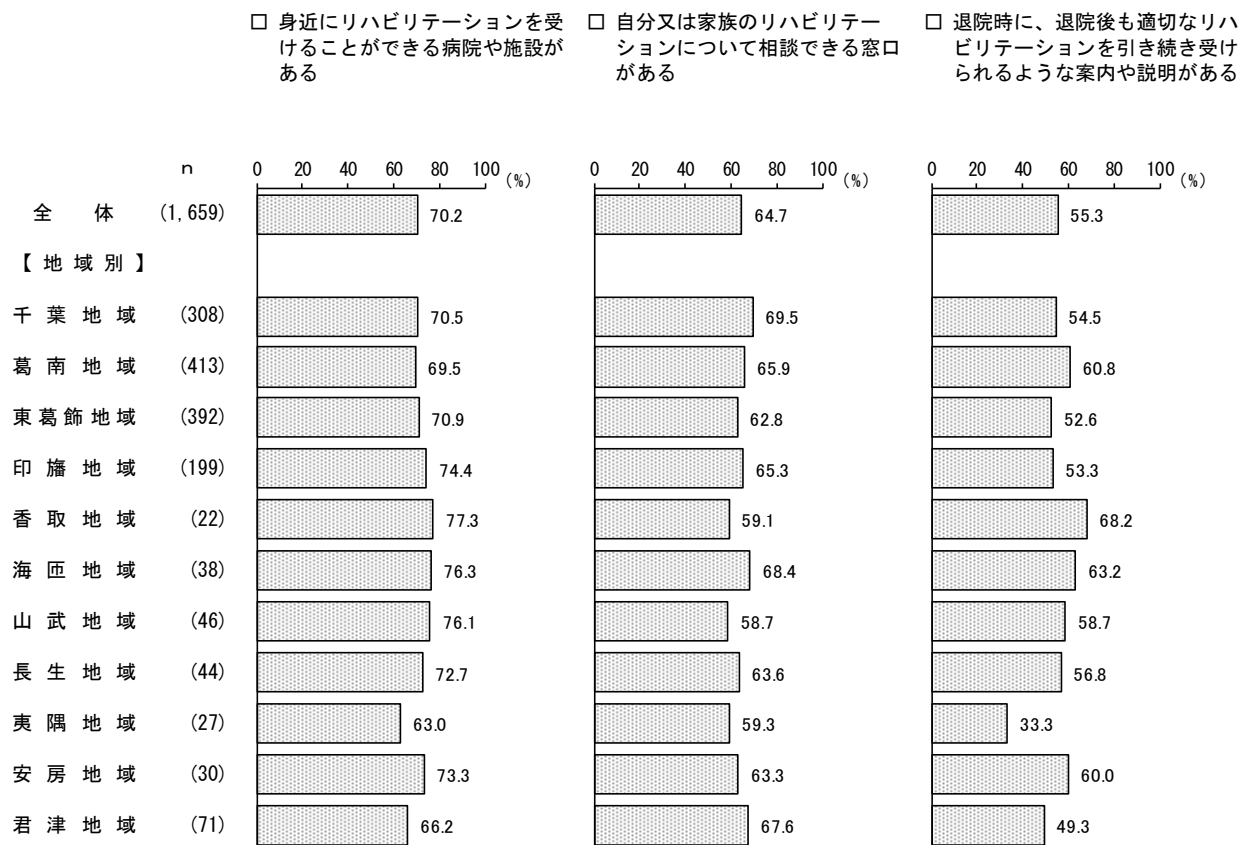
【性・年代別】

性・年代別にみると、「身近にリハビリテーションを受けることができる病院や施設がある」は女性の20代 (84.3%) が8割台半ばで高くなっている。

「自分又は家族のリハビリテーションについて相談できる窓口がある」は女性の20代 (78.6%)、65～69歳 (77.3%) と男性の30代 (77.1%) が約8割、女性の50代 (72.8%) と40代 (72.3%) が7割を超えて高くなっている。(図表４－６)

＜図表4－6＞適切なリハビリテーションが提供されるために重要だと思うこと（複数回答）

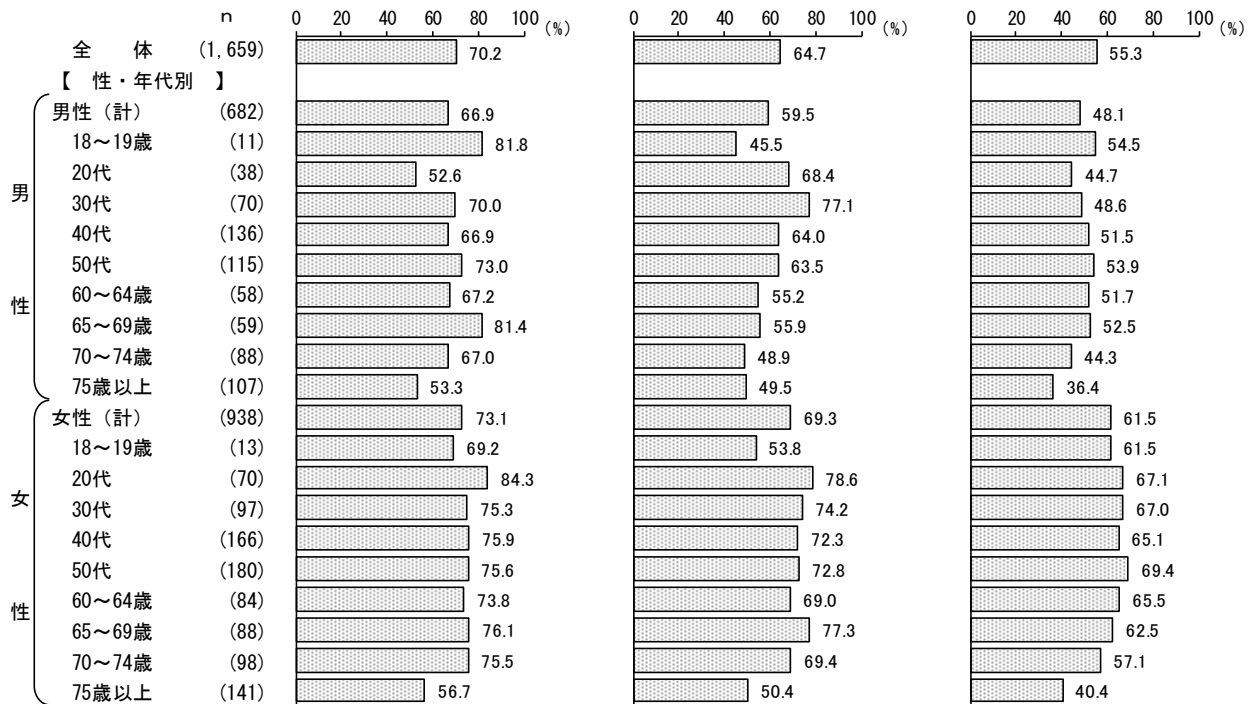
／地域別、性・年代別（上位6項目）



□ 身近にリハビリテーションを受けることができる病院や施設がある

□ 自分又は家族のリハビリテーションについて相談できる窓口がある

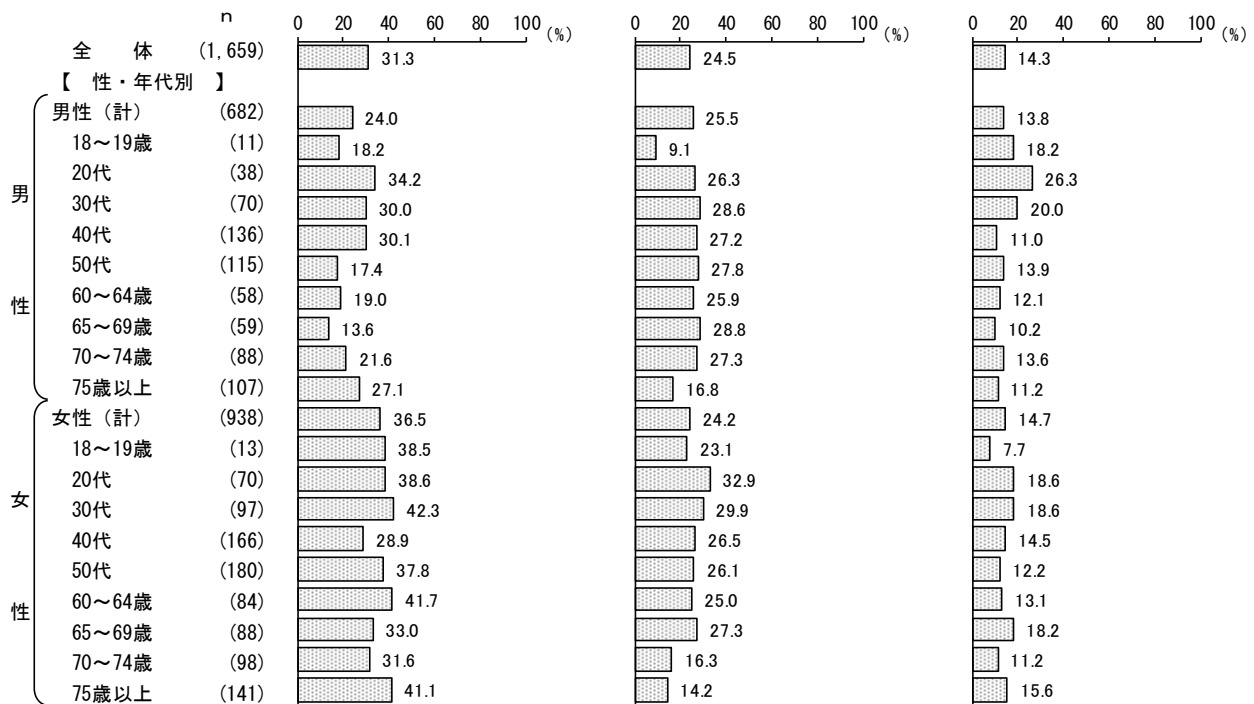
□ 退院時に、退院後も適切なリハビリテーションを引き続き受けられるような案内や説明がある



□ 歩いて通えるような身近な場所で気軽に参加できる体操教室などがある

□ 理学療法士、作業療法士、言語聴覚士などのリハビリ専門職の人数を増やす

□ リハビリテーションに関する知識を学ぶことができる講演会などがある



5 食育について

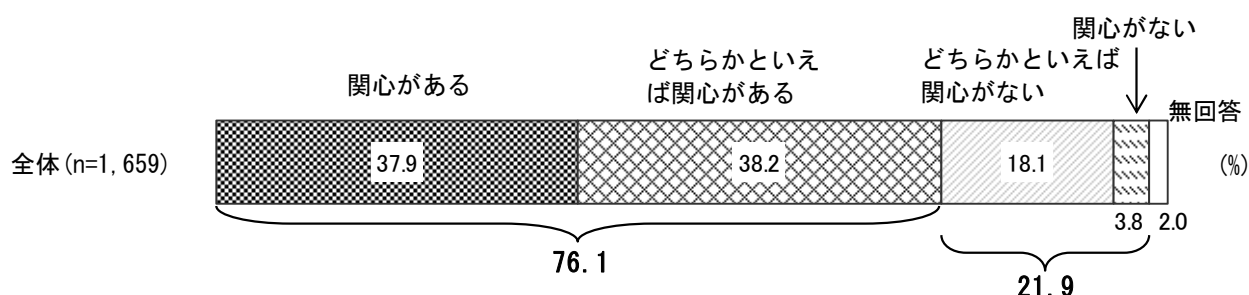
（１）食育への関心度

◇『関心がある（計）』が7割台半ば

朝食の欠食や野菜の摂取不足、食塩の過剰摂取などの食生活に関する課題が多いことから、県では、規則正しい食生活や栄養バランスのとれた食事の実践、「食」に関する正しい知識の習得、農林水産業や食文化に対する理解を通じて、県民の皆様が健全な食生活を送れるよう、食育の推進に取り組んでいます。

問24 「食育」に関心がありますか。（○は1つ）

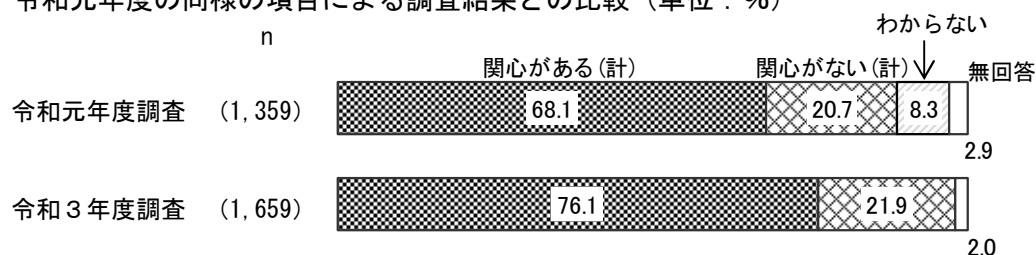
＜図表5－1＞食育への関心度



食育に関心があるか聞いたところ、「関心がある」(37.9%)と「どちらかといえば関心がある」(38.2%)を合わせた『関心がある(計)』(76.1%)が7割台半ばとなっている。

一方、「どちらかといえば関心がない」(18.1%)と「関心がない」(3.8%)を合わせた『関心がない(計)』(21.9%)が2割を超えている。(図表5－1)

〔参考〕令和元年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）



【地域別】

地域別にみると、『関心がある(計)』は“夷隅地域”(92.6%)が9割を超えて高くなっている。
(図表5－2)

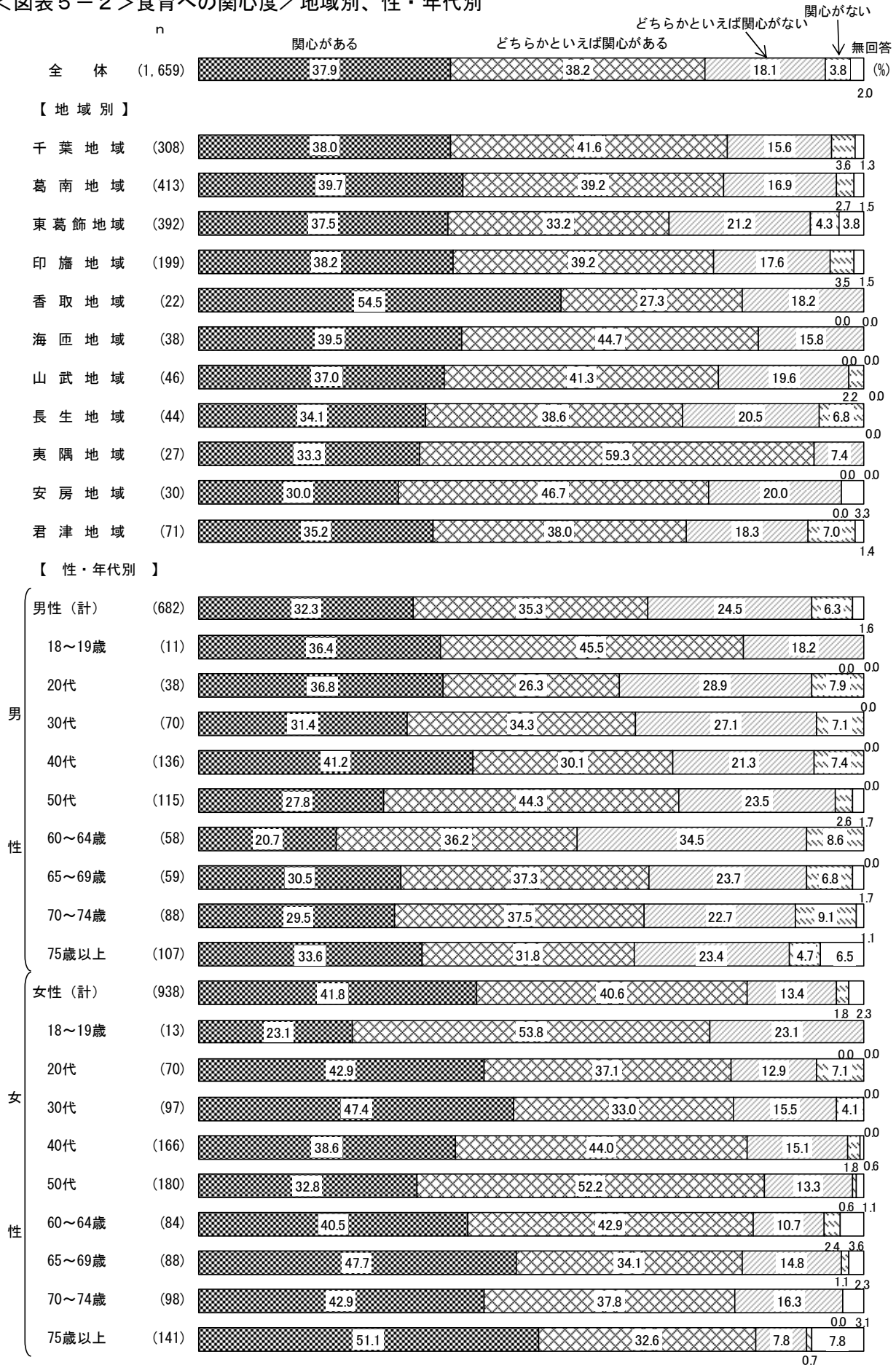
【性・年代別】

性・年代別にみると、『関心がある(計)』は女性の50代(85.0%)と女性の75歳以上(83.7%)が8割台半ばで高くなっている。

一方、『関心がない(計)』は男性の60～64歳(43.1%)が4割を超え、男性の20代(36.8%)と30代(34.3%)が3割台半ば、男性の70～74歳(31.8%)が3割を超えて高くなっている。

(図表5－2)

＜図表５－２＞食育への関心度／地域別、性・年代別



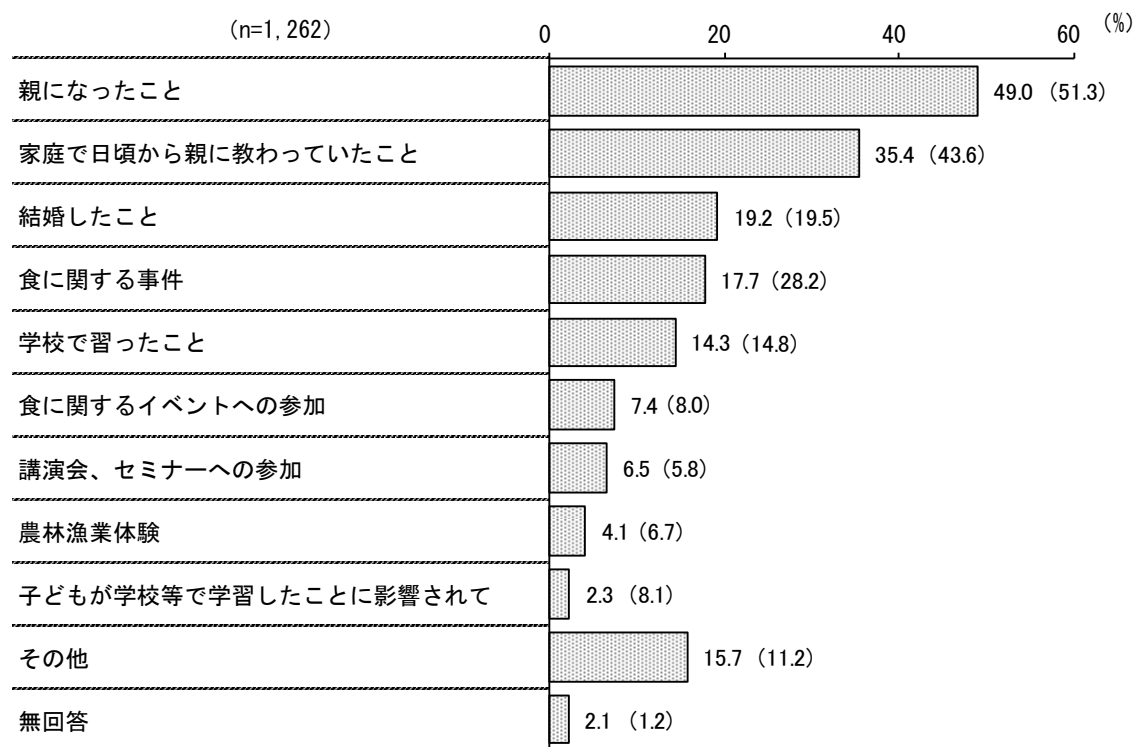
（２）食育に関心を持ったきっかけ

◇「親になったこと」が約５割

（問24で「関心がある」、「どちらかといえば関心がある」とお答えの方に）

問24－１ 「食育」に関心を持ったきっかけは何ですか。（○はいくつでも）

＜図表５－３＞食育に関心を持ったきっかけ（複数回答）



注）（ ）の数字は令和元年度の同様の項目による調査結果 n=926

食育に関心があると回答した 1,262 人を対象に、関心を持ったきっかけを聞いたところ、「親になったこと」(49.0%)が約５割で最も高く、以下、「家庭で日頃から親に教わっていたこと」(35.4%)、「結婚したこと」(19.2%)、「食に関する事件」(17.7%)が続く。(図表５－３)

【地域別】

地域別にみると、「家庭で日頃から親に教わっていたこと」は“安房地域”(69.6%)が約７割で高くなっている。

「学校で習ったこと」は“長生地域”(28.1%)と“夷隅地域”(28.0%)が約３割で高くなっている。(図表５－４)

【性・年代別】

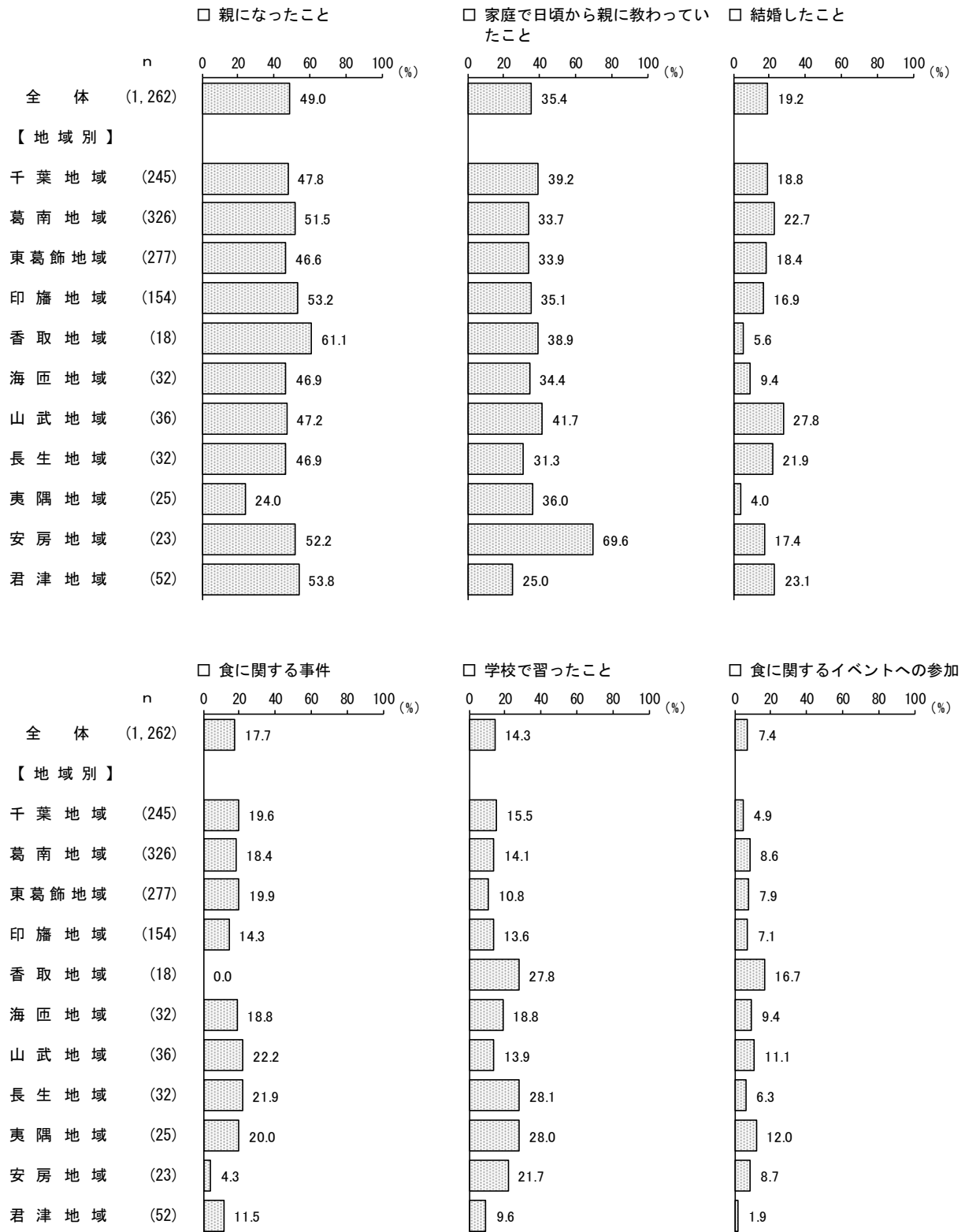
性・年代別にみると、「親になったこと」は女性の 50 代(71.2%)が７割を超え、女性の 40 代(69.3%)が約７割、女性の 60～64 歳(64.3%)が６割台半ばで高くなっている。

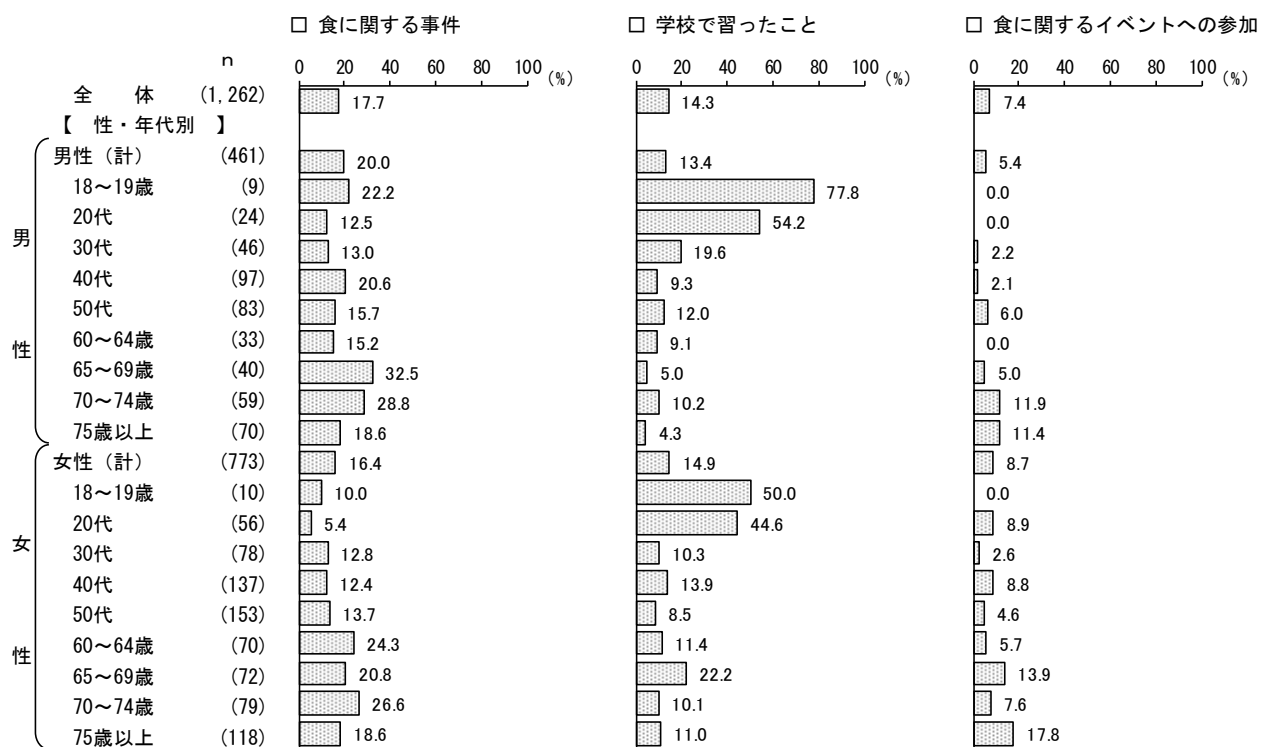
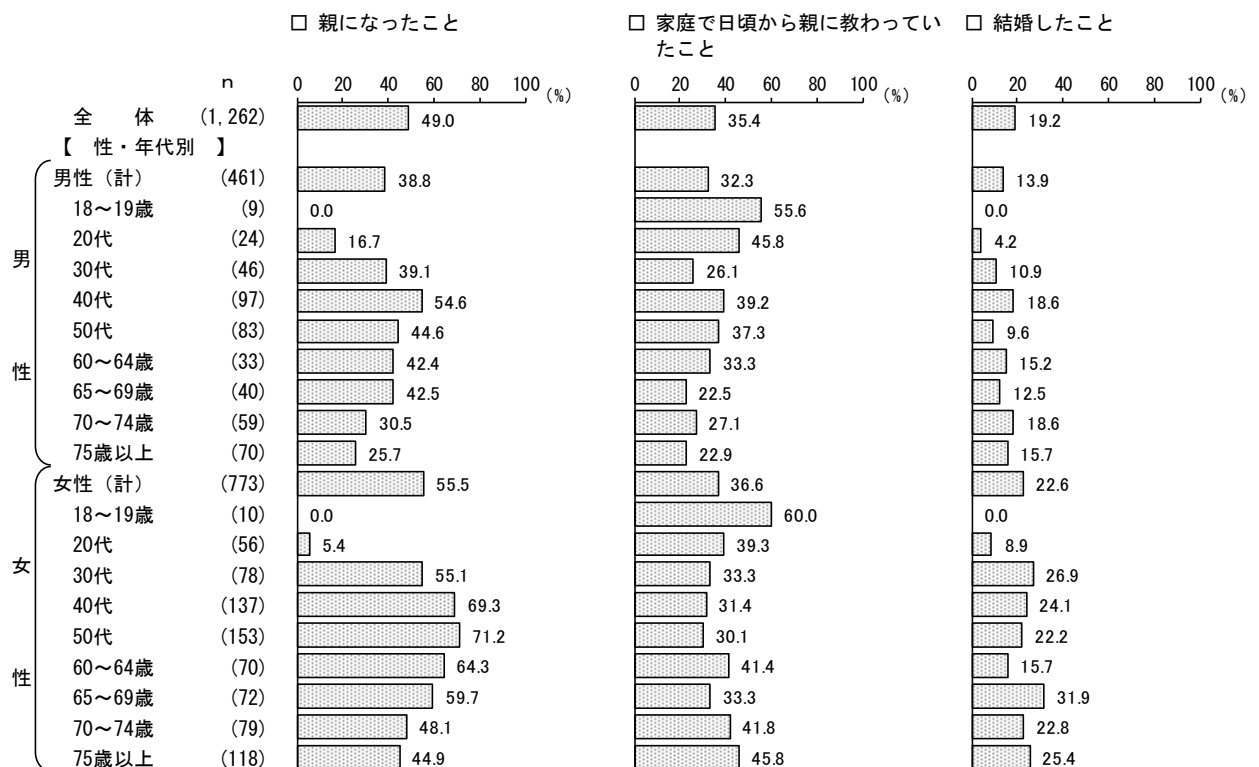
「家庭で日頃から親に教わっていたこと」は女性の 75 歳以上(45.8%)が４割台半ばで高くなっている。

「結婚したこと」は女性の 65～69 歳(31.9%)が３割を超えて高くなっている。

「食に関する事件」は男性の 65～69 歳(32.5%)が３割を超え、男性の 70～74 歳(28.8%)が約３割、女性の 70～74 歳(26.6%)が２割台半ばで高くなっている。(図表５－４)

＜図表５－４＞食育に関心を持ったきっかけ（複数回答）／地域別、性・年代別（上位６項目）



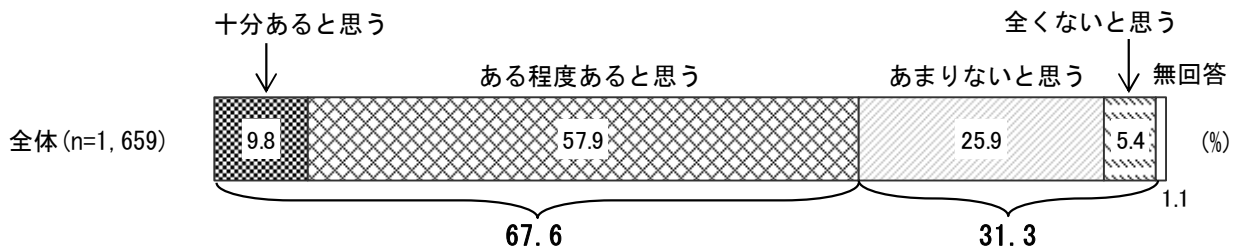


（３）健康に悪影響を与えないための食品選択や調理の知識

◇『知識がある（計）』が約７割

問25 健康に悪影響を与えないようにするため、どのような食品を選択すると良いかや、どのような調理が必要かについて知識があると思いますか。（○は１つ）

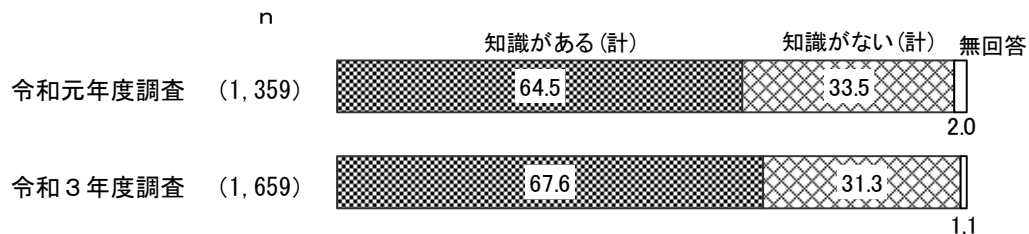
＜図表５－５＞健康に悪影響を与えないための食品選択や調理の知識



健康に悪影響を与えないようにするため、どのような食品を選択すると良いかや、どのような調理が必要かについて知識があるか聞いたところ、「十分あると思う」（9.8％）と「ある程度あると思う」（57.9％）を合わせた『知識がある（計）』（67.6％）が約７割となっている。

一方、「あまりないと思う」（25.9％）と「全くないと思う」（5.4％）を合わせた『知識がない（計）』（31.3％）が３割を超えている。（図表５－５）

〔参考〕令和元年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）



【地域別】

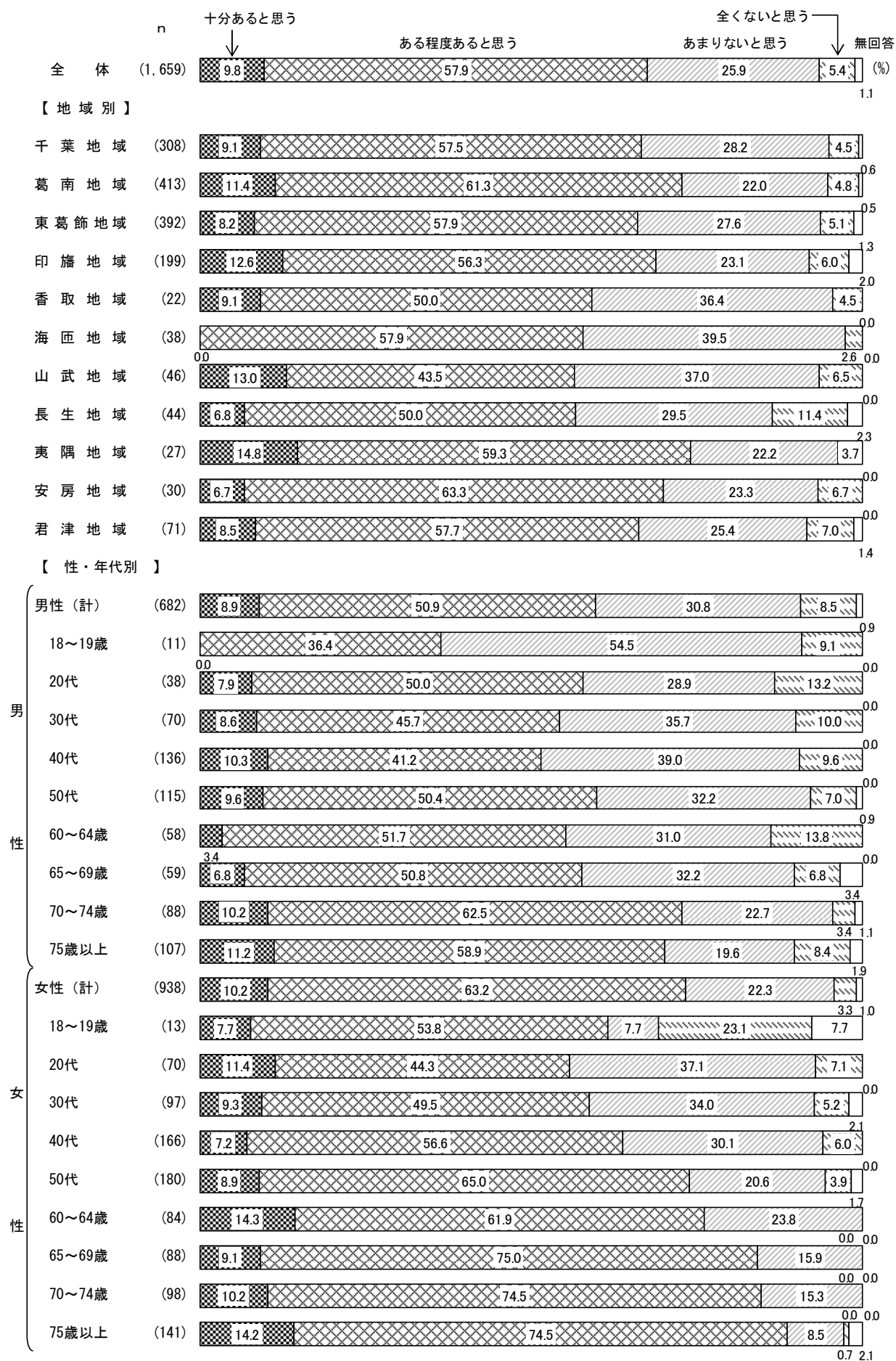
地域別にみると、『知識がある（計）』は“葛南地域”（72.6％）が７割を超えて高くなっている。（図表５－６）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『知識がある（計）』は女性の75歳以上（88.7％）が約９割、女性の70～74歳（84.7％）と65～69歳（84.1％）が８割台半ばで高くなっている。

一方、『知識がない（計）』は男性の40代（48.5％）が約５割、男性の30代（45.7％）、60～64歳（44.8％）と女性の20代（44.3％）が４割台半ばで高くなっている。（図表５－６）

＜図表５－６＞健康に悪影響を与えないための食品選択や調理の知識／地域別、性・年代別



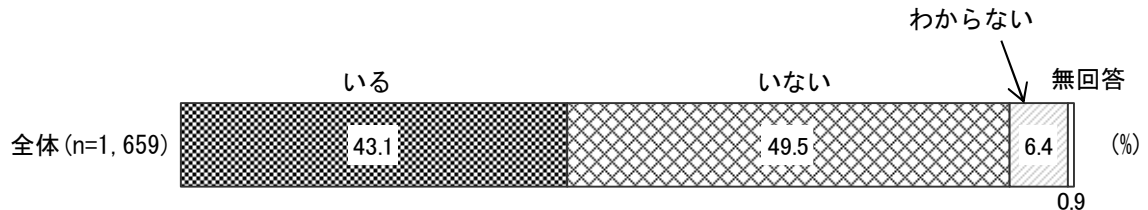
（４）農林漁業体験の参加状況

◇「いる」が４割を超える

問26 あなた又はあなたの家族の中で、農林漁業に関する体験※に参加したことがある人はいますか。（○は１つ）

※農林漁業に関する体験とは、いちご狩りなどの収穫体験、農作業体験、学童農園での栽培や調理実習、学校での体験活動、市民農園での栽培体験、道の駅や交流施設などの体験活動、農林漁村に宿泊し交流する教育旅行などを指します。

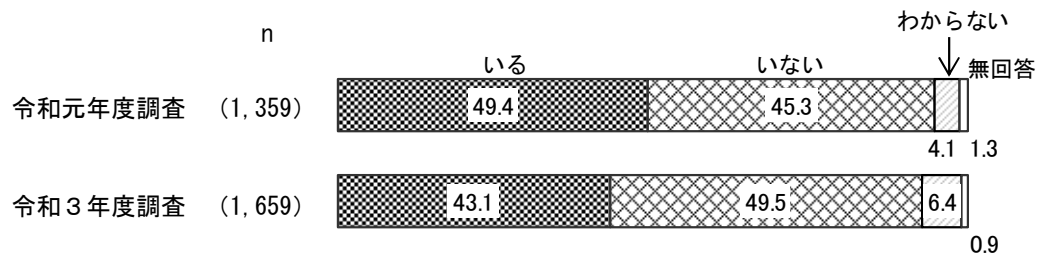
＜図表５－７＞農林漁業体験の参加状況



自分又は自分の家族の中で、農林漁業に関する体験に参加したことがある人があるか聞いたところ、「いる」（43.1%）が４割を超えている。

一方、「いない」（49.5%）が約５割となっている。（図表５－７）

〔参考〕令和元年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）



【地域別】

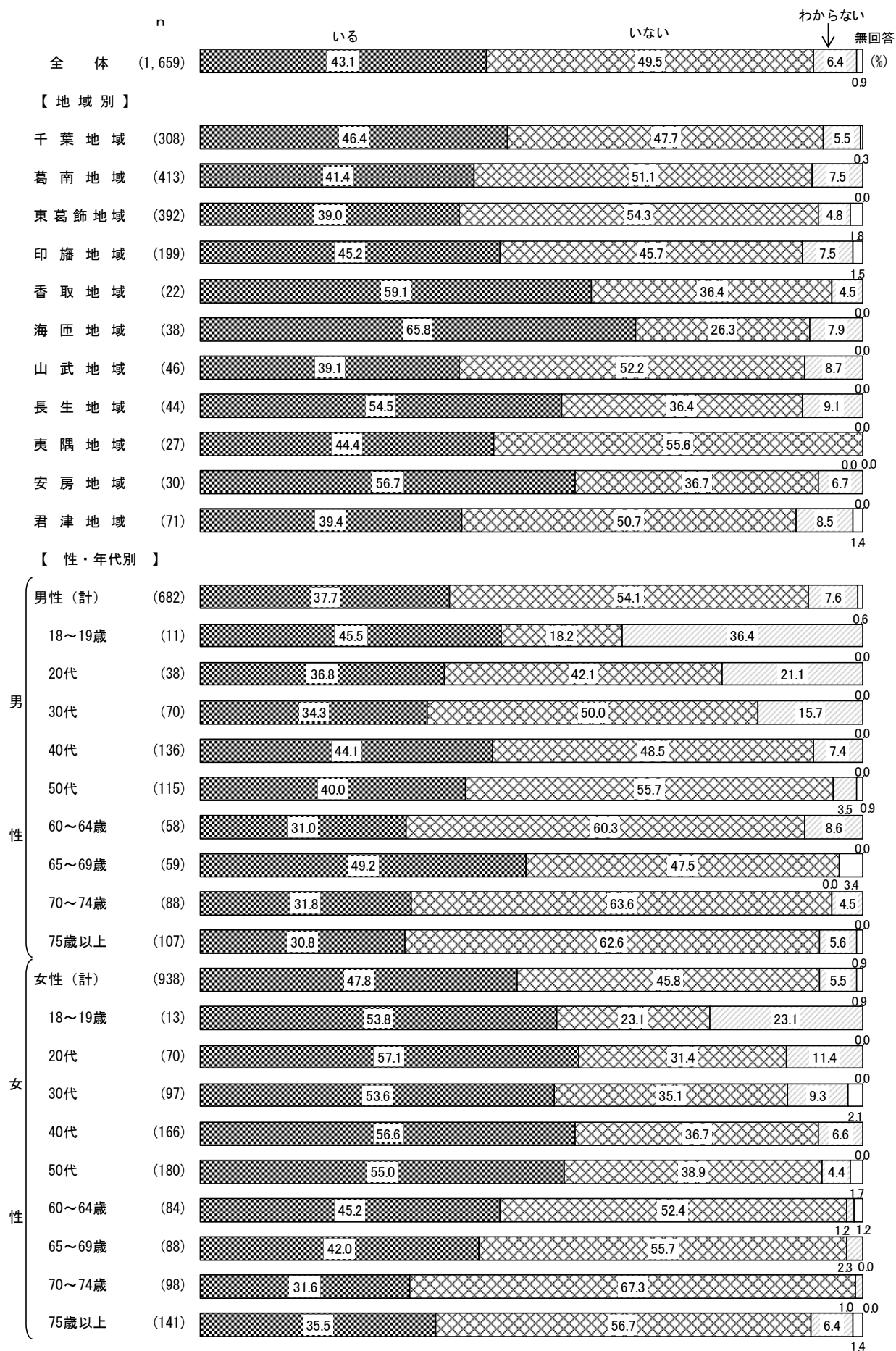
地域別にみると、「いる」は“海匠地域”（65.8%）が６割台半ばで高くなっている。（図表５－８）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「いる」は女性の20代（57.1%）が約６割、女性の40代（56.6%）、50代（55.0%）と30代（53.6%）が５割台半ばで高くなっている。

一方、「いない」は女性の70～74歳（67.3%）が約７割、男性の70～74歳（63.6%）が６割台半ば、男性の75歳以上（62.6%）が６割を超えて高くなっている。（図表５－８）

＜図表５－８＞農林漁業体験の参加状況／地域別、性・年代別

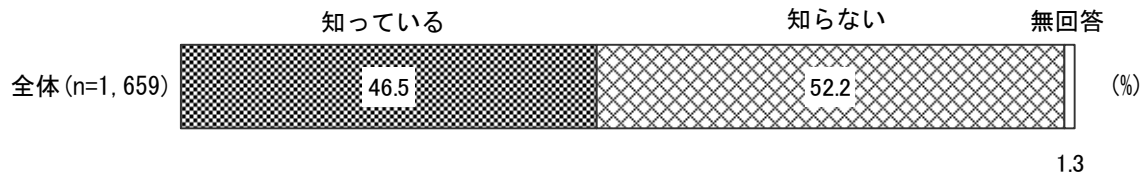


（５）食に関する文化の認知状況

◇「知っている」が４割台半ば

問27 地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理（郷土料理など）や作法（箸づかいなど）を知っていますか。（○は１つ）

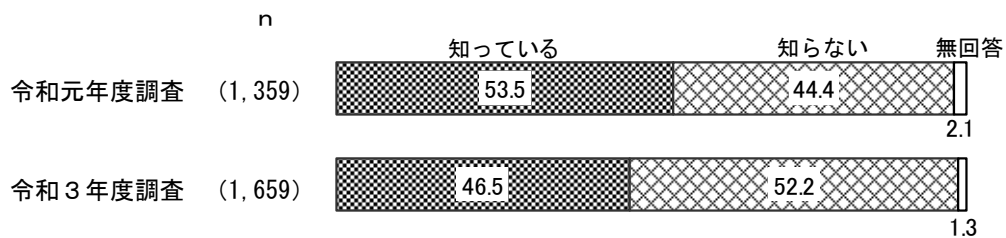
＜図表５－９＞食に関する文化の認知状況



地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理（郷土料理など）や作法（箸づかいなど）を知っているか聞いたところ、「知っている」（46.5％）が４割台半ばとなっている。

一方、「知らない」（52.2％）が５割を超えている。（図表５－９）

〔参考〕令和元年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）



【地域別】

地域別にみると、「知っている」は“夷隅地域”（66.7％）が６割台半ばで高くなっている。

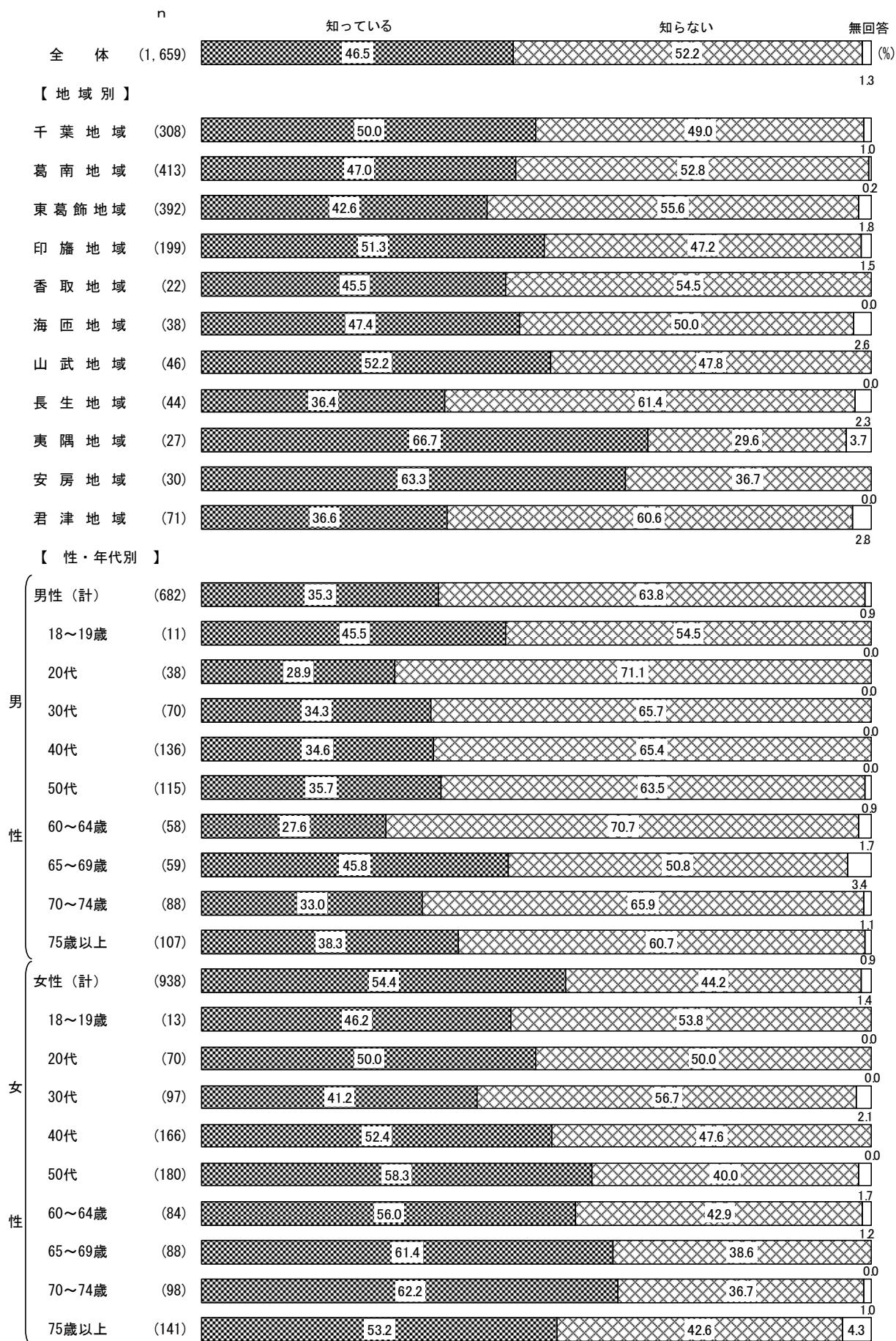
（図表５－10）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「知っている」は女性の70～74歳（62.2％）と65～69歳（61.4％）が６割を超え、女性の50代（58.3％）が約６割で高くなっている。

一方、「知らない」は男性の20代（71.1％）が７割を超え、男性の60～64歳（70.7％）が７割、男性の70～74歳（65.9％）、30代（65.7％）、40代（65.4％）と50代（63.5％）が６割台半ばで高くなっている。（図表５－10）

＜図表 5－10＞食に関する文化の認知状況／地域別、性・年代別



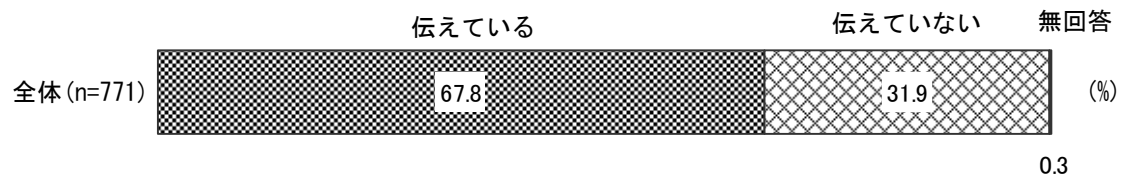
（６）食に関する文化の伝承

◇「伝えている」が約７割

（問27で「知っている」とお答えの方に）

問27－１ 地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理（郷土料理など）や作法（箸づかいなど）を地域や次世代（子どもやお孫さん含む）に対して伝えていますか。（○は１つ）

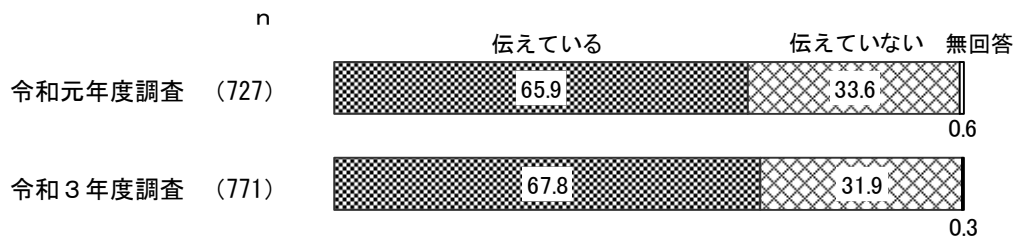
<図表５－11>食に関する文化の伝承



地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法を知っていると回答した 771 人を対象に、地域や次世代（子どもやお孫さん含む）に対して伝えているか聞いたところ、「伝えている」（67.8%）が約 7 割となっている。

一方、「伝えていない」（31.9%）が 3 割を超えている。（図表 5－11）

〔参考〕令和元年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）



【地域別】

地域別にみると、「伝えていない」は“君津地域”（50.0%）が 5 割で高くなっている。

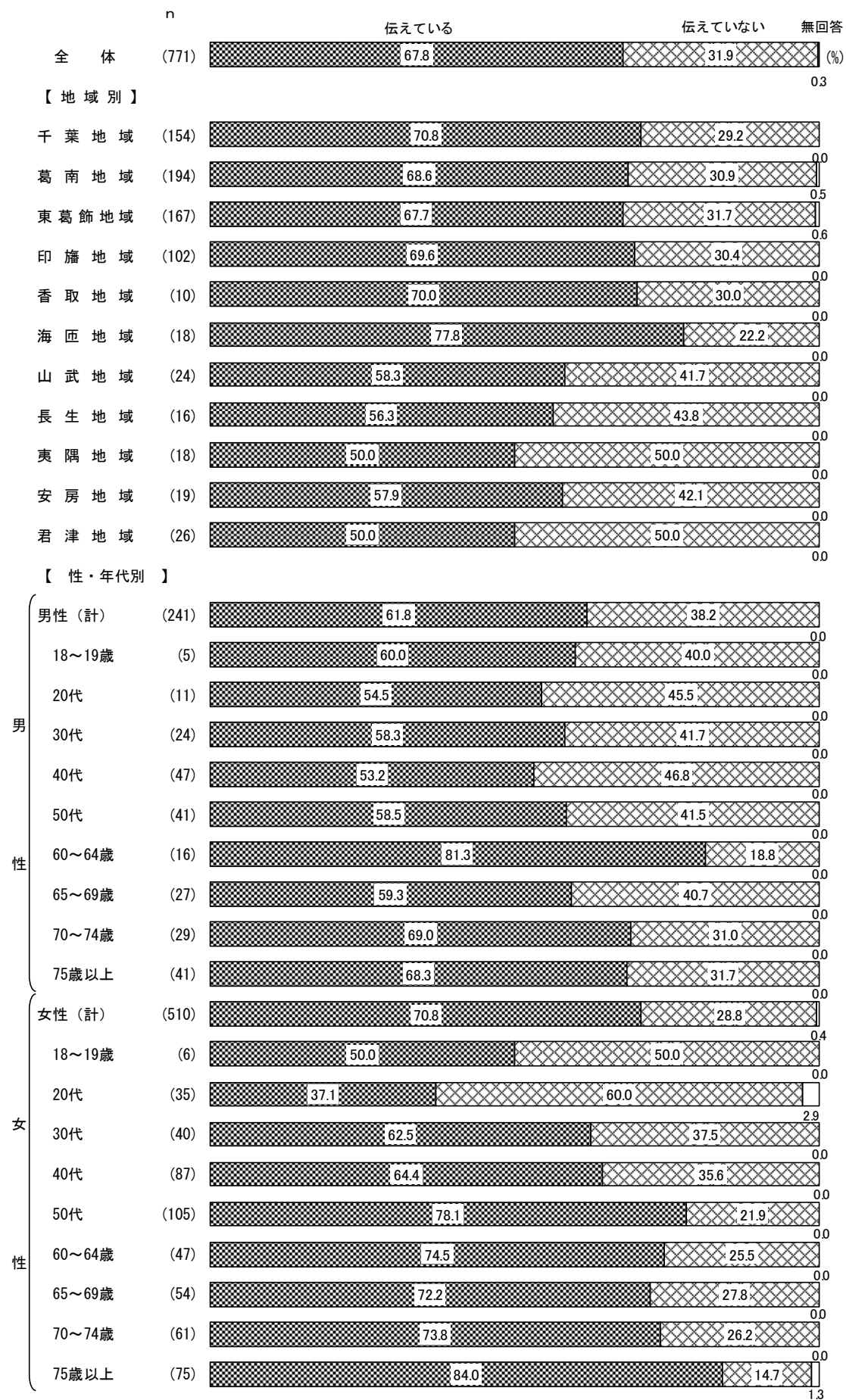
（図表 5－12）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「伝えている」は女性の 75 歳以上（84.0%）が 8 割台半ば、女性の 50 代（78.1%）が約 8 割で高くなっている。

一方、「伝えていない」は女性の 20 代（60.0%）が 6 割、男性の 40 代（46.8%）が 4 割台半ばで高くなっている。（図表 5－12）

＜図表 5－12＞食に関する文化の伝承／地域別、性・年代別



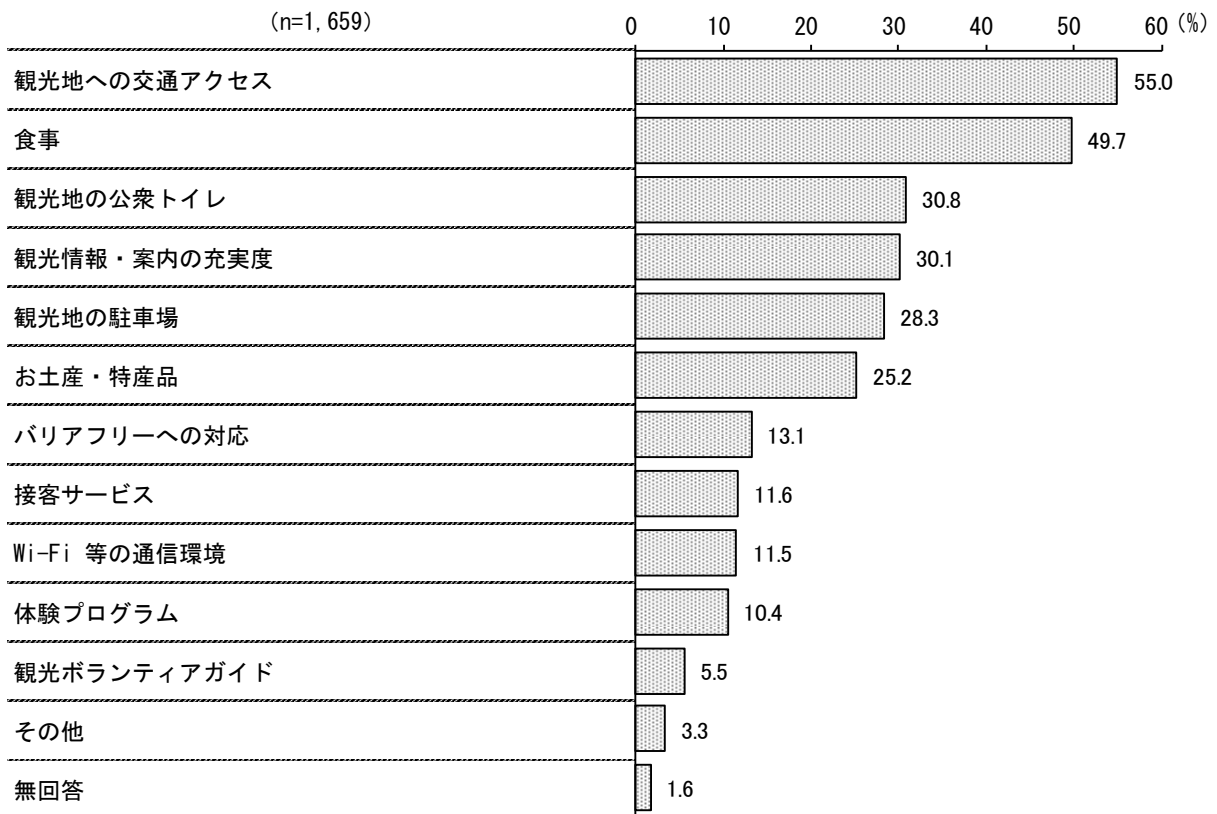
6 観光について

（１）県内でより快適な旅行をするために充実してほしいこと

◇「観光地への交通アクセス」が５割台半ば

問28 千葉県内を旅行する場合、より快適な旅行をするためには、特に何が充実してほしいですか。（○は３つまで）

＜図表６－１＞県内でより快適な旅行をするために充実してほしいこと（３つまでの複数回答）



千葉県内を旅行する場合、より快適な旅行をするためには、特に何が充実してほしいか聞いたところ、「観光地への交通アクセス」(55.0%) が５割台半ばで最も高く、以下、「食事」(49.7%)、「観光地の公衆トイレ」(30.8%)、「観光情報・案内の充実度」(30.1%) が続く。(図表６－１)

【地域別】

地域別にみると、「食事」は“君津地域”(56.3%) が５割台半ばで高くなっている。(図表６－２)

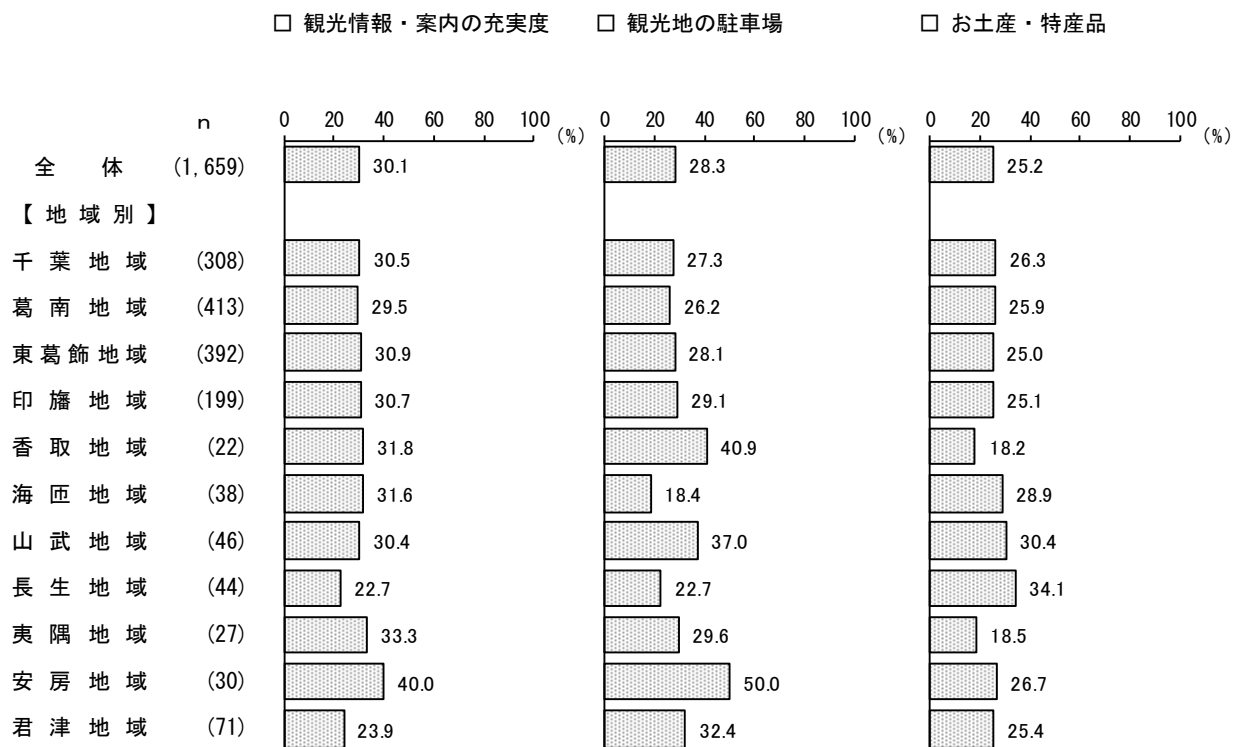
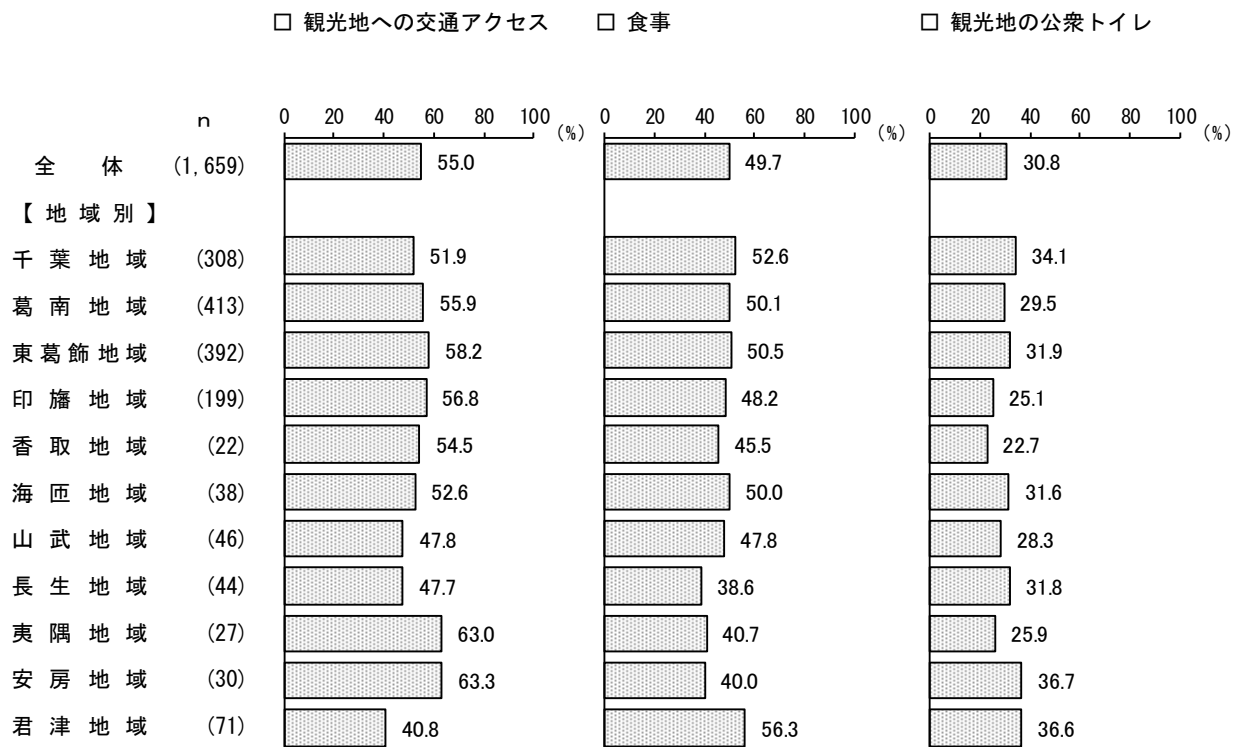
【性・年代別】

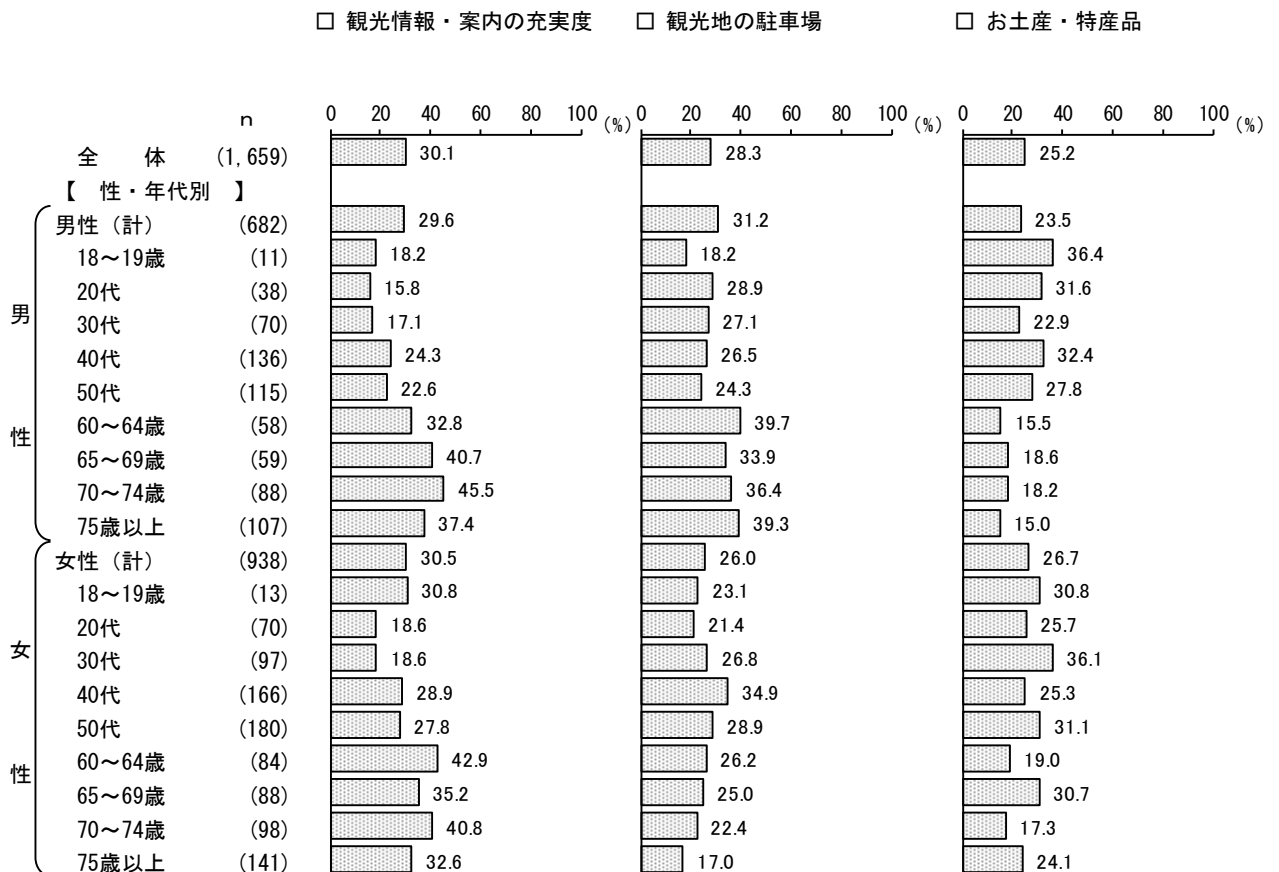
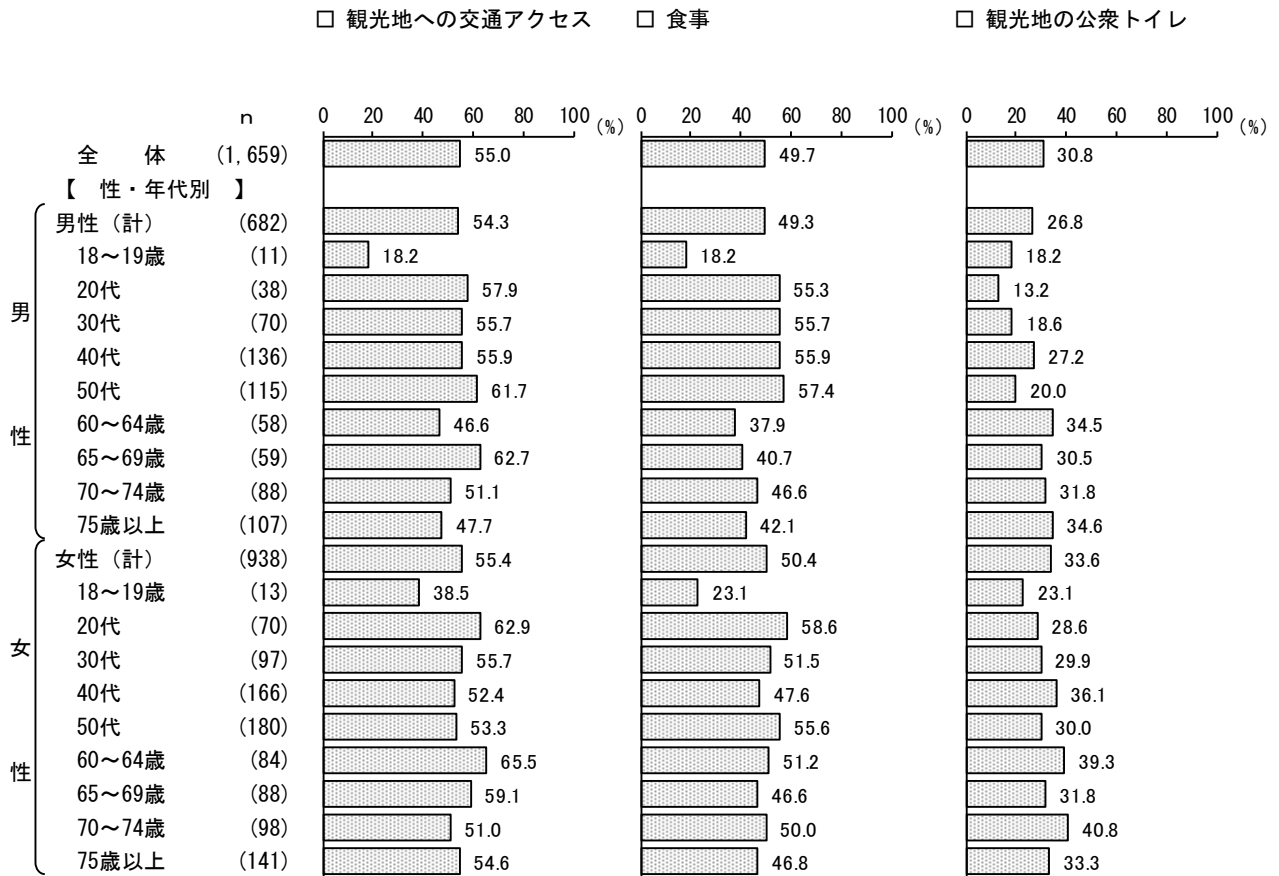
性・年代別にみると、「観光地への交通アクセス」は女性60～64歳(65.5%) が６割台半ばで高くなっている。

「食事」は女性の20代(58.6%) と男性の50代(57.4%) が約６割で高くなっている。

(図表６－２)

＜図表６－２＞県内でより快適な旅行をするために充実してほしいこと（３つまでの複数回答）／
地域別、性・年代別（上位６項目）





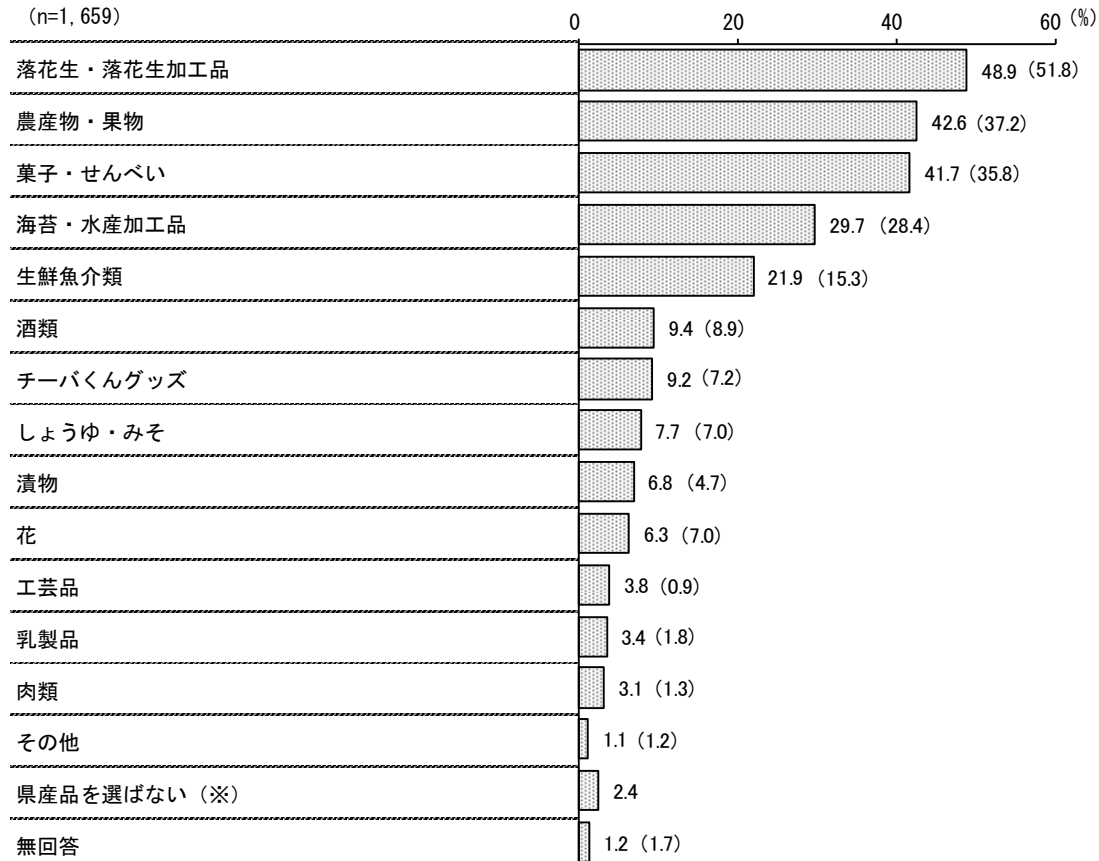
（２）お土産や贈答品として選ぶ県産品

◇「落花生・落花生加工品」が約５割

問29 県産品をお土産や贈答品とする場合、何を選びますか。（○は３つまで）

＜図表６－３＞お土産や贈答品として選ぶ県産品（３つまでの複数回答）

(n=1,659)



注) () の数字は令和２年度の同様の項目による調査結果 n=1,568

令和２年度調査では、「県産品をお土産や贈答品として使う場合、何を贈りますか。（○は３つまで）」

(※) 今回調査からの新規項目

県産品をお土産や贈答品とする場合、何を選ぶか３つまで選んでもらったところ、「落花生・落花生加工品」（48.9％）が約５割で最も高く、以下、「農産物・果物」（42.6％）、「菓子・せんべい」（41.7％）、「海苔・水産加工品」（29.7％）が続く。（図表６－３）

【地域別】

地域別にみると、「落花生・落花生加工品」は“印旛地域”（59.8％）が約６割で高くなっている。

「農産物・果物」は“安房地域”（63.3％）が６割を超えて高くなっている。（図表６－４）

【性・年代別】

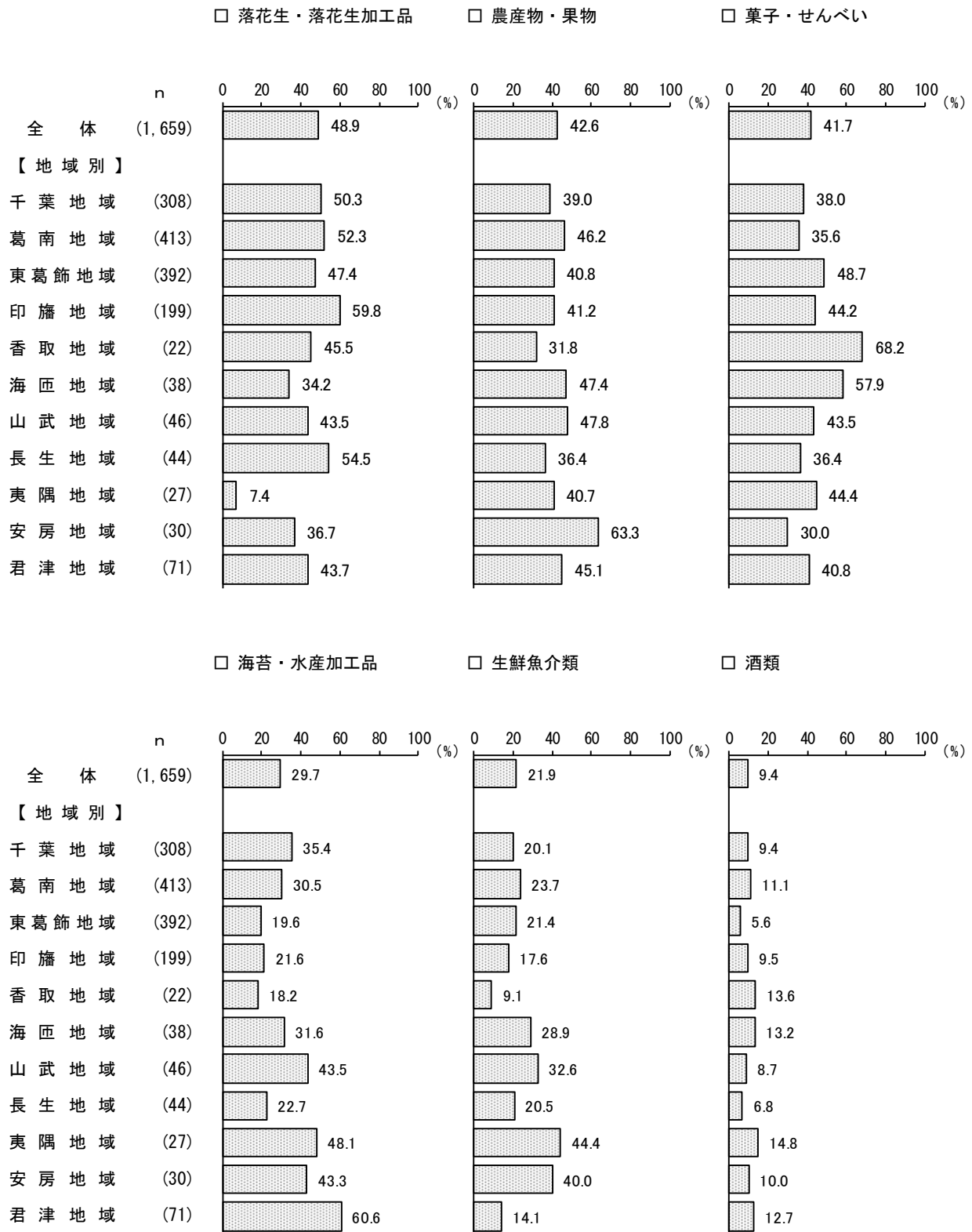
性・年代別にみると、「落花生・落花生加工品」は女性の50代（59.4％）と女性の70～74歳（57.1％）が約６割で高くなっている。

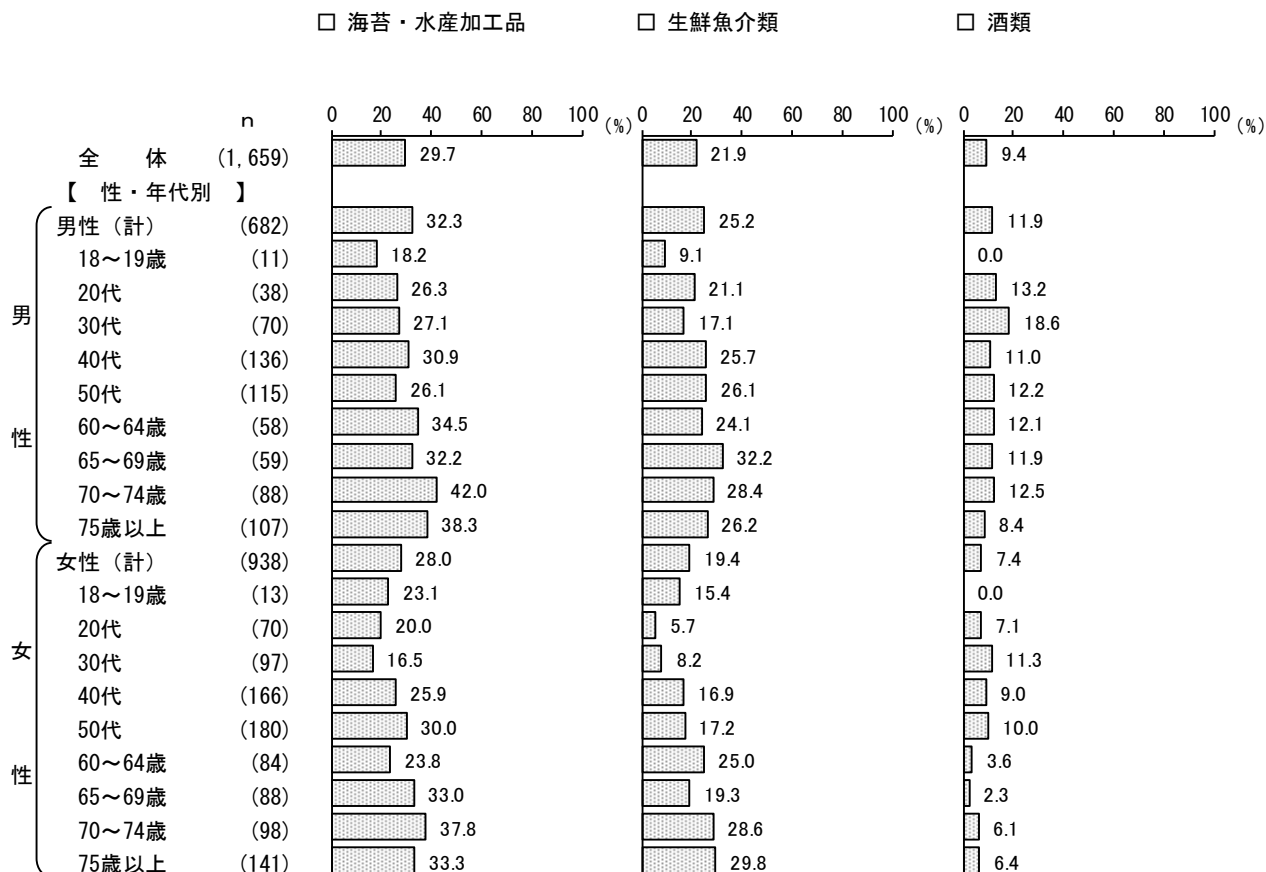
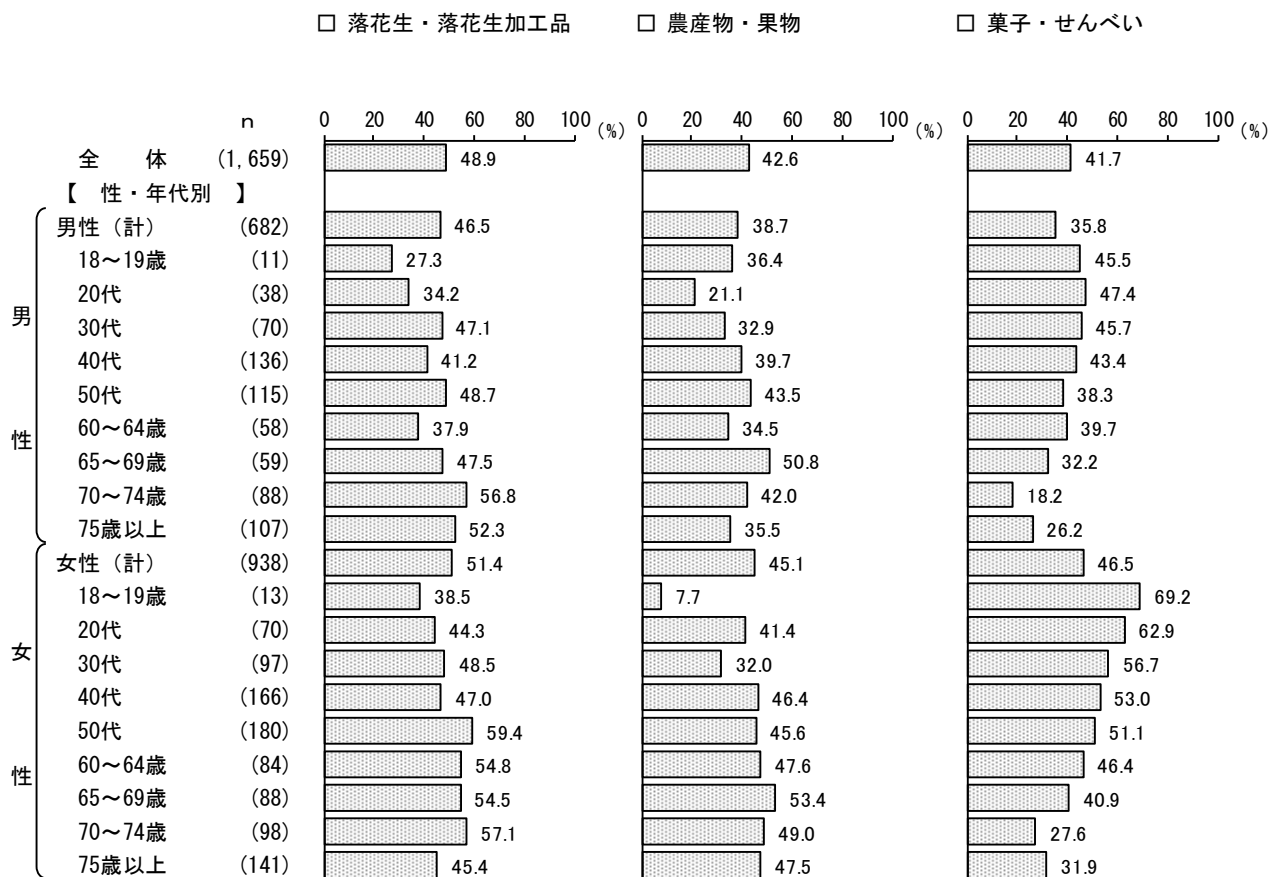
「農産物・果物」は女性の65～69歳（53.4％）が５割を超えて高くなっている。

「菓子・せんべい」は女性の20代（62.9％）が６割を超え、女性の30代（56.7％）が５割台半ば、女性の40代（53.0％）と50代（51.1％）が５割を超えて高くなっている。（図表６－４）

＜図表 6－4＞お土産や贈答品として選ぶ県産品（3つまでの複数回答）／

地域別、性・年代別（上位6項目）

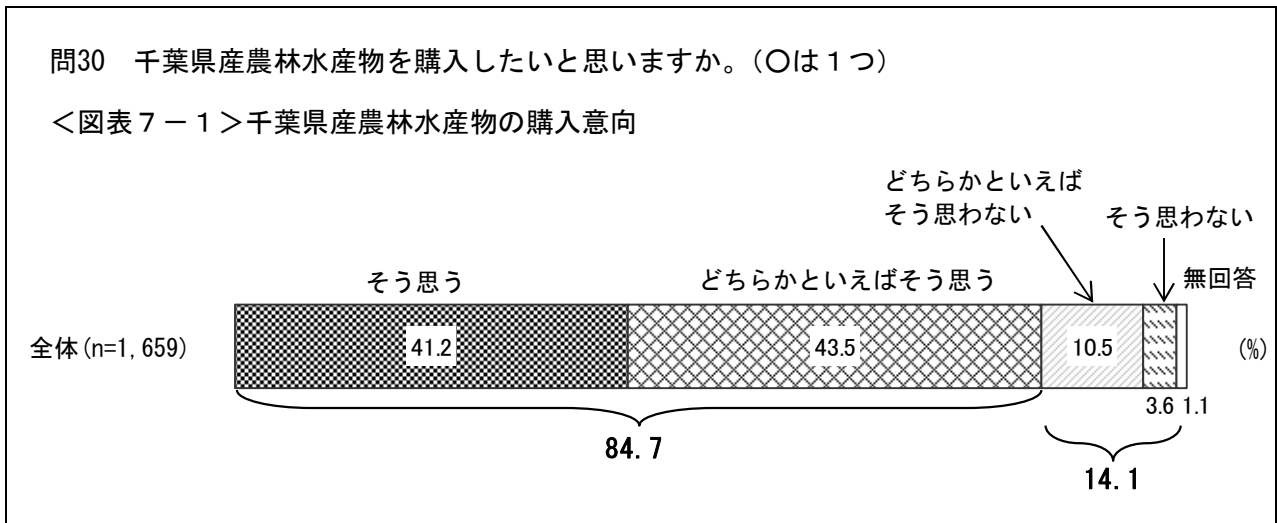




7 県の農林水産物について

（１）千葉県産農林水産物の購入意向

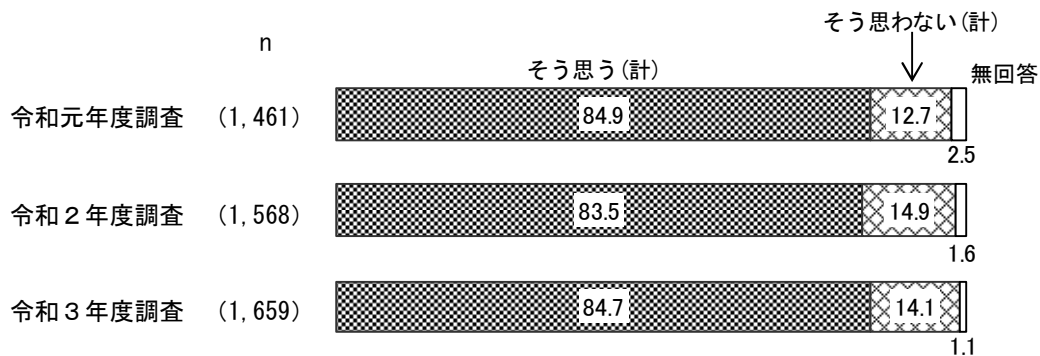
◇『そう思う（計）』が8割台半ば



千葉県産農林水産物を購入したいと思うか聞いたところ、「そう思う」（41.2%）と「どちらかといえばそう思う」（43.5%）を合わせた『そう思う（計）』（84.7%）が8割台半ばとなっている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」（10.5%）と「そう思わない」（3.6%）を合わせた『そう思わない（計）』（14.1%）は1割台半ばとなっている。（図表7-1）

〔参考〕令和元年度・2年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）



【地域別】

地域別にみると、『そう思う（計）』は“夷隅地域”（100.0%）が10割で高くなっている。

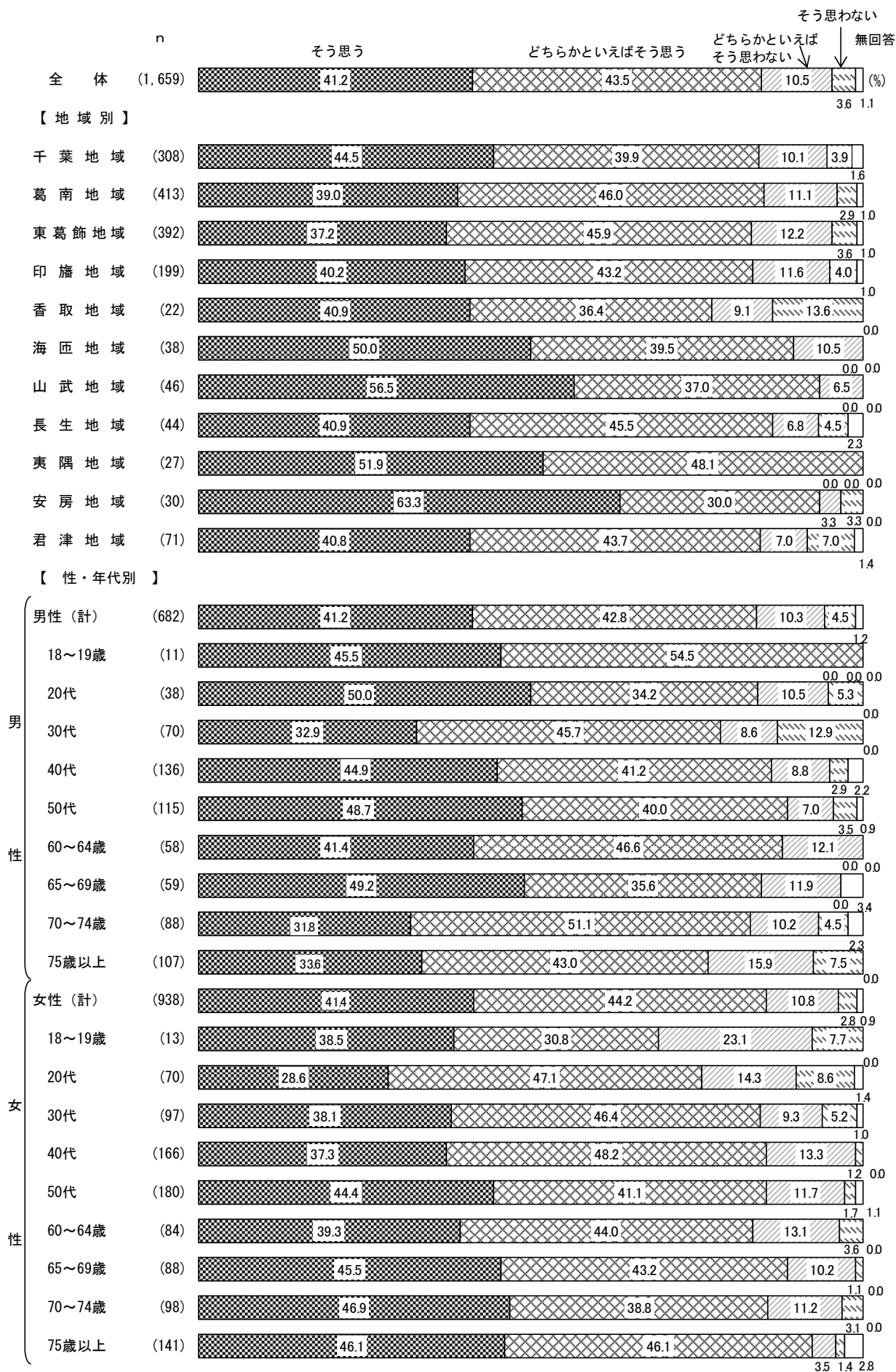
（図表7-2）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『そう思う（計）』は女性の75歳以上（92.2%）が9割を超えて高くなっている。

一方、『そう思わない（計）』は男性の75歳以上（23.4%）と女性の20代（22.9%）が2割を超えて高くなっている。（図表7-2）

＜図表 7－2＞千葉県産農林水産物の購入意向／地域別、性・年代別



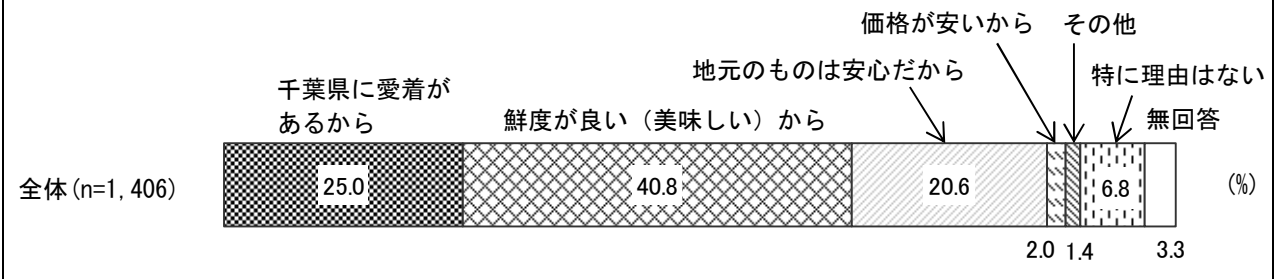
（１－１）千葉県産農林水産物を購入したいと思う理由

◇「鮮度が良い（美味しい）から」が４割

（問30で「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」のいずれかをお答えの方に）

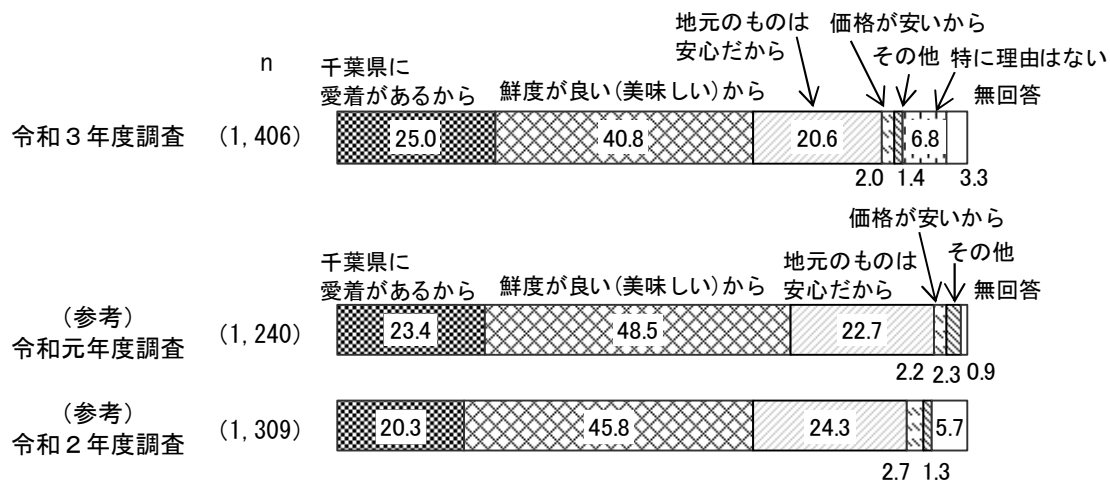
問30－１ その主な理由は何ですか。（○は１つ）

＜図表 7－3＞千葉県産農林水産物を購入したいと思う理由



千葉県産農林水産物を購入したいと回答した1,406人を対象に、その主な理由を聞いたところ、「鮮度が良い（美味しい）から」（40.8%）が４割で最も高く、以下、「千葉県に愛着があるから」（25.0%）、「地元のものは安心だから」（20.6%）が続く。（図表 7－3）

〔参考〕令和元年度・２年度の類似の項目による調査結果との比較（単位：％）



【地域別】

地域別にみると、「地元のものは安心だから」は“千葉地域”（25.8%）が２割台半ばで高くなっている。（図表 7－4）

【性・年代別】

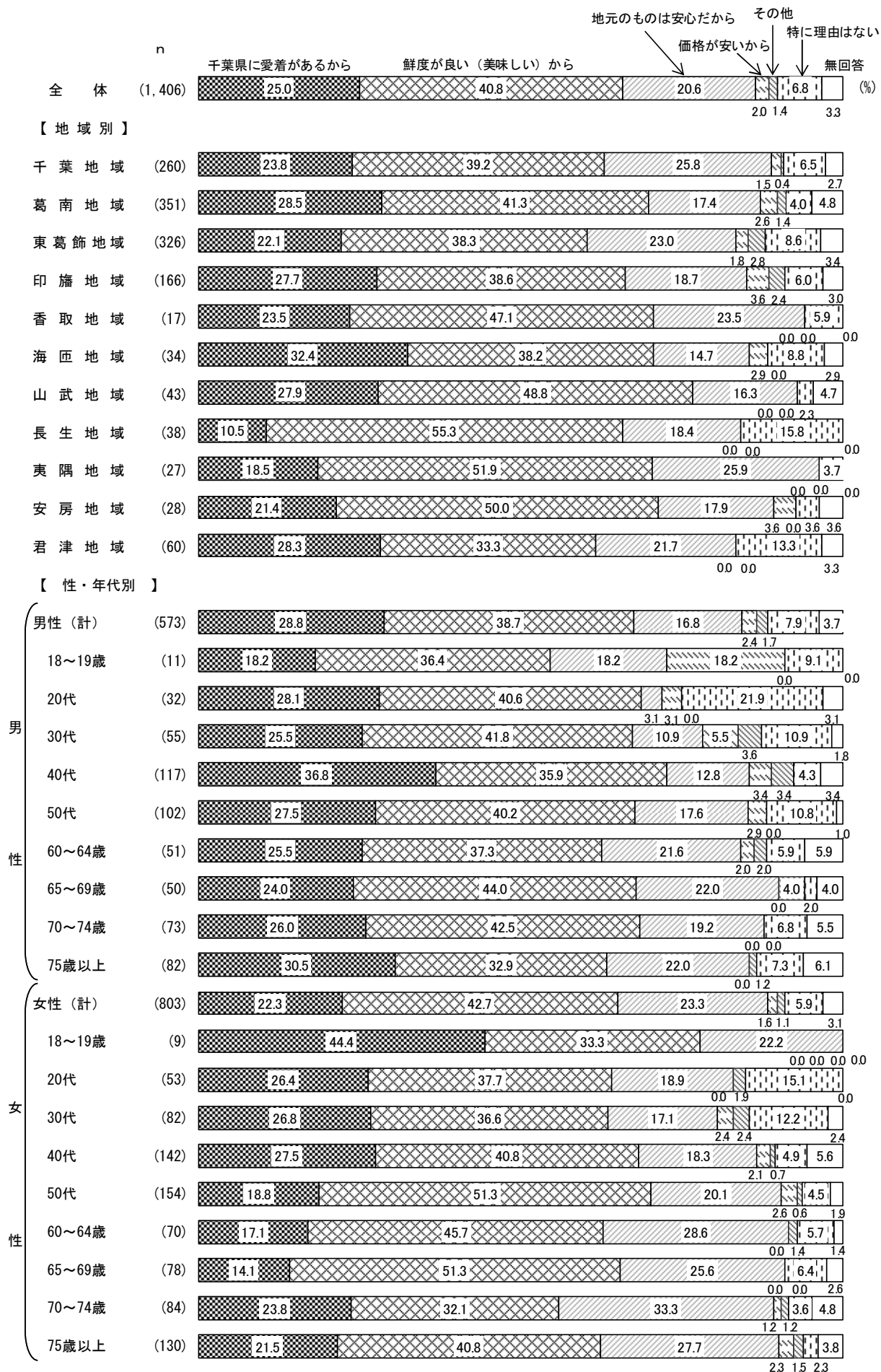
性・年代別にみると、「鮮度が良い（美味しい）から」は女性の50代（51.3%）が５割を超えて高くなっている。

「千葉県に愛着があるから」は男性の40代（36.8%）が３割台半ばで高くなっている。

「地元のものは安心だから」は女性70～74歳（33.3%）が３割を超えて高くなっている。

（図表 7－4）

＜図表 7－4＞千葉県産農林水産物を購入したいと思う理由／地域別、性・年代別

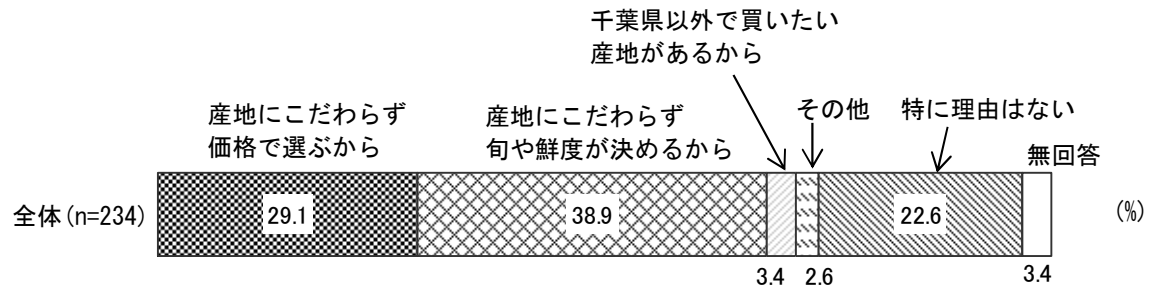


（１－２）千葉県産農林水産物を購入したいと思わない理由

◇「産地にこだわらず旬や鮮度で決めるから」が約４割

（問30で「どちらかといえばそう思わない」、「そう思わない」のいずれかをお答えの方に）
 問30－２ その主な理由は何ですか。（○は１つ）

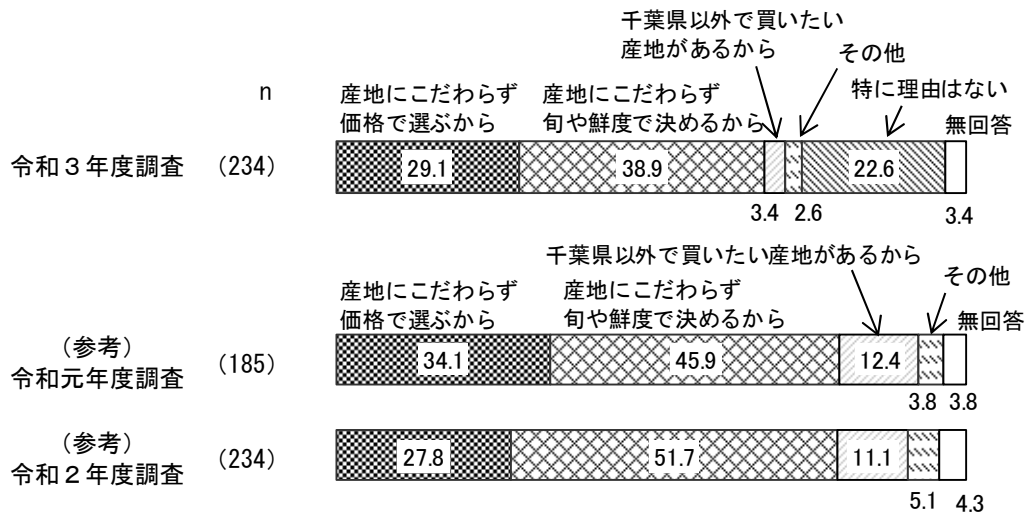
＜図表 7－5＞千葉県産農林水産物を購入したいと思わない理由



千葉県産農林水産物を購入したいと思わないと回答した234人を対象に、その主な理由を聞いたところ、「産地にこだわらず旬や鮮度で決めるから」（38.9%）が約４割で最も高く、以下、「産地にこだわらず価格で選ぶから」（29.1%）、「千葉県以外で買いたい産地があるから」（3.4%）が続く。

（図表 7－5）

〔参考〕令和元年度・２年度の類似の項目による調査結果との比較（単位：％）

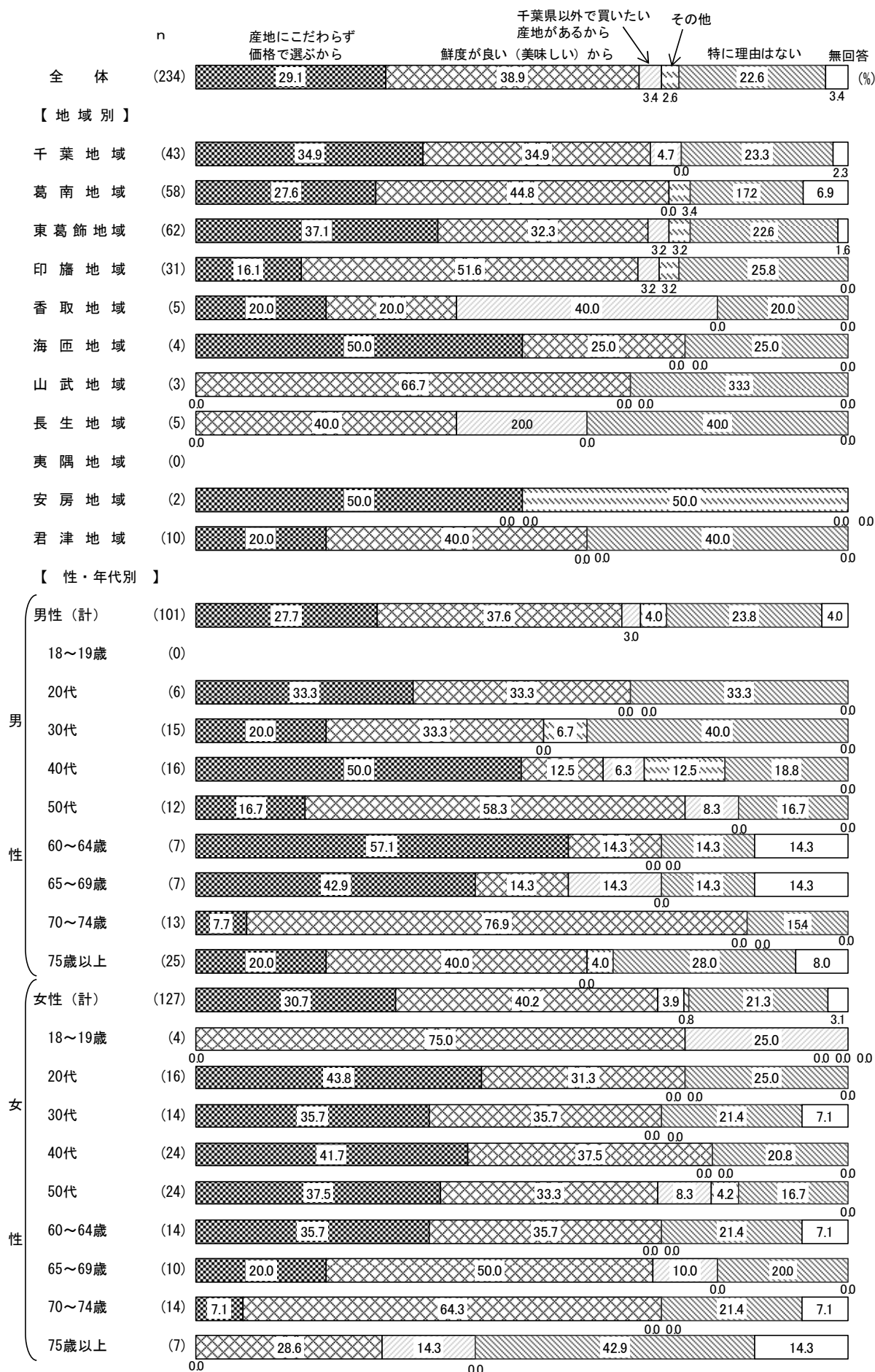


※サンプル数が少ないため、【地域別】、【性・年代別】は参考までに図示するにとどめる。

(8ページ「報告書の見方（５）」を参照)

(図表 7－6)

[参考]＜図表７－６＞千葉県産農林水産物を購入したいと思わない理由／地域別、性・年代別



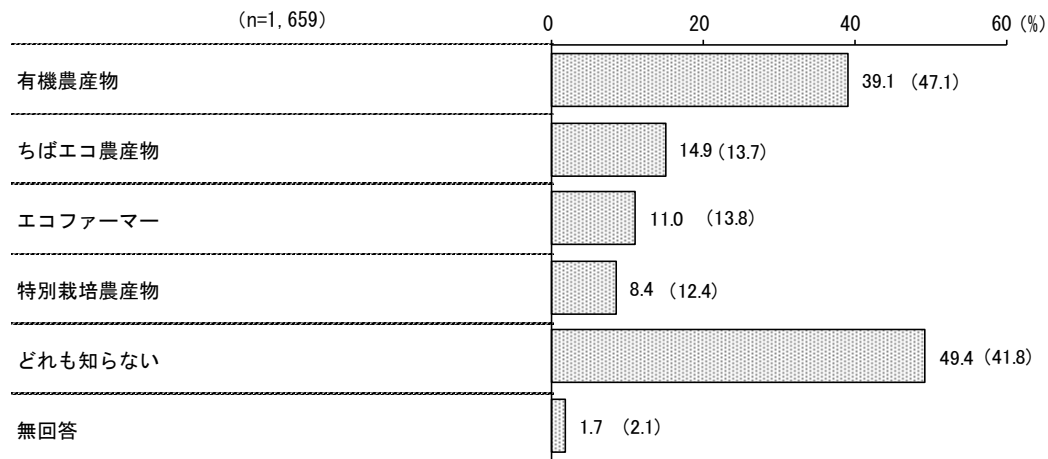
（２）環境にやさしい農産物や制度の認知度

◇「有機農産物」が約４割

問31 千葉県では、農薬や化学肥料をできるだけ減らすなど、「環境にやさしい農業に取り組む農業者」や「環境にやさしい農産物」についての認証制度を設けています。次の農産物や制度を知っていますか。（○はいくつでも）

- ※「ちばエコ農産物」：県の基準に基づき化学肥料・化学合成農薬の使用を通常の５割以下で栽培し、県が認証した農産物
- 「有機農産物」：「有機農産物の日本農林規格」に基づき生産された農産物。化学肥料・化学合成農薬を使用しないこと、遺伝子組換え技術を利用しないことなどを基本として生産されたことを国の登録認証機関が認証する
- 「特別栽培農産物」：国のガイドラインに基づき化学肥料・化学合成農薬の使用を通常の５割以下に減らして栽培し、生産者が定める責任者が確認した農産物
- 「エコファーマー」：「持続性の高い農業生産方式の導入に関する法律」に基づき、たい肥等による土づくり、化学肥料・化学合成農薬の使用低減技術に取り組む栽培計画を立て、県が認定した農業者

＜図表 7－7＞環境にやさしい農産物や制度の認知度（複数回答）



注）（ ）の数字は令和２年度の同様の項目による調査結果 n=1,568

※令和２年度調査で、「千葉県には、農薬や化学肥料の使用量の低減などに取り組む農業者や農産物を認証する制度があります。あなたは、以下の農産物や制度について聞いたことがありますか。（○はいくつでも）」と質問した結果を参考を示した。

農薬や化学肥料の使用量の低減などに取り組む農業者・農産物や認証する制度を聞いたことがあるか聞いたところ、「有機農産物」(39.1%)が約４割で最も高く、以下、「ちばエコ農産物」(14.9%)、「エコファーマー」(11.0%)、「特別栽培農産物」(8.4%)が続く。(図表 7－7)

【地域別】

地域別にみると、「有機農産物」は“山武地域”(58.7%)が約６割で高くなっている。

「ちばエコ農産物」は“海匝地域”(28.9%)と“山武地域”(28.3%)が約３割で高くなっている。

「エコファーマー」は“海匝地域”(23.7%)が２割台半ばで高くなっている。(図表 7－8)

【性・年代別】

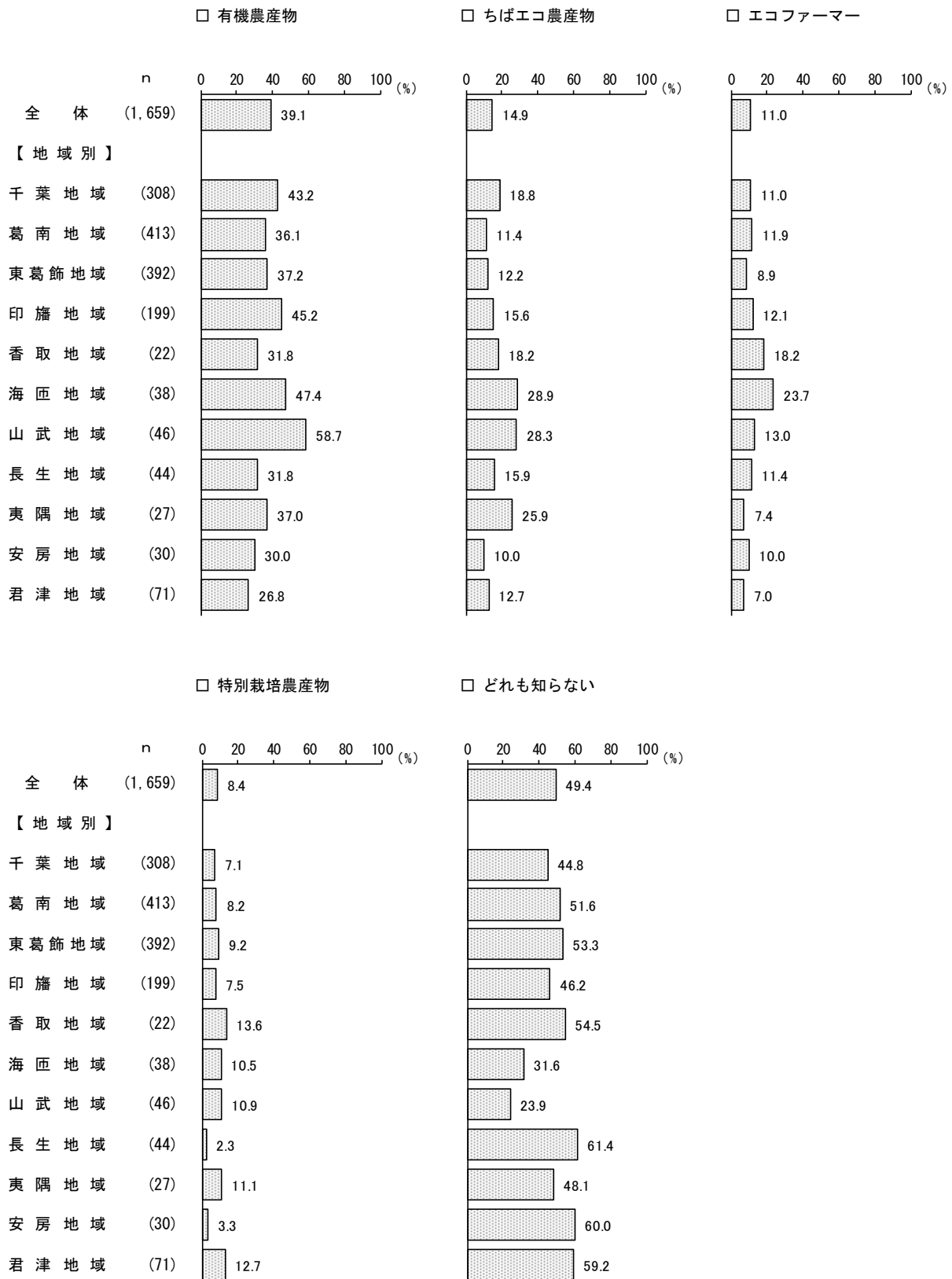
性・年代別にみると、「有機農産物」は女性の70～74歳(57.1%)が約６割、女性の60～64歳(51.2%)

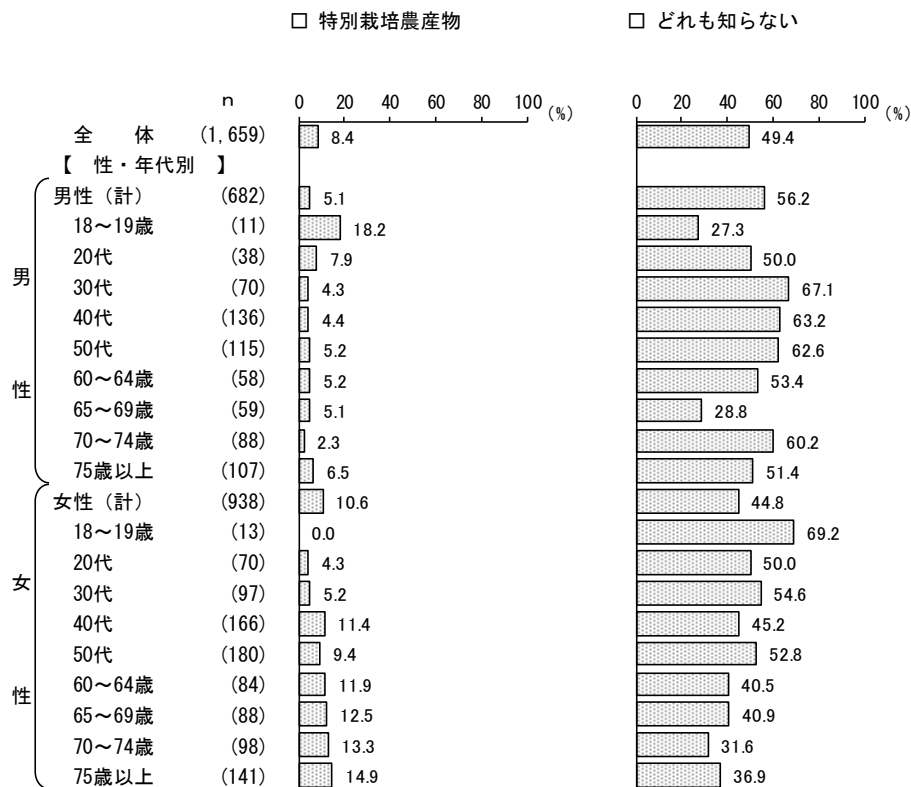
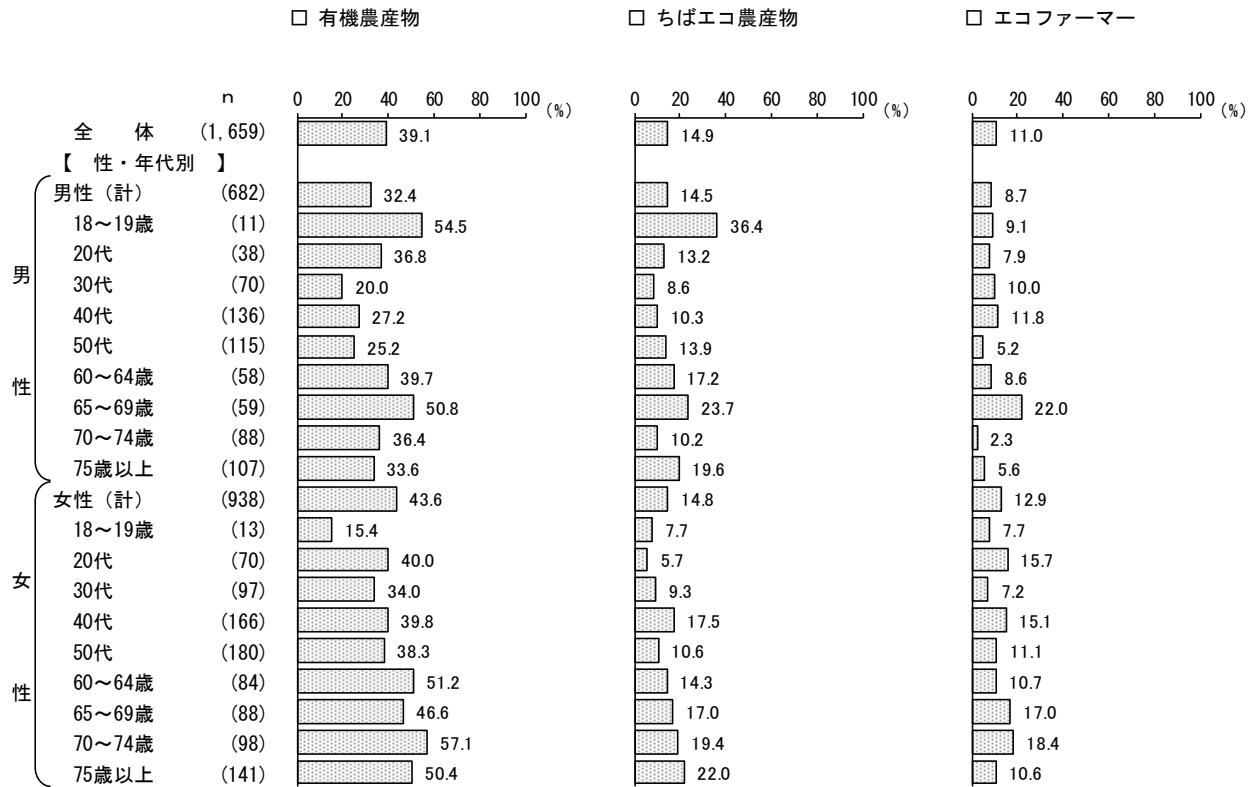
が5割を超え、男性の65～69歳（50.8%）、女性の75歳以上（50.4%）が5割で高くなっている。

「ちばエコ農産物」は男性の65～69歳（23.7%）が2割台半ば、女性の75歳以上（22.0%）が2割を超えて高くなっている。

「エコファーマー」は男性の65～69歳（22.0%）が2割を超えて高くなっている。（図表7－8）

<図表7－8>環境にやさしい農産物や制度の認知度（複数回答）／地域別、性・年代別





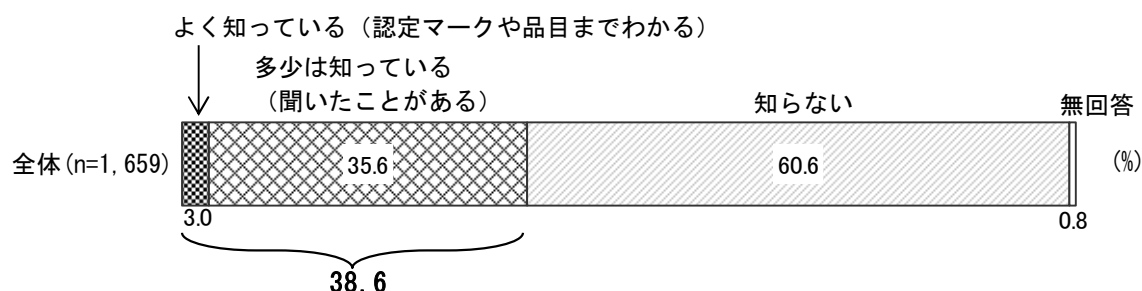
（３）「千葉ブランド水産物」の認知度

◇『知っている（計）』が約４割

問32 「千葉ブランド水産物」を知っていますか。（○は１つ）

※千葉県では、千葉のさかなの認知度を高め、広く県内外にアピールするため、「銚子つりきんめ」、「外房イセエビ」、「九十九里地はまぐり」などの優良な県産水産物を「千葉ブランド水産物」として認定しています。

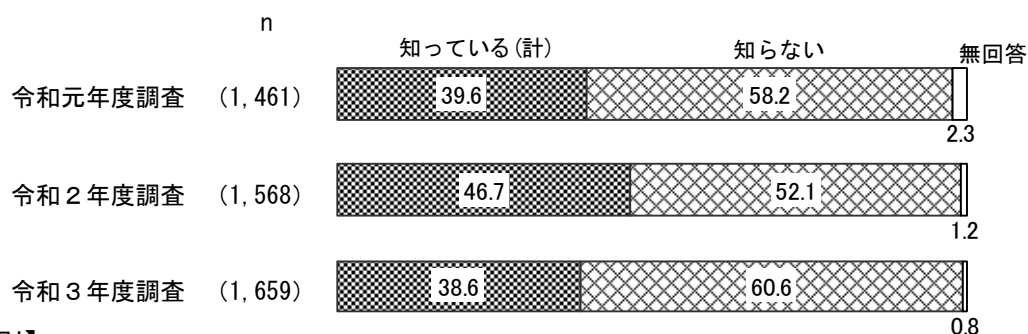
＜図表７－９＞「千葉ブランド水産物」の認知度



「千葉ブランド水産物」を知っているか聞いたところ、「よく知っている（認定マークや品目までわかる）」（3.0%）と「多少は知っている（聞いたことがある）」（35.6%）を合わせた『知っている（計）』（38.6%）が約４割となっている。

一方、「知らない」（60.6%）が６割となっている。（図表７－９）

〔参考〕令和元年度・２年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）



【地域別】

地域別にみると、『知っている（計）』は“夷隅地域”（66.7%）が６割台半ば、“山武地域”（60.9%）が６割で高くなっている。

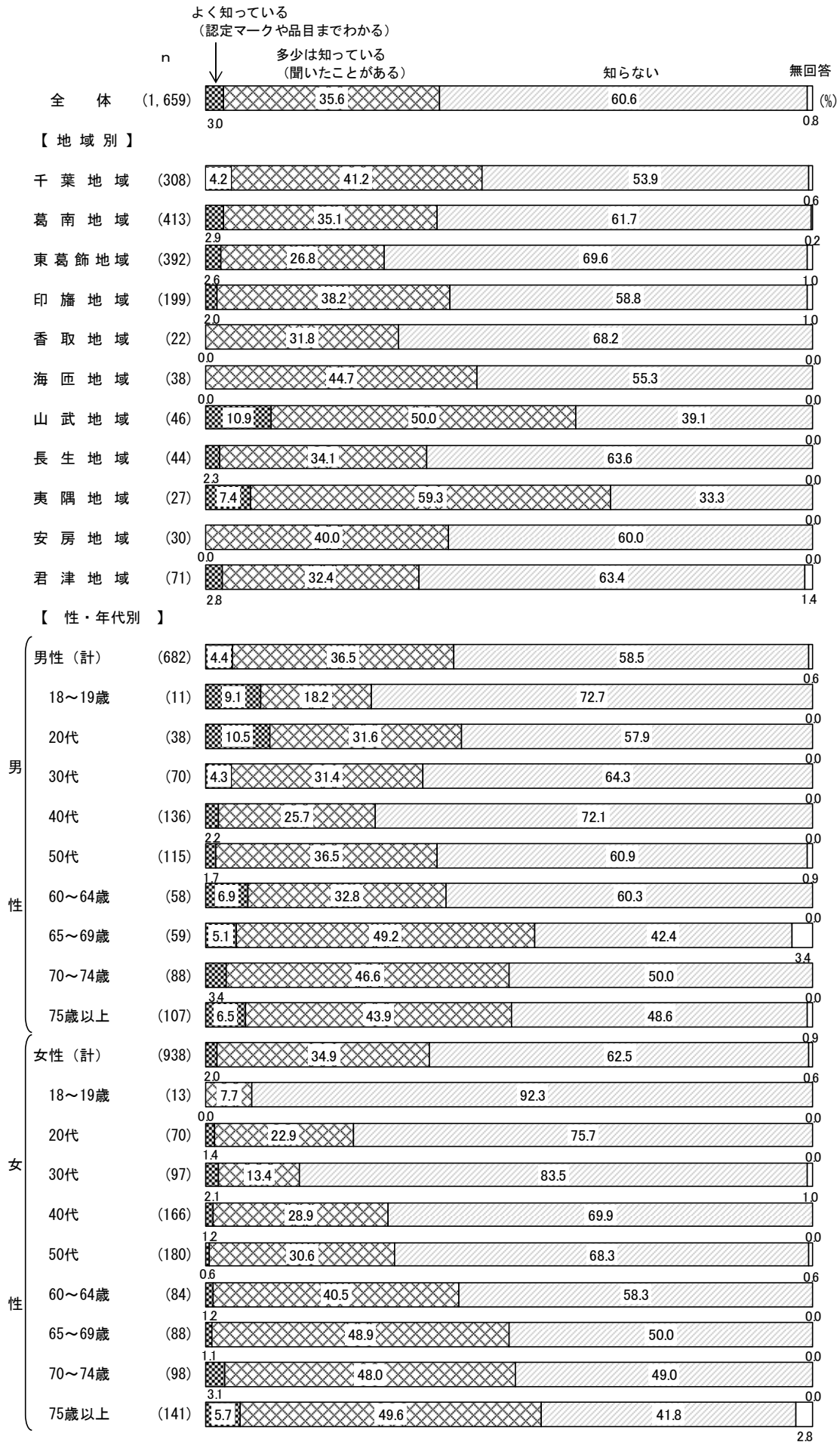
一方、「知らない」は“東葛飾地域”（69.6%）が約７割で高くなっている。（図表７－10）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『知っている（計）』は女性の75歳以上（55.3%）と男性の65～69歳（54.2%）が５割台半ば、女性の70～74歳（51.0%）が５割を超え、男性の75歳以上（50.5%）、男性の70～74歳と女性の65～69歳（50.0%）が５割で高くなっている。

一方、「知らない」は女性の30代（83.5%）が８割台半ば、女性の20代（75.7%）が７割台半ば、男性の40代（72.1%）が７割を超えて高くなっている。（図表７－10）

<図表7-10>「千葉ブランド水産物」の認知度／地域別、性・年代別



8 都市農業について

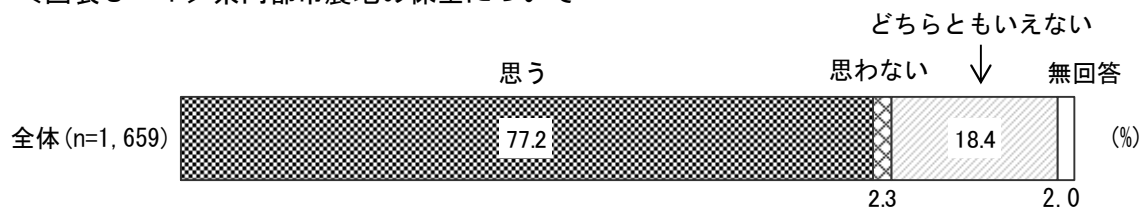
（１）県内都市農地の保全について

◇「思う」が約８割

県内の市街地及びその周辺で行われている農業のことを都市農業といい、その農地を、本調査では都市農地と呼びます。都市農業・都市農地は、新鮮な農産物の供給のほかに、農業体験・交流活動の場、災害時の防災空間など、様々な役割を担っています。

問33 あなたは、上記のように様々な役割を担う都市農地を、県内に残していきたいと思いませんか。（○は１つ）

＜図表８－１＞県内都市農地の保全について

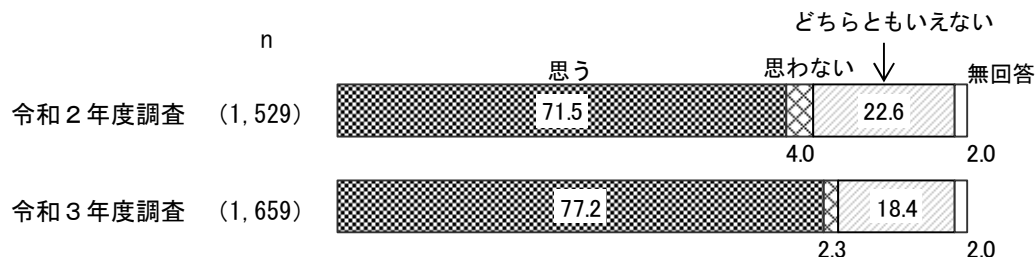


都市農地を県内に残していきたいと思うか聞いたところ、「思う」（77.2％）が約８割となっている。

一方、「思わない」（2.3％）は１割未満となっている。

また、「どちらともいえない」（18.4％）は約２割となっている。（図表８－１）

〔参考〕令和２年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）



（※）令和２年度調査で、「県では、都市農業を支える様々な担い手を支援するとともに、都市農業や都市農地がもっと身近なものとなるよう理解の醸成を図っており、今後の取組推進の参考とするため、県民の皆さまの意識をお聞きいたします。あなたは、千葉県に都市農地を残したいと思いませんか。（○は１つ）」と質問した結果を参考に示した。

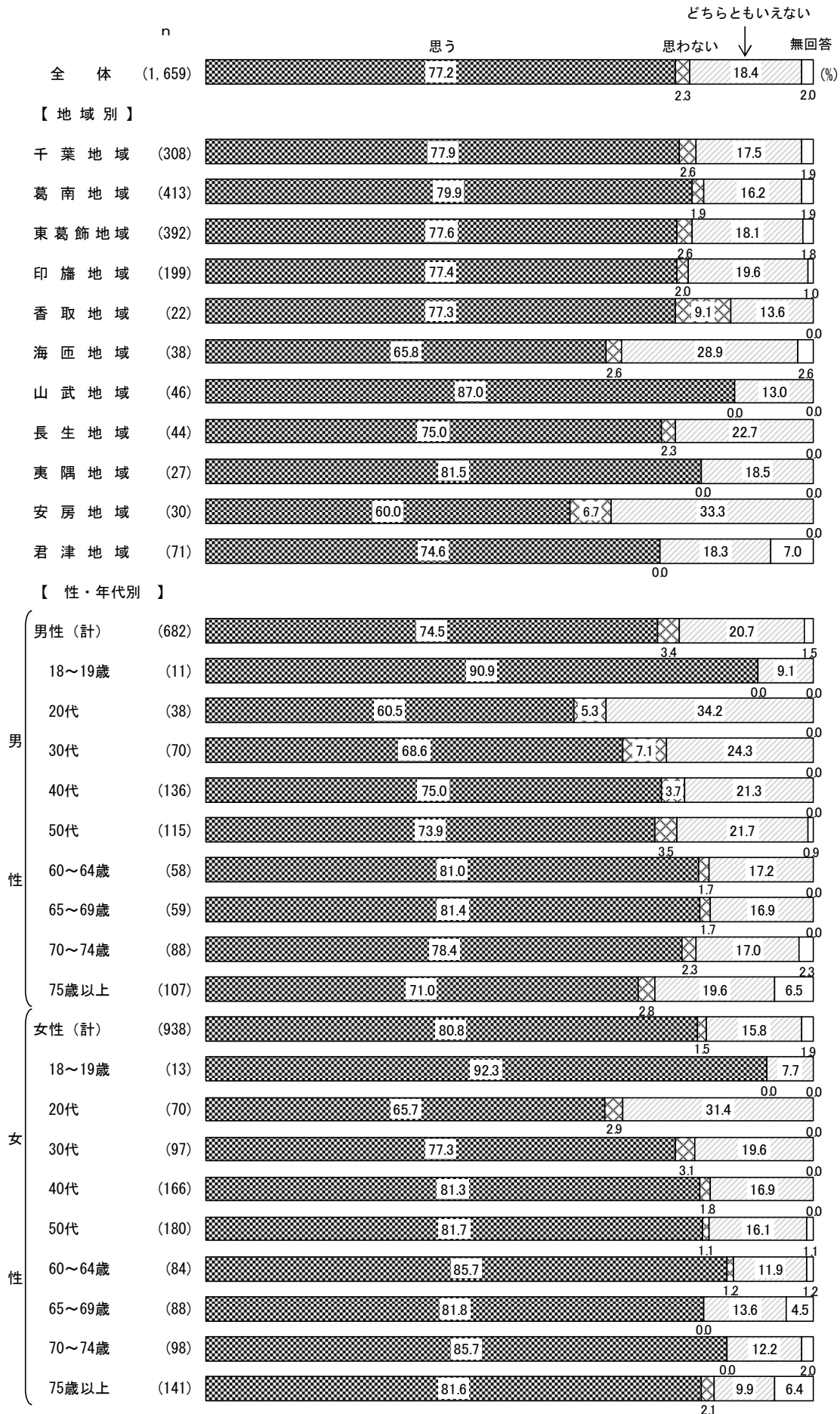
【地域別】

地域別にみると、「思う」は“山武地域”（87.0％）が約９割で高くなっている。（図表８－２）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「思う」は女性の60～64歳と70～74歳（85.7％）が８割台半ばで高くなっている。（図表８－２）

＜図表 8－2＞県内都市農地の保全について／地域別、性・年代別

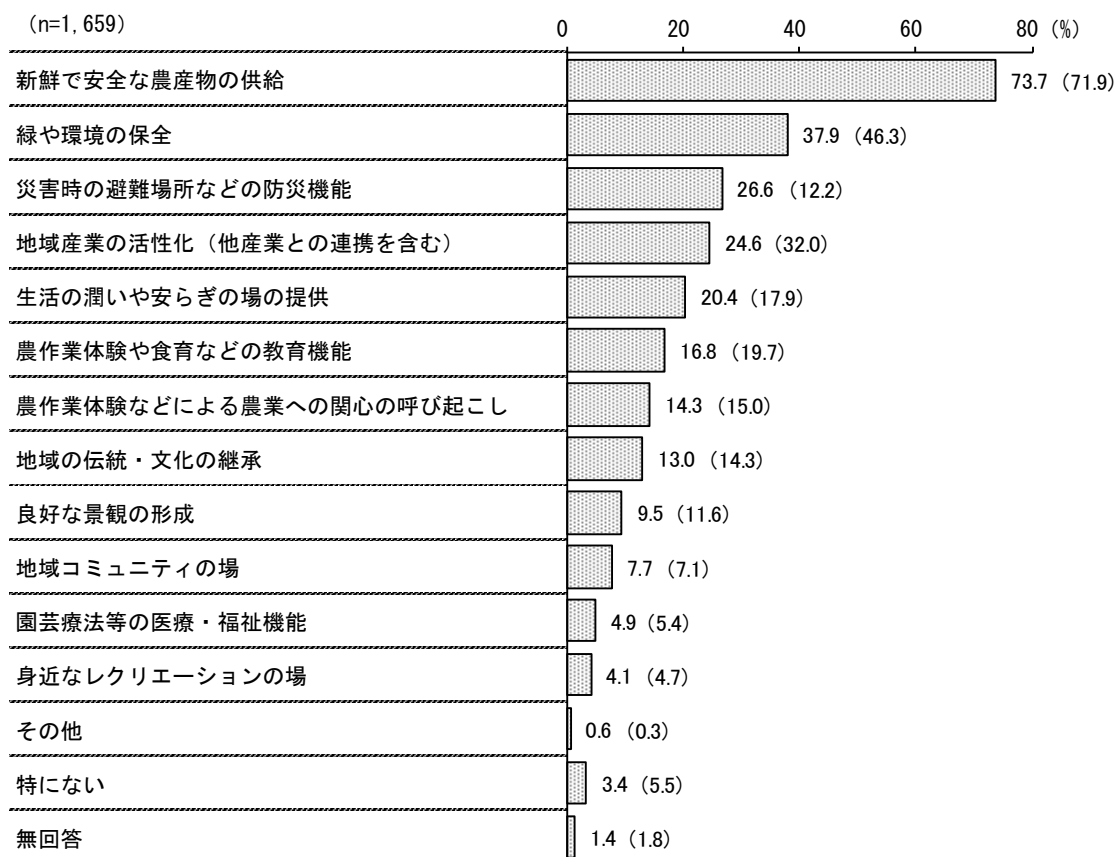


（２）千葉県の都市農業・都市農地に期待する機能や役割

◇「新鮮で安全な農産物の供給」が７割台半ば

問34 千葉県の都市農業・都市農地にどのような機能や役割を期待しますか。（○は３つまで）

＜図表８－３＞千葉県の都市農業・都市農地に期待する機能や役割（３つまでの複数回答）



注）（ ）の数字は令和２年度の同様の項目による調査結果 n=1,529

千葉県の都市農業・都市農地にどのような機能や役割を期待するか聞いたところ、「新鮮で安全な農産物の供給」（73.7%）が７割台半ばで最も高く、以下、「緑や環境の保全」（37.9%）、「災害時の避難場所などの防災機能」（26.6%）、「地域産業の活性化（他産業との連携を含む）」（24.6%）が続く。（図表８－３）

【地域別】

地域別にみると、大きな傾向の違いはみられない。（図表８－４）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「新鮮で安全な農産物の供給」は女性の70～74歳（84.7%）と60～64歳（84.5%）が８割台半ばで高くなっている。

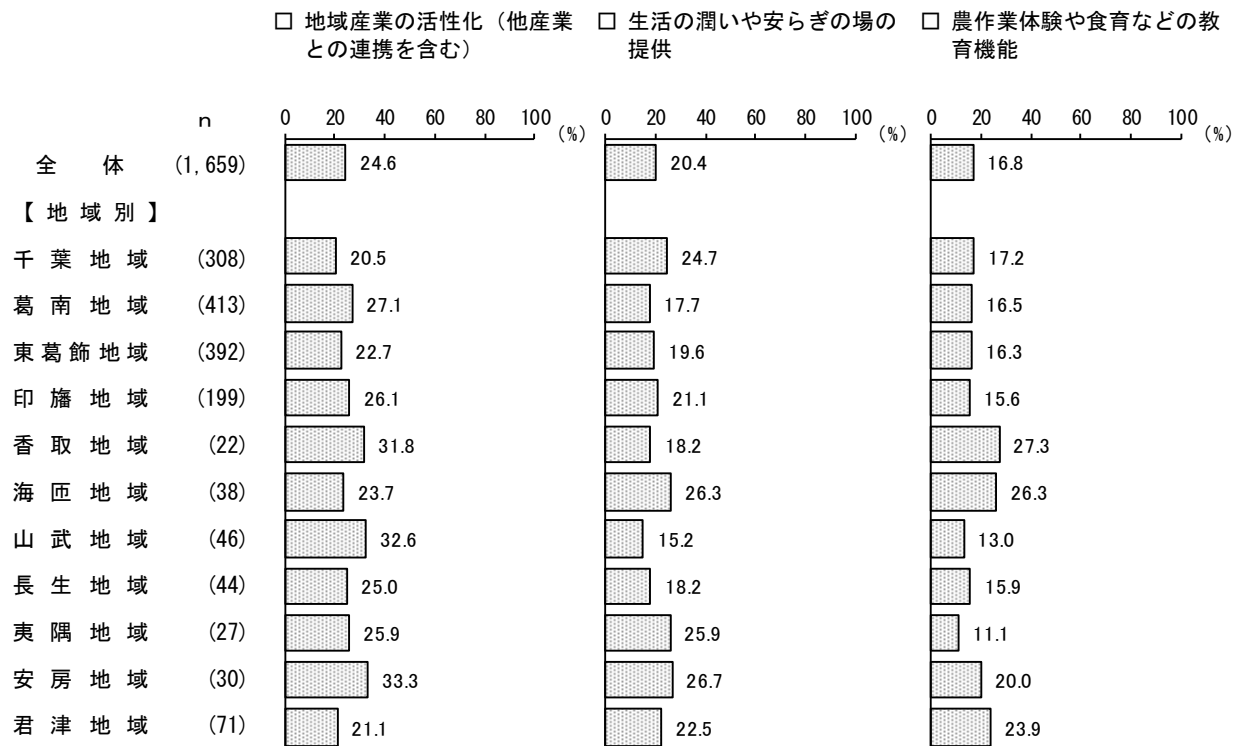
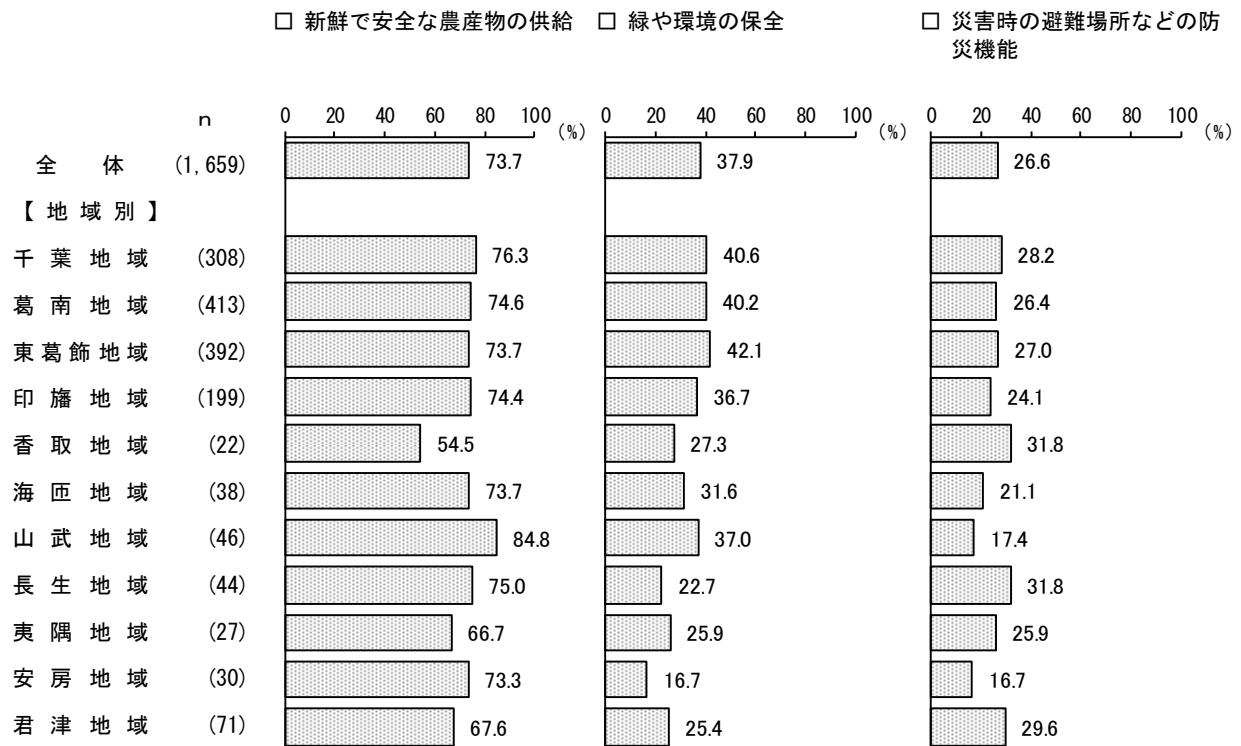
「緑や環境の保全」は男性の70～74歳（48.9%）が約５割で高くなっている。

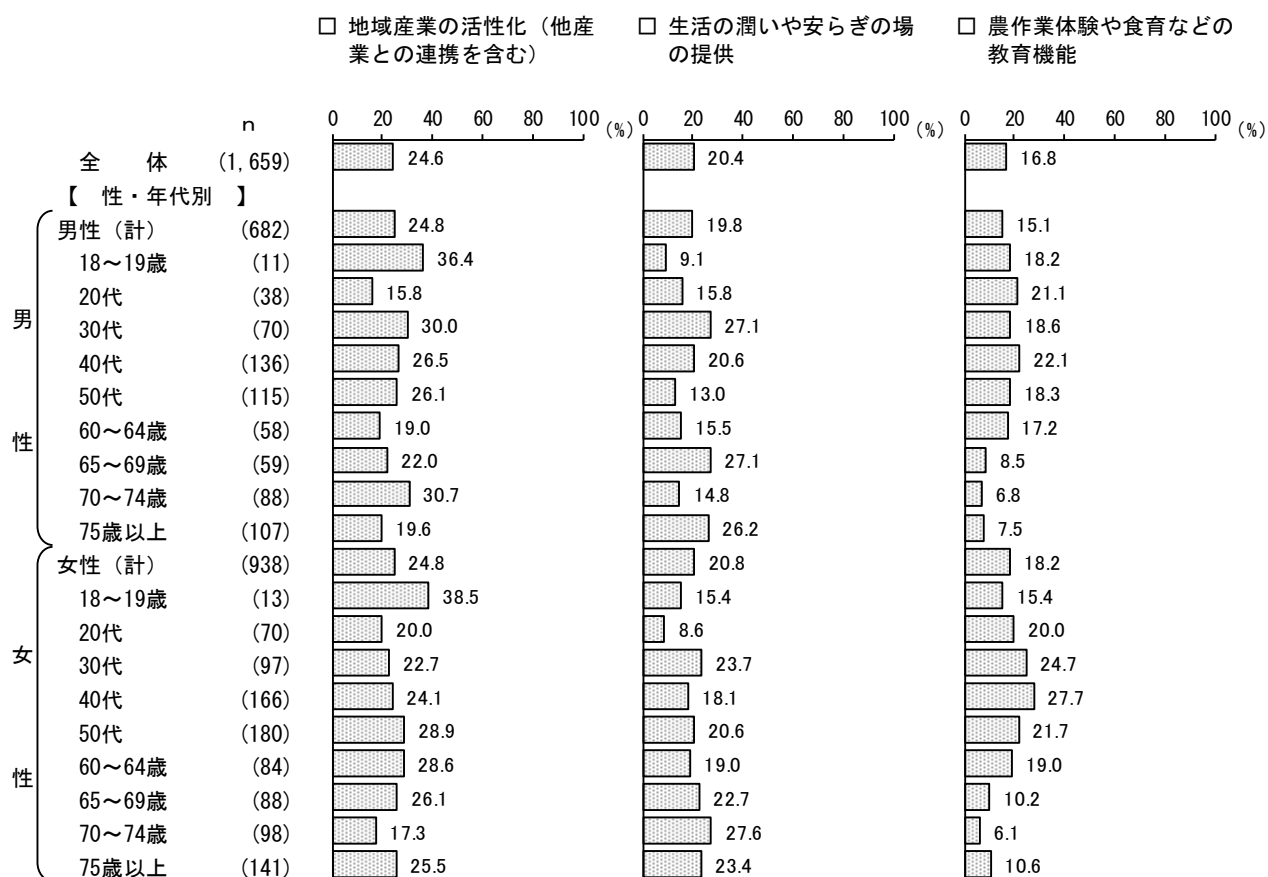
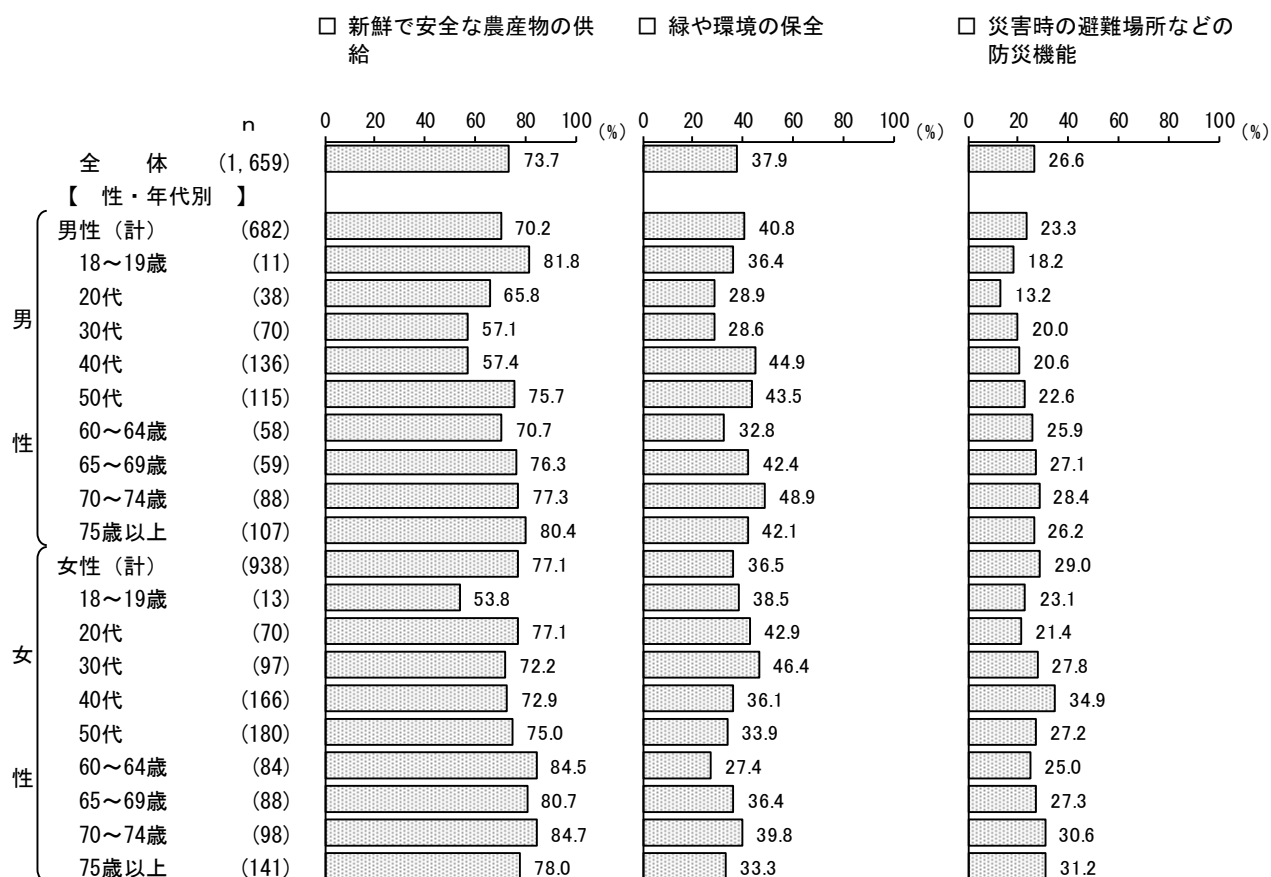
「災害時の避難場所などの防災機能」は女性の40代（34.9%）が３割台半ばで高くなっている。

（図表８－４）

＜図表 8－4＞千葉県都市農業・都市農地に期待する機能や役割（3つまでの複数回答）

／地域別、性・年代別





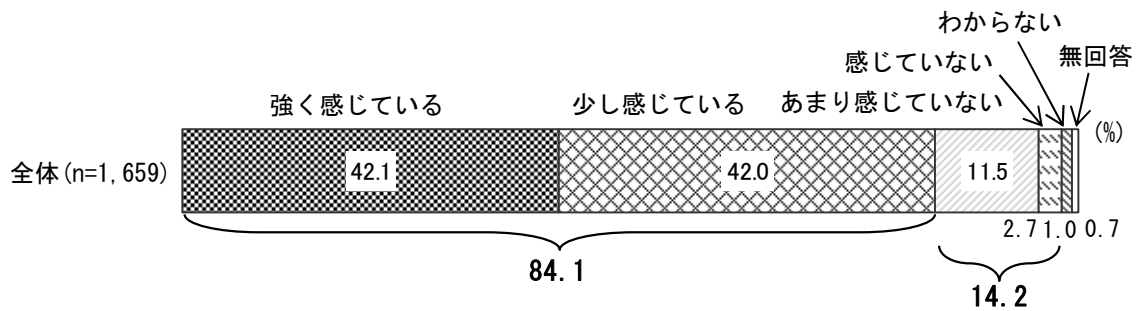
9 防災に関する取組について

（１）大地震や風水害への不安

◇『感じている（計）』が8割台半ば

問35 自分の住んでいる地域で、大地震や風水害が起こるのではないかと不安を感じていますか。（○は1つ）

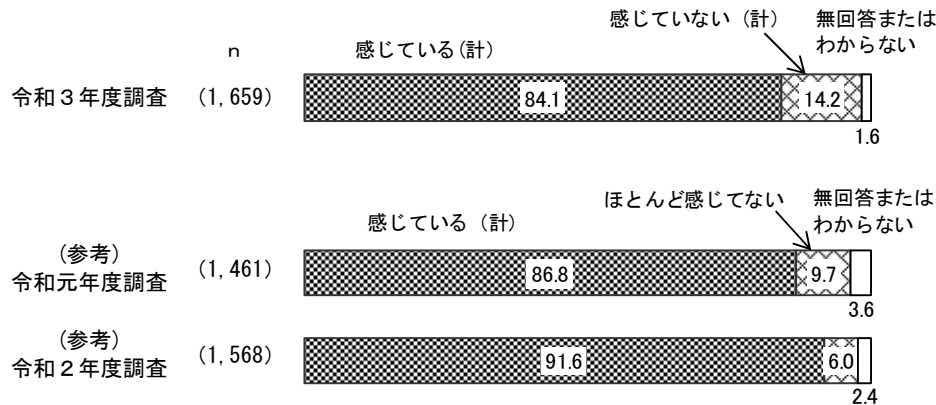
＜図表 9－1＞大地震や風水害への不安



大地震や風水害への不安を聞いたところ、「強く感じている」（42.1％）と「少し感じている」（42.0％）を合わせた『感じている（計）』（84.1％）が8割台半ばとなっている。

一方、「あまり感じていない」（11.5％）と「感じていない」（2.7％）を合わせた『感じていない（計）』（14.2％）が1割台半ばとなっている。（図表 9－1）

〔参考〕令和元年度・2年度の類似の項目による調査結果との比較（単位：％）



※ 令和元年度・2年度調査で、「ほとんど感じていない」は単独項目。

（※）令和元年度調査で、「平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災では、千葉県内でも震度 6 弱を記録し、大きな被害が出ました。また、県外では平成 28 年熊本地震（震度 7 が 2 回発生）や、記録的な大雨や台風により浸水害や土砂災害なども発生しております。あなたは、自分の住んでいる地域で、大地震や風水害が起こるのではないかと不安を感じていますか。（○は 1 つ）」と質問した結果を参考に示した。

（※）令和 2 年度調査で、「平成 23 年の東日本大震災では、千葉県内でも震度 6 弱を記録し、揺れや津波により大きな被害が出ました。さらに、令和元年に発生した房総半島台風等の一連の災害では、浸水害や土砂災害など大きな被害が出ました。あなたは、自分の住んでいる地域で、大地震や風水害が起こるのではないかと不安を感じていますか。（○は 1 つ）」と質問した結果を参考に示した。

【地域別】

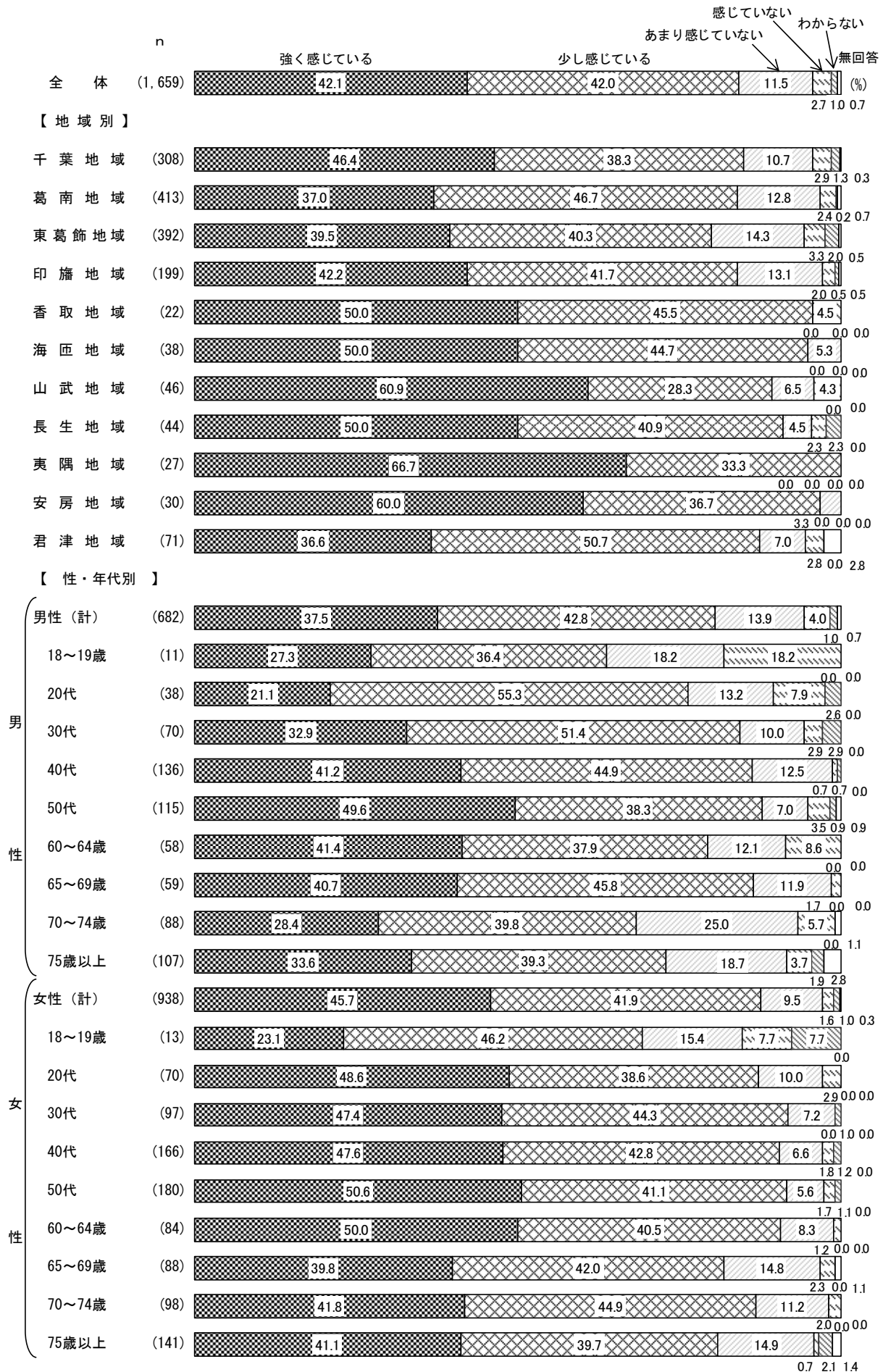
地域別にみると、「強く感じている」は“夷隅地域”（66.7%）が6割台半ば、“山武地域”（60.9%）と“安房地域”（60.0%）が6割で高くなっている。（図表9－2）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『感じている（計）』は女性の30代（91.7%）と50代（91.7%）が9割を超え、女性の60～64歳（90.5%）と40代（90.4%）が9割で高くなっている。

一方、『感じていない（計）』は男性の70～74歳（30.7%）が3割、男性の75歳以上（22.4%）が2割を超えて高くなっている。（図表9－2）

＜図表 9－2＞大地震や風水害への不安／地域別、性・年代別

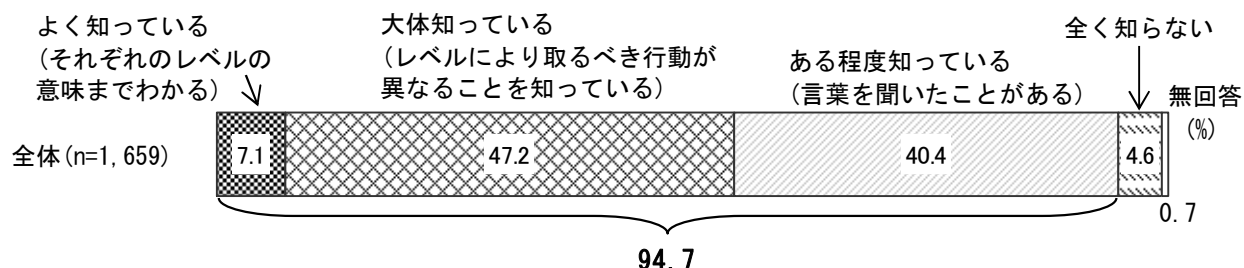


（２）防災情報の警戒レベルの意味・取るべき行動の認知度

◇『知っている（計）』が9割台半ば

問36 災害発生危険度の危険度と、とるべき避難行動を示す各警戒レベルの意味や、その際にとるべき行動について知っていますか。（○は1つ）

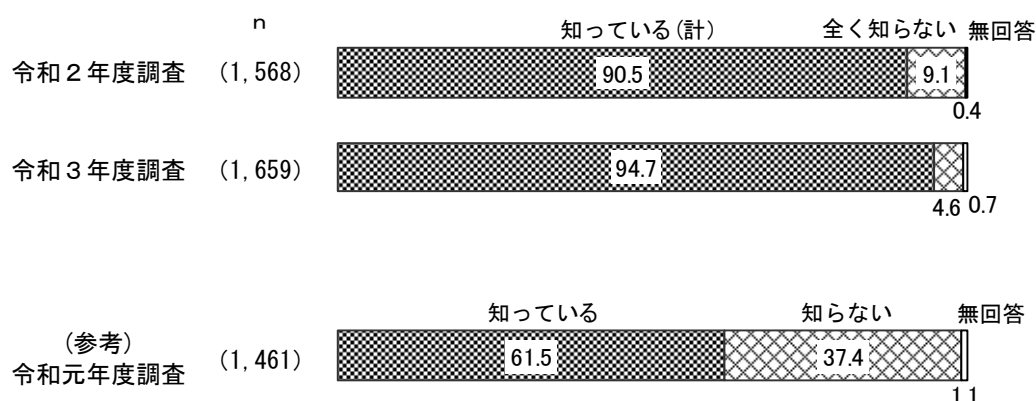
＜図表 9－3＞防災情報の警戒レベルの意味・取るべき行動の認知度



水害・土砂災害の防災情報の伝え方で、各警戒レベルの意味や、その際にとるべき行動についてを知っているか聞いたところ、「よく知っている（それぞれのレベルの意味までわかる）」（7.1%）と「大体知っている（レベルにより取るべき行動が異なることを知っている）」（47.2%）、「ある程度知っている（言葉を聞いたことがある）」（40.4%）の3つを合わせた『知っている（計）』（94.7%）が9割台半ばとなっている。

一方、「全く知らない」（4.6%）が1割未満となっている。（図表 9－3）

〔参考〕令和元年度・2年度の類似の項目による調査結果（単位：％）



（※）令和元年度調査で、「水害・土砂災害の防災情報の伝え方が、レベル3で「高齢者等は避難」、レベル4で「全員避難」といった、5段階の「警戒レベル」を用いる方法に変わりました。あなたは、そのことを知っていますか。（○は1つ）」と質問した結果を参考に示した。

（※）令和2年度調査で、「水害・土砂災害の防災情報の伝え方が、レベル3で「危険な場所から高齢者等は避難」、レベル4で「危険な場所から全員避難」といった、5段階の「警戒レベル」を用いる方法で行われております。あなたは、各警戒レベルの意味や、その際にとるべき行動について知っていますか。（○は1つ）」と質問した結果を参考に示した。

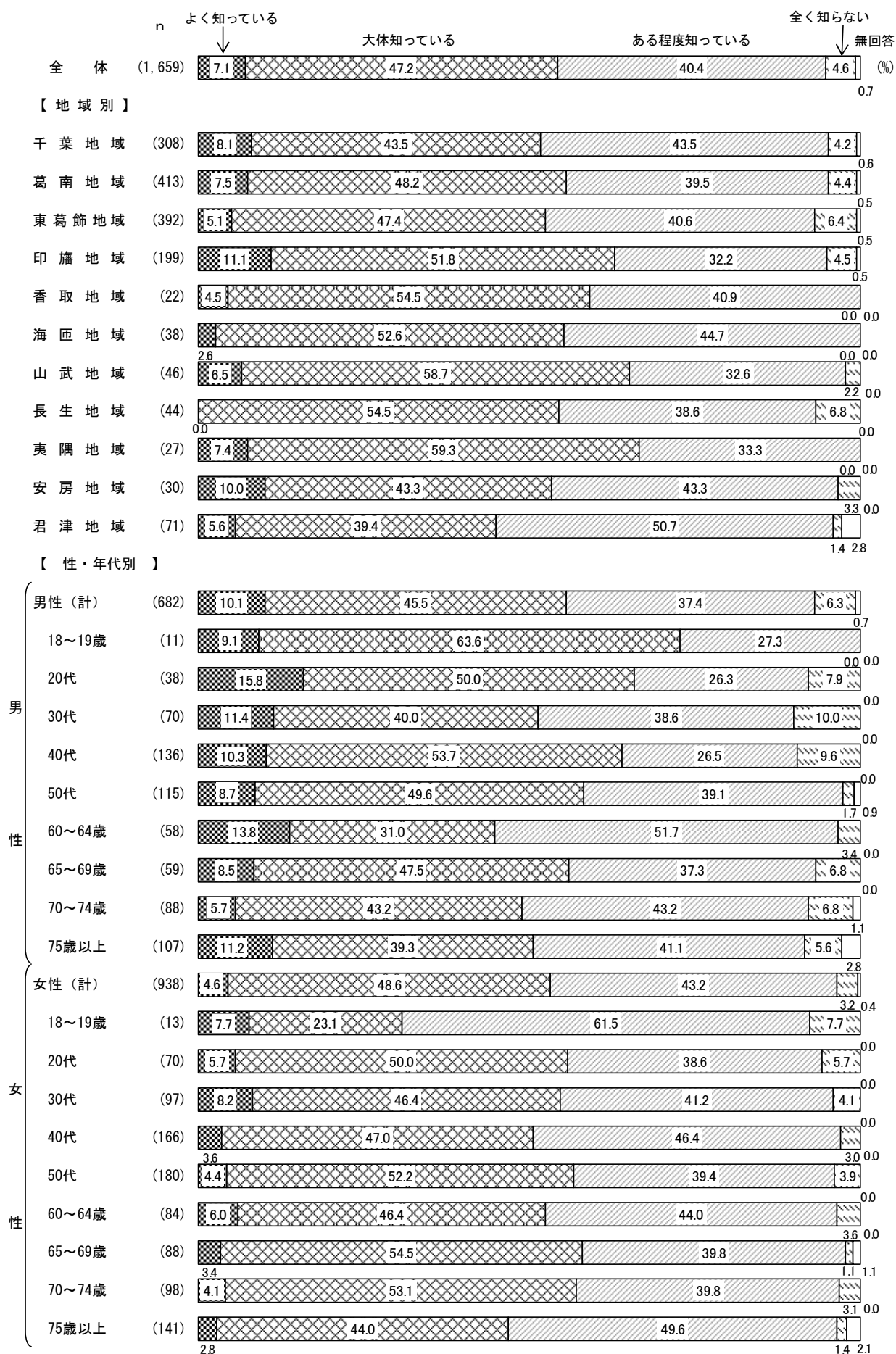
【地域別】

地域別にみると、「よく知っている（それぞれのレベルの意味までわかる）」は“印旛地域”（11.1%）が1割を超えて高くなっている。（図表9－4）

【性・年代別】

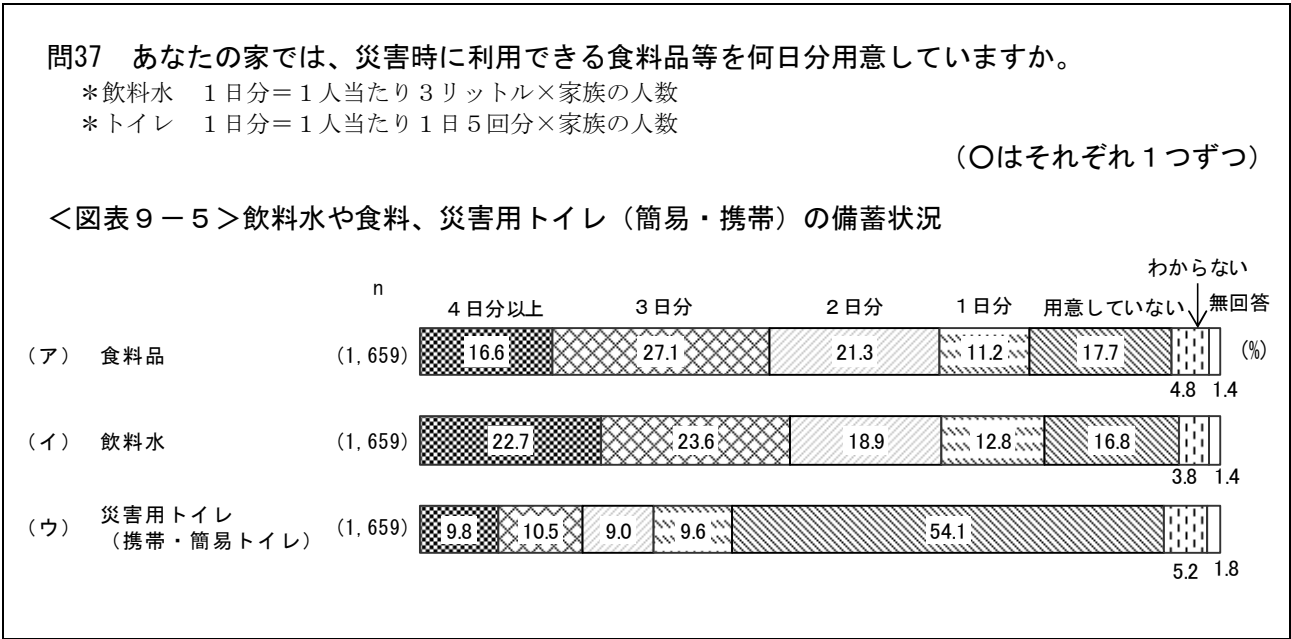
性・年代別にみると、「全く知らない」は男性の30代（10.0%）が1割、男性の40代（9.6%）が約1割で高くなっている。（図表9－4）

＜図表 9－4＞防災情報の警戒レベルの意味・取るべき行動の認知度／地域別、性・年代別



（３）飲料水や食料、災害用トイレ（簡易・携帯）の備蓄状況

◇『備蓄している（計）』が最も高いのは＜飲料水＞で約８割

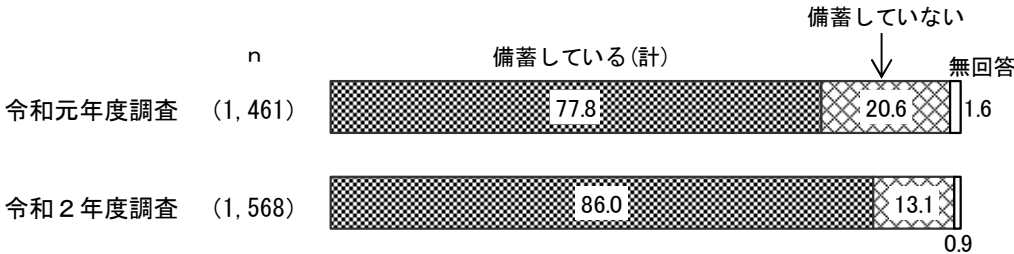


災害時に利用できる食料品等を何日分用意しているか聞いたところ、「4日分以上」、「3日分」、「2日分」、「1日分」の4つを合わせた『備蓄している（計）』が最も高いのは、「(イ) 飲料水」（78.1%）で約8割となっており、以下、「(ア) 食料品」（76.2%）が7割台半ば、「(ウ) 災害用トイレ（携帯・簡易トイレ）」（38.9%）が約4割となっている。

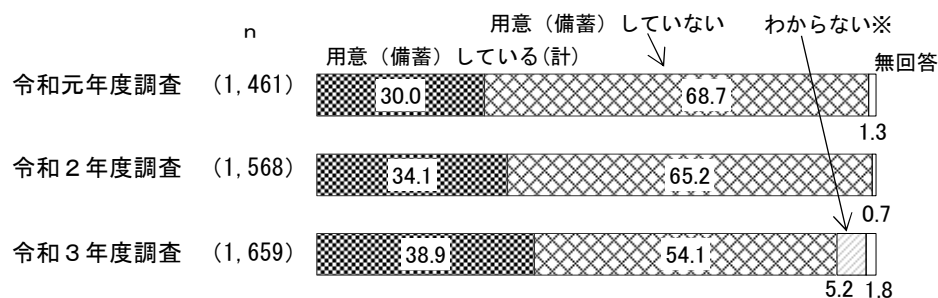
一方、「用意していない」が最も高いのは、「(ウ) 災害用トイレ（携帯・簡易トイレ）」（54.1%）で5割台半ばとなっており、以下、「(ア) 食料品」（17.7%）と、「(イ) 飲料水」（16.8%）が1割台半ばとなっている。（図表9－5）

〔参考〕令和元年度・2年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）

食料品・飲料水



災害用トイレ（携帯・簡易トイレ）



※今回調査からの新たな選択肢

（※）食料品・飲料水は令和2年度調査で、「大規模な災害が発生した場合、避難所に飲料水や食料などの支援物資が届くまで時間がかかることが予測されます。あなたは、災害に備えて、冷蔵庫にあるものを含めて、飲料水や食料をおよそ何日分、備蓄していますか。（○は1つ）」と質問した結果を参考に示した。

（※）災害用トイレ（携帯・簡易トイレ）は令和2年度調査で、「大規模な災害が発生した場合、断水や停電、給排水管の損壊、し尿処理施設の被災により、水洗トイレが使用できなくなることが予想されます。あなたは、災害に備えて、家庭での災害用トイレ（携帯・簡易トイレ）をおよそ何日分、備蓄していますか。（○は1つ）」と質問した結果を参考に示した。

【地域別】

地域別にみると、「(ア) 食料品」、「(イ) 飲料水」は大きな傾向の違いは見られない。

「(ウ) 災害用トイレ（携帯・簡易トイレ）」の「用意していない」は“海匠地域”（68.4%）が約7割で高くなっている。（図表9－6）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「(ア) 食料品」の『備蓄している（計）』は女性の60～64歳（92.9%）が9割を超え、女性の65～69歳（85.2%）、女性の75歳以上（85.1%）と女性の70～74歳（84.7%）が8割台半ばで高くなっている。

一方、「用意していない」は女性の20代（30.0%）が3割、男性の30代（28.6%）が約3割、女性の40代（24.7%）が2割台半ばで高くなっている。

「(イ) 飲料水」の『備蓄している（計）』は女性の70～74歳（91.8%）が9割を超え、女性の75歳以上（86.5%）が8割台半ばで高くなっている。

一方、「用意していない」は女性の20代（25.7%）が2割台半ば、女性の40代（22.9%）が2割を超えて高くなっている。

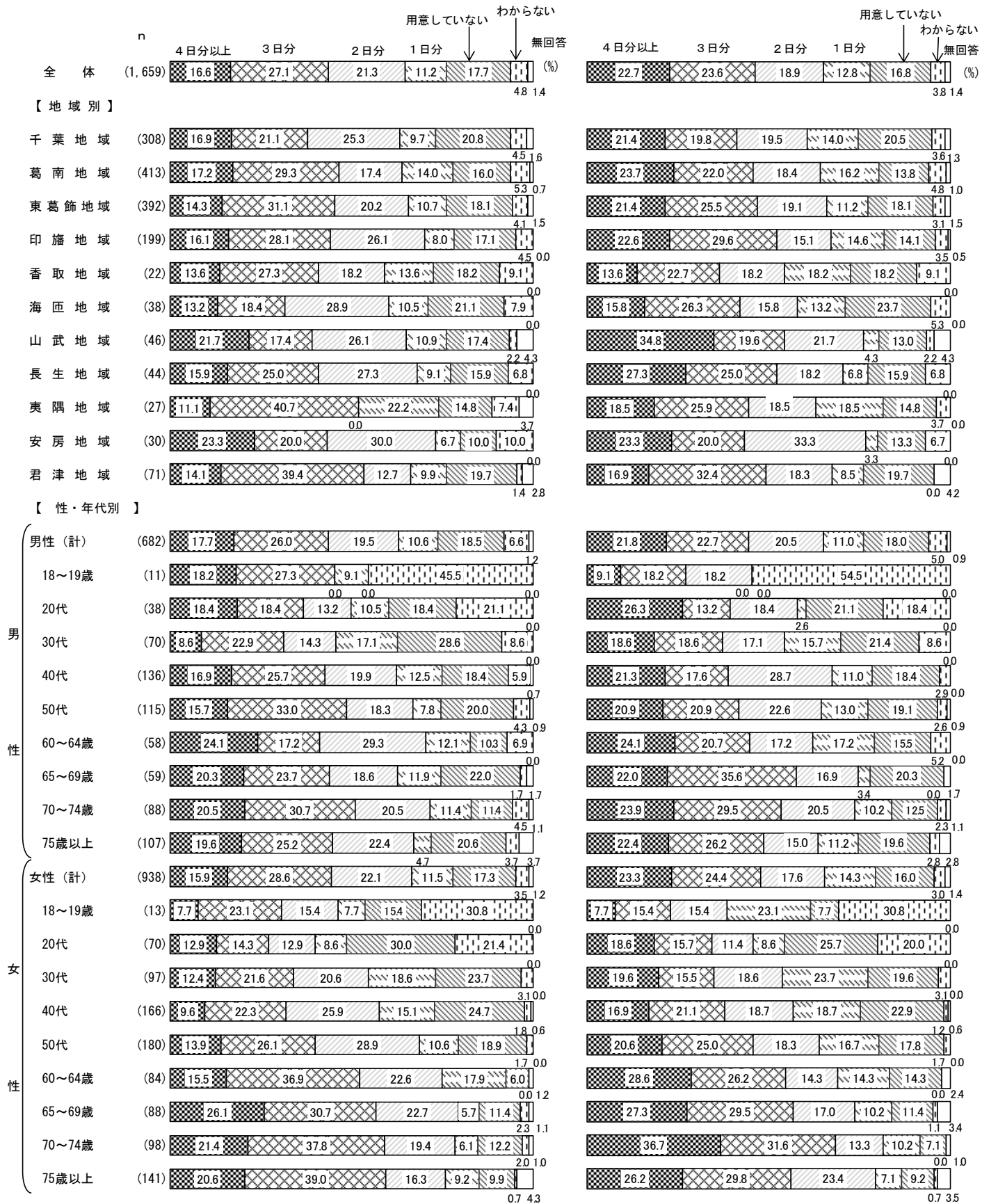
「(ウ) 災害用トイレ（携帯・簡易トイレ）」の『備蓄している（計）』は女性の75歳以上（49.6%）が約5割で高くなっている。

一方、「用意していない」は男性の65～69歳（69.5%）が約7割で高くなっている。（図表9－6）

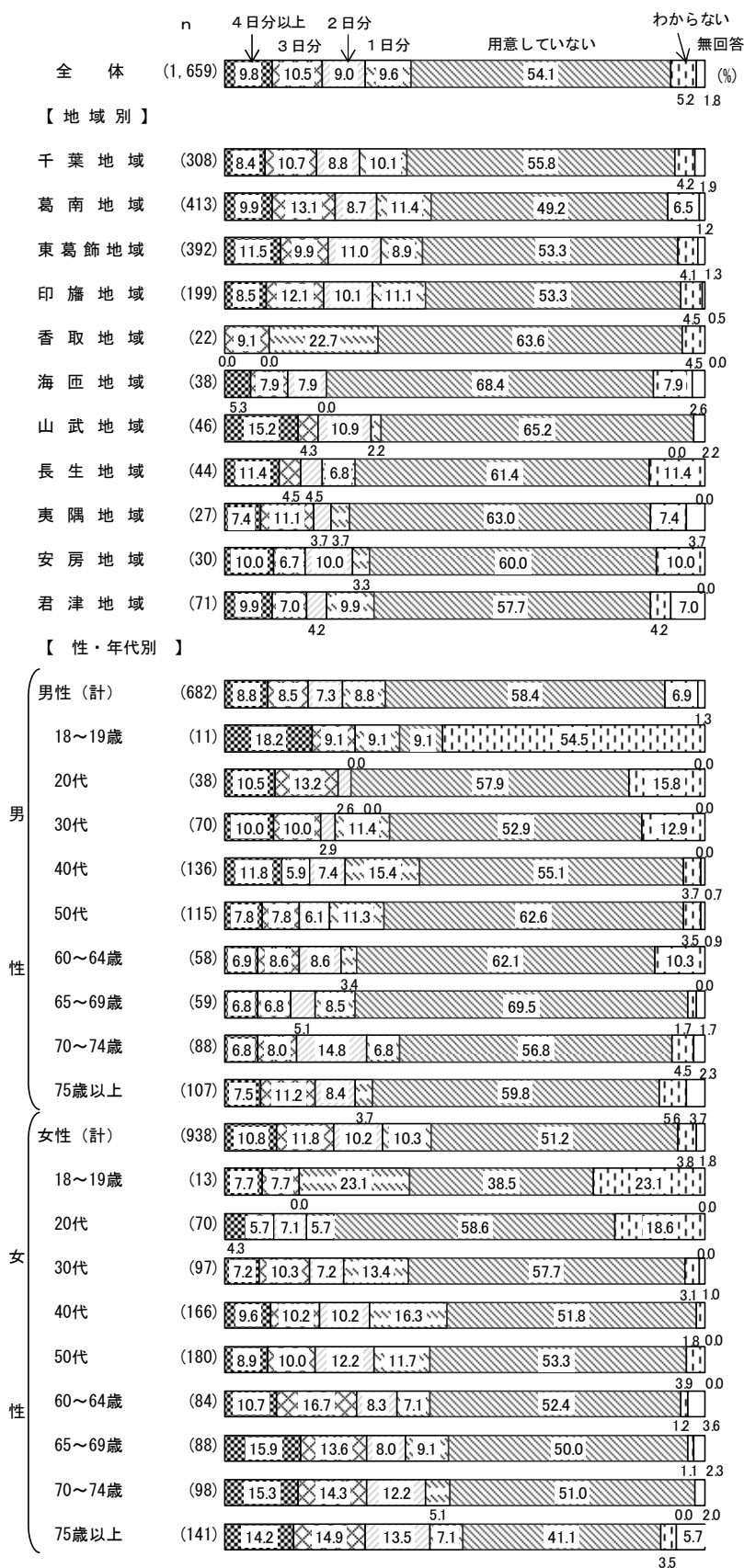
<図表9-6>飲料水や食料、災害用トイレ（簡易・携帯）の備蓄状況／地域別、性・年代別

(ア) 食料品

(イ) 飲料水



（ウ）災害用トイレ（携帯・簡易トイレ）

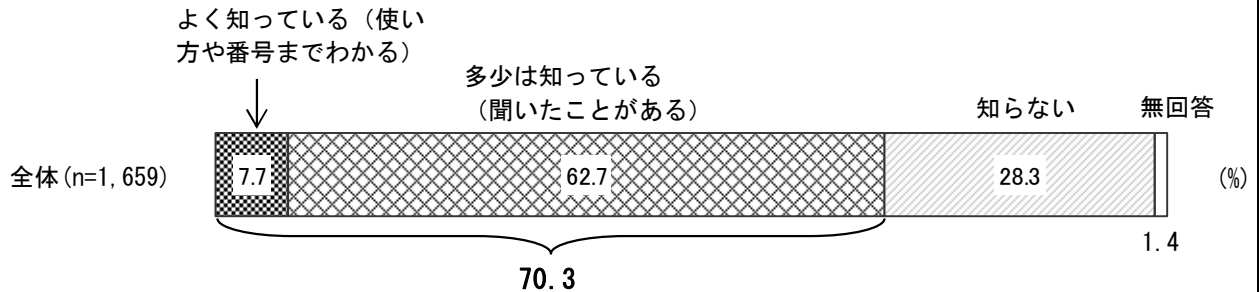


（４）災害伝言板・災害用伝言ダイヤルの認知度

◇『知っている（計）』が7割

問38 災害時に利用できる災害伝言板や災害用伝言ダイヤルを知っていますか。（○は1つ）

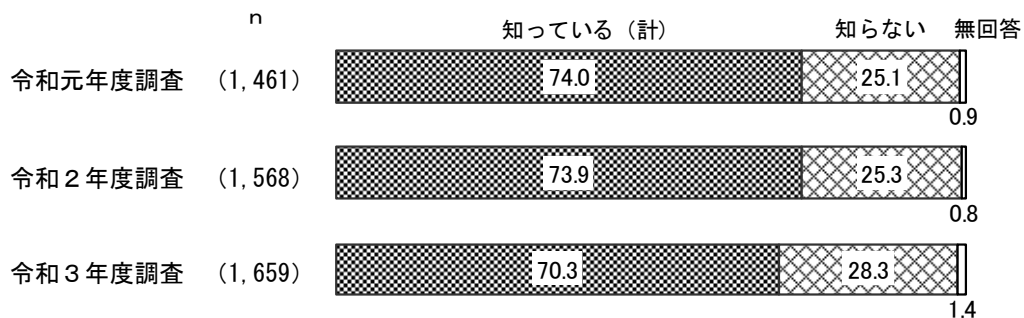
＜図表 9－7＞災害伝言板・災害用伝言ダイヤルの認知度



災害伝言板・災害用伝言ダイヤルを知っているか聞いたところ、「よく知っている（使い方や番号までわかる）」(7.7%)と「多少は知っている（聞いたことがある）」(62.7%)を合わせた『知っている（計）』(70.3%)が7割となっている。

一方、「知らない」(28.3%)が約3割となっている。(図表 9－7)

〔参考〕令和元年度・2年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



（※）令和元年度・2年度調査で、「固定電話や携帯電話（音声及びメール）は、災害が発生した際には利用が急増し、平常時のように使用できなくなります。あなたは、災害時に利用できる災害伝言板や災害用伝言ダイヤルを知っていますか。（○は1つ）」と質問した結果を参考に示した。

【地域別】

地域別にみると、『知っている（計）』は“安房地域” (86.7%) が8割台半ばで高くなっている。

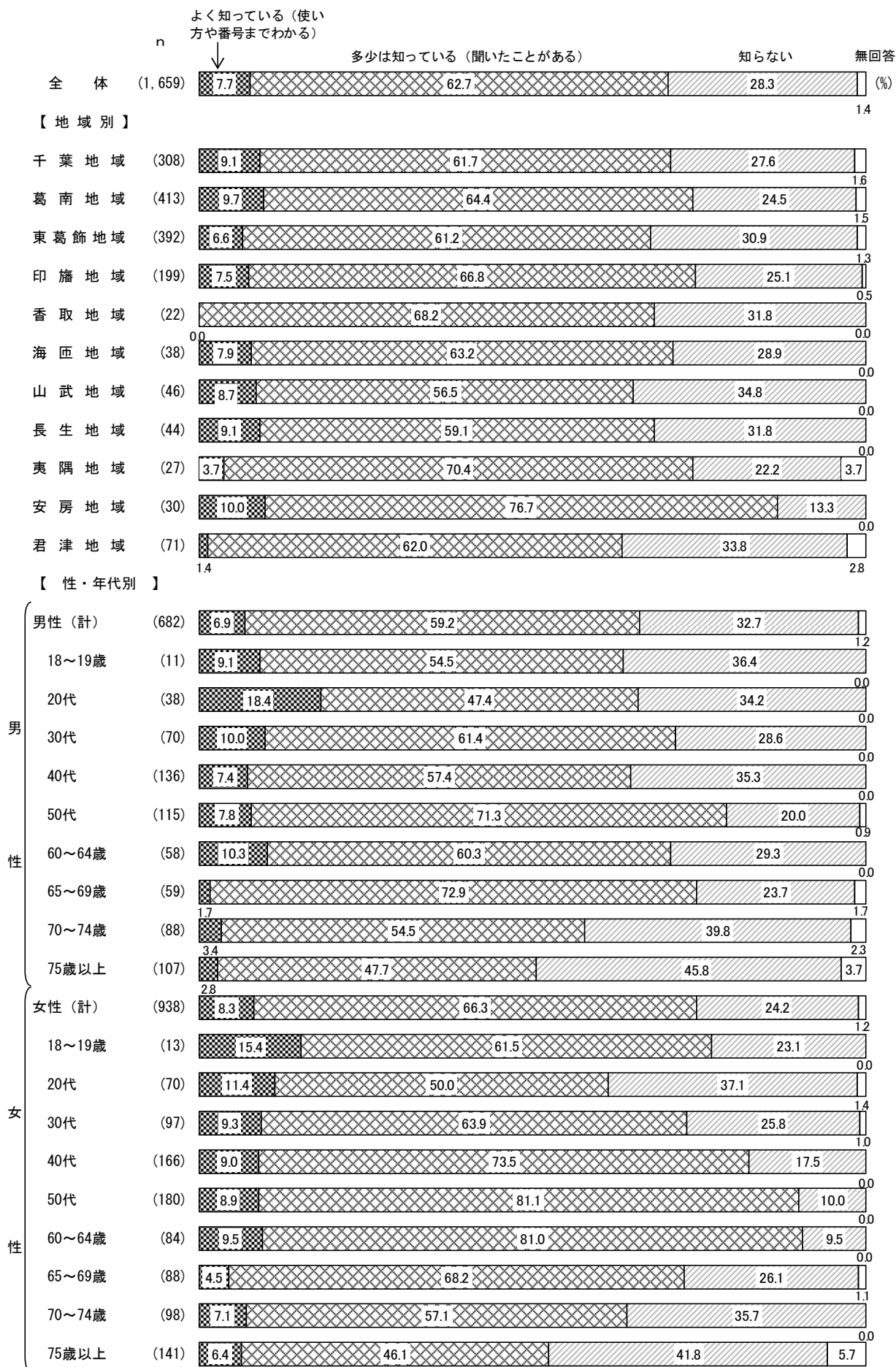
(図表 9－8)

【性・年代別】

性・年代別にみると、『知っている（計）』は女性の60～64歳 (90.5%) と50代 (90.0%) が9割、女性の40代 (82.5%) が8割を超えて高くなっている。

一方、「知らない」は男性の75歳以上 (45.8%) が4割台半ば、女性の75歳以上 (41.8%) が4割を超えて高くなっている。(図表 9－8)

＜図表 9－8＞災害伝言板・災害用伝言ダイヤルの認知度／地域別、性・年代別



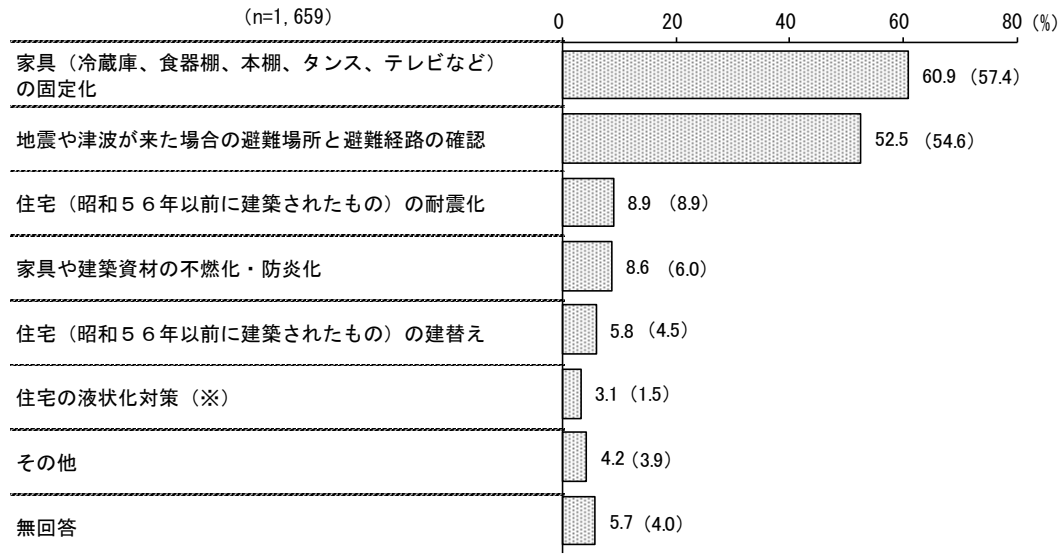
（５）地震の被害を防ぐための対策

◇「家具（冷蔵庫、食器棚、本棚、タンス、テレビなど）の固定化」が６割

問39 地震による被害を防ぐため、どのような対策を行っていますか（行う予定ですか）。

（〇はいくつでも）

＜図表 9－9＞地震の被害を防ぐための対策（複数回答）



注）（ ）の数字は令和2年度の同様の項目による調査結果 n=1,568

（※）令和2年度調査では、「液状化対策」

地震による被害を防ぐため、どのような対策を行っている（行う予定）か聞いたところ、「家具（冷蔵庫、食器棚、本棚、タンス、テレビなど）の固定化」（60.9%）が6割で最も高く、以下、「地震や津波が来た場合の避難場所と避難経路の確認」（52.5%）、「住宅（昭和56年以前に建築されたもの）の耐震化」（8.9%）が続く。（図表 9－9）

【地域別】

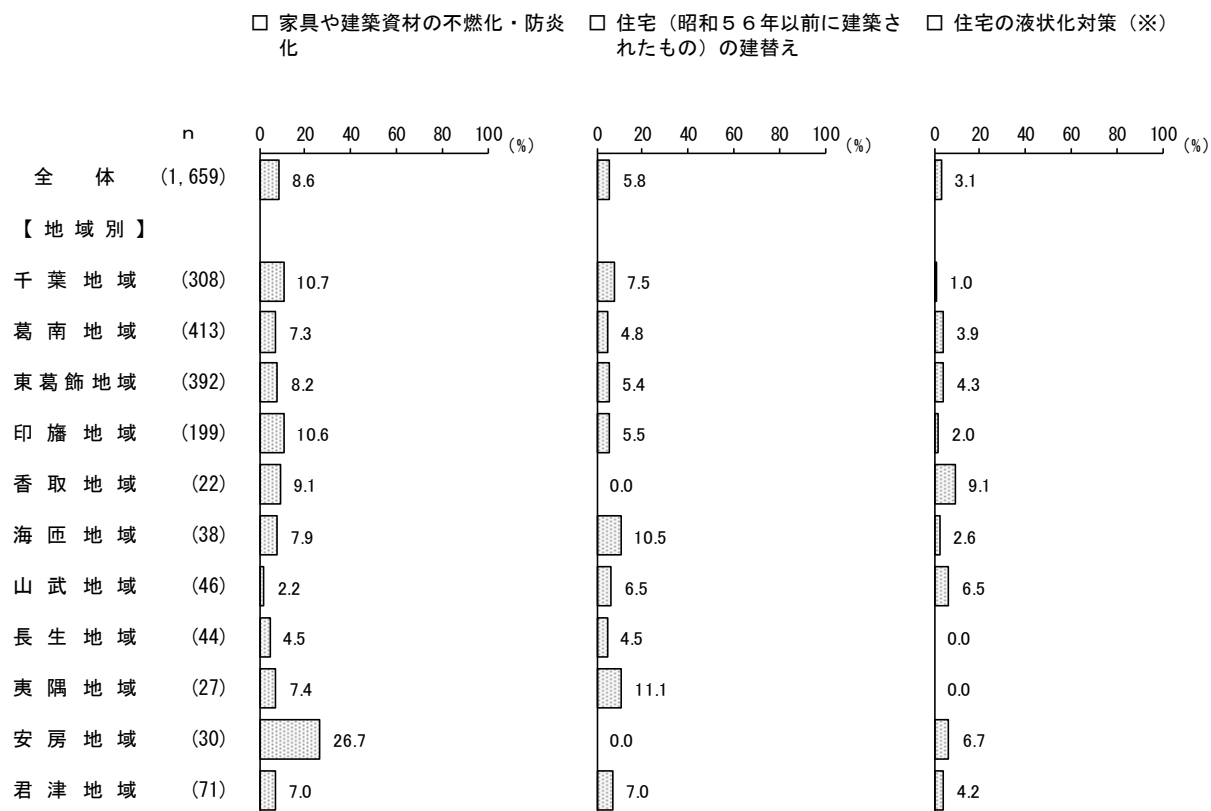
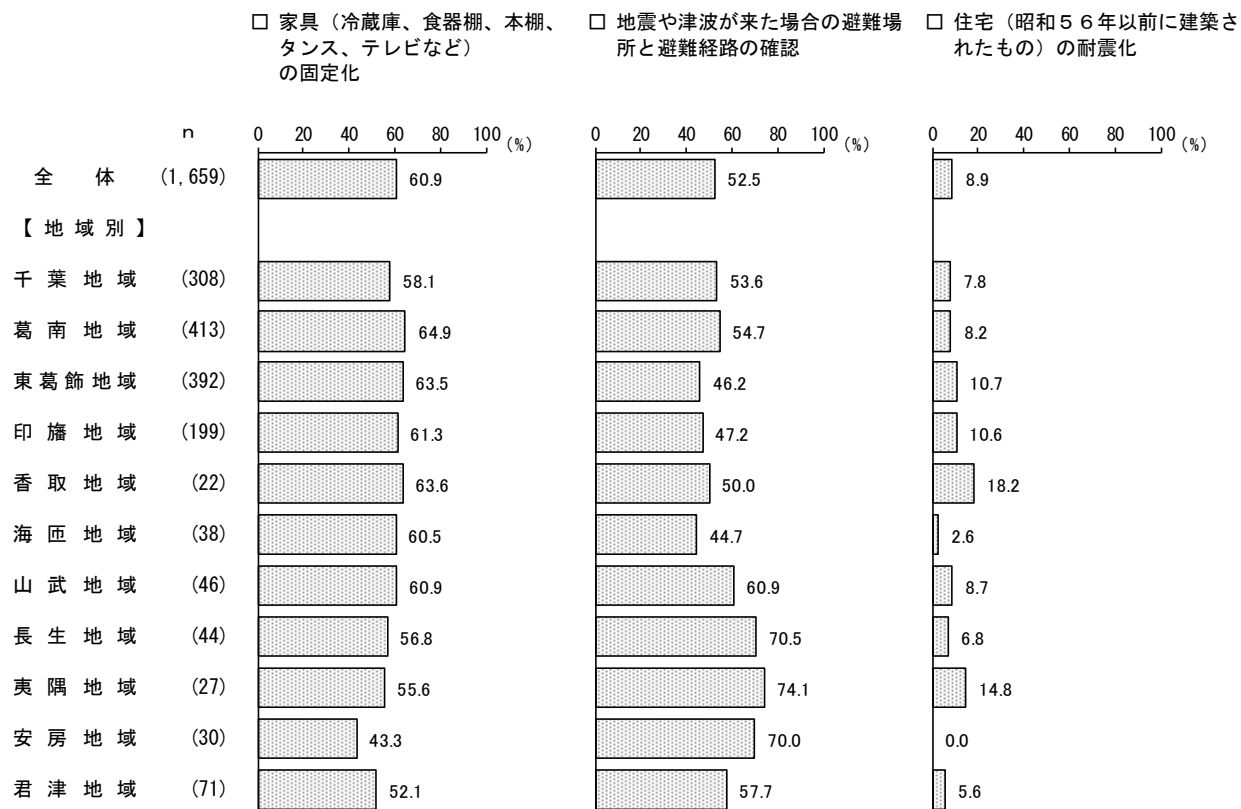
地域別にみると、「地震や津波が来た場合の避難場所と避難経路の確認」は“夷隅地域”（74.1%）が7割台半ば、“長生地域”（70.5%）と“安房地域”（70.0%）が7割で高くなっている。

（図表 9－10）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「家具（冷蔵庫、食器棚、本棚、タンス、テレビなど）の固定化」は男性の20代（71.1%）が7割を超え、男性の50代（70.4%）と女性の60～64歳（70.2%）が7割で高くなっている。（図表 9－10）

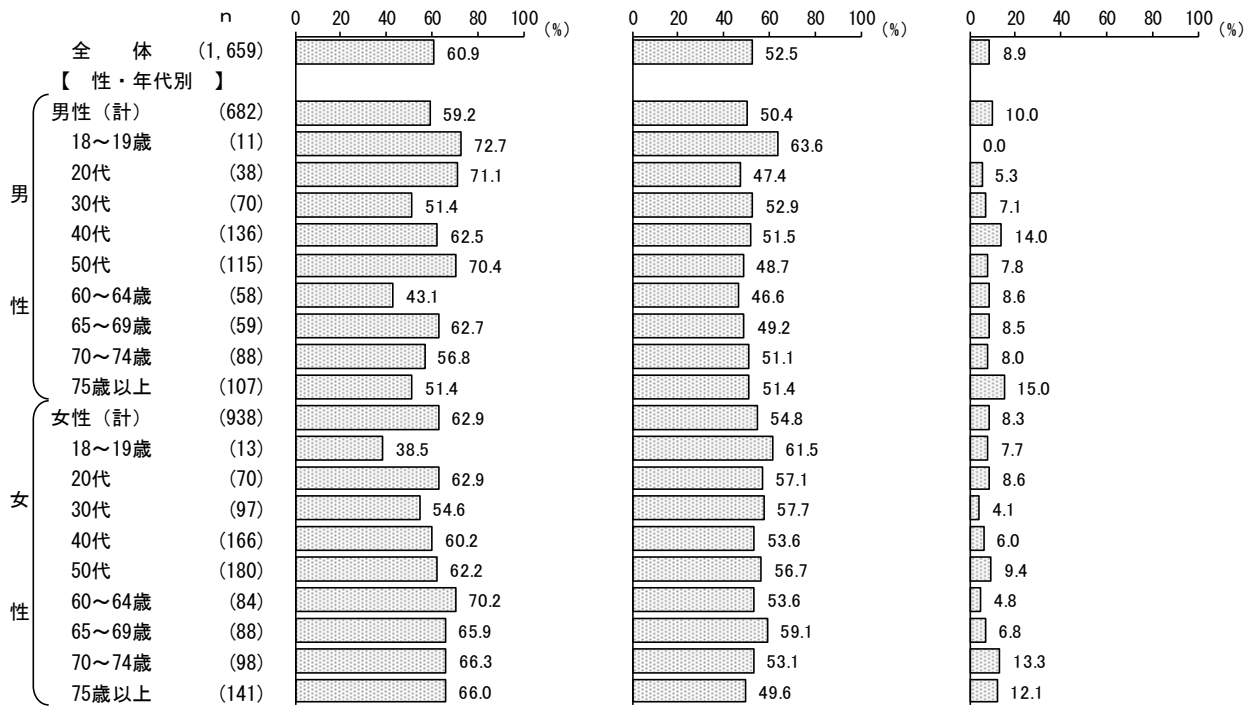
＜図表 9－10＞地震の被害を防ぐための対策（複数回答）／地域別、性・年代別



□ 家具（冷蔵庫、食器棚、本棚、タンス、テレビなど）の固定化

□ 地震や津波が来た場合の避難場所と避難経路の確認

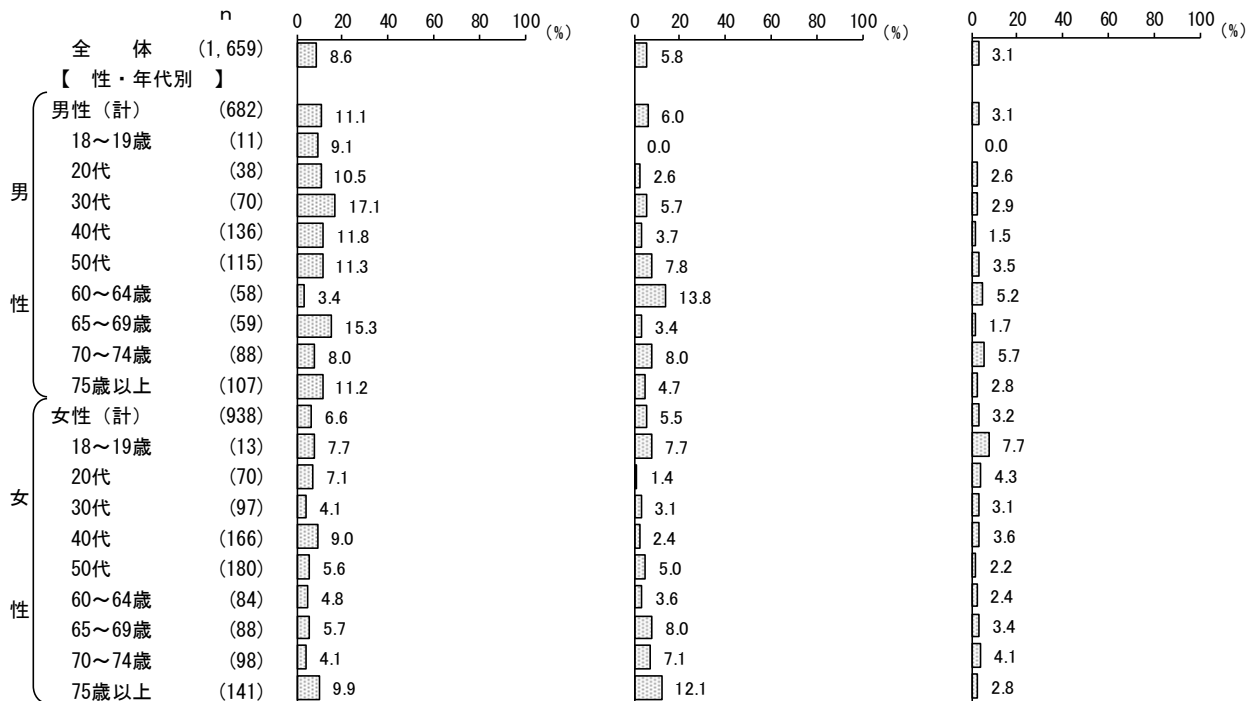
□ 住宅（昭和56年以前に建築されたもの）の耐震化



□ 家具や建築資材の不燃化・防炎化

□ 住宅（昭和56年以前に建築されたもの）の建替え

□ 住宅の液状化対策（※）



10 男女共同参画について

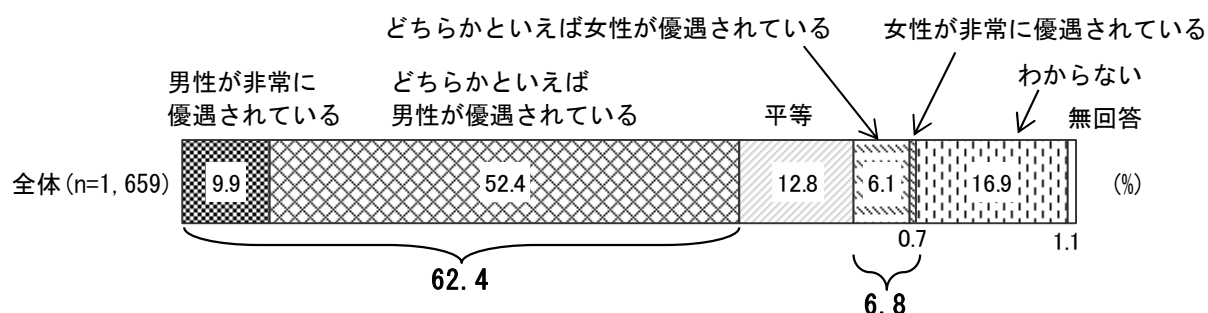
（１）社会全体での男女の地位の平等感

◇『男性が優遇されている（計）』が６割を超える

問40 社会全体※で男女の地位は平等になっていると思いますか。（○は１つ）

※ 社会全体とは、家庭、職場、学校教育の場、政治の場、法律や制度上、社会通念・慣習、地域活動の場等のあらゆる分野を想定しています。

<図表10－１>社会全体での男女の地位の平等感



社会全体で男女の地位は平等になっていると思うか聞いたところ、「男性が非常に優遇されている」（9.9％）と「どちらかといえば男性が優遇されている」（52.4％）を合わせた『男性が優遇されている（計）』（62.4％）が６割を超えている。

一方、「どちらかといえば女性が優遇されている」（6.1％）と「女性が非常に優遇されている」（0.7％）を合わせた『女性が優遇されている（計）』（6.8％）は１割未満となっている。

「平等」（12.8％）は１割を超えている。（図表10－１）

【地域別】

地域別にみると、大きな傾向の違いはみられなかった。（図表10－２）

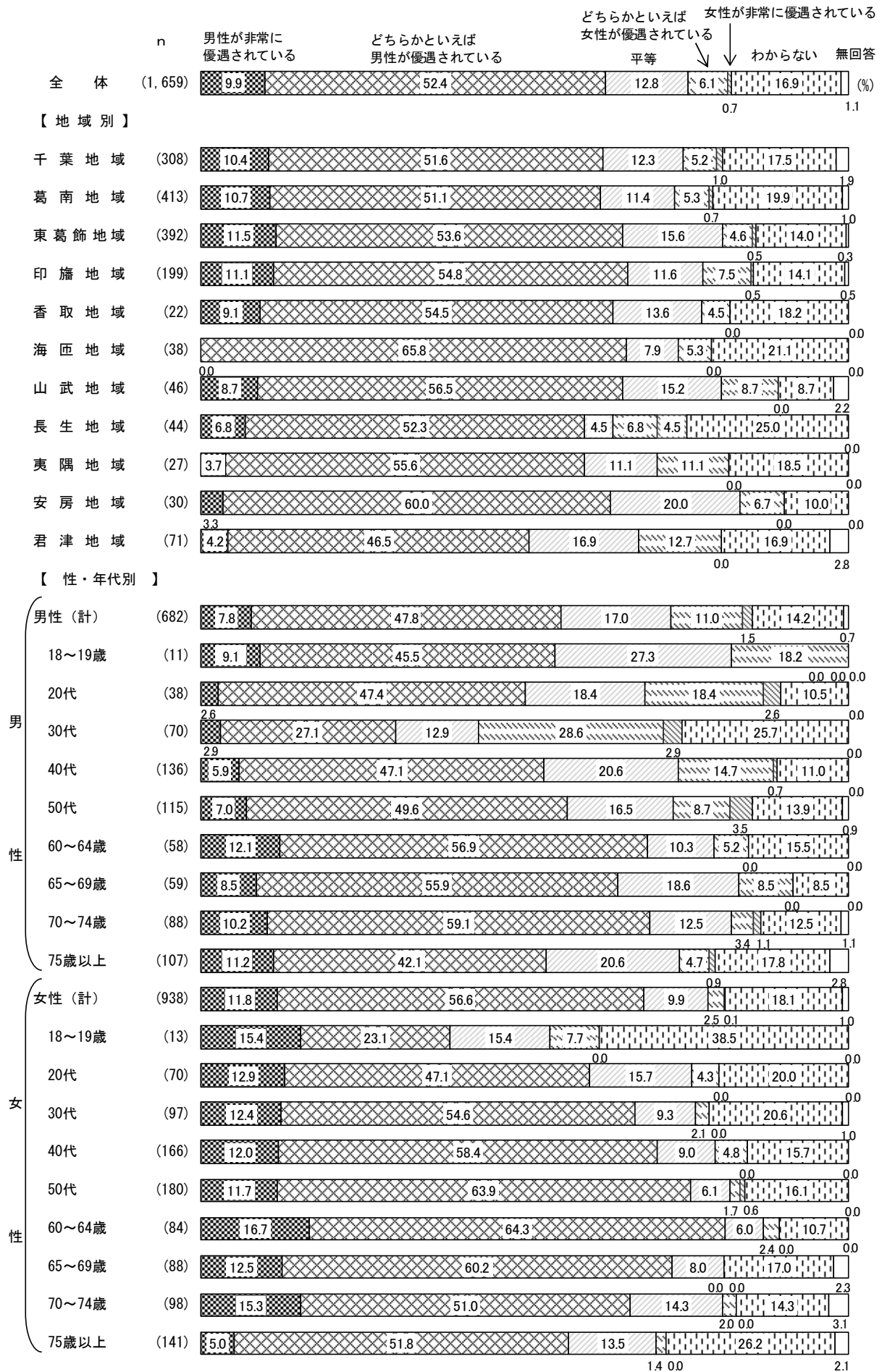
【性・年代別】

性・年代別にみると、『男性が優遇されている（計）』は女性でその割合が高い傾向にあり、その中でも、女性の60～64歳（81.0％）が８割を超え、女性の50代（75.6％）が７割台半ば、女性の65～69歳（72.7％）が７割を超え、女性の40代（70.5％）が７割で高くなっている。

一方、『女性が優遇されている（計）』は男性の30代（31.4％）が３割を超え、男性の20代（21.1％）が２割を超えて高くなっている。

「平等」は男性の40代と75歳以上（20.6％）が２割で高くなっている。（図表10－２）

＜図表 10-2＞社会全体での男女の地位の平等感／地域別、性・年代別

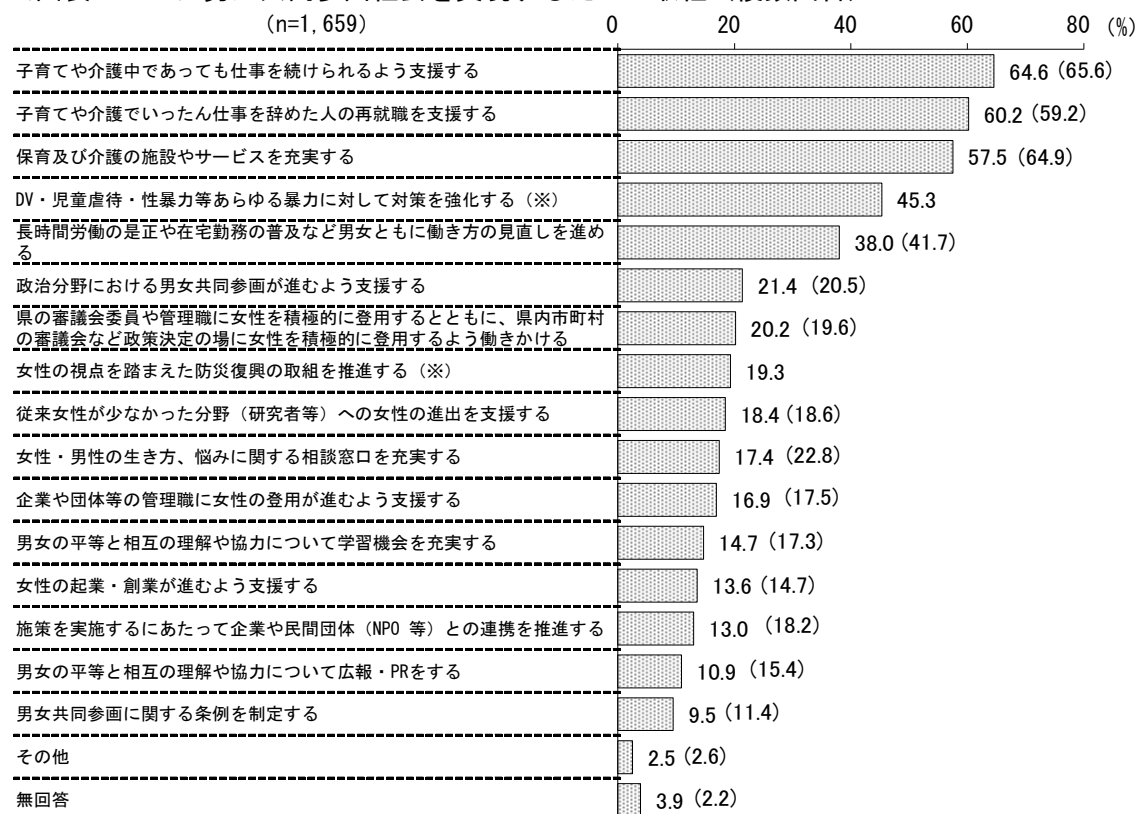


（２）男女共同参画社会を実現するための取組

◇「子育てや介護中であっても仕事を続けられるよう支援する」が６割台半ば

問41 男女共同参画社会を実現するための様々な取組のなかで、今後、県はどのようなことにより力を入れるべきと考えますか。（○はいくつでも）

<図表10－3> 男女共同参画社会を実現するための取組（複数回答）



注）（ ）の数字は令和2年度の同様の項目による調査結果 n=1,568

（※）今回調査からの新規項目

男女共同参画社会を実現するために今後県が力を入れるべき取組を聞いたところ、「子育てや介護中であっても仕事を続けられるよう支援する」（64.6%）が6割台半ばで最も高く、以下、「子育てや介護でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」（60.2%）、「保育及び介護の施設やサービスを充実する」（57.5%）が続く。（図表10－3）

【地域別】

地域別にみると、大きな傾向の違いはみられない。（図表10－4）

【性・年代別】

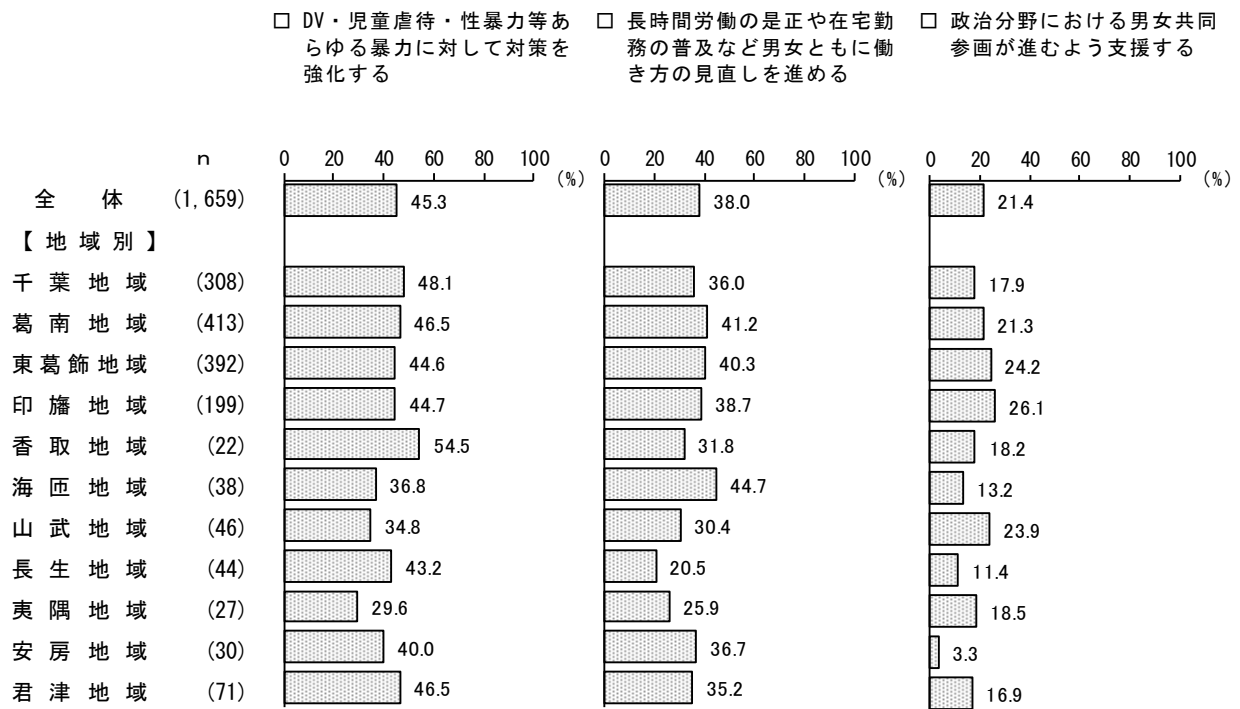
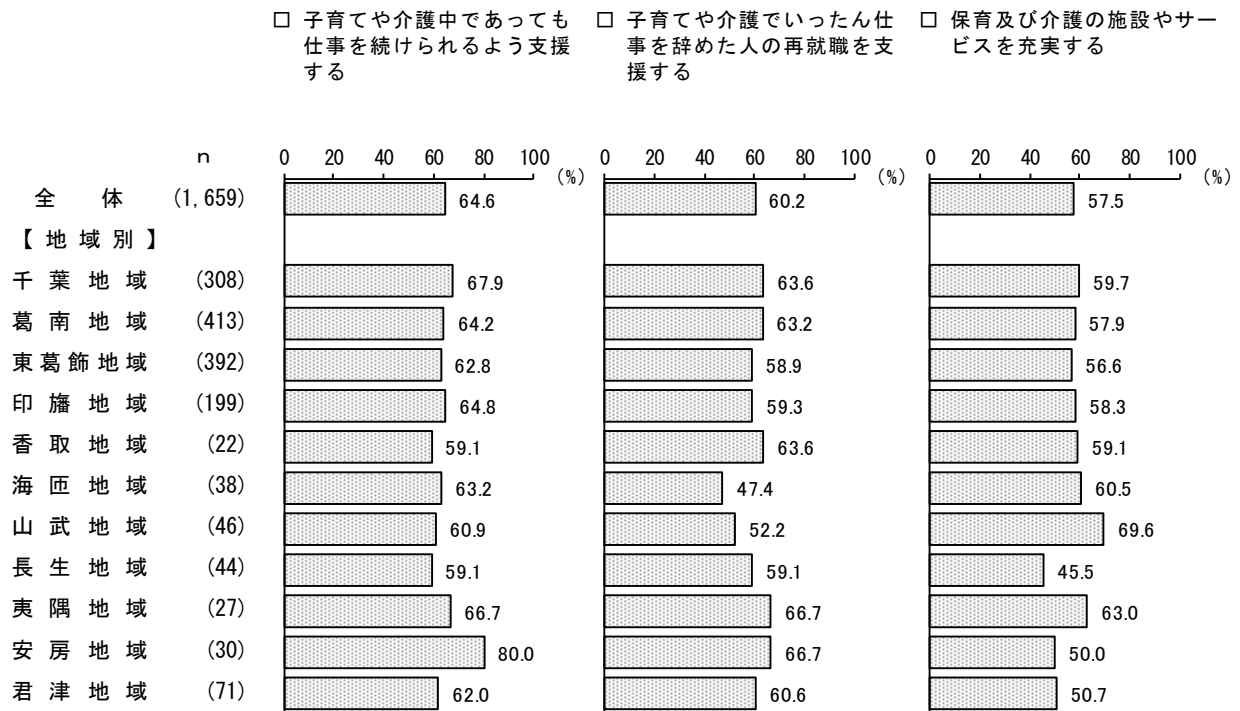
性・年代別にみると、「子育てや介護中であっても仕事を続けられるよう支援する」は女性の65～69歳（70.5%）が7割で高くなっている。

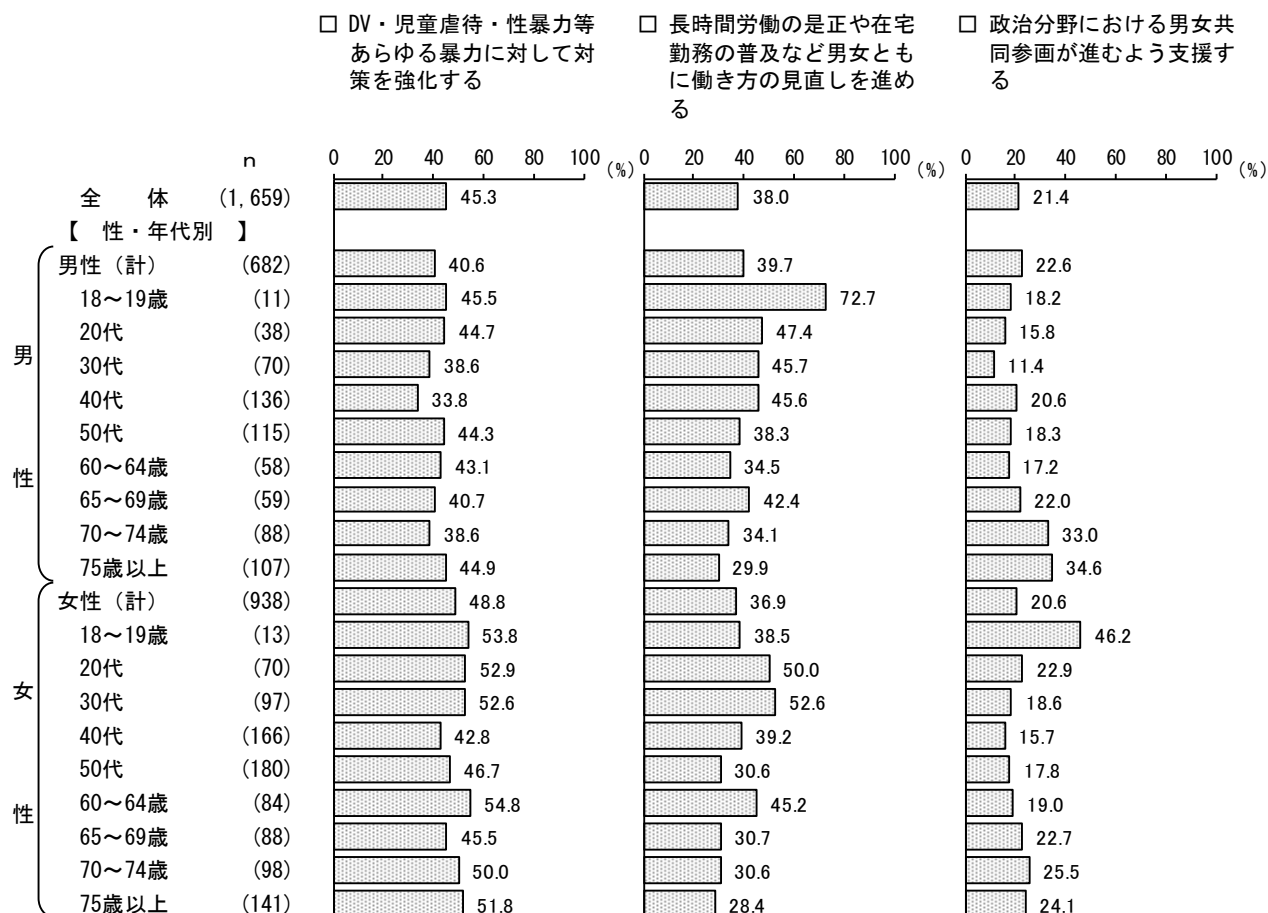
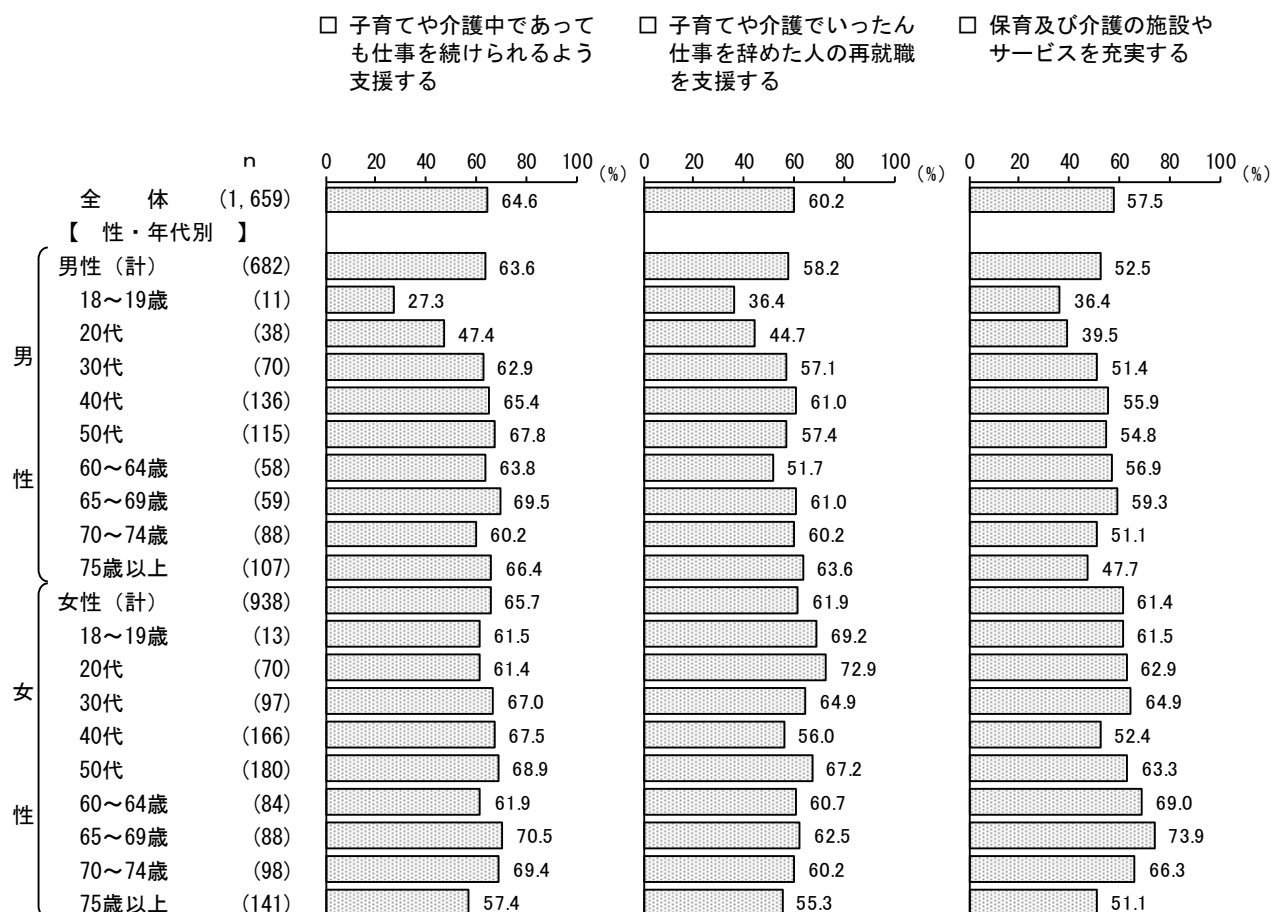
「子育てや介護でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」は女性の20代（72.9%）が7割を超えて高くなっている。

「保育及び介護の施設やサービスを充実する」は女性の65～69歳（73.9%）が7割台半ば、女性の60～64歳（69.0%）が約7割で高くなっている。

「長時間労働の是正や在宅勤務の普及など男女ともに働き方の見直しを進める」は女性の30代（52.6%）が5割を超え、20代（50.0%）が5割で高くなっている。（図表10－4）

<図表10－4>男女共同参画社会を実現するための取組（複数回答）／地域別、性・年代別（上位6項目）





11 S D G s 等について

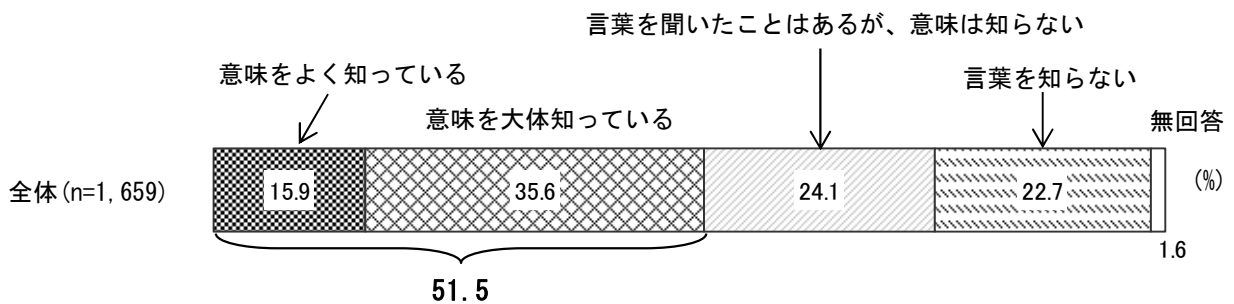
（１）S D G s の言葉の認知度

◇『意味を知っている（計）』が５割を超える

問42 あなたは、S D G s※の言葉の意味を知っていましたか。（○は１つ）

※ S D G s（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標）とは、2015 年 9 月の国連サミットで採択された 2030 年を達成年限とする世界共通の目標です。経済・社会・環境の三側面の調和がとれた社会を目指す目標として、17 のゴールから構成され、「誰一人取り残さない」という理念を掲げています。

＜図表11－１＞S D G s の言葉の認知度



S D G s の言葉の意味を知っているか聞いたところ、「意味をよく知っている」（15.9％）と「意味を大体知っている」（35.6％）を合わせた『意味を知っている（計）』（51.5％）が５割を超えている。

一方、「言葉を聞いたことはあるが、意味は知らない」（24.1％）が２割台半ば、「言葉を知らない」（22.7％）が２割を超えている。（図表11－１）

【地域別】

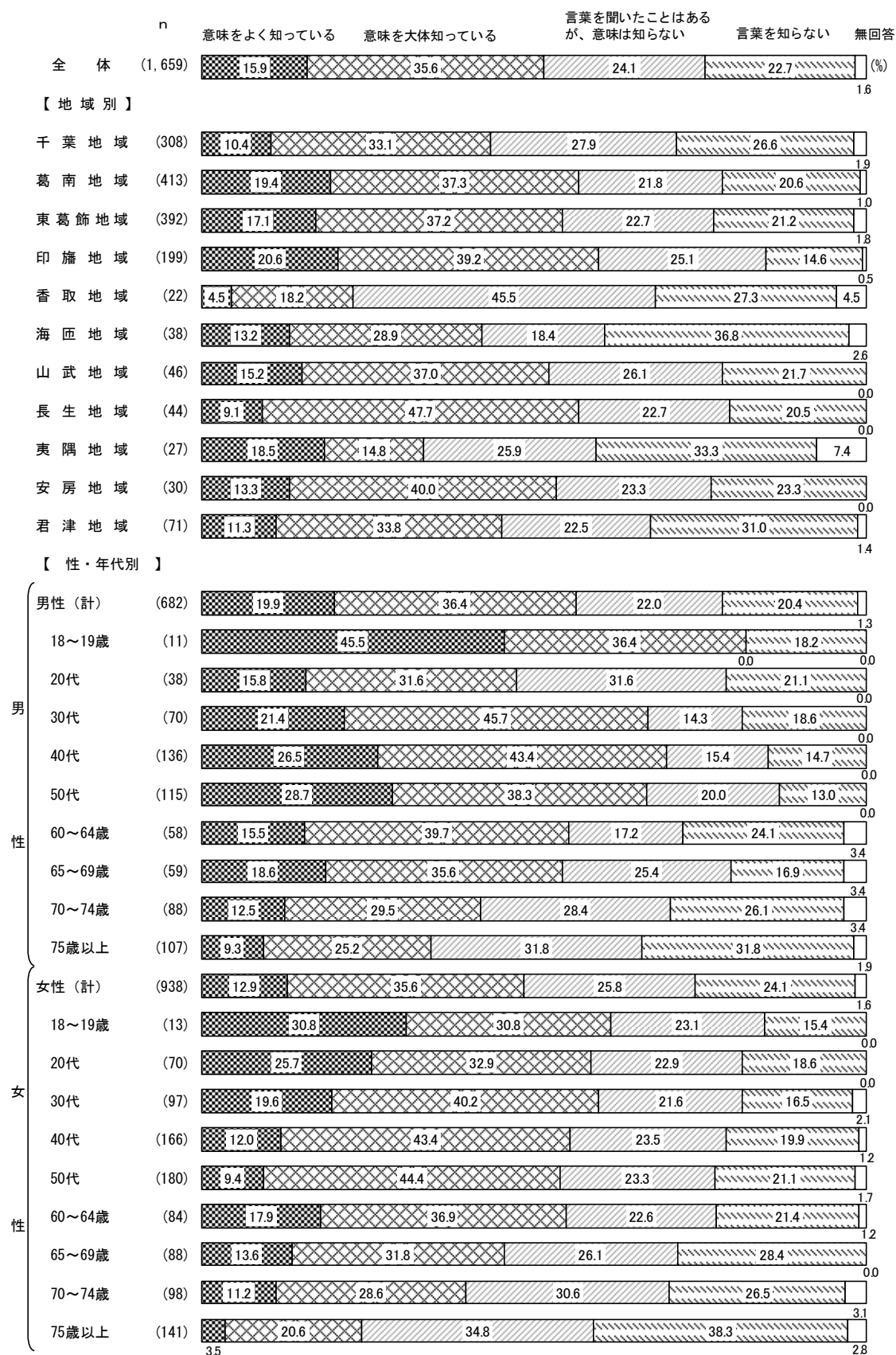
地域別にみると、『意味を知っている（計）』は“印旛地域”（59.8％）が約６割、“長生地域”（56.8％）と“葛南地域”（56.7％）が５割台半ばで高くなっている。

一方、『言葉を知らない』は“海匝地域”（36.8％）が３割台半ばで高くなっている。（図表11－２）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『意味を知っている（計）』は男女とも年代が低いほどその割合が概ね高い傾向にあり、特に男性の40代（69.6％）、男性の30代（67.1％）と50代（67.0％）が約６割で高くなっている。（図表11－２）

＜図表 11－2＞SDGs の言葉の認知度／地域別、性・年代別



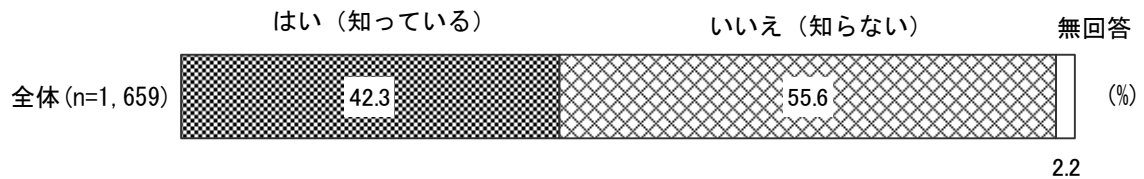
（２）「ダイバーシティ」概念の認知度

◇「いいえ（知らない）」が５割台半ば

問43 「ダイバーシティ※」という概念を知っていましたか。（○は１つ）

※ 「ダイバーシティ」とは、多様性のことをいい、性別や国籍、年齢、障害の有無などに関わりなく、多様な個性が力を発揮し、共存できる社会のことを「ダイバーシティ社会」といいます。

＜図表11－３＞「ダイバーシティ」概念の認知度



「ダイバーシティ」という概念を知っていたか聞いたところ、「はい（知っている）」（42.3％）が４割を超えている。

一方、「いいえ（知らない）」（55.6％）が５割台半ばとなっている。（図表11－３）

【地域別】

地域別にみると、『はい（知っている）』は“印旛地域”（51.8％）が５割を超え、“葛南地域”（50.6％）が５割で高くなっている。

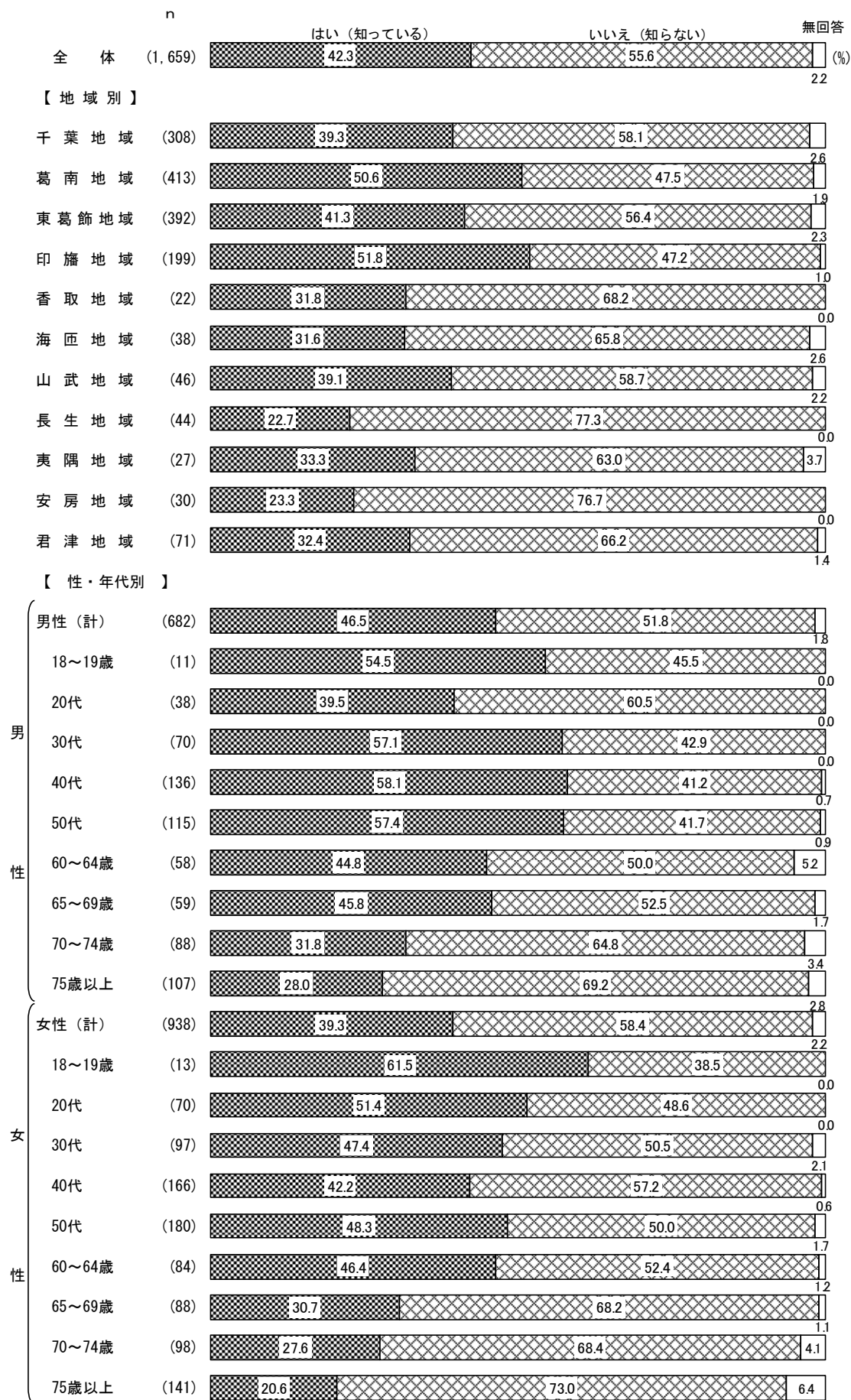
一方、『いいえ（知らない）』は“長生地域”（77.3％）が約７割、“安房地域”（76.7％）が７割台半ばで高くなっている。（図表11－４）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『はい（知っている）』は男性の40代（58.1％）、男性の50代（57.4％）と30代（57.1％）が約６割で高くなっている。

一方、『いいえ（知らない）』は女性の75歳以上（73.0％）が７割を超え、男性の75歳以上（69.2％）、女性の70～74歳（68.4％）と女性の65～69歳（68.2％）が約７割で高くなっている。（図表11－４）

＜図表 11－４＞「ダイバーシティ」概念の認知度／地域別、性・年代別



（３）千葉県における「ダイバーシティ社会」の実現について

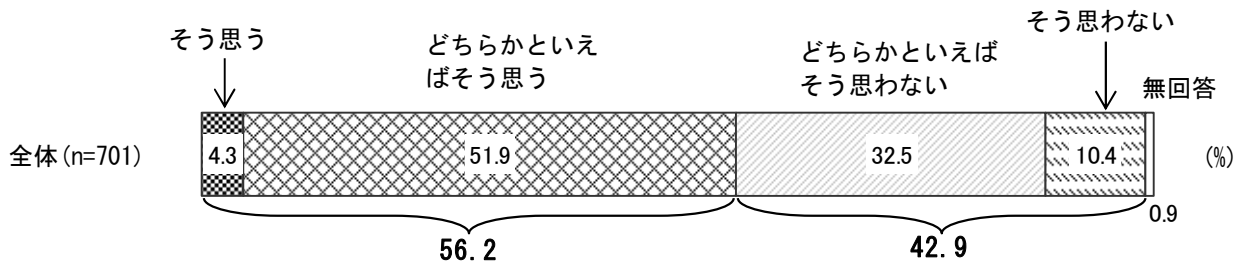
◇『そう思う（計）』が５割台半ば

（問43で「はい（知っている）」とお答えの方に）

問43-1 千葉県で「ダイバーシティ社会」が実現できていると思いますか。

「どちらかといえばそう思わない」または「そう思わない」を選んだ方は、その理由をご記載ください。（任意）（○は１つ）

＜図表11-5＞千葉県における「ダイバーシティ社会」の実現について



ダイバーシティの概念を知っている701人を対象に、千葉県でダイバーシティ社会が実現できているか聞いたところ、「そう思う」（4.3%）と「どちらかといえばそう思う」（51.9%）を合わせた『そう思う（計）』（56.2%）が５割台半ばとなっている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」（32.5%）と「そう思わない」（10.4%）を合わせた『そう思わない（計）』（42.9%）が４割を超えている。（図表11-5）

どちらかといえばそう思わない／そう思わないを選んだ人の理由は以下の通り。

- ・差別や偏見があるため・なくならないため（28件）
- ・ダイバーシティ社会の実感がない・具体例を知らないため（27件）
- ・国籍・人種・言語による差別があるため（22件）
- ・多様性との共存が難しいと感じるから（15件）
- ・千葉県の取組みが遅れている・浸透していないため（15件）
- ・障がいによる差別があるため（13件）
- ・保守的な体制や考え方の人々が多いため（11件）

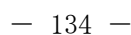
など、他46件

【地域別】

※サンプル数が少ないため、【地域別】、【性・年代別】は参考までに図示するにとどめる。

（8ページ「報告書の見方（5）」を参照）

（図表11-6）

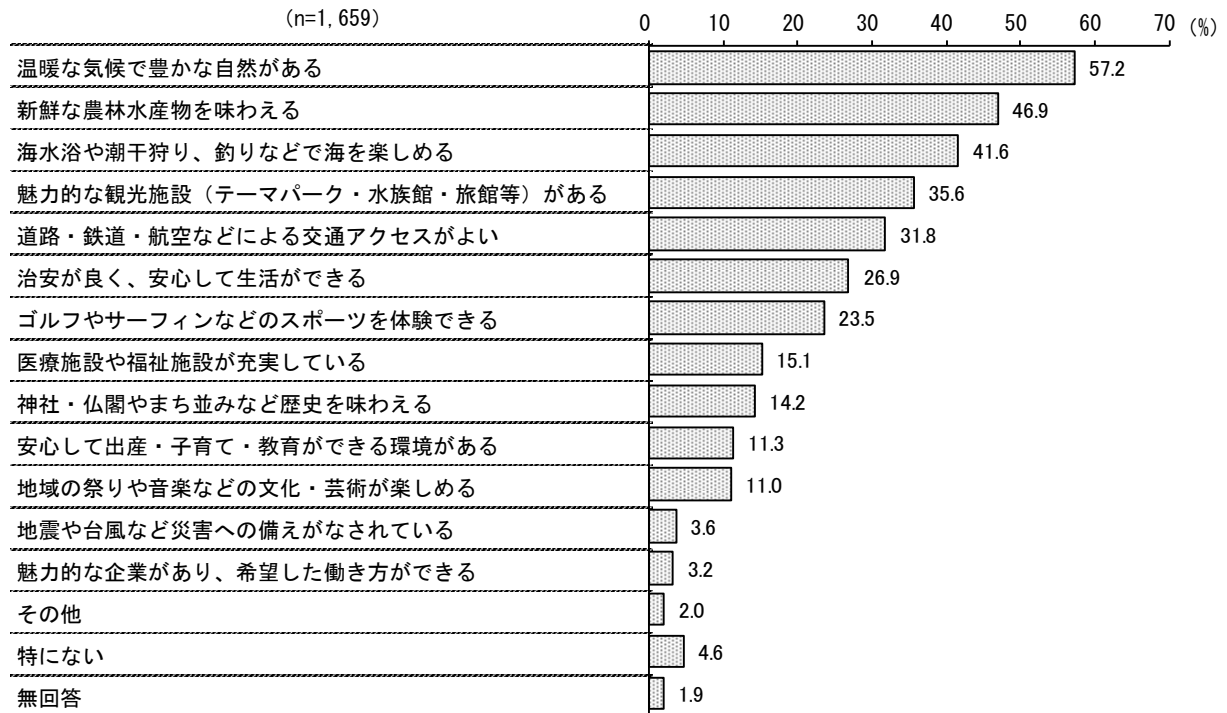


（４）千葉県の魅力

◇「温暖な気候で豊かな自然がある」が約６割

問44 千葉県の魅力は、次のどれだと思いますか。（○はいくつでも）

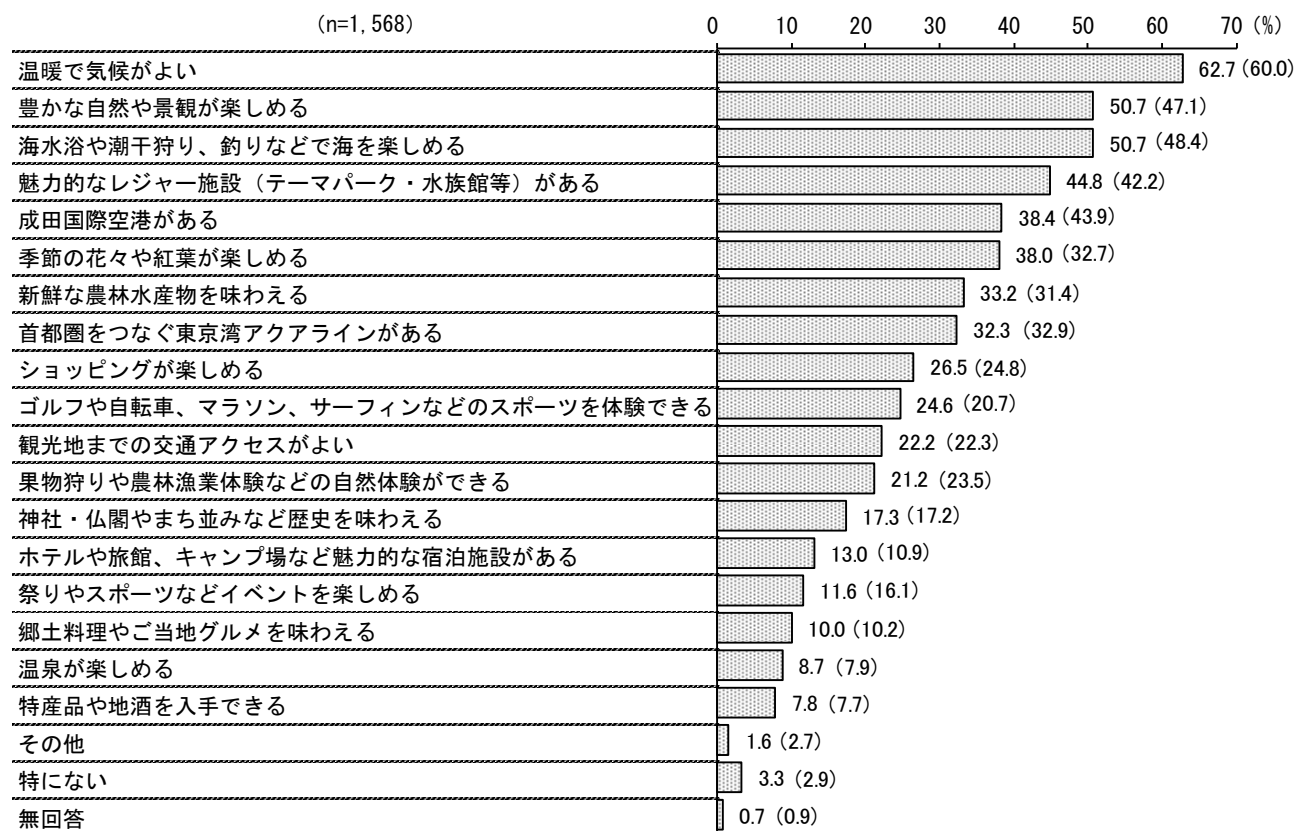
＜図表11－７＞千葉県の魅力（複数回答）



千葉県の魅力を聞いたところ、「温暖な気候で豊かな自然がある」（57.2%）が約６割で最も高く、以下、「新鮮な農林水産物を味わえる」（46.9%）、「海水浴や潮干狩り、釣りなどで海を楽しむ」（41.6%）、「魅力的な観光施設（テーマパーク・水族館・旅館等）がある」（35.6%）が続く。

（図表11－７）

〔参考〕令和元年度・２年度の調査結果（単位：％）



注）（ ）の数字は令和元年度の同様の項目による調査結果 n=1,461

※令和元年度・２年度調査で選択肢が異なり、直接的な比較はできない

【地域別】

地域別にみると、「温暖な気候で豊かな自然がある」は“安房地域”（83.3％）が８割を超え、“海匝地域”（78.9％）が約８割、“君津地域”（70.4％）が７割で高くなっている。

「新鮮な農林水産物を味わえる」は“海匝地域”（76.3％）が７割台半ば、“安房地域”（73.3％）が７割を超えて高くなっている。（図表11－８）

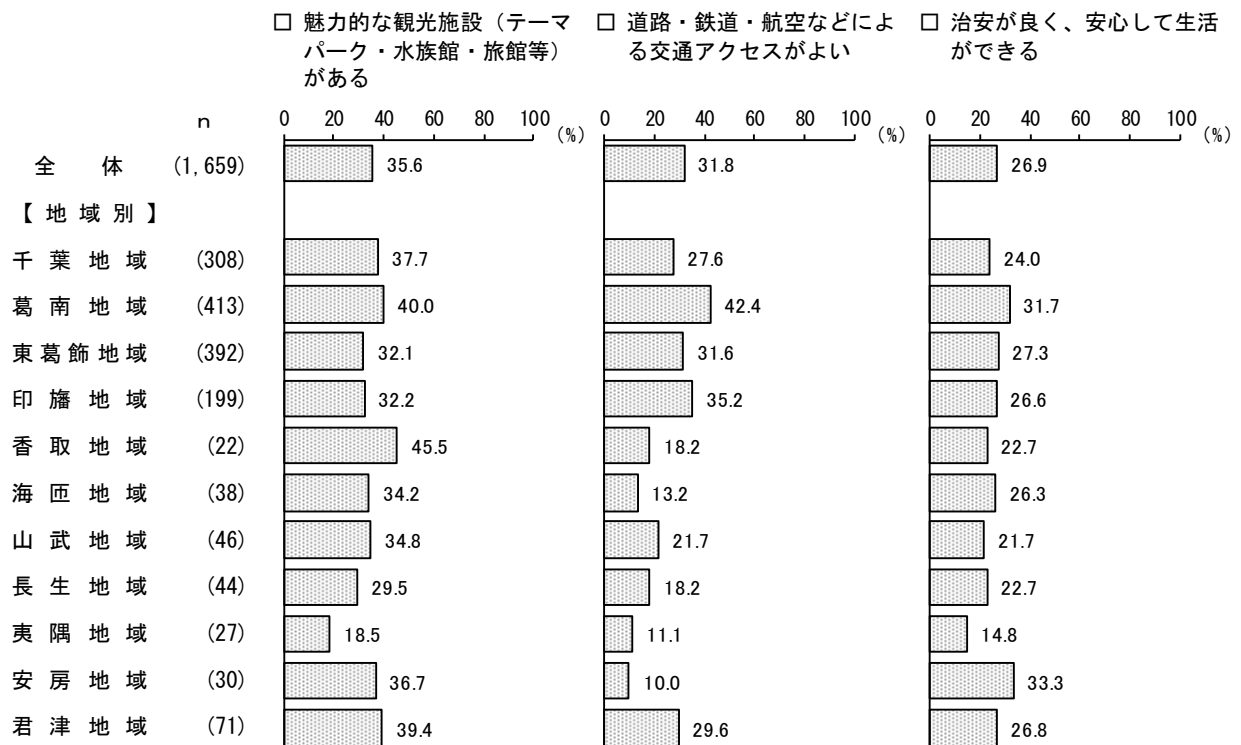
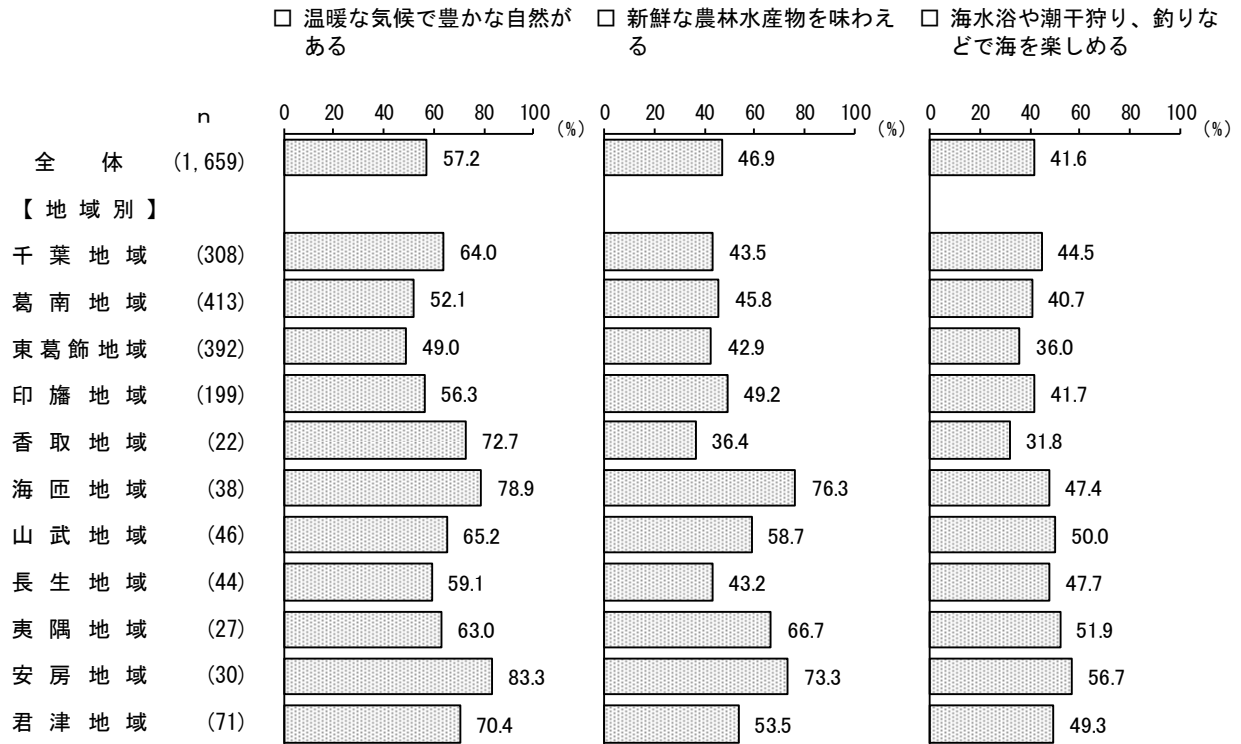
【性・年代別】

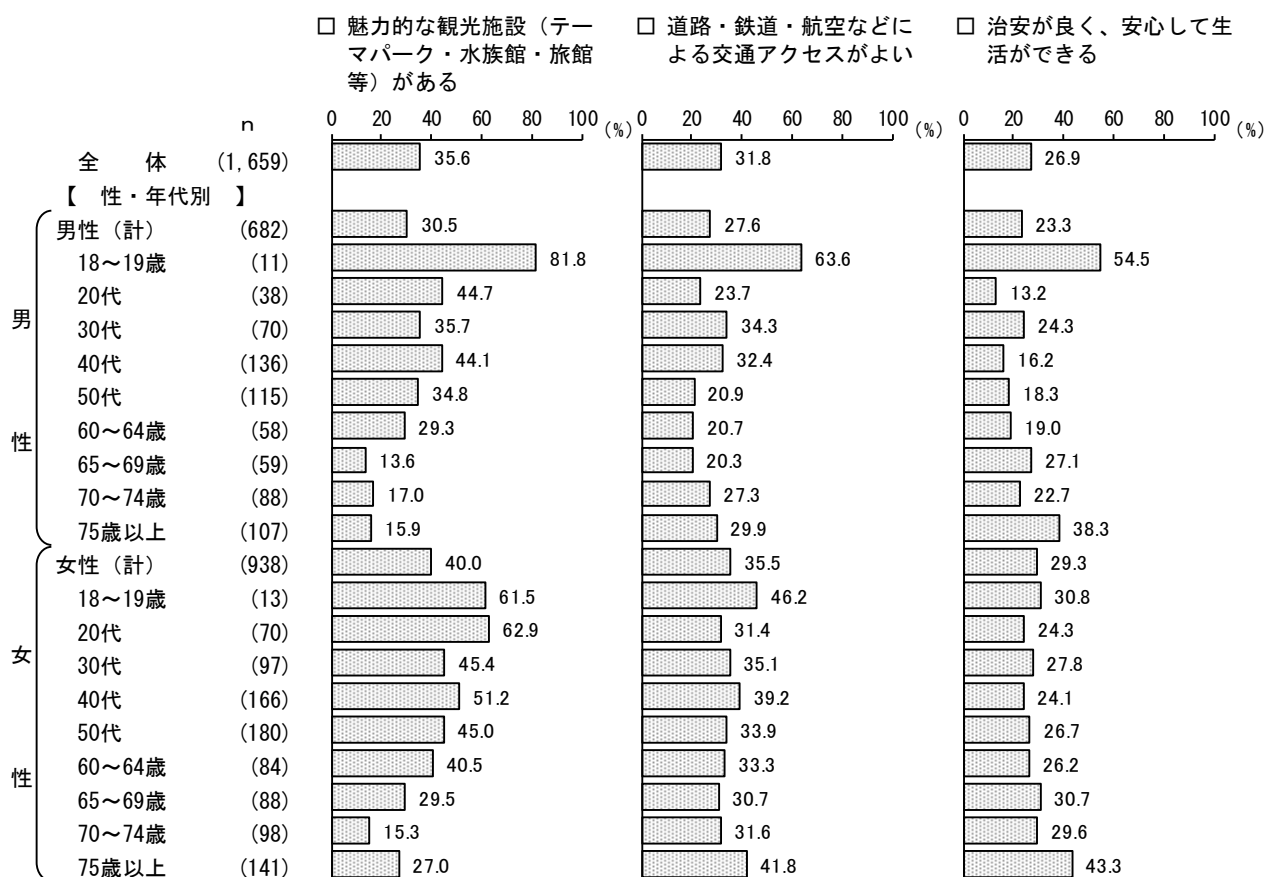
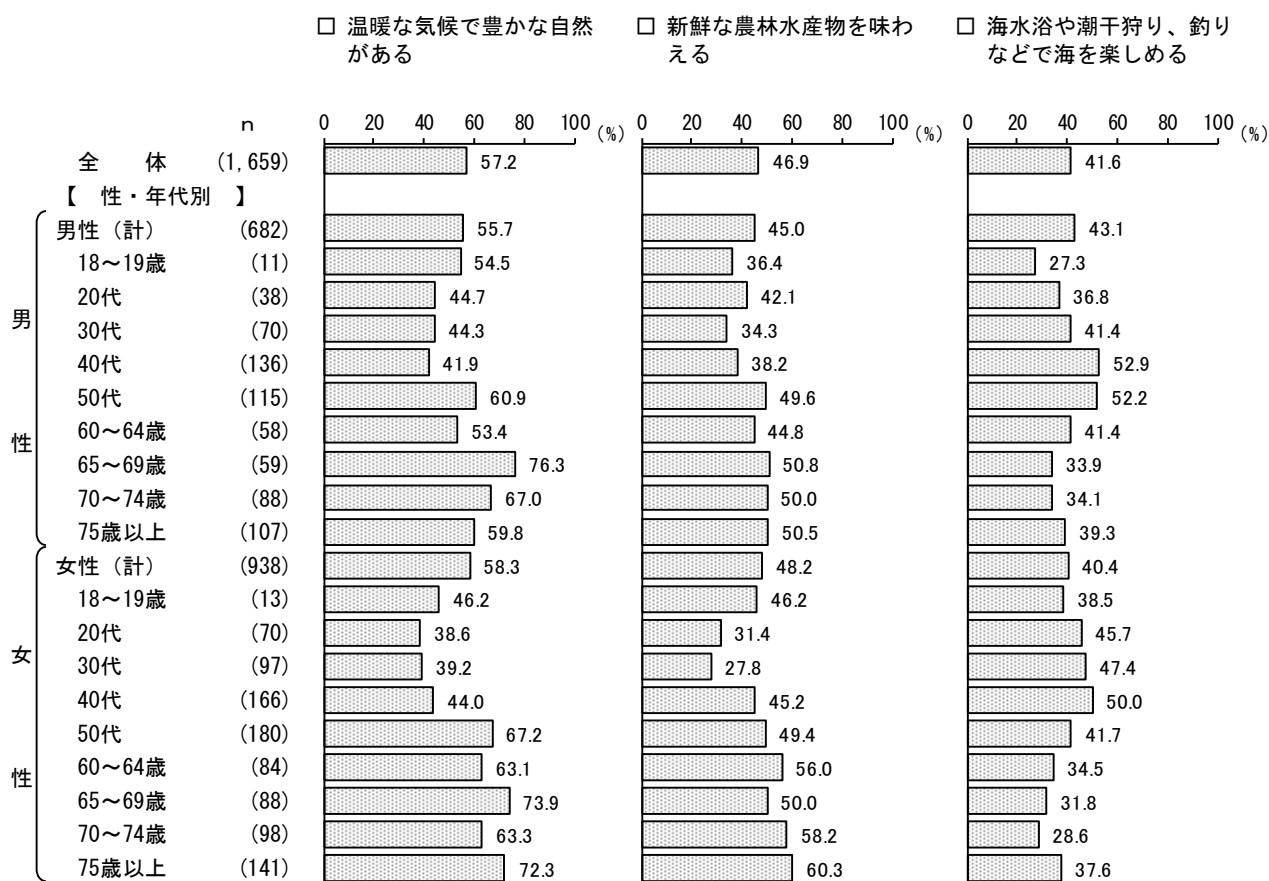
性・年代別にみると、「温暖な気候で豊かな自然がある」は男性の60～64歳（76.3％）と女性の60～64歳（73.9％）が７割台半ば、女性の75歳以上（72.3％）が７割を超えて高くなっている。

「新鮮な農林水産物を味わえる」は女性の75歳以上（60.3％）が６割で高くなっている。

「海水浴や潮干狩り、釣りなどで海を楽しむ」は男性の40代（52.9％）と男性の50代（52.2％）が５割を超えて高くなっている。（図表11－８）

<図表11－8>千葉県の魅力（複数回答）／地域別、性・年代別（上位6項目）





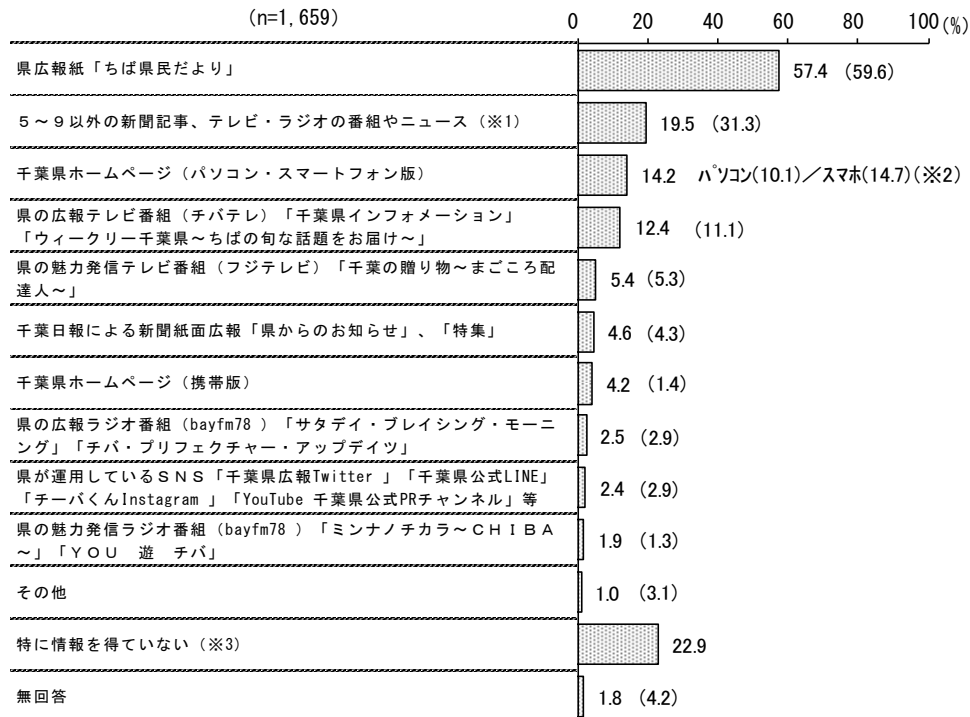
12 広報について

（１）県政に関する情報を得る手段

◇「県広報紙『ちば県民だより』」が約６割

問45 県政に関する情報をどのような手段で得ていますか。（○はいくつでも）

＜図表12－１＞県政に関する情報を得る手段（複数回答）



注）（ ）の数字は令和2年度の同様の項目による調査結果 n=1,568

（※1）「5～9以外の新聞記事、テレビ・ラジオの番組やニュース」における、5～9とは、「千葉日報による新聞紙面広報『県からのお知らせ』、『特集』」「県の広報テレビ番組（チバテレ）『千葉県インフォメーション』『ウィークリー千葉県～ちばの旬な話題をお届け～』」「県の広報ラジオ番組（bayfm78）『サタデイ・ブレイシング・モーニング』『チバ・プリフェクチャー・アップデイツ』」「県の魅力発信テレビ番組（フジテレビ）『千葉の贈り物～まごころ配達人～』」「県の魅力発信ラジオ番組（bayfm78）『ミンナノチカラ～CHIBA～』『YOU 遊 チバ』」を指す。

（※2）令和2年度では、「千葉県ホームページ（パソコン版）」と「千葉県ホームページ（スマートフォン版）」は別項目

（※3）今回調査からの新規項目

県政に関する情報を得る手段を聞いたところ、「県広報紙『ちば県民だより』」（57.4%）が約6割で最も高く、以下、「5～9以外の新聞記事、テレビ・ラジオの番組やニュース」（19.5%）、「千葉県ホームページ（パソコン・スマートフォン版）」（14.2%）が続く。

一方、「特に情報を得ていない」（22.9%）は2割を超えている。（図表12－1）

【地域別】

地域別にみると、「県広報紙『ちば県民だより』」は“千葉地域”（69.5%）が約7割、“印旛地域”（60.8%）と“海匝地域”（60.5%）が6割で高くなっている。

「特に情報を得ていない」は“長生地域”（34.1%）が3割台半ば、“君津地域”（31.0%）が3割を超え、“安房地域”（30.0%）が3割で高くなっている。（図表12－2）

【性・年代別】

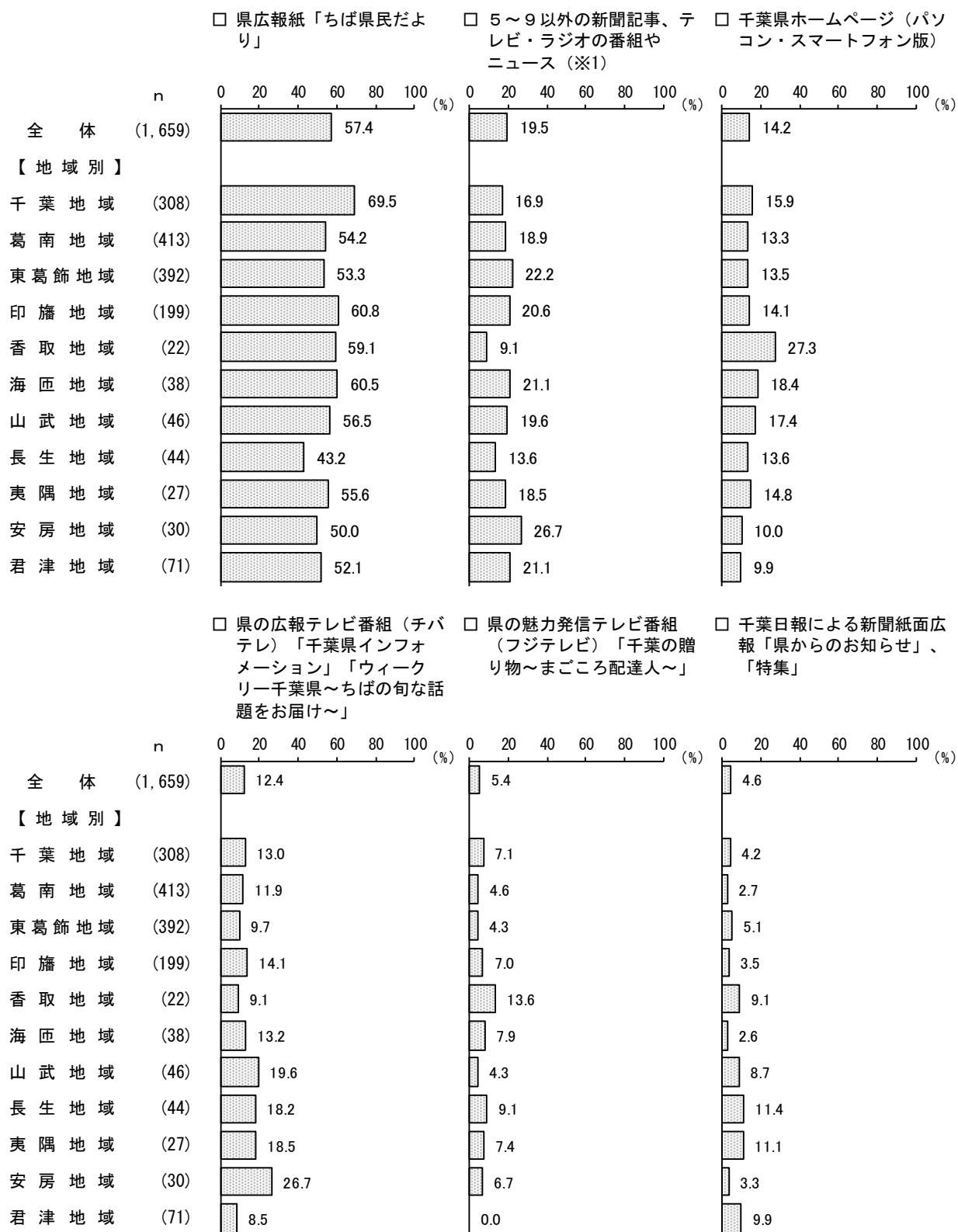
性・年代別にみると、「県広報紙『ちば県民だより』」は女性の65～69歳（83.0%）が8割を超え、

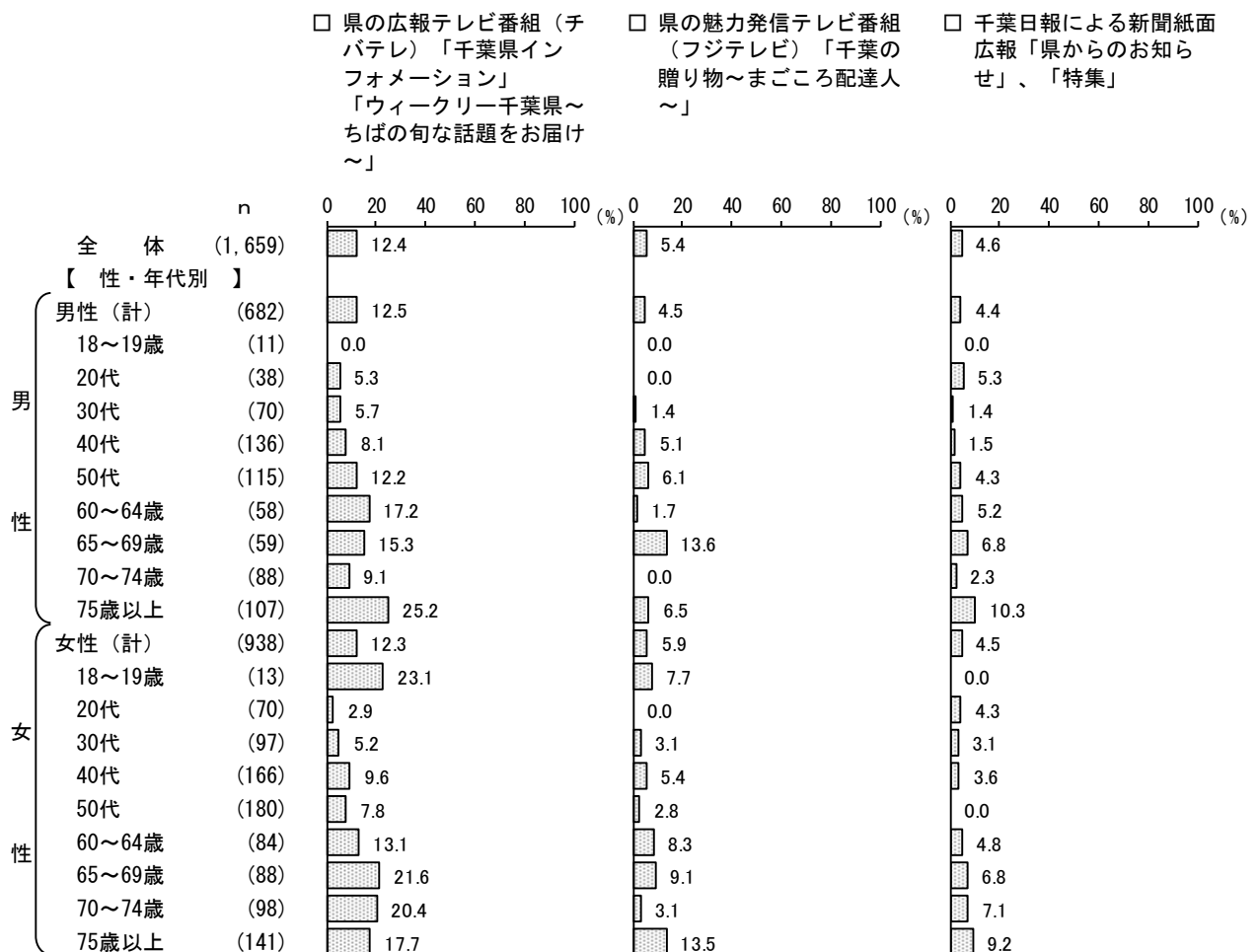
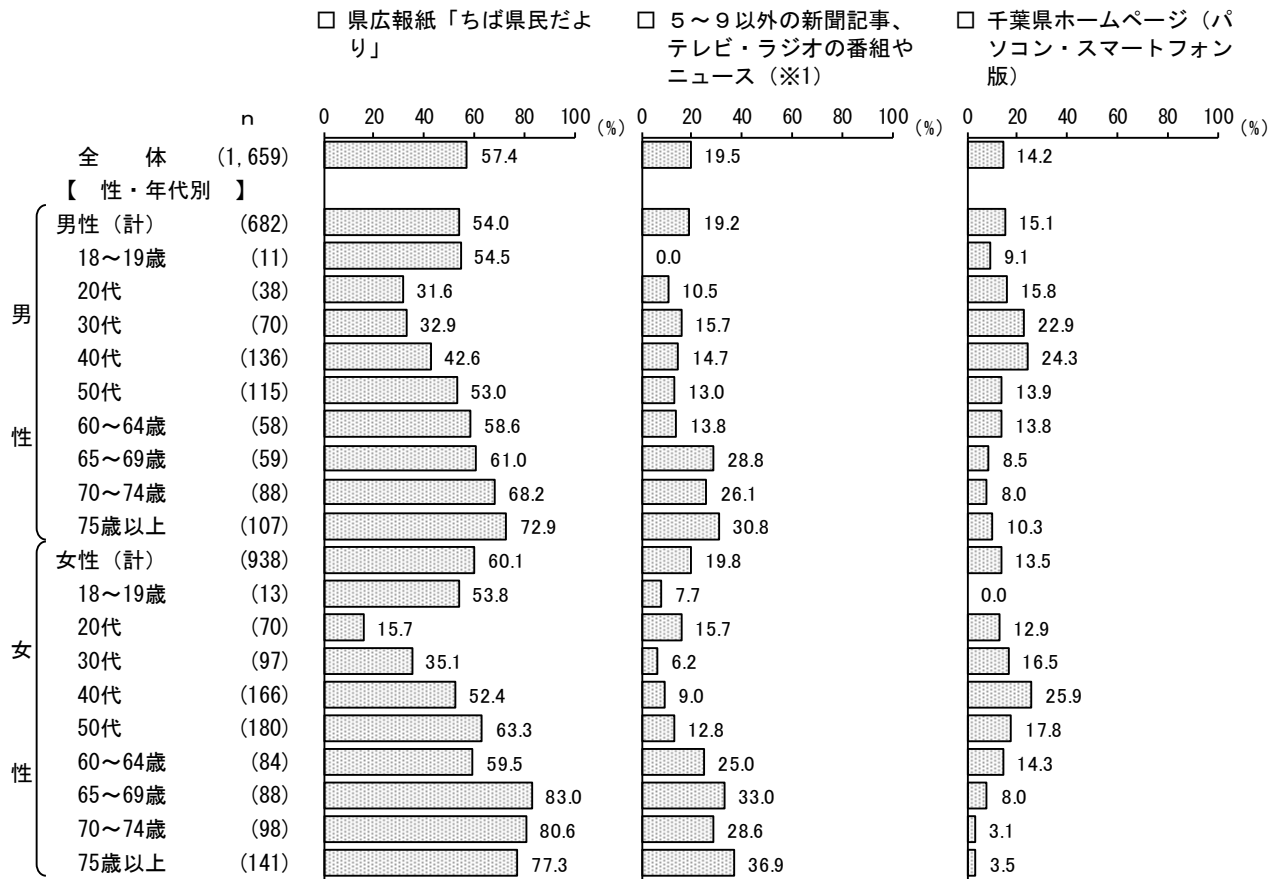
女性の70～74歳（80.6%）で8割、女性の75歳以上（77.3%）が約8割、男性の75歳以上（72.9%）が7割を超えて高くなっている。

「5～9以外の新聞記事、テレビ・ラジオの番組やニュース」は女性の75歳以上（36.9%）が3割台半ば、女性の65～69歳（33.0%）が3割を超えて高くなっている。

「特に情報を得ていない」は女性の20代（52.9%）が5割を超え、女性の30代（44.3%）が4割台半ば、男性の20代（42.1%）と30代（41.4%）が4割を超えて高くなっている。（図表12－2）

＜図表12－2＞県政に関する情報を得る手段（複数回答）／地域別、性・年代別（上位6項目）





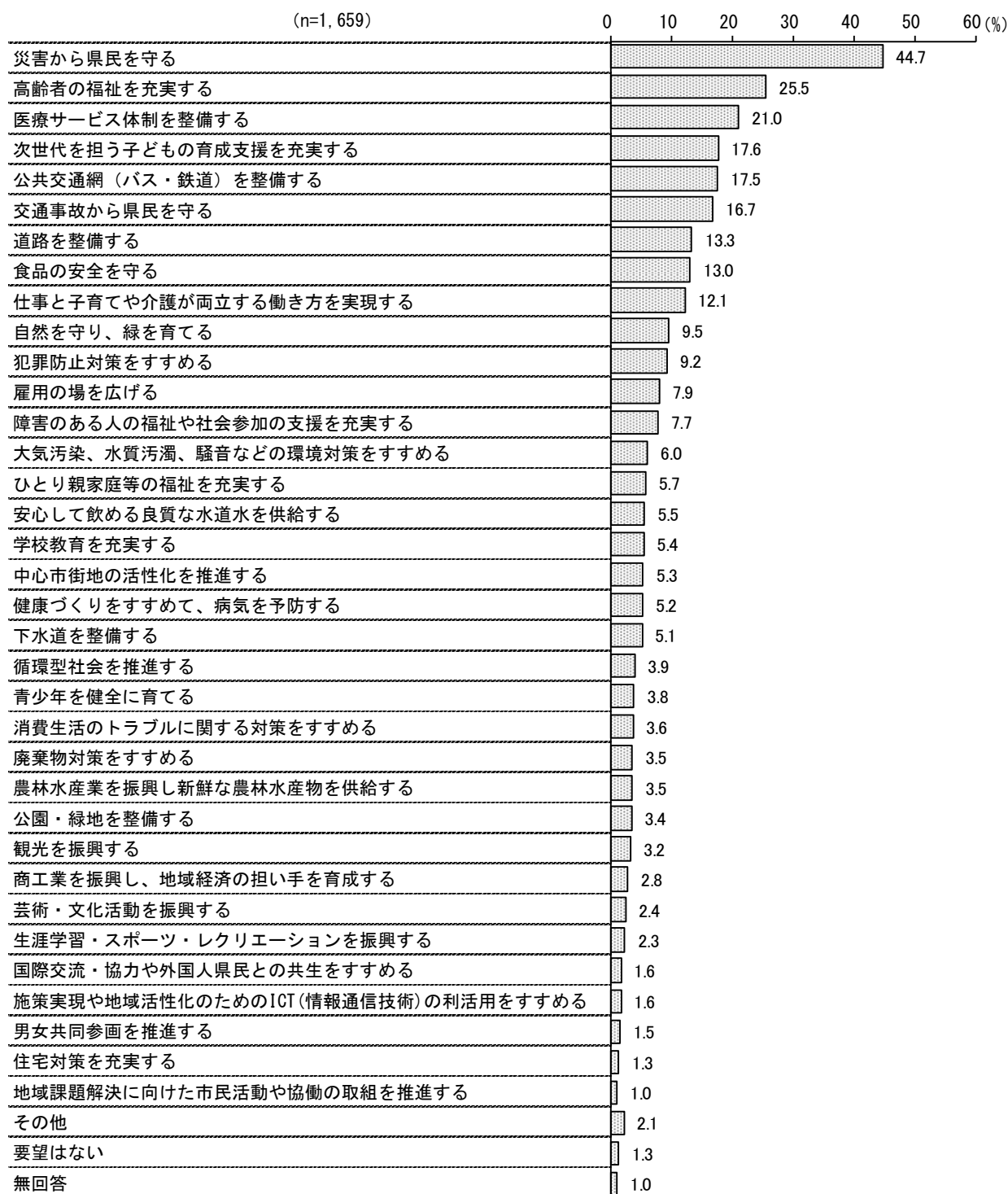
13 県政への要望

（1）県政への要望

◇「災害から県民を守る」が4割半ば

問46 県政全般について、今後特に力をいれてほしいと思われることを、次の県政への要望項目の中から3つまで選んで番号に○をつけてください。

＜図表13－1＞県政への要望（3つまでの複数回答）



県政への要望を3つまで選んでもらったところ、「災害から県民を守る」（44.7%）が1位で県民からの要望が特に高い。次いで「高齢者の福祉を充実する」（25.5%）が2位となっており、以下、「医療サービス体制を整備する」（21.0%）が3位、「次世代を担う子どもの育成支援を充実する」（17.6%）が4位、「公共交通網（バス・鉄道）を整備する」（17.5%）が5位と続く。

（図表13－1）

【地域別】

地域別にみると、「災害から県民を守る」はすべての地域で1位となっている。

「高齢者の福祉を充実する」は“千葉地域”、“葛南地域”、“東葛飾地域”、“印旛地域”、“海匝地域”、“山武地域”、“夷隅地域”、“安房地域（同率）”、“君津地域”で2位となっている。

「医療サービス体制を整備する」は“香取地域”、“長生地域”で2位となっている。

「次世代を担う子どもの育成支援を充実する」は“安房地域”で2位（同率）となっている。

（図表13－3～図表13－4）

【性別、性・年代別】

性別にみると、男女ともに1位は「災害から県民を守る」、2位は「高齢者の福祉を充実する」で変わりはないが、男性は「交通事故から県民を守る」が3位、女性では「医療サービス体制を整備する」が3位と順位に違いがみられる。

また男性では「交通事故から県民を守る」が3位（女性は7位）、女性では「公共交通網（バス・鉄道）を整備する」が4位（男性は6位）で要望に男女で違いがみられる。

性・年代別にみると、「災害から県民を守る」は男性75歳以上と女性18～19歳を除いたすべての性・年代で1位となっている。

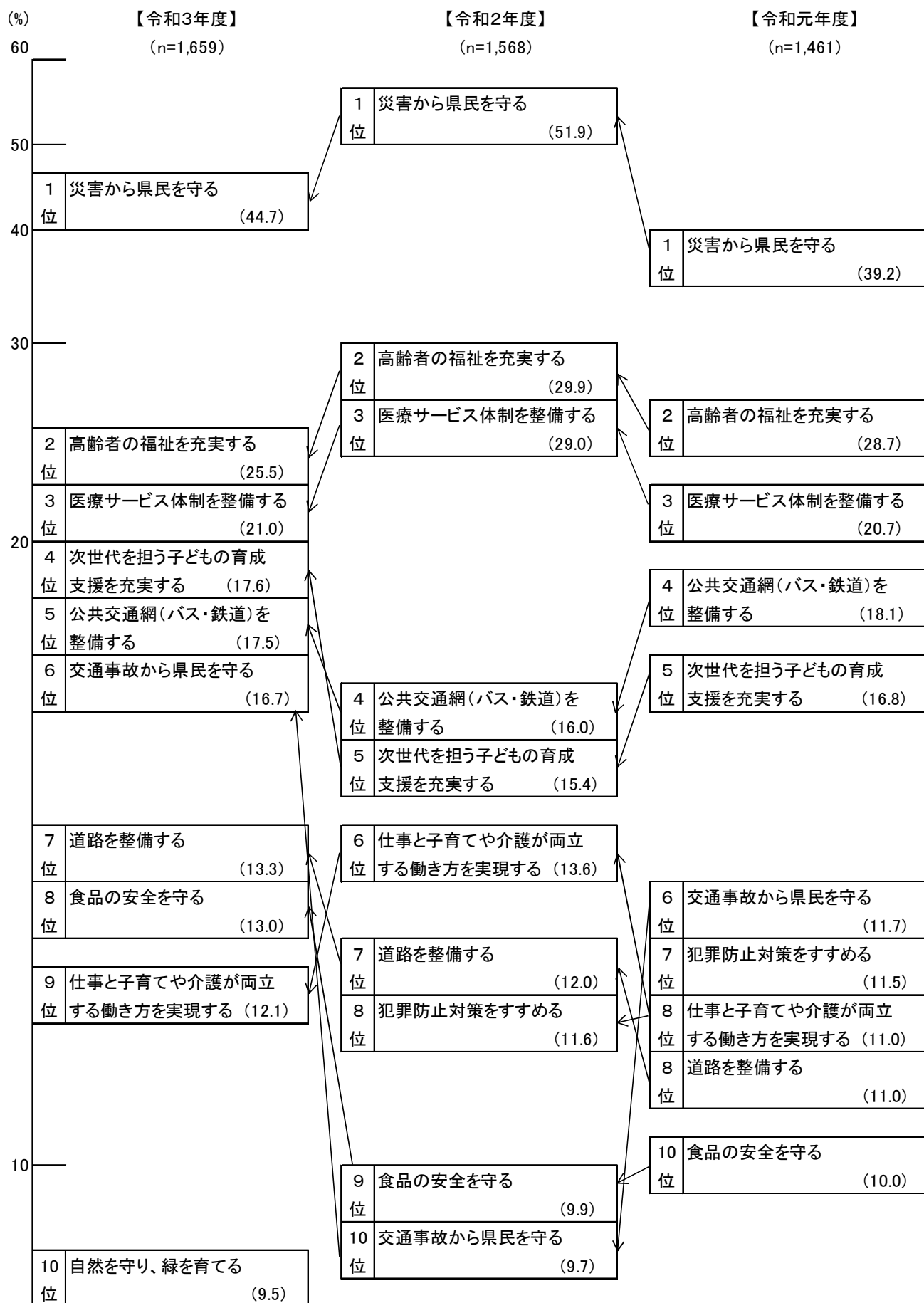
（図表13－5～図表13－6）

【参考】令和元年度以降の同様の項目による調査結果との比較（上位10項目の推移）（図表13－2）

【経年変化の特徴】

1. 「災害から県民を守る」は令和2年度（51.9%）に引き続き1位（44.7%）となっているが、7.2ポイント減少している。
2. 2位の「高齢者の福祉を充実する」（25.5%）、3位の「医療サービス体制を整備する」（21.0%）、7位の「道路を整備する」（13.3%）は令和2年度と同じ順位となっている。
3. 「交通事故から県民を守る」は令和2年度の10位（9.7%）から6位（16.7%）へ、「自然を守り、緑を育てる」は令和2年度の14位（7.7%）から10位（9.5%）へ順位を上げている。
4. 「仕事と子育てや介護が両立する働き方を実現する」は令和2年度の6位（13.6%）から9位（12.1%）へ、「犯罪防止対策をすすめる」は令和2年度の8位（11.6%）から11位（9.2%）順位を下げている。

＜図表13－2＞県政への要望（3つまでの複数回答）／上位10項目の推移



＜図表13－3＞県政への要望（3つまでの複数回答）（上位1位～5位）／地域別

		(%)				
属性	順位 n	1位	2位	3位	4位	5位
全体	1,659	災害から県民を守る (44.7)	高齢者の福祉を充実する (25.5)	医療サービス体制を整備する (21.0)	次世代を担う子どもの育成支援を充実する (17.6)	公共交通網(バス・鉄道)を整備する (17.5)
【 地 域 別 】						
千葉地域	308	災害から県民を守る (43.2)	高齢者の福祉を充実する (26.0)	医療サービス体制を整備する (23.1)	公共交通網(バス・鉄道)を整備する (21.4)	交通事故から県民を守る (15.3)
葛南地域	413	災害から県民を守る (44.8)	高齢者の福祉を充実する (23.2)	医療サービス体制を整備する (22.8)	次世代を担う子どもの育成支援を充実する (20.8)	交通事故から県民を守る (16.2)
東葛飾地域	392	災害から県民を守る (43.9)	高齢者の福祉を充実する (26.5)	医療サービス体制を整備する (21.4)	交通事故から県民を守る/次世代を担う子どもの育成支援を充実する (18.4)	
印旛地域	199	災害から県民を守る (43.7)	高齢者の福祉を充実する (25.6)	公共交通網(バス・鉄道)を整備する (23.1)	交通事故から県民を守る/医療サービス体制を整備する (18.6)	
香取地域	22	災害から県民を守る (31.8)	医療サービス体制を整備する (27.3)	公共交通網(バス・鉄道)を整備する (22.7)	交通事故から県民を守る/高齢者の福祉を充実する (18.2)	
海匝地域	38	災害から県民を守る (52.6)	高齢者の福祉を充実する (28.9)	交通事故から県民を守る/医療サービス体制を整備する (21.1)		公共交通網(バス・鉄道)を整備する/次世代を担う子どもの育成支援を充実する/道路を整備する (18.4)
山武地域	46	災害から県民を守る (41.3)	高齢者の福祉を充実する (30.4)	道路を整備する (26.1)	交通事故から県民を守る (19.6)	公共交通網(バス・鉄道)を整備する/次世代を担う子どもの育成支援を充実する (17.4)
長生地域	44	災害から県民を守る (54.5)	医療サービス体制を整備する (31.8)	交通事故から県民を守る (25.0)	次世代を担う子どもの育成支援を充実する/道路を整備する (18.2)	
夷隅地域	27	災害から県民を守る (40.7)	高齢者の福祉を充実する (33.3)	公共交通網(バス・鉄道)を整備する (25.9)	障害のある人の福祉や社会参加の支援を充実する/医療サービス体制を整備する (14.8)	
安房地域	30	災害から県民を守る (50.0)	高齢者の福祉を充実する/次世代を担う子どもの育成支援を充実する (26.7)		公共交通網(バス・鉄道)を整備する (23.3)	仕事と子育てや介護が両立する働き方を実現する/道路を整備する (20.0)
君津地域	71	災害から県民を守る (50.7)	高齢者の福祉を充実する (28.2)	公共交通網(バス・鉄道)を整備する (18.3)	医療サービス体制を整備する (16.9)	次世代を担う子どもの育成支援を充実する (15.5)

＜図表13－４＞県政への要望（３つまでの複数回答）（上位６位～10位）／地域別

							(%)
属性	順位 n	6位	7位	8位	9位	10位	
全体	1,659	交通事故から県民を守る (16.7)	道路を整備する (13.3)	食品の安全を守る (13.0)	仕事と子育てや介護が両立する働き方を実現する (12.1)	自然を守り、緑を育てる (9.5)	
【 地 域 別 】							
千葉地域	308	次世代を担う子どもの育成支援を充実する (14.3)	食品の安全を守る/仕事と子育てや介護が両立する働き方を実現する (13.0)	雇用を広げる (11.0)	犯罪防止対策をすすめる (10.4)		
葛南地域	413	道路を整備する (15.5)	食品の安全を守る (13.8)	公共交通網(バス・鉄道)を整備する (13.1)	仕事と子育てや介護が両立する働き方を実現する (12.6)	自然を守り、緑を育てる (10.9)	
東葛飾地域	392	食品の安全を守る (15.1)	公共交通網(バス・鉄道)を整備する (14.8)	道路を整備する (12.8)	犯罪防止対策をすすめる (11.7)	仕事と子育てや介護が両立する働き方を実現する (10.2)	
印旛地域	199	次世代を担う子どもの育成支援を充実する (17.1)	食品の安全を守る (15.1)	仕事と子育てや介護が両立する働き方を実現する (14.1)	道路を整備する (13.6)	障害のある人の福祉や社会参加の支援を充実する (11.6)	
香取地域	22	食品の安全を守る/下水道を整備する/学校教育を充実する (13.6)			次世代を担う子どもの育成支援を充実する/健康づくりをすすめて、病気を予防する/自然を守り、緑を育てる/廃棄物対策をすすめる/雇用を広げる/道路を整備する/生涯学習・スポーツ・レクリエーションを振興する (9.1)		
海匝地域	38	-	-	自然を守り、緑を育てる (15.8)	仕事と子育てや介護が両立する働き方を実現する (13.2)	農林水産業を振興し新鮮な農林水産物を供給する (10.5)	
山武地域	46	-	仕事と子育てや介護が両立する働き方を実現する (15.2)	医療サービス体制を整備する (13.0)	雇用を広げる/犯罪防止対策をすすめる (10.9)		
長生地域	44	公共交通網(バス・鉄道)を整備する/高齢者の福祉を充実する (15.9)		仕事と子育てや介護が両立する働き方を実現する (13.6)	犯罪防止対策をすすめる (11.4)	自然を守り、緑を育てる/雇用を広げる (9.1)	
夷隅地域	27	仕事と子育てや介護が両立する働き方を実現する/下水道を整備する (11.1)		交通事故から県民を守る/ひとり親家庭等の福祉を充実する/自然を守り、緑を育てる/廃棄物対策をすすめる/商工業を振興し、地域経済の担い手を育成する/雇用を広げる/道路を整備する/学校教育を充実する (7.4)			
安房地域	30	-	雇用を広げる (16.7)	交通事故から県民を守る/医療サービス体制を整備する/下水道を整備する (13.3)			
君津地域	71	下水道を整備する (14.1)	交通事故から県民を守る/自然を守り、緑を育てる (12.7)		食品の安全を守る/障害のある人の福祉や社会参加の支援を充実する (11.3)		

<図表13－5> 県政への要望（3つまでの複数回答）（上位1位～5位）／性別、性・年代別

属性		順位	n	1位	2位	3位	4位	5位
				(%)				
全体			1,659	災害から県民を守る (44.7)	高齢者の福祉を充実する (25.5)	医療サービス体制を整備する (21.0)	次世代を担う子どもの育成支援を充実する (17.6)	公共交通網(バス・鉄道)を整備する (17.5)
【性・年代別】								
男性（計）			682	災害から県民を守る (40.6)	高齢者の福祉を充実する (22.7)	交通事故から県民を守る (20.1)	次世代を担う子どもの育成支援を充実する (18.3)	医療サービス体制を整備する (18.0)
18～19歳			11	災害から県民を守る/交通事故から県民を守る (36.4)		食品の安全を守る/公共交通網(バス・鉄道)を整備する (27.3)		自然を守り、緑を育てる/道路を整備する (18.2)
20 代			38	災害から県民を守る (34.2)	次世代を担う子どもの育成支援を充実する (26.3)	交通事故から県民を守る/医療サービス体制を整備する/道路を整備する/生涯学習・スポーツ・レクリエーションを振興する (18.4)		
30 代			70	災害から県民を守る (31.4)	次世代を担う子どもの育成支援を充実する (30.0)	交通事故から県民を守る (28.6)	公共交通網(バス・鉄道)を整備する (21.4)	道路を整備する (18.6)
40 代			136	災害から県民を守る (39.7)	公共交通網(バス・鉄道)を整備する (27.2)	交通事故から県民を守る (22.1)	次世代を担う子どもの育成支援を充実する (21.3)	道路を整備する (16.9)
50 代			115	災害から県民を守る (46.1)	医療サービス体制を整備する (26.1)	道路を整備する (21.7)	交通事故から県民を守る (19.1)	高齢者の福祉を充実する (17.4)
60～64歳			58	災害から県民を守る (36.2)	高齢者の福祉を充実する (31.0)	交通事故から県民を守る/雇用の場を広げる (22.4)		医療サービス体制を整備する (19.0)
65～69歳			59	災害から県民を守る (47.5)	高齢者の福祉を充実する (33.9)	道路を整備する (18.6)	交通事故から県民を守る/公共交通網(バス・鉄道)を整備する (16.9)	
70～74歳			88	災害から県民を守る (44.3)	高齢者の福祉を充実する (40.9)	医療サービス体制を整備する (20.5)	交通事故から県民を守る (15.9)	食品の安全を守る (14.8)
75歳以上			107	高齢者の福祉を充実する (41.1)	災害から県民を守る (40.2)	医療サービス体制を整備する (18.7)	食品の安全を守る/交通事故から県民を守る (15.9)	
女性（計）			938	災害から県民を守る (47.8)	高齢者の福祉を充実する (27.4)	医療サービス体制を整備する (23.6)	公共交通網(バス・鉄道)を整備する (18.3)	次世代を担う子どもの育成支援を充実する (17.4)
18～19歳			13	交通事故から県民を守る (46.2)	公共交通網(バス・鉄道)を整備する (30.8)	災害から県民を守る/医療サービス体制を整備する/仕事と子育てや介護が両立する働き方を実現する (23.1)		
20 代			70	災害から県民を守る (52.9)	医療サービス体制を整備する (21.4)	公共交通網(バス・鉄道)を整備する/仕事と子育てや介護が両立する働き方を実現する (18.6)		交通事故から県民を守る (17.1)
30 代			97	災害から県民を守る (40.2)	次世代を担う子どもの育成支援を充実する (29.9)	交通事故から県民を守る/仕事と子育てや介護が両立する働き方を実現する (24.7)		医療サービス体制を整備する (15.5)
40 代			166	災害から県民を守る (50.6)	医療サービス体制を整備する (24.1)	次世代を担う子どもの育成支援を充実する (21.7)	公共交通網(バス・鉄道)を整備する (19.9)	仕事と子育てや介護が両立する働き方を実現する (17.5)
50 代			180	災害から県民を守る (50.6)	高齢者の福祉を充実する (32.8)	医療サービス体制を整備する (28.3)	公共交通網(バス・鉄道)を整備する (19.4)	仕事と子育てや介護が両立する働き方を実現する (15.6)
60～64歳			84	災害から県民を守る (48.8)	医療サービス体制を整備する (35.7)	高齢者の福祉を充実する (31.0)	公共交通網(バス・鉄道)を整備する (20.2)	仕事と子育てや介護が両立する働き方を実現する (17.9)
65～69歳			88	災害から県民を守る (44.3)	高齢者の福祉を充実する (34.1)	医療サービス体制を整備する (30.7)	次世代を担う子どもの育成支援を充実する (18.2)	公共交通網(バス・鉄道)を整備する (17.0)
70～74歳			98	災害から県民を守る (49.0)	高齢者の福祉を充実する (36.7)	次世代を担う子どもの育成支援を充実する (18.4)	食品の安全を守る (15.3)	公共交通網(バス・鉄道)を整備する/医療サービス体制を整備する/自然を守り、緑を育てる (13.3)
75歳以上			141	災害から県民を守る (46.8)	高齢者の福祉を充実する (43.3)	食品の安全を守る (24.8)	公共交通網(バス・鉄道)を整備する (19.9)	医療サービス体制を整備する (19.1)

＜図表13－６＞県政への要望（３つまでの複数回答）（上位６位～10位）／性別、性・年代別

属性	順位	n	6位	7位	8位	9位	10位
全体		1,659	交通事故から県民を守る (16.7)	道路を整備する (13.3)	食品の安全を守る (13.0)	仕事と子育てや介護が両立 する働き方を実現する (12.1)	自然を守り、緑を育てる (9.5)
【性・年代別】							
男性（計）		682	公共交通網（バス・鉄道）を整 備する (16.7)	道路を整備する (15.8)	食品の安全を守る (11.6)	犯罪防止対策をすすめる (9.5)	自然を守り、緑を育てる (9.1)
18～19歳		11	-	中心市街地の活性化を推進する/国際交流・協力や外国人県民との共生をすすめる/次世代を担う子どもの育成支援を充 実する/地域課題解決に向けた市民活動や協働の取組を推進する/大気汚染、水質汚濁、騒音などの環境対策をすす める/循環型社会を推進する/観光を振興する/雇用の場を広げる/仕事と子育てや介護が両立する働き方を実現する/公園・ 緑地を整備する/生涯学習・スポーツ・レクリエーションを振興する/犯罪防止対策をすすめる (9.1)			
20 代		38	-	食品の安全を守る/仕事と子育てや介護が両立する働き方 を実現する (15.8)	公共交通網（バス・鉄道）を整 備する (13.2)	障害のある人の福祉や社会 参加の支援を充実する/ひとり 親家庭等の福祉を充実する/ 雇用の場を広げる/公園・緑 地を整備する (10.5)	
30 代		70	食品の安全を守る (14.3)	学校教育を充実する/犯罪防止対策をすすめる (11.4)	健康づくりをすすめて、病気を予防する/医療サービス体制を 整備する (10.0)		
40 代		136	医療サービス体制を整備する (16.2)	犯罪防止対策をすすめる (12.5)	障害のある人の福祉や社会 参加の支援を充実する (10.3)	自然を守り、緑を育てる (9.6)	
50 代		115	次世代を担う子どもの育成支 援を充実する (15.7)	公共交通網（バス・鉄道）を整 備する (13.0)	障害のある人の福祉や社会 参加の支援を充実する (11.3)	自然を守り、緑を育てる (9.6)	食品の安全を守る/農林水産業 を振興し新鮮な農林水産物を供 給する/犯罪防止対策をすすめ る (8.7)
60～64歳		58	次世代を担う子どもの育成支援を充実する/道路を整備する (15.5)	公共交通網（バス・鉄道）を整備する/障害のある人の福祉や社会参加の支援を充実する/ 自然を守り、緑を育てる (12.1)			
65～69歳		59	次世代を担う子どもの育成支 援を充実する (15.3)	医療サービス体制を整備する (13.6)	食品の安全を守る (11.9)	自然を守り、緑を育てる/廃棄物対策をすすめる/仕事と子育 てや介護が両立する働き方を実現する (10.2)	
70～74歳		88	公共交通網（バス・鉄道）を整備する/次世代を担う子どもの 育成支援を充実する (13.6)	自然を守り、緑を育てる/犯罪防止対策をすすめる (9.1)	循環型社会を推進する/道路 を整備する (8.0)		
75歳以上		107	次世代を担う子どもの育成支 援を充実する (15.0)	中心市街地の活性化を推進する/健康づくりをすすめて、病 気を予防する (11.2)	道路を整備する/下水道を整備する (10.3)		
女性（計）		938	仕事と子育てや介護が両立 する働き方を実現する (15.2)	食品の安全を守る/交通事故から県民を守る (14.0)	道路を整備する (11.5)	自然を守り、緑を育てる (9.9)	
18～19歳		13	高齢者の福祉を充実する/次世代を担う子どもの育成支援を充実する/男女共同参画を推進する/自然を守り、緑を育てる/雇用の場を広げる (15.4)				
20 代		70	食品の安全を守る (15.7)	高齢者の福祉を充実する (12.9)	観光を振興する/犯罪防止対策をすすめる (11.4)	次世代を担う子どもの育成支 援を充実する/道路を整備す る (10.0)	
30 代		97	公共交通網（バス・鉄道）を整 備する (14.4)	食品の安全を守る/学校教育を充実する/犯罪防止対策をすすめる (12.4)	障害のある人の福祉や社会 参加の支援を充実する (11.3)		
40 代		166	高齢者の福祉を充実する (15.7)	道路を整備する (13.9)	交通事故から県民を守る (12.0)	雇用の場を広げる/学校教育を充実する (11.4)	
50 代		180	次世代を担う子どもの育成支 援を充実する (12.8)	雇用の場を広げる (12.2)	食品の安全を守る/交通事故から県民を守る (11.7)	障害のある人の福祉や社会 参加の支援を充実する (11.1)	
60～64歳		84	次世代を担う子どもの育成支 援を充実する (15.5)	交通事故から県民を守る/道路を整備する (11.9)	自然を守り、緑を育てる/循環型社会を推進する/犯罪防止 対策をすすめる (10.7)		
65～69歳		88	食品の安全を守る/道路を整備する (14.8)	交通事故から県民を守る (12.5)	仕事と子育てや介護が両立 する働き方を実現する (10.2)	安心して飲める良質な水道水 を供給する (9.1)	
70～74歳		98	-	-	仕事と子育てや介護が両立 する働き方を実現する (12.2)	道路を整備する (11.2)	犯罪防止対策をすすめる (9.2)
75歳以上		141	交通事故から県民を守る (14.2)	次世代を担う子どもの育成支 援を充実する (13.5)	安心して飲める良質な水道水 を供給する (12.8)	健康づくりをすすめて、病気を予防する/自然を守り、緑を育 てる (11.3)	

（１－１）各政策への具体的な要望

問47 問46で選んでいただきました県政の要望について、具体的にどのようなことを望まれますか。問46で選んだ３項目についてのみ、具体的要望項目から１つずつ選んで番号に○をつけてください。

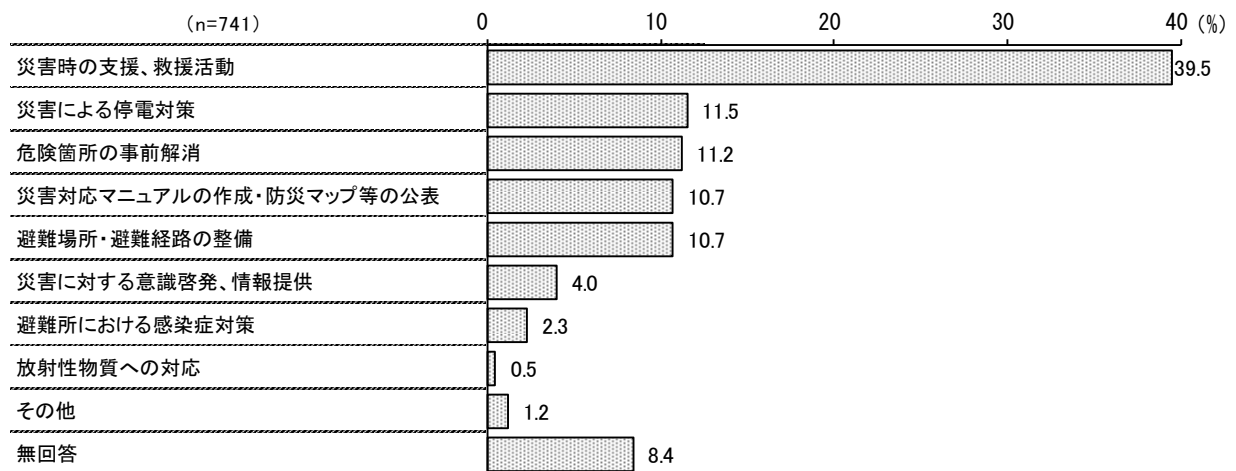
問46で県政への要望を３つまでたずね、その選んだ要望に関して、それぞれ具体的にどのようなことを望んでいるかを聞いた。

ここからは、それぞれの結果を図示していくが、問46の回答状況次第では、nの値が少なくなるものもあり、その場合は参考ということを明示する。

１ 災害から県民を守る（44.7%、１位）

「災害時の支援、救援活動」（39.5%）が約４割で最も高く、以下、「災害による停電対策」（11.5%）、「危険箇所の事前解消」（11.2%）が続く。

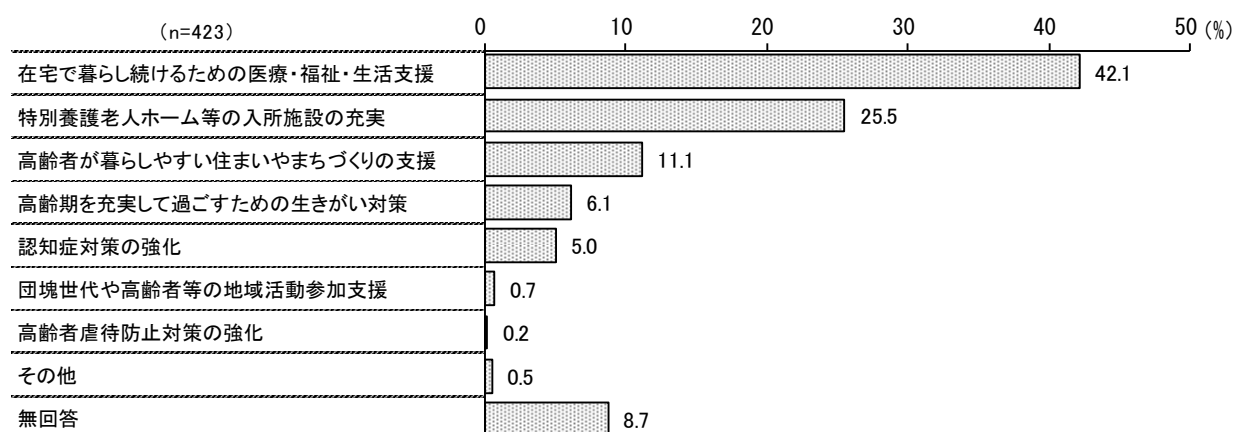
＜図表13－７＞災害から県民を守る



２ 高齢者の福祉を充実する（25.5%、２位）

「在宅で暮らし続けるための医療・福祉・生活支援」（42.1%）が４割を超えて最も高く、以下、「特別養護老人ホーム等の入所施設の充実」（25.5%）、「高齢者が暮らしやすい住まいやまちづくりの支援」（11.1%）が続く。

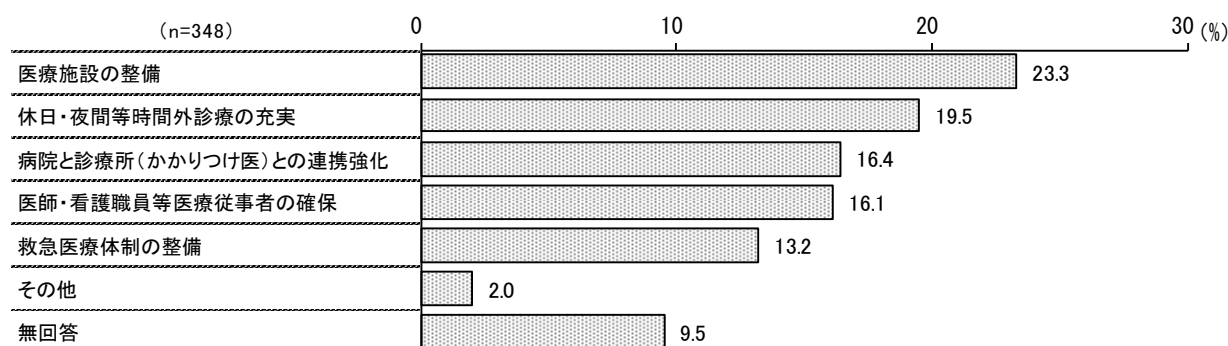
＜図表13－８＞高齢者の福祉を充実する



3 医療サービス体制を整備する（21.0%、3位）

「医療施設の整備」（23.3%）が2割を超えて最も高く、以下、「休日・夜間等時間外診療の充実」（19.5%）、「病院と診療所（かかりつけ医）との連携強化」（16.4%）が続く。

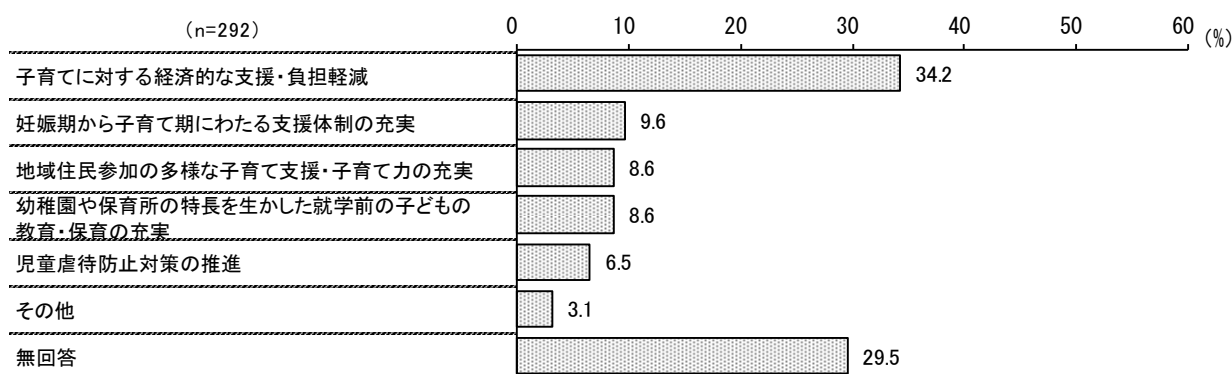
＜図表13－9＞医療サービス体制を整備する



4 次世代を担う子どもの育成支援を充実する（17.6%、4位）

「子育てに対する経済的な支援・負担軽減」（34.2%）が3割台半ばで最も高く、以下、「妊娠期から子育て期にわたる支援体制の充実」（9.6%）、「地域住民参加の多様な子育て支援・子育て力の充実」と「幼稚園や保育所の特長を生かした就学前の子どもの教育・保育の充実」（8.6%）が続く。

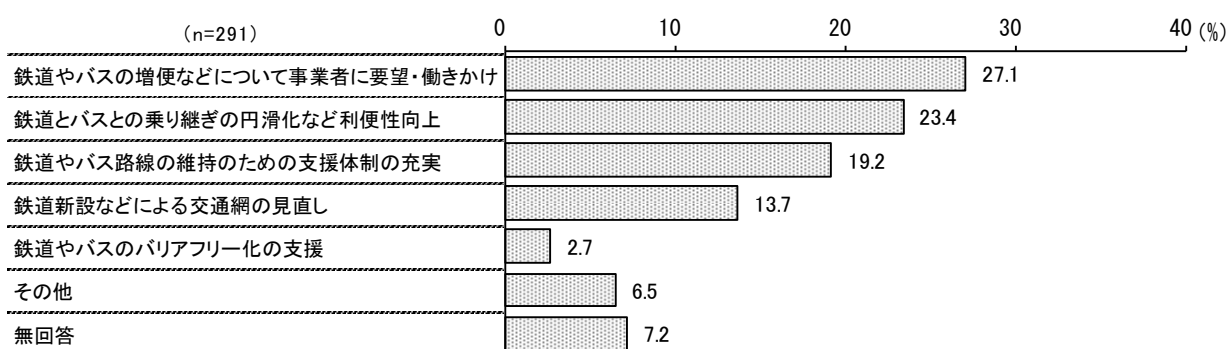
＜図表13－10＞次世代を担う子どもの育成支援を充実する



5 公共交通網（バス・鉄道）を整備する（17.5%、5位）

「鉄道やバスの増便などについて事業者に要望・働きかけ」（27.1%）が約3割で最も高く、以下、「鉄道とバスとの乗り継ぎの円滑化など利便性向上」（23.4%）、「鉄道やバス路線の維持のための支援体制の充実」（19.2%）が続く。

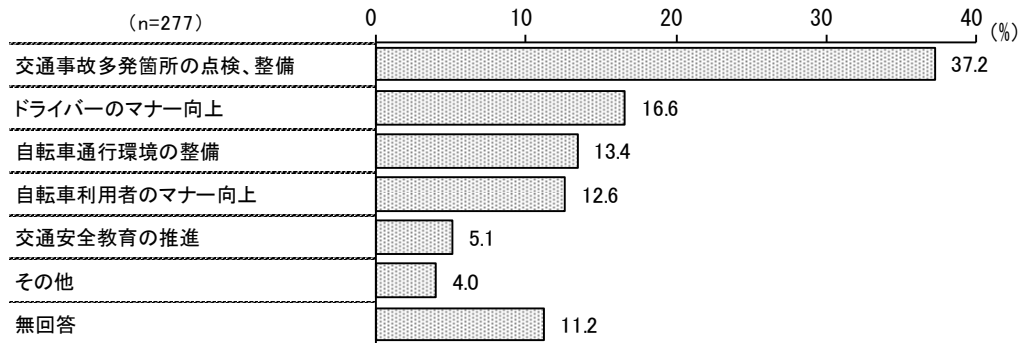
＜図表13－11＞公共交通網（バス・鉄道）を整備する



6 交通事故から県民を守る（16.7%、6 位）

「交通事故多発箇所の点検、整備」（37.2%）が約 4 割で最も高く、以下、「ドライバーのマナー向上」（16.6%）、「自転車通行環境の整備」（13.4%）が続く。

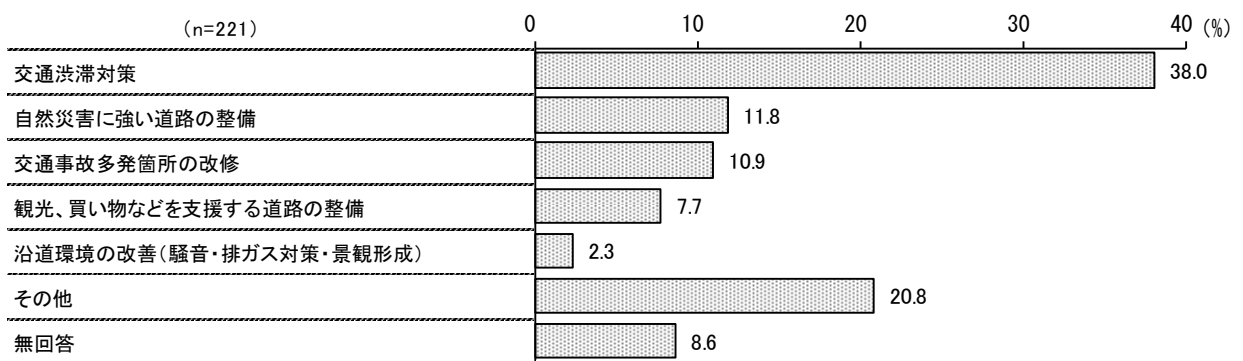
＜図表13－12＞交通事故から県民を守る



7 道路を整備する（13.3%、7 位）

「交通渋滞対策」（38.0%）が約 4 割で最も高く、以下、「自然災害に強い道路の整備」（11.8%）、「交通事故多発箇所の改修」（10.9%）が続く。

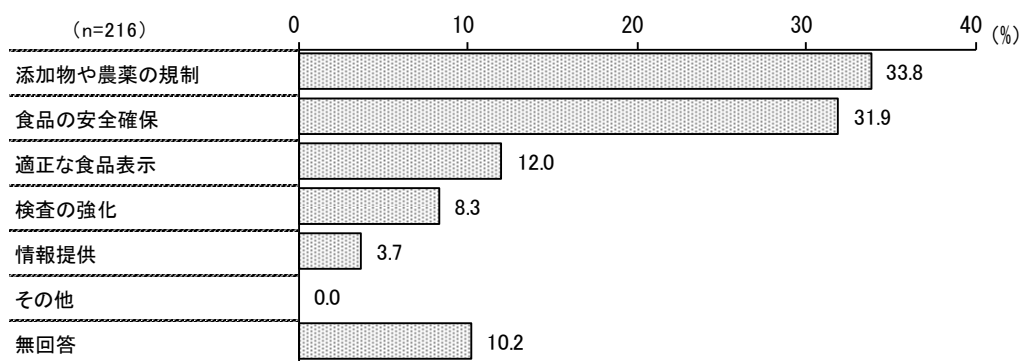
＜図表13－13＞道路を整備する



8 食品の安全を守る（13.0%、8 位）

「添加物や農薬の規制」（33.8%）が 3 割台半ばで最も高く、以下、「食品の安全確保」（31.9%）、「適正な食品表示」（12.0%）が続く。

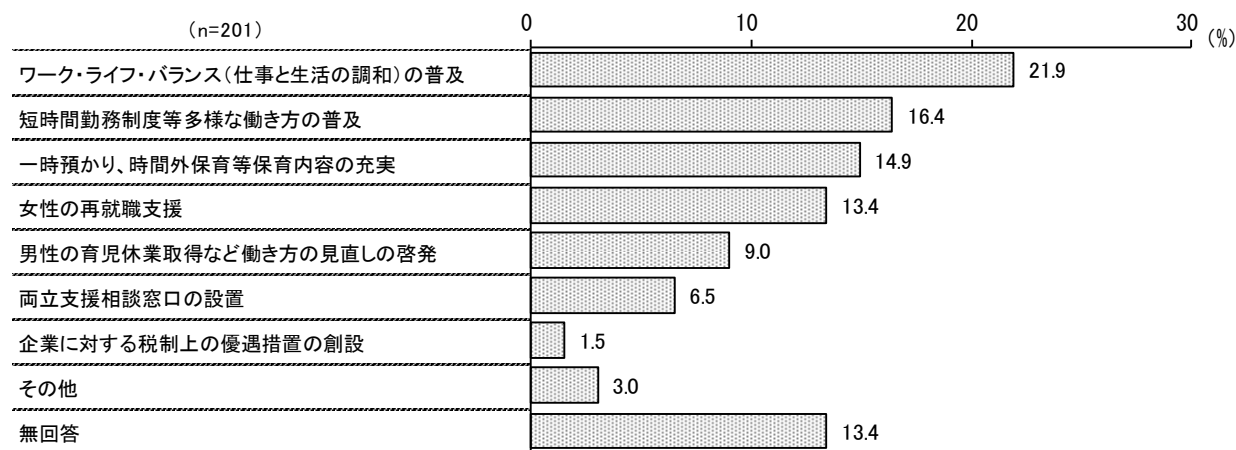
＜図表13－14＞食品の安全を守る



9 仕事と子育てや介護が両立する働き方を実現する（12.1%、9位）

「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の普及」（21.9%）が2割を超えて最も高く、以下、「短時間勤務制度等多様な働き方の普及」（16.4%）、「一時預かり、時間外保育等保育内容の充実」（14.9%）が続く。

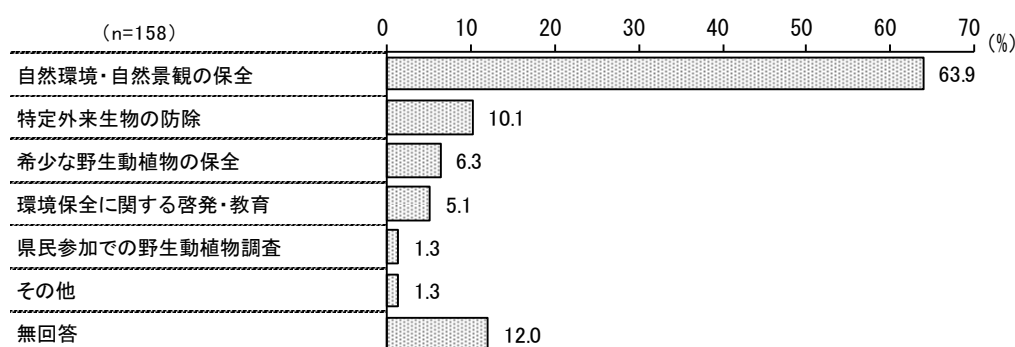
＜図表13-15＞仕事と子育てや介護が両立する働き方を実現する



10 自然を守り、緑を育てる（9.5%、10位）

「自然環境・自然景観の保全」（63.9%）が6割台半ばで最も高く、以下、「特定外来生物の防除」（10.1%）、「希少な野生動植物の保全」（6.3%）が続く。

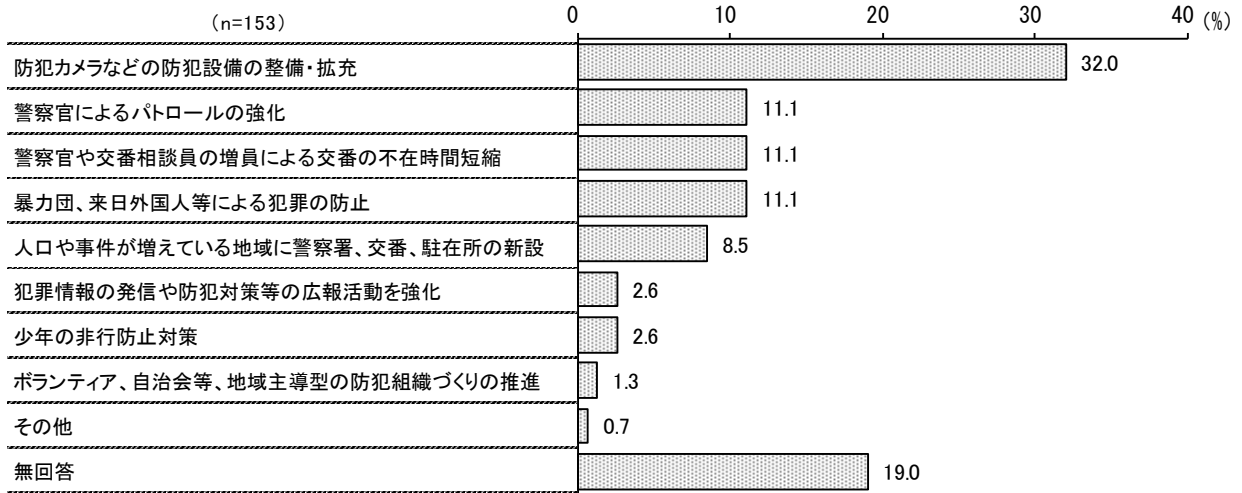
＜図表13-16＞自然を守り、緑を育てる



11 犯罪防止対策をすすめる（9.2%、11位）

「防犯カメラなどの防犯設備の整備・拡充」（32.0%）が3割を超えて最も高く、以下、「警察官によるパトロールの強化」と「警察官や交番相談員の増員による交番の不在時間短縮」と「暴力団、来日外国人等による犯罪の防止」（11.1%）が続く。

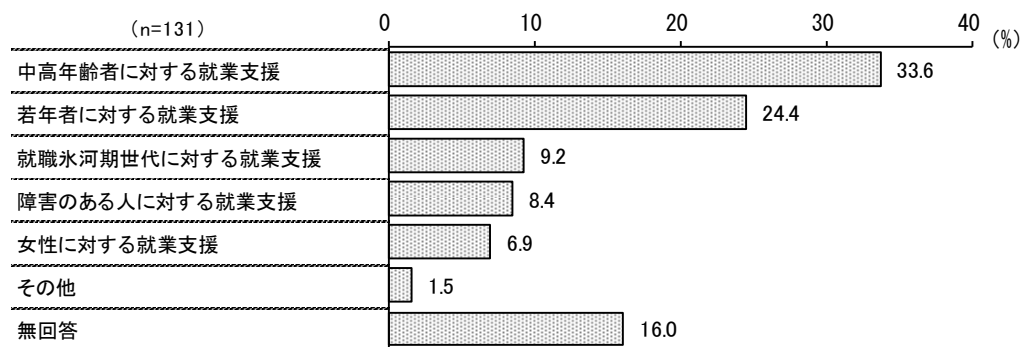
＜図表13-17＞犯罪防止対策をすすめる



12 雇用を広げる（7.9%、12位）

「中高年齢者に対する就業支援」（33.6%）が3割台半ばで最も高く、以下、「若年者に対する就業支援」（24.4%）、「就職氷河期世代に対する就業支援」（9.2%）が続く。

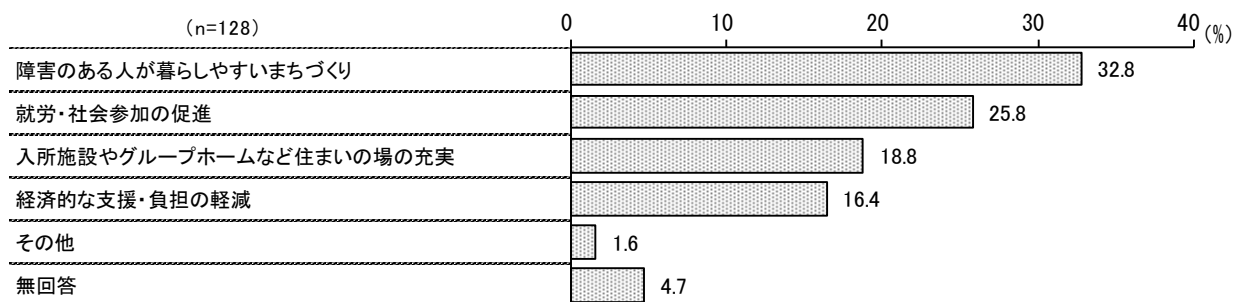
＜図表13-18＞雇用を広げる



13 障害のある人の福祉や社会参加の支援を充実する（7.7%、13位）

「障害のある人が暮らしやすいまちづくり」（32.8%）が3割を超えて最も高く、以下、「就労・社会参加の促進」（25.8%）、「入所施設やグループホームなど住まいの場の充実」（18.8%）が続く。

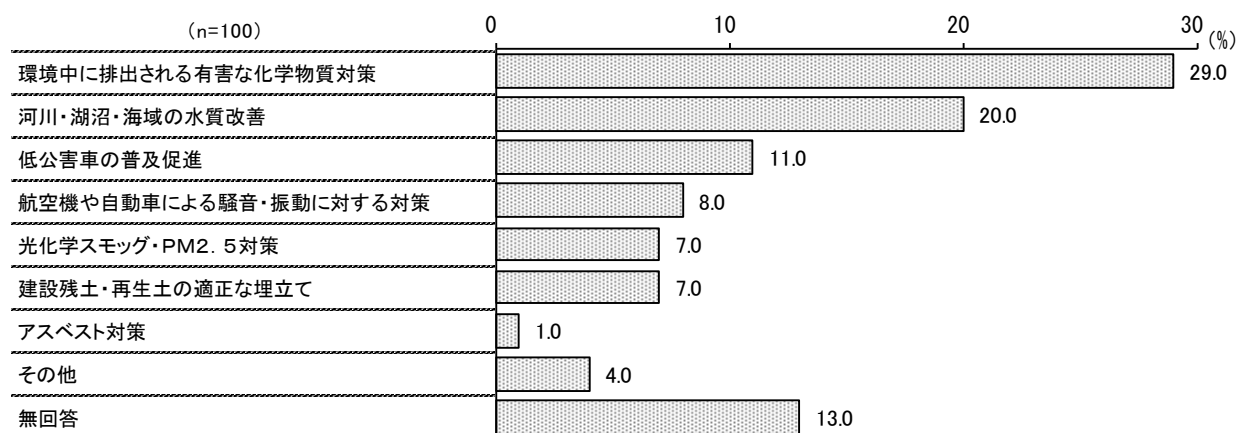
＜図表13-19＞障害のある人の福祉や社会参加の支援を充実する



14 大気汚染、水質汚濁、騒音などの環境対策をすすめる（6.0%、14位）

「環境中に排出される有害な化学物質対策」（29.0%）が約3割で最も高く、以下、「河川・湖沼・海域の水質改善」（20.0%）、「低公害車の普及促進」（11.0%）が続く。

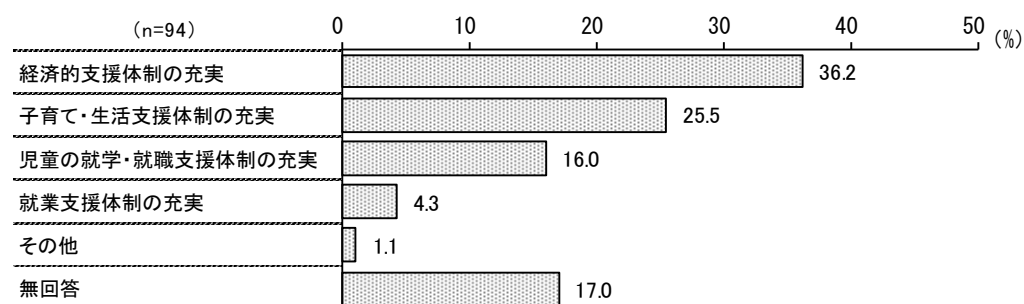
＜図表13-20＞大気汚染、水質汚濁、騒音などの環境対策をすすめる



15 ひとり親家庭等の福祉を充実する（5.7%、15位）

「経済的支援体制の充実」（36.2%）が3割台半ばで最も高く、以下、「子育て・生活支援体制の充実」（25.5%）、「児童の就学・就職支援体制の充実」（16.0%）が続く。

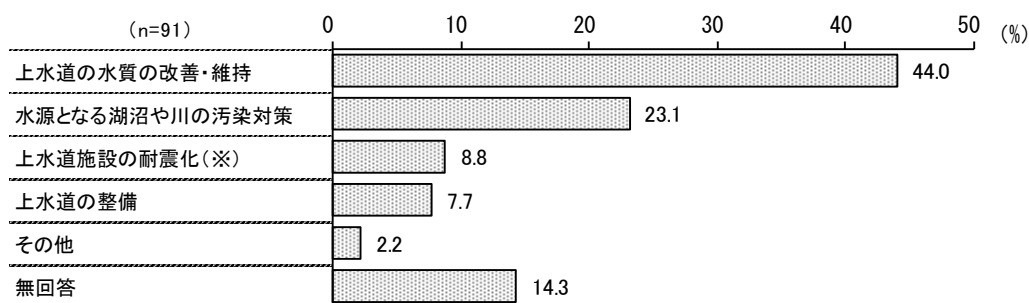
＜図表13-21＞ひとり親家庭等の福祉を充実する



16 安心して飲める良質な水道水を供給する（5.5%、16位）

「上水道の水質の改善・維持」（44.0%）が4割台半ばで最も高く、以下、「水源となる湖沼や川の汚染対策」（23.1%）、「上水道施設の耐震化」（8.8%）が続く。

＜図表13-22＞安心して飲める良質な水道水を供給する

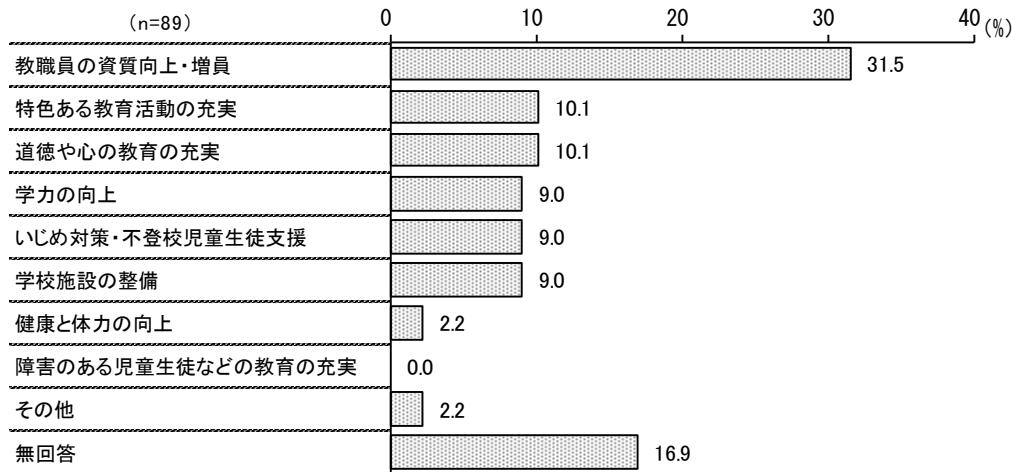


(※)「上水道施設の耐震化」は今回調査からの項目

17 学校教育を充実する（5.4%、17位）

「教職員の資質向上・増員」（31.5%）が3割を超えて最も高く、以下、「特色ある教育活動の充実」と「道徳や心の教育の充実」（10.1%）が続く。

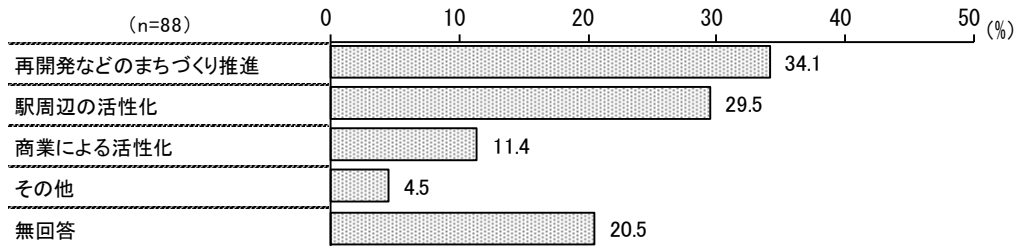
＜図表13-23＞学校教育を充実する



18 中心市街地の活性化を推進する（5.3%、18位）

「再開発などのまちづくり推進」（34.1%）が3割台半ばで最も高く、以下、「駅周辺の活性化」（29.5%）、「商業による活性化」（11.4%）が続く。

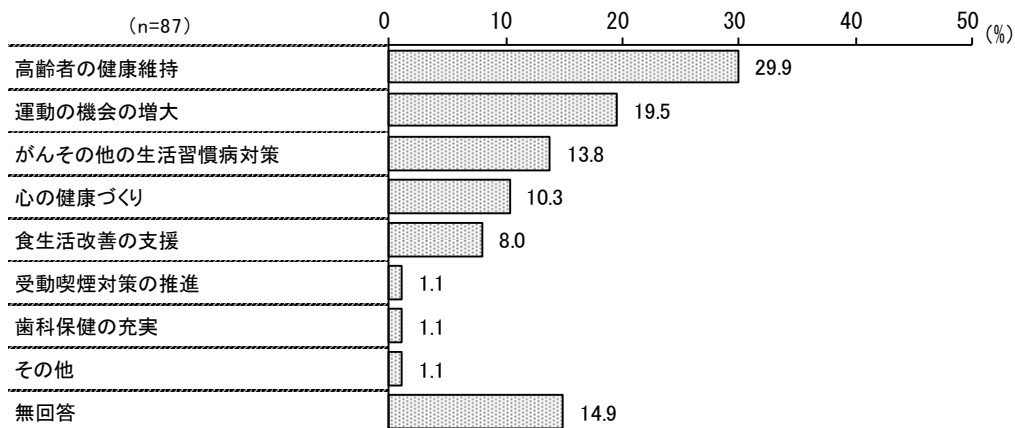
＜図表13-24＞中心市街地の活性化を推進する



19 健康づくりをすすめて、病気を予防する（5.2%、19位）

「高齢者の健康維持」（29.9%）が約3割で最も高く、以下、「運動の機会の増大」（19.5%）、「がんその他の生活習慣病対策」（13.8%）が続く。

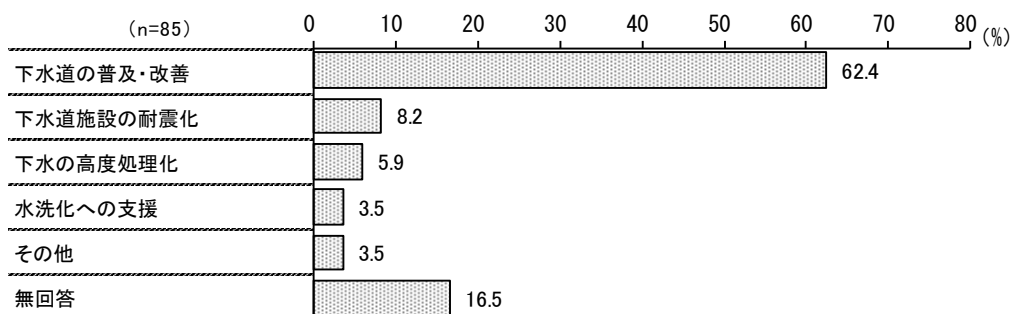
＜図表13-25＞健康づくりをすすめて、病気を予防する



20 下水道を整備する（5.1%、20位）

「下水道の普及・改善」(62.4%) が6割を超えて最も高く、以下、「下水道施設の耐震化」(8.2%)、「下水の高度処理化」(5.9%)が続く。

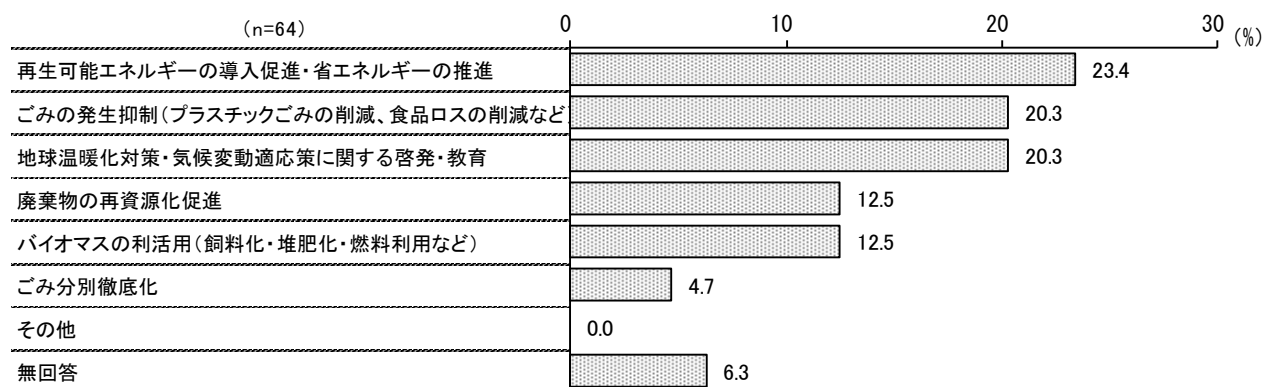
＜図表13-26＞下水道を整備する



21 循環型社会を推進する（3.9%、21位）

「再生可能エネルギーの導入促進・省エネルギーの推進」(23.4%) が2割を超えて最も高く、以下、「ごみの発生抑制（プラスチックごみの削減、食品ロスの削減など）」と「地球温暖化対策・気候変動適応策に関する啓発・教育」(20.3%)が続く。

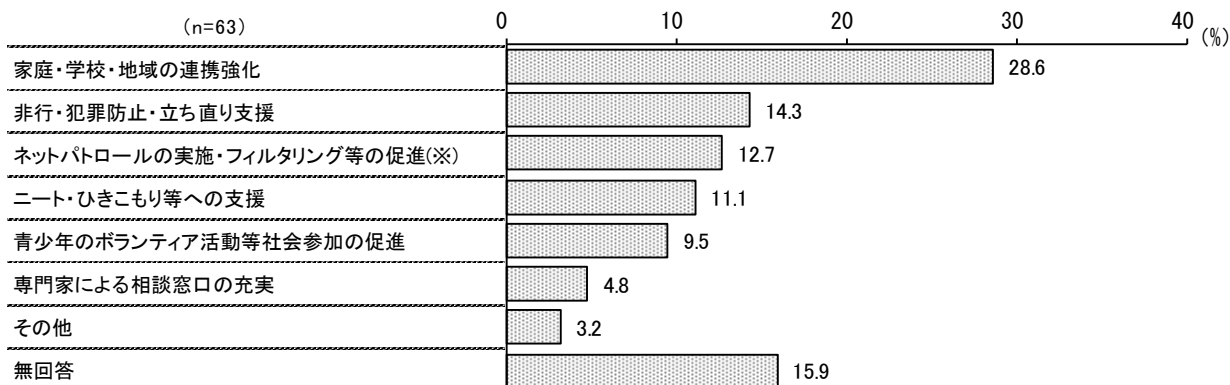
＜図表13-27＞循環型社会を推進する



22 青少年を健全に育てる（3.8%、22位）

「家庭・学校・地域の連携強化」(28.6%) が約3割で最も高く、以下、「非行・犯罪防止・立ち直り支援」(14.3%)、「ネットパトロールの実施・フィルタリング等の促進」(12.7%)が続く。

＜図表13-28＞青少年を健全に育てる

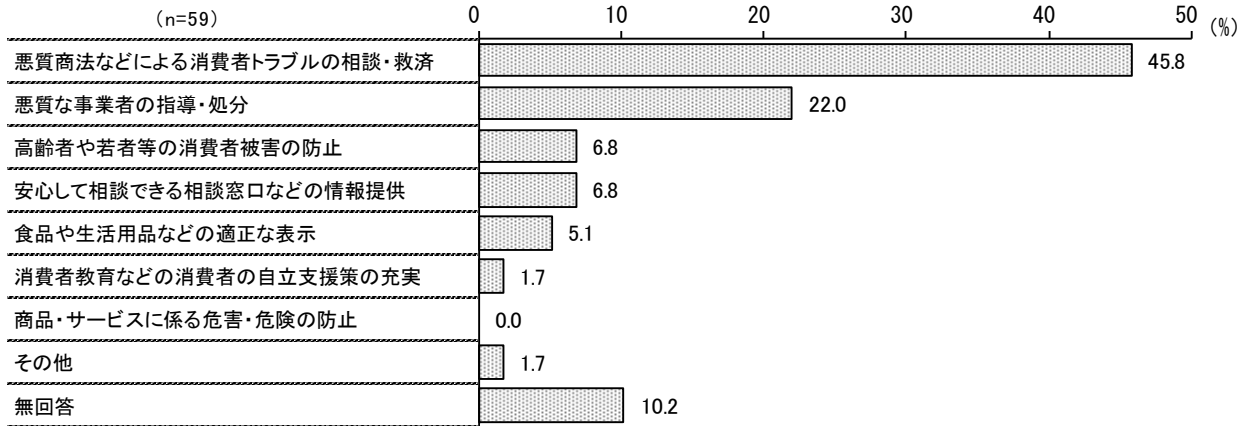


(※) 令和2年度調査で、「ネットパトロールの実施・有害メディアの規制」

23 消費生活のトラブルに関する対策をすすめる（3.6%、23位）

「悪質商法などによる消費者トラブルの相談・救済」（45.8%）が4割台半ばで最も高く、以下、「悪質な事業者の指導・処分」（22.0%）、「高齢者や若者等の消費者被害の防止」と「安心して相談できる相談窓口などの情報提供」（6.8%）が続く。

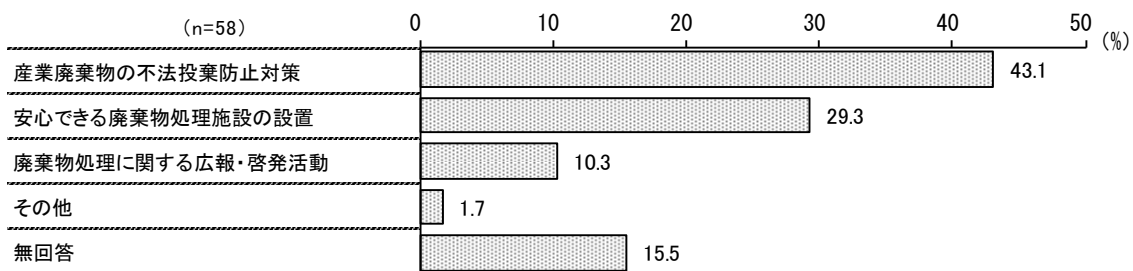
＜図表13-29＞消費生活のトラブルに関する対策をすすめる



24 廃棄物対策をすすめる（3.5%、24位）

「産業廃棄物の不法投棄防止対策」（43.1%）が4割を超えて最も高く、以下、「安心できる廃棄物処理施設の設置」（29.3%）、「廃棄物処理に関する広報・啓発活動」（10.3%）が続く。

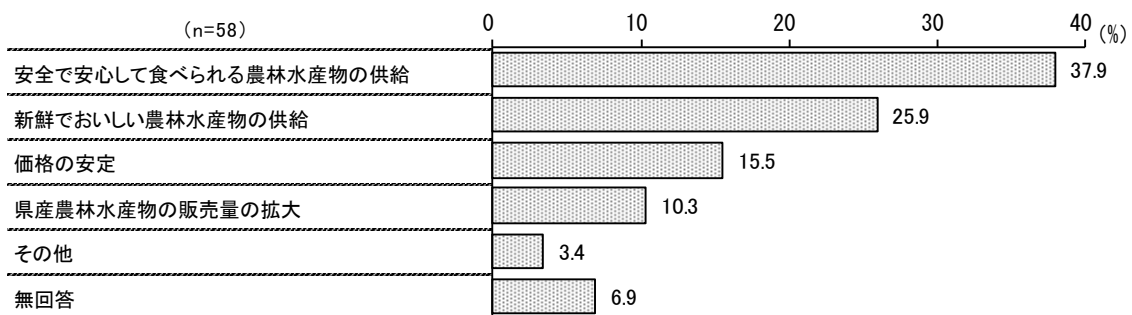
＜図表13-30＞廃棄物対策をすすめる



25 農林水産業を振興し新鮮な農林水産物を供給する（3.5%、24位）

「安全で安心して食べられる農林水産物の供給」（37.9%）が約4割で最も高く、以下、「新鮮でおいしい農林水産物の供給」（25.9%）、「価格の安定」（15.5%）が続く。

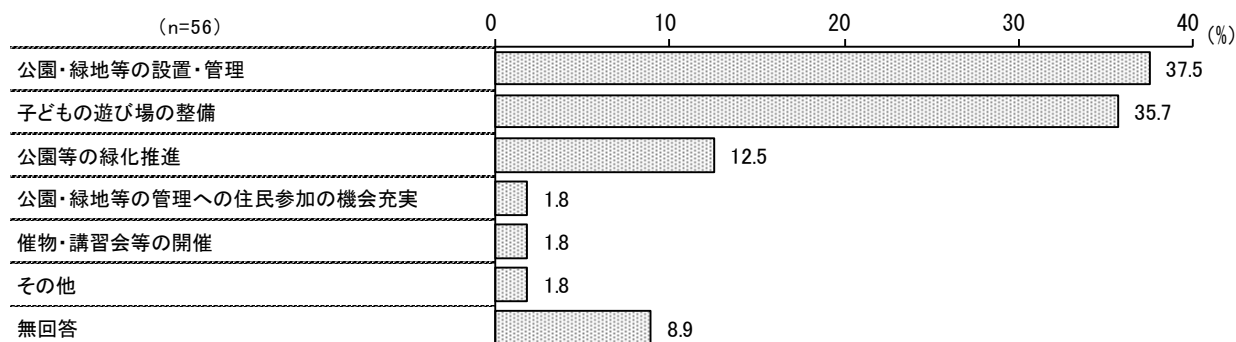
＜図表13-31＞農林水産業を振興し新鮮な農林水産物を供給する



26 公園・緑地を整備する（3.4%、26位）

「公園・緑地等の設置・管理」（37.5%）が約4割で最も高く、以下、「子どもの遊び場の整備」（35.7%）、「公園等の緑化推進」（12.5%）が続く。

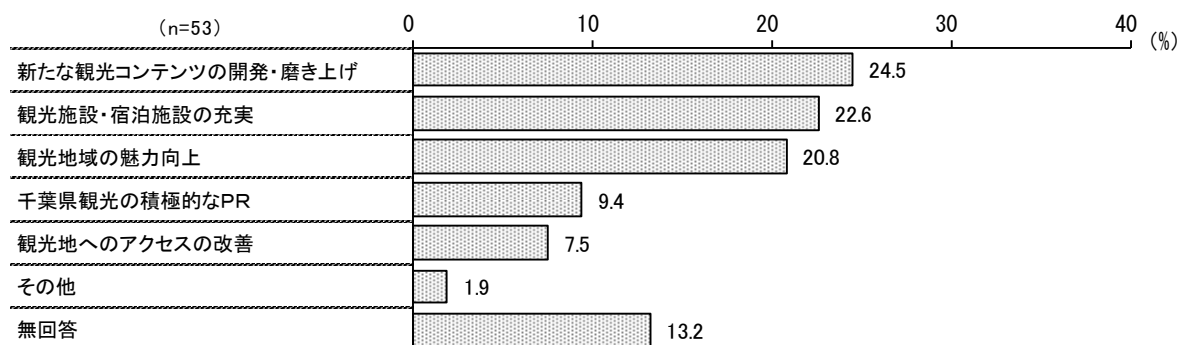
＜図表13-32＞公園・緑地を整備する



27 観光を振興する（3.2%、27位）

「新たな観光コンテンツの開発・磨き上げ」（24.5%）が2割台半ばで最も高く、以下、「観光施設・宿泊施設の充実」（22.6%）、「観光地域の魅力向上」（20.8%）が続く。

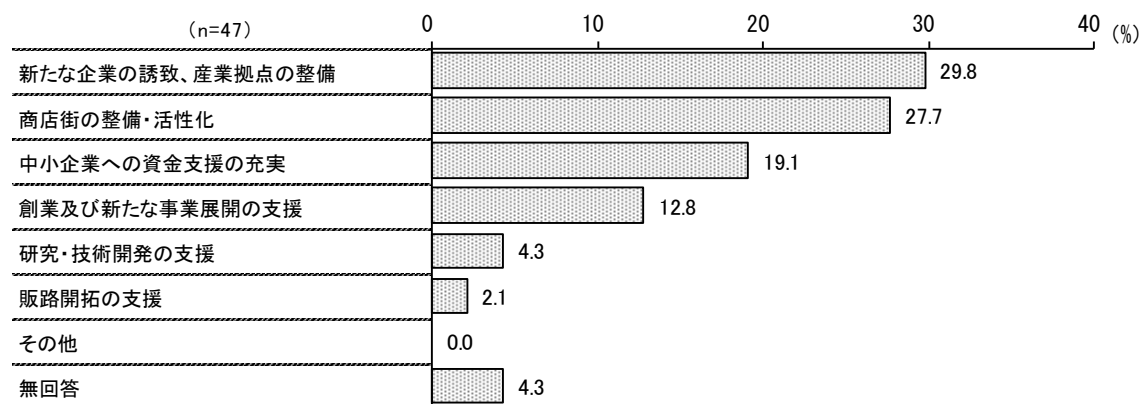
＜図表13-33＞観光を振興する



28 商工業を振興し、地域経済の担い手を育成する（2.8%、28位）

「新たな企業の誘致、産業拠点の整備」（29.8%）が約3割で最も高く、以下、「商店街の整備・活性化」（27.7%）、「中小企業への資金支援の充実」（19.1%）が続く。

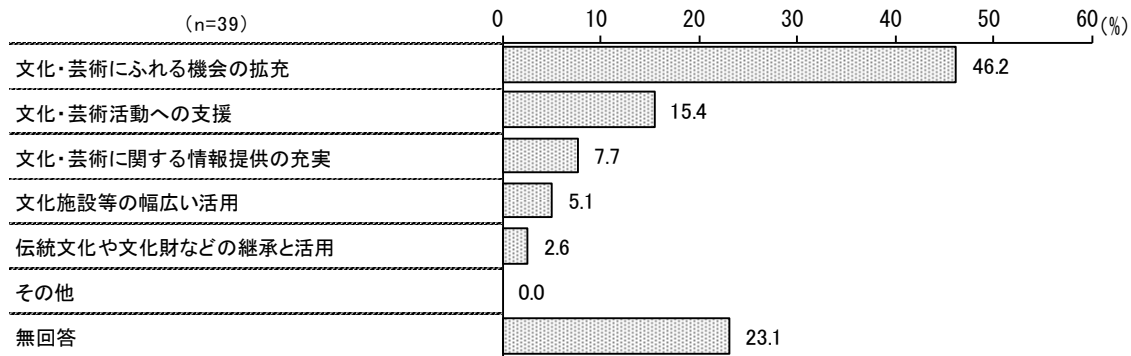
＜図表13-34＞商工業を振興し、地域経済の担い手を育成する



29 芸術・文化活動を振興する（2.4%、29位）

「文化・芸術にふれる機会の拡充」（46.2%）が4割台半ばで最も高く、以下、「文化・芸術活動への支援」（15.4%）、「文化・芸術に関する情報提供の充実」（7.7%）が続く。

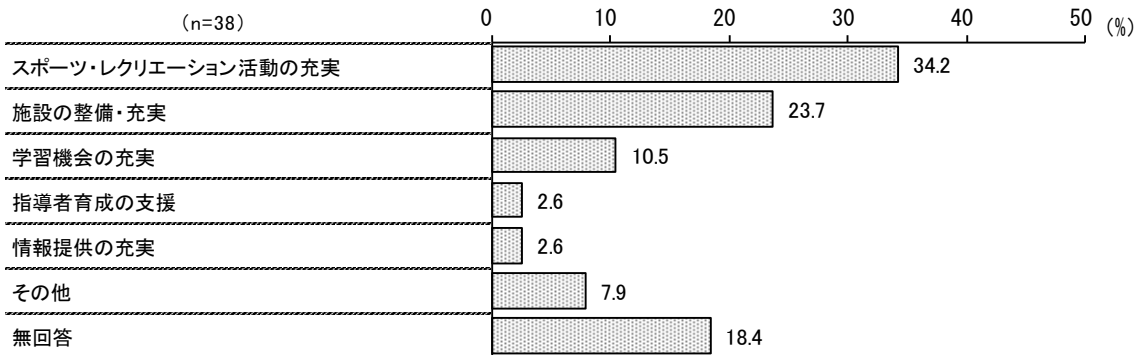
＜図表13-35＞芸術・文化活動を振興する



30 生涯学習・スポーツ・レクリエーションを振興する（2.3%、30位）

「スポーツ・レクリエーション活動の充実」（34.2%）が3割台半ばで最も高く、以下、「施設の整備・充実」（23.7%）、「学習機会の充実」（10.5%）が続く。

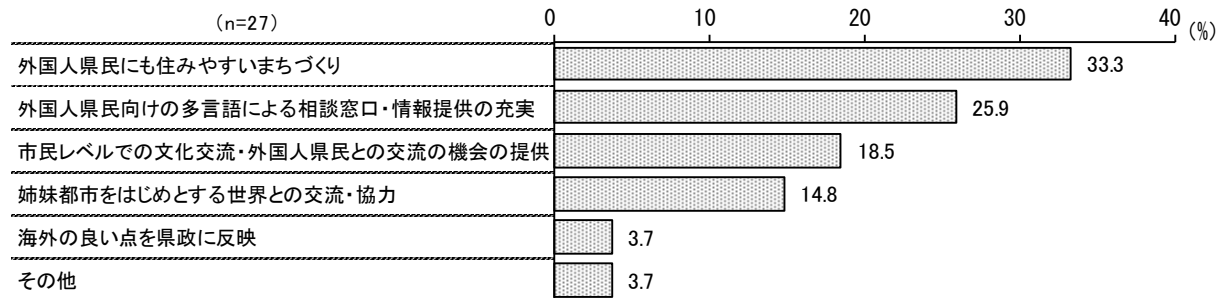
＜図表13-36＞生涯学習・スポーツ・レクリエーションを振興する



31 国際交流・協力や外国人県民との共生をすすめる（1.6%、31位）

「外国人県民にも住みやすいまちづくり」（33.3%）が3割を超えて最も高く、以下、「外国人県民向けの多言語による相談窓口・情報提供の充実」（25.9%）、「市民レベルでの文化交流・外国人県民との交流の機会の提供」（18.5%）が続く。

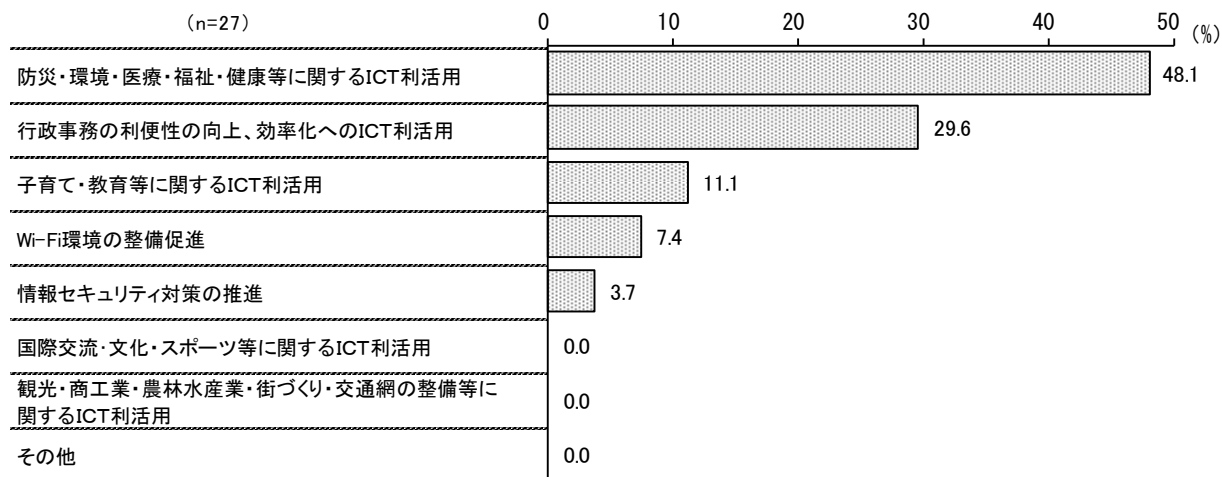
＜図表13-37＞国際交流・協力や外国人県民との共生をすすめる



32 施策実現や地域活性化のための I C T（情報通信技術）の利活用をすすめる（1.6%、31位）

「防災・環境・医療・福祉・健康等に関する I C T利活用」（48.1%）が約 5 割で最も高く、以下、「行政事務の利便性の向上、効率化への I C T利活用」（29.6%）、「子育て・教育等に関する I C T利活用」（11.1%）が続く。

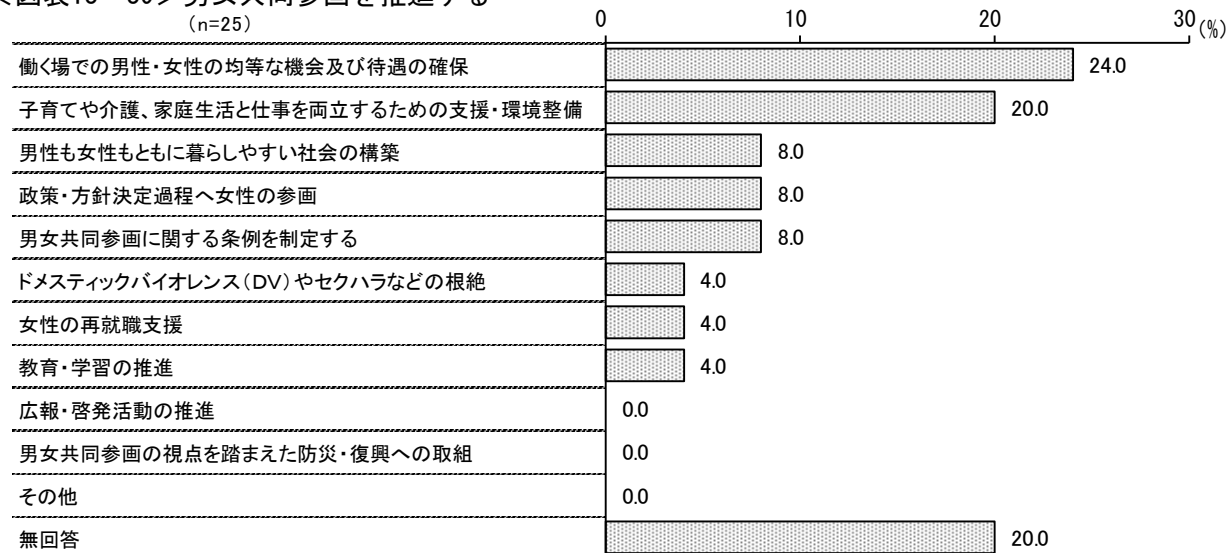
＜図表13－38＞施策実現や地域活性化のための I C T（情報通信技術）の利活用をすすめる



33 男女共同参画を推進する（1.5%、33位）

「働く場での男性・女性の均等な機会及び待遇の確保」（24.0%）が 2 割台半ばで最も高く、以下、「子育てや介護、家庭生活と仕事を両立するための支援・環境整備」（20.0%）、「男性も女性もともに暮らしやすい社会の構築」と「政策・方針決定過程へ女性の参画」と「男女共同参画に関する条例を制定する」（8.0%）が続く。

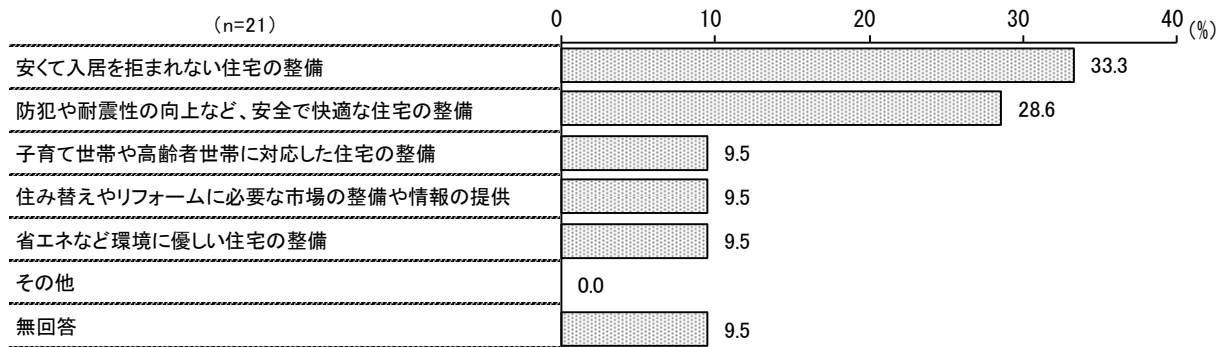
＜図表13－39＞男女共同参画を推進する



34 住宅対策を充実する（1.3%、34位）

「安くて入居を拒まれない住宅の整備」（33.3%）が3割を超えて最も高く、以下、「防犯や耐震性の向上など、安全で快適な住宅の整備」（28.6%）、「子育て世帯や高齢者世帯に対応した住宅の整備」と「住み替えやリフォームに必要な市場の整備や情報の提供」と「省エネなど環境に優しい住宅の整備」（9.5%）が続く。

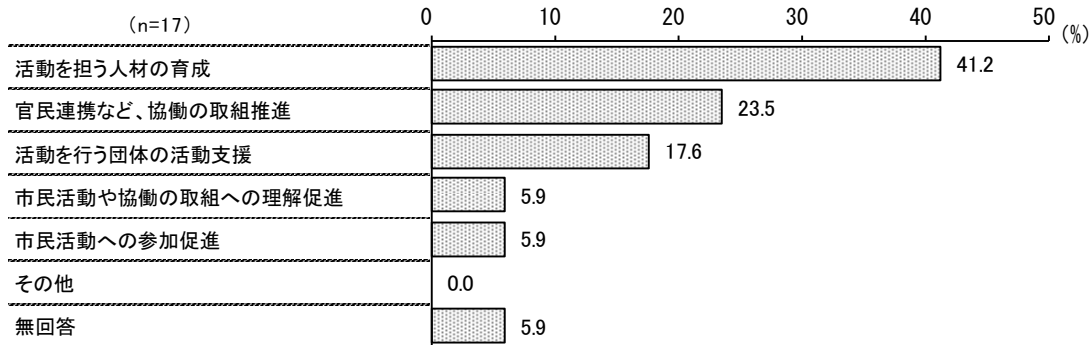
＜図表13－40＞住宅対策を充実する



35 地域課題解決に向けた市民活動や協働の取組を推進する（1.0%、35位）

n が少ないため、参考までに図示するにとどめる。

＜図表13－41＞地域課題解決に向けた市民活動や協働の取組を推進する



14 自由回答

問 県や世論調査へのご意見やご提案がありましたらご自由にお書きください。

県への意見を自由に記述していただいたところ、県への意見については253人から延べ274件の回答が寄せられた。人数・件数には別の設問である「設問への意見」に記入された県への意見も含む。

記述いただいた内容は多岐にわたり、県政の各施策におおむね沿った形で整理した。なお、一人の回答が複数の内容にわたる場合には、原文の内容の趣旨をそこなわないよう回答を分け、それぞれの項目へ分類した。また、紙面の都合上、すべての意見を掲載することはできないが、意見の多い項目（8件以上）に関しては、意見の一部を抜粋して記載するものとする。

【県への自由回答の項目順位】

順位	項 目	件数
第1位	県政全般に関する要望	59
第2位	公共交通網（バス・鉄道）を整備する	20
第3位	次世代を担う子どもの育成支援を充実する	17
第4位	道路を整備する	16
第5位	地域ブランディングの推進と過疎化対策	15
第6位	災害から県民を守る	12
第7位	高齢者の福祉を充実する	10
第8位	交通事故から県民を守る	9
"	学校教育を充実する	9
第10位	障害のある人の福祉や社会参加の支援を充実する	8
"	大気汚染、水質汚濁、騒音などの環境対策をすすめる	8
第12位	犯罪防止対策をすすめる	7
第13位	新型コロナウイルス感染症対策	5
"	食品の安全を守る	5
"	農林水産業を振興し新鮮な農林水産物を供給する	5
"	公園・緑地を整備する	5
第17位	医療サービス体制を整備する	4
"	地域格差の是正	4
第19位	観光を振興する	3
"	情報提供のあり方	3
"	生活困窮者支援	3
"	県民の声を聴く機会	3
第23位	仕事と子育てや介護が両立する働き方を実現する	2
"	上水道の整備・修理	2
"	国際交流・協力や外国人県民との共生をすすめる	2
"	雇用の場を広げる	2
"	生涯学習・スポーツ・レクリエーションを振興する	2
"	県議会議員について	2
第29位	地域課題解決に向けた市民活動や協働の取組を推進する	1
"	ひとり親家庭等の福祉を充実する	1
"	自然を守り、緑を育てる	1
"	循環型社会を推進する	1
"	芸術・文化活動を振興する	1
"	施策実現や地域活性化のためのICT(情報通信技術)の利活用をすすめる	1
"	社会的弱者のケア	1
"	少子化対策	1
	その他	24
	うち、国政への要望	6
	うち、居住市町村への要望	17

合 計（延べ件数） 274

【自由回答の記述】（意見の多い項目の一部抜粋）

■県政全般に関する要望

- 気候温暖、明るくほがらかな県民性、働き易い住環境、全ての人が平等に明るく健康的な街づくり推進を期待しています。
（男性、75歳以上、佐倉市）
- 住み安さと自然豊かな千葉ですが、ゴミのポイ捨てや犯罪、農業の衰退が残念です。安心安全な生活の為に自然環境と調和した千葉を目指し県政を行って下さい。
（女性、30代、市原市）
- ごくあたり前の常識が、あたり前に実行される行政を行って欲しい。
（男性、75歳以上、印旛郡栄町）
- 県で実施している政策等について、なかなか伝わってこない。多種多様な為、理解しにくい。身近なものと感じない。
（女性、70～74歳、大網白里市）
- 県、市町村の職員の働き方や無駄のない配置などの再確認。
（男性、70～74歳、松戸市）
- 各自治体がバラバラに動いている。一自治体のできることは限られており、もっと地域連携を深めて、それらを県がまとめて、千葉の力を発揮すべき。県の姿が市民から見えない。公にありがちな、法に縛られてあきらめたり、その場しのぎの事業であったりではなく、未来につながる提案、改革を県が先頭になって進めてほしい。
（男性、50～59歳、浦安市）
- 千葉県では、県の仕事を徹底的な効率化を行い、まずは、県の職員が充実した生活を送ることだと思います。中枢が疲弊していたらそれは県民も幸せになれません。世の中マイナスに目が行きがちですが、目を向けるのはプラスの方向だと思います。みんながプラスに考えれば良くなると思います。そのような千葉県になってもらいたいです。
（男性、40～49歳、松戸市）
- 借金のない健全な財政を望みます。
（男性、40～49歳、成田市）

■公共交通網（バス・鉄道）を整備する

○運転免許証を返した後の日用品の買物の事を考えると不安になる。バス停まで歩いていく事を困難になるのであろうと心配になる。
(女性、75歳以上、富里市)

○郡、町にお住まいの高齢者が運転しなくても良い様なサービス（バス本数の増加や、乗り合いタクシーなど）があれば良いかと思います。
(女性、40代、松戸市)

○鉄道の路線が京成、北総線、東葉高速、皆並行線のように走っている気がします。北総（千葉ニュータウン）の方へ八千代勝田台の方から北へ向うには新京成鎌ヶ谷まで横（西へ西へ）に向ってから又もどる様な進み方しかありません。バス路線の充実でも良いので改善して下さい。
(女性、75歳以上、八千代市)

○アンケートの交通整備で、バスや鉄道についてふれていたと思いますが車のお話で、木更津という地域柄、観光客が多くアクアラインおよびその周辺道路の渋滞がひどい状態です。特にアクアライン周辺に住んでいる方はその観光客渋滞の影響を受けて大変な思いをしているそうなのでアクアライン渋滞の解消に着手していただけると嬉しいです。
(女性、30～39歳、木更津市)

■次世代を担う子どもの育成支援を充実する

○高校を卒業する年齢まで医療費の負担がかからない受給券を発行してもらいたい。
(女性、40代、市原市)

○若い世代が安心して子育てをできる社会にして欲しいです。義務教育及び幼児に給食費無償にはならないものですかね。
(女性、70～74歳、白井市)

○50年、100年先を見据えても大事なことは国や自治体が子供を育てること。そのために親が産み、育てやすい環境や経済負担をフォローすることが重要と考えます。
(男性、40～49歳、柏市)

■道路を整備する

○道路が狭く、歩道も狭くて、とても歩きにくい場所がたくさんありますので車や自転車に気を使わなくてもよい道路を願っています。（女性、75歳以上、船橋市）

○新しい道路が整備されて便利に暮らせているので感謝なのですが、センターラインは消えている道も多く、夜の運転を控えるようにしています。横断歩道が消えてしまって車の停止線も無い中、通学している子供を見ると心配です。ドライブレコーダーを付けても、判断の基準が不足すると思います。白線を引いてほしいです。（女性、50代、印西市）

○道路が悪すぎる。渋滞箇所の多さ、危険な通学路、暗い外灯、狭すぎる歩道、車道にはみ出す雑草…雑木林（暗く、ゴミの不法投棄など）恐怖すら感じる道だらけ。（女性、40代、柏市）

■シティプロモーションの推進と過疎化対策

○千葉県は強みをアピールする戦略がヘタに思える。もっと本質を突いたほうがよいと思います。（男性、40代、成田市）

○テレワークの普及により、自然環境に恵まれた千葉県の魅力度はアップしていると思います。その利点をより強化するような施策に期待します。（女性、60～64歳、佐倉市）

○過疎化が激しく財政難の地域に住んでおります（銚子）。ただ、住むには最高なのに、生活しにくい環境なのが残念です。自然の利を活かせば、移住支援等充実させ、生活環境が整う背景があれば、絶対に住みやすい（災害の少ないまち）エリアになるはずです。その為には県の協力は必須です。是非ともお願いしたいところです。（女性、60～64歳、銚子市）

○この先、この地域の過疎化が不安です。どうぞよろしくお願いします。（運転免許返納後の生活がなりたちません…）（女性、50代、南房総市）

■災害から県民を守る

○災害時には県と各市町村が一体となって、じん速な対応をお願いします。（女性、75歳以上、柏市）

○毎年、南部地域で自然災害が発生しています。特に房総方面での被害が多く、その方面（地域）に特化するチームを常設して対策を行う等の必要があると思う。（男性、75歳以上、佐倉市）

○台風などの自然災害が増えてきて、停電が続くなど、あれだけ色々被害が出て大変だったのに、対策みたいな部分が見えない。また停電や水害がおきてから対処していたら前回からの進歩がないと思う。あの時と変わらないような気がして心配です。（男性、30～39歳、印西市）

■高齢者の福祉を充実する

○高齢者の福祉の充実という点において物足りなさを感じています。

（女性、70～74歳、千葉市）

○介護付の施設は料金が高く、本人の年金だけではたりず、子供の持ち出しになってしまう。在宅になれば介護離職になり介護うつに追いこまれる。やっと入所できた施設は看取りはしないとわれ、次の施設をさがさなくてはならず、辛い。

（女性、50代、市原市）

○生活保護は社会的にもみとめられているが、年金を納めても、老後は生活出来ない人達もいる事も真剣に考えて欲しい。少額年金受給でも福祉に厚く、見捨てない県にしたら、もっと魅力が出ると思うし、高齢者でも明るい老後が送れるお金に困らない県にして欲しい。

（女性、50～59歳、松戸市）

■交通事故から県民を守る

○高齢者の運転する車にひかれそうになった事があります。車がなくてはならない地域だからこそ、交通安全により力を入れてほしいです。交通量の多い時間帯に警官が立つ等抑止力につながるような事を県と県警が協力して行ってほしい。

（女性、40代、八千代市）

○千葉県に引っ越してきたが、県内全体的に交通ルールが悪いため、事故にあいそうになります（停止位置無視や信号無視等）。基本的な交通のルールを徹底して欲しいです。

（女性、30代、佐倉市）

○歩道や自転車の通る道をきちんと整備してほしい。子供が自転車で通学しているが、車との接触がいつ起こるか心配でならない。駅が近くにない所では自転車しか交通手段がないので

（女性、50～59歳、船橋市）

■学校教育の充実

○学校教育については、痛みのわかる様な、道徳教育を望む。社会規範を重点的に、自由とは何か、社会のルールを守っての自由を理解出来る様に。

（女性、70～74歳、南房総市）

○子どもの不登校が増えていると聞きます。またいじめで命を断つ子どもさんもいます。学校における子供の様子に注意を払い早期に対処できるような取り組みをお願いします。今年2月に旭川市で生徒が亡くなったいじめの件は、学校の職員も教育委員会もひどいものです。

（女性、50代、木更津市）

○学校の職員が本当に足りていません。しんどいです。どんどん人がたおれています。仕事が山のようにあり、ふえる一方です。「何を省くか」の会議をしたいのに、仕事のお願いばかり…もうどうにかならないのですか。このままだと、たおれます。夏休みは短くていいので平日を4時間授業とかにしてほしいです。

（女性、20代、船橋市）

「世論調査」に関する意見を自由に記述していただいたところ、72人から74件の回答が寄せられた。人数・件数には前問の「設問への意見」に記入された世論調査への意見も含む。

これらのご意見から、一部抜粋してご意見を記載するものとする。

■世論調査について

―《世論調査自体への意見》―

○時間を費やして記載しているので、有効活用して欲しいと思います。（女性、50代、柏市）

○市町村単位において、市政活動の違いがあるので、くらべるのは難しいのではないかと思います。（女性、40代、勝浦市）

○このアンケートが県政にどう生かされるのかイメージできませんでした。お金と時間をかけて実施された以上、今後に生かして頂きたいし意味がなかった物にはしてほしくないと思いました。（女性、50代、船橋市）

○市民の意見を聞いて下さりありがとうございます。（女性、40代、南房総市）

○これからも、例えばテーマを絞っての世論調査を行うなど、より具体的に、より深い調査を行なっていくことを希望します。（女性、60～64歳、船橋市）

○国や市に対しては意識が向くのですが、県というものに対しての意識が薄かったと、今回改めて気付きました。県に対しても知識を深めていく良いきっかけとなりました。（女性、60～64歳、松戸市）

○今回、自分の所へ、調査の書類が送られてきて、初めて県でも実施している事を知りました。それについて経費の額が気になります。こんな事をしなくても、平等に安心して暮らせるのであれば、それが皆の願いではないでしょうか。（女性、65～69歳、市原市）

○調査ただけで終わらないように、県民の生活が良くなるような千葉県になってほしいです。（男性、60～64歳、東金市）

○今回初めて世論調査に答えたのですが色々知らない事や特に興味を待ってこなかった事に関心がもてました。同封されていたチーバ君のボールペンがとても嬉しかったです。インターネット時代ですが、まだまだアナログ人間なのでこうやって紙で回答させてくれて感謝します。今後も紙とネット両方での回答ができるようにつづけてほしいです。（女性、30代、松戸市）

— 《調査手法や謝礼への意見》

- （回答期限）日にちに余裕があった方が良い。年末はやめてほしい。
（女性、70～74歳、銚子市）
- パソコンから回答しようと思ったが、非常に分かりにくい。担当者の方は、自分の親や子供がアクセス出来るかやってもらった方が良い。
（男性、60～64歳、不明）
- （督促の）はがきが再度来たので思い出してアンケートを書いた。（督促）はがきは重要だと思った。
（女性、30代、船橋市）
- インターネットを使う試みは良いと思います。ただ、選択肢が多いとスマートフォンの画面で見づらいです。
（男性、20～29歳、市原市）
- チーバくんのボールペンありがとうございます。チーバくんを使つての県のPRはいいと思います。
（女性、60～64歳、八千代市）
- ボールペンをもらえて嬉しかったです。チーバくんのボールペン可愛いんです。
（女性、30代、市川市）
- 回答への謝礼なのですが、ボールペンは不要です。
（男性、60～64歳、松戸市）

問 今までの設問について、ご意見やご提案がありましたらご自由にお書きください。

今回のアンケート調査における「設問に関する意見」を自由に記述していただいたところ、190人から60件の回答が寄せられた。「県や世論調査への意見」に記述された意見のうち、「設問への意見」に該当するものもこちらに振り分けている。なお、回答者数より記述件数が少ないのは、その多くが「県や世論調査への意見」に該当するものであったため、そちらに振り分けたことによるものである。

○今回のアンケートは、県という視点での調査ですが、市民の意識としては、「国」という視点と「市・町・村」住居地、視点には関心が向くが「県」の直接関与の意識は極めて少ない。このアンケートで回答にとまどう設問有り。
(男性、70～74 歳、浦安市)

○子育てに対しての設問は多いものの、子育てをしていない共働き家庭に対する設問が少ないです。選択的に子供をもたない家庭があることも考えてほしいです。(女性、30 代、成田市)

○都合のいい質問だけ、もっと深掘した質問が必要。ただやったに過ぎない。
(男性、60～64 歳、大網白里市)

○この質問では具体策にはつながりにくいと思われる。県民が望むものと乖離している。設問がまとはずれ。
(男性、65～69 歳、船橋市)

○「○を3つまで」という設問が非常に悩みました。特に問 46 の「県政への要望」は36個ある中の3つだったので。本当はほとんどお願いしたい事ばかりでしたが、○をつけていないと要望していないようで。優先順位という事はわかっていますが、答えにくかったです。
(女性、30 代、八千代市)

○県政に対して、あまり関心が無かった事を痛感しました。記入に時間を要しました。
(女性、65～69 歳、長生郡一宮町)

○表面的な質問はあまり意味をなさないと思います。
(男性、40 代、成田市)

○「問い」について説明があり、考え違えしないような配慮があり理解しやすかったです。
(男性、40～49 歳、市原市)

○アンケートについて：県の熱意を感じ、好感は持てますが、設問の多さが気になりました。誠実な回答を得たいのであれば、もう少し回答者の時間的拘束や負担の軽減を考えて頂きたいと思いました。
(女性、50～59歳、柏市)

(付) 調査票および単純集計結果

ちば

第 62 回 千葉県政に関する世論調査

ご回答にあたってのお願い

宛名のご本人様がお答えください。（代筆による回答も可能です。）

回答方法は「郵送」または「インターネット」のいずれかをお選びいただけます。

令和 3 年 1 2 月 1 7 日（金）までにご回答をお願いします。

※郵送・インターネット共通

郵送でお答えいただく場合

- この調査票に直接、黒か青のボールペンまたは鉛筆でご記入ください。
- ご記入いただきました調査票は、三つ折りにして同封の返信用封筒に入れて、郵便ポストにご投函ください。返信用封筒へのお名前やご住所のご記入、切手は不要です。

インターネットでお答えいただく場合

- 別添の「インターネット回答操作案内」をご覧ください。ご回答には、右下に貼られた「申請者 I D」「パスワード」が必要になります。
- 「申請者 I D」等は、ランダムに調査票へ貼っており、個人を特定するものではありません。

ご回答に当たってご不明な点等がございましたら、お手数ですが下記までお問い合わせください。

【調査の趣旨・内容について】

千葉県 総合企画部報道広報課 広聴室
〒260-8667
千葉市中央区市場町1番1号
電 話 043-223-2469
(平日 9:00~17:00)

【調査票の記入方法・締切等について】

調査実施機関
株式会社サーベイリサーチセンター
〒103-0027
東京都中央区日本橋3-13-5
KDX日本橋313ビル 5階
電 話 0120-965-812
(平日 9:00~17:00)



千葉県マスコットキャラクター
チーバくん

【環境と生活について】

問 1 あなたは、現在お住まいの地域に、ずっと住みたいと思いますか。 n = 1, 659 (○は 1 つ)

- 71.2 住みたい
- 6.3 千葉県内のよそへ移りたい
- 4.1 千葉県外に移りたい
- 5.1 千葉県内、県外どちらでもかまわないう移りたい
- 12.4 わからない
- 0.8 無回答

問 2 現在お住まいの地域の、道路の整備についてどうお感じですか。 n = 1, 659 (○は 1 つ)

- | | | |
|---------------|----------------|--------------|
| 4.9 大変満足している | 15.8 どちらともいえない | 14.6 大変不満である |
| 36.4 まあ満足している | 27.3 やや不満である | 0.8 わからない |
| | | 0.2 無回答 |

問 3 現在お住まいの地域の、上水道の整備についてどうお感じですか。 n = 1, 659 (○は 1 つ)

- | | | |
|---------------|----------------|-------------|
| 15.4 大変満足している | 14.1 どちらともいえない | 4.0 大変不満である |
| 53.4 まあ満足している | 7.3 やや不満である | 5.3 わからない |
| | | 0.5 無回答 |

問 4 現在の住生活全般（住まい・環境・地域社会）についてどうお感じですか。

n = 1, 659 (○は 1 つ)

- | | | |
|---------------|----------------|-------------|
| 8.7 大変満足している | 17.8 どちらともいえない | 3.4 大変不満である |
| 51.9 まあ満足している | 16.9 やや不満である | 1.0 わからない |
| | | 0.3 無回答 |

問 5 消費生活全般（消費者トラブルの相談体制、消費者教育の機会、悪質商法への対策、生活必需品の安定供給など）について、どうお感じですか。 n = 1, 659 (○は 1 つ)

- | | | |
|---------------|----------------|-------------|
| 3.4 大変満足している | 32.6 どちらともいえない | 2.2 大変不満である |
| 31.7 まあ満足している | 9.2 やや不満である | 20.4 わからない |
| | | 0.5 無回答 |

問 6 気候変動による影響に対応し、被害を回避・軽減させることを「気候変動による影響への適応」と言います。「気候変動による影響への適応」という言葉を知っていますか。

n = 1, 659 (○は 1 つ)

- | | |
|-----------------|---------------------------|
| 8.6 意味までよく知っている | 25.4 言葉を聞いたことはあるが、意味は知らない |
| 35.8 意味を大体知っている | 29.8 知らない |
| | 0.4 無回答 |

問 7 日常生活の中で環境に配慮して行動していますか。

n = 1, 659 (○は 1 つ)

- | | | |
|-----------------|-----------------|-----------|
| 28.4 いつも配慮している | 11.9 あまり配慮していない | 2.8 わからない |
| 53.5 ときどき配慮している | 3.1 特に配慮していない | 0.3 無回答 |

問 8 あなたは、普段の生活で環境に配慮した次のような取組を行っていますか。

（○はそれぞれ 1 つずつ）

	実施している	ときどき実施している	あまり実施していない	実施していない	該当するものがない
n = 1, 659					
（ア）節電に努めている	47.1	40.6	9.6	1.3	0.2
（イ）冷暖房の設定温度を控えめにする	58.3	28.0	9.2	2.3	1.1
（ウ）省エネルギー性能の高い家電製品を選ぶ	36.9	33.0	20.0	5.7	3.0
（エ）マイバッグの利用	79.4	12.3	3.2	3.4	0.3
（オ）車の急発進・急ブレーキはしない	62.4	9.9	2.4	1.8	19.3
（カ）アイドリング・ストップを心掛けている	46.6	15.9	7.8	5.9	19.8
（キ）食品ロスの削減に取り組んでいる	44.0	39.7	11.7	1.9	1.3

問 9 これまでに環境保全に関する講演やセミナー（オンラインでの参加を含む）、あるいは環境ボランティア活動（植林や清掃活動など）に参加したことがありますか。

n = 1, 659（○は 1 つ）

20.0	参加したことがある	
30.6	参加したことはないが、機会があれば参加してみたい	
28.7	参加したことはなく、あまり参加したいと思わない	
19.0	参加したことはなく、今後も参加するつもりはない	
1.3	その他（具体的に	）
0.5	無回答	

問10 市民活動団体※の活動や、ボランティア活動に関心がありますか。 n = 1, 659（○は 1 つ）

7.2	大変関心がある	43.2	あまり関心がない
40.0	まあ関心がある	9.3	まったく関心がない
		0.2	無回答

※ 「市民活動団体」とは、市民の自発性に基づき、福祉や子育て支援、まちづくり、環境等様々な分野の地域課題の解決のために、自立的・継続的に社会貢献活動を行う営利を目的としない団体（行政が認証したNPO法人やボランティア団体等任意団体）です。

問11 市民活動団体の活動に参加※したことがありますか。

n = 1, 659（○は 1 つ）

4.5	定期的に参加している	13.3	参加したことはないが、今後参加してみたいと思う
6.9	ときどき参加している	60.5	参加したことはない
14.6	参加したことがある	0.2	無回答

※ ここでいう「参加」とは、団体の会員やボランティアとしての参加のみならず、団体への資金・物品・技術・場所等の提供・寄付などの支援を通しての参加や、団体が提供するサービスの利用・イベントへの参加などを指します。

問12 ボランティアとして活動※したことがありますか。

n = 1, 659 (○は 1 つ)

8.0 定期的に活動している 7.6 活動したことはないが、今後活動してみたいと思う
 7.5 ときどき活動している 46.0 活動したことはない
 30.1 活動したことがある 0.8 無回答

※ ここでいう「ボランティア活動」とは、市民の自発性に基づき地域や社会に貢献する活動（町会・自治会の活動、PTA 活動や学校行事の手伝い、子ども会の活動、交通安全運動、道路や公園等の清掃なども含む）のことであり、市民活動団体が行うボランティア活動への参加のみならず、個人として行うものを含むボランティア活動全般を指します。

問13 この 1 年間に、どのような方法で（どこで・どの手段で）、何回くらい文化芸術※に触れましたか。
 (○はそれぞれ 1 つずつ)

	1 回	2 ～ 5 回	6 ～ 9 回	10 回 以上	触 れ な か つ た	無 回 答
n = 1, 659						
(ア) 県内の施設（文化ホール、美術館、博物館、映画館等）・史跡・祭りなどで	13.7	21.0	2.6	4.3	53.8	4.6
(イ) 県外の施設（文化ホール、美術館、博物館、映画館等）・史跡・祭りなどで	11.3	15.3	2.7	2.6	62.6	5.5
(ウ) パソコン・スマートフォンなどオンラインで	4.7	15.8	4.0	19.0	50.3	6.1
(エ) テレビ・書籍などオンライン以外で	4.2	17.7	6.4	25.0	41.6	5.2

※ 「文化芸術」とは、映画（アニメ含む）、音楽（クラシックやポップス等）、美術（写真・デジタルアート含む）、文芸（マンガ含む）、ダンス、茶道・華道、歌舞伎、地域に伝わる祭り、文化財など幅広いジャンルの文化芸術を指します。

※ 「触れる」とは、映画・舞台公演・展覧会等の鑑賞、地域の祭り等への参加、演奏・創作活動、史跡めぐり、読書（マンガ含む）などを指します。（いずれもオンラインでの視聴・鑑賞を含みます。）



（問13で（ア）～（エ）**全てに「5」**とお答えの方に）

問13-1 その主な理由は何ですか。

n = 426 (○はいくつでも)

26.8 文化芸術に興味がないから
 29.6 興味のある内容の催し物がないから
 26.5 文化施設などへ鑑賞に出かける時間や気力がないから
 10.6 オンラインや自宅で鑑賞する時間がないから
 21.6 自分の都合のよい日時に開催されていないから
 17.1 近隣に文化施設がないから
 7.5 Web 環境が整っていない、又は Web 上でのチケット購入などの手続きが難しいから
 6.8 催し物の料金が安いから
 15.3 催し物の情報が得られないから
 1.9 エレベーターやスロープなどの位置、車いす席の確保等、バリアフリー対策が不十分だから
 1.9 バリアフリー対策の情報が入手できないから
 0.7 字幕表示、点字による案内等の鑑賞サポートが不十分だから
 21.6 その他（具体的に ） 2.1 無回答

【健康について】

問14 あなたは、積極的に健康づくり※に取り組んでいますか。 n = 1, 659（○は 1 つ）

24.8	そう思う	9.3	どちらかといえばそう思わない
36.6	どちらかといえばそう思う	6.1	そう思わない
21.0	どちらともいえない	1.1	わからない
		0.9	無回答

※ ここでいう「健康づくり」とは、適度な運動やバランスの取れた食事、禁煙等の県民一人ひとりによる主体的な取組を指します。

問15 この1年間に運動やスポーツ※をどの程度行いましたか。 n = 1, 659（○は 1 つ）

34.4	週に3回以上	4.7	3か月に1～2回程度
15.4	週に2回	5.4	年に1～3回程度
13.0	週に1回	14.9	全く行わなかった
11.3	月に1～3回程度	0.8	無回答

※ ここでいう「運動やスポーツ」とは、自転車の利用、階段昇降、散歩、ぶらぶら歩き、通勤時の一駅歩き等の比較的軽い運動やスポーツを含みます。

問16 あなたは、自分が住み慣れた地域で安心して受診できる医療体制にあると思いますか。

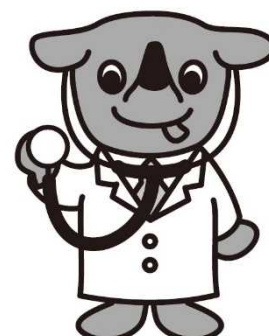
n = 1, 659（○は 1 つ）

23.6	そう思う	9.4	どちらかといえばそう思わない
37.3	どちらかといえばそう思う	8.7	そう思わない
16.9	どちらともいえない	3.2	わからない
		0.9	無回答

問17 「かかりつけ医」、「かかりつけ歯科医」、「かかりつけ薬剤師・薬局」をお持ちですか。

n = 1, 659（○はそれぞれ 1 つずつ）

かかりつけ医	かかりつけ歯科医	かかりつけ薬剤師・薬局
63.4	69.0	45.0
持っている	持っている	持っている
28.1	20.7	31.9
持っていないが、必要性は強く感じている	持っていないが、必要性は強く感じている	持っていないが、必要性は強く感じている
7.9	6.3	18.9
持っていないし、必要性もあまり感じていない	持っていないし、必要性もあまり感じていない	持っていないし、必要性もあまり感じていない
0.6	4.0	4.1
無回答	無回答	無回答



【福祉について】

問18 以下について、お住まいの地域はどのような状況だと思いますか。（○はそれぞれ 1 つずつ）

	そう 思う	どちら かとい えば そう 思う	ど ち ら か と も い え な い	ど ち ら か と い え ば そ う 思 わ な い	そ う 思 わ な い	わ か ら な い	無 回 答
n = 1, 659							
(ア) 安心して子育てができる環境が ととのっている	9.3	34.5	22.3	7.1	5.7	18.3	2.7
(イ) 高齢者が安心して暮らし続けていける 社会環境にある	6.7	26.8	30.0	12.6	10.4	11.9	1.7
(ウ) 自分が介護の必要な状況になっても、現在の 自宅や地域で暮らし続けられる環境にある	7.0	20.0	29.3	12.5	15.9	13.9	1.5
(エ) 多様な社会参加を通じ、社会と関わりを 持ちながら高齢者が生活を送っている	5.2	20.9	30.4	11.3	9.5	20.3	2.5

問19 地域住民が互いに支え合い、安心して暮らせる地域社会づくりが進められていると思いますか。
n = 1, 659（○は 1 つ）

6.1	そう思う	15.9	どちらかといえばそう思わない
21.6	どちらかといえばそう思う	12.2	そう思わない
29.5	どちらともいえない	13.3	わからない
		1.4	無回答

問20 障害のある・なしにかかわらず、誰もが社会の一員としてお互いを尊重し、支え合って
暮らす「共生社会」という考え方を知っていますか。
n = 1, 659（○は 1 つ）

42.2	知っている	36.9	言葉だけは聞いたことがある	19.7	知らない	1.2	無回答
------	-------	------	---------------	------	------	-----	-----

【地域リハビリテーションについて】

障害のある子どもや成人・高齢者とその家族が、住み慣れたところで、一生安全に、その人らしくいきいきとした生活ができるよう、保健・医療・福祉・介護及び地域住民を含め生活にかかわるあらゆる人々や機関・組織がリハビリテーションの立場から協力し合って行う活動のすべてを地域リハビリテーションといいます。

問21 あなた又はあなたの家族は、地域や病院、施設などで、理学療法士、作業療法士又は言語聴覚士などの専門職による、リハビリテーションを受けたことがある、又は現在受けていますか。
n = 1, 659（○は 1 つ）

22.3	受けたことがある	6.5	現在受けている	68.3	受けたことはない	2.9	無回答
------	----------	-----	---------	------	----------	-----	-----

→ 7 ページの問 22 へ

→ 7 ページの問 23 へ

（問 21 で「1」、「2」とお答えの方に）

問22 あなた又はあなたの家族に対して、地域での介護予防から入院中・退院後の生活までそれぞれの段階で途切れのない適切なリハビリテーションが提供された、又は提供されていると思いますか。
n = 478（○は1つ）

24.7	そう思う	12.1	どちらかといえばそう思わない	11.9	わからない
41.0	どちらかといえばそう思う	8.6	そう思わない	1.7	無回答

問23 適切なリハビリテーションが提供されるためには、どのようなことが重要だと思いますか。
n = 1,659（○はいくつでも）

64.7	自分又は家族のリハビリテーションについて相談できる窓口がある
14.3	リハビリテーションに関する知識を学ぶことができる講演会などがある
70.2	身近にリハビリテーションを受けることができる病院や施設がある
55.3	退院時に、退院後も適切なリハビリテーションを引き続き受けられるような案内や説明がある
31.3	歩いて通えるような身近な場所で気軽に参加できる体操教室などがある
24.5	理学療法士、作業療法士、言語聴覚士などのリハビリ専門職の人数を増やす
3.5	その他（具体的に
5.4	無回答

【食育について】

朝食の欠食や野菜の摂取不足、食塩の過剰摂取などの食生活に関する課題が多いことから、県では、規則正しい食生活や栄養バランスのとれた食事の実践、「食」に関する正しい知識の習得、農林水産業や食文化に対する理解を通じて、県民の皆様が健全な食生活を送れるよう、食育の推進に取り組んでいます。

問24 「食育」に関心がありますか。
n = 1,659（○は1つ）

37.9	関心がある	18.1	どちらかといえば関心がない
38.2	どちらかといえば関心がある	3.8	関心がない
		2.0	無回答

（問 24 で「1」、「2」とお答えの方に）

問24-1 「食育」に関心を持ったきっかけは何ですか。
n = 1,262（○はいくつでも）

35.4	家庭で日頃から親に教わっていたこと
14.3	学校で習ったこと
19.2	結婚したこと
49.0	親になったこと
2.3	子どもが学校等で学習したことに影響されて（具体的に
17.7	食に関する事件
4.1	農林漁業体験
7.4	食に関するイベントへの参加
6.5	講演会、セミナーへの参加
15.7	その他（具体的に
2.1	無回答

問25 健康に悪影響を与えないようにするため、どのような食品を選択すると良いかや、どのような調理が必要かについて知識があると思いますか。 n = 1, 659（○は 1 つ）

9.8 十分あると思う	25.9 あまりないと思う
57.9 ある程度あると思う	5.4 全くないと思う
	1.1 無回答

問26 あなた又はあなたの家族の中で、農林漁業に関する体験※に参加したことがある人はいいますか。 n = 1, 659（○は 1 つ）

43.1 いる	49.5 いない	6.4 わからない	0.9 無回答
---------	----------	-----------	---------

※ 農林漁業に関する体験とは、いちご狩りなどの収穫体験、農作業体験、学童農園での栽培や調理実習、学校での体験活動、市民農園での栽培体験、道の駅や交流施設などの体験活動、農林漁村に宿泊し交流する教育旅行などを指します。

問27 地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理（郷土料理など）や作法（箸づかいなど）を知っていますか。 n = 1, 659（○は 1 つ）

46.5 知っている	52.2 知らない	1.3 無回答
------------	-----------	---------

→（問27で「1」とお答えの方に）

問27-1 地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理（郷土料理など）や作法（箸づかいなど）を地域や次世代（子どもやお孫さん含む）に対して伝えていますか。 n = 771（○は 1 つ）

67.8 伝えている	31.9 伝えていない	0.3 無回答
------------	-------------	---------

【観光について】

問28 千葉県内を旅行する場合、より快適な旅行をするためには、特に何が充実してしてほしいですか。 n = 1, 659（○は 3 つまで）

10.4 体験プログラム	55.0 観光地への交通アクセス
49.7 食事	30.1 観光情報・案内の充実度
25.2 お土産・特産品	11.5 Wi-Fi 等の通信環境
11.6 接客サービス	30.8 観光地の公衆トイレ
5.5 観光ボランティアガイド	28.3 観光地の駐車場
13.1 バリアフリーへの対応	3.3 その他（具体的に ）
	1.6 無回答

問29 県産品をお土産や贈答品とする場合、何を選びますか。 n = 1, 659（○は 3 つまで）

6.3 花	7.7 しょうゆ・みそ
42.6 農産物・果物	3.4 乳製品
48.9 落花生・落花生加工品	41.7 菓子・せんべい
3.1 肉類	3.8 工芸品
21.9 生鮮魚介類	9.2 チーバくんグッズ
29.7 海苔・水産加工品	1.1 その他（具体的に ）
6.8 漬物	2.4 県産品を選ばない
9.4 酒類	1.2 無回答

【県の農林水産物について】

問30 千葉県産農林水産物を購入したいと思いますか。

n=1,659（○は**1**つ）

41.2 そう思う

43.5 どちらかといえばそう思う

10.5 どちらかといえばそう思わない

3.6 そう思わない

1.1 無回答

→（問 30 で「**1**」、「**2**」のいずれかをお答えの方に）

問30-1 その主な理由は何ですか。

n=1,406（○は**1**つ）

25.0 千葉県に愛着があるから

2.0 価格が安いから

40.8 鮮度が良い（美味しい）から

1.4 その他（具体的に

20.6 地元のものは安心だから

6.8 特に理由はない

3.3 無回答

→（問 30 で「**3**」、「**4**」のいずれかをお答えの方に）

問30-2 その主な理由は何ですか。

n=234（○は**1**つ）

29.1 産地にこだわらず価格で選ぶから

2.6 その他（具体的に

38.9 産地にこだわらず旬や鮮度で決めるから

22.6 特に理由はない

3.4 千葉県以外で買いたい産地があるから

3.4 無回答

問31 千葉県では、農薬や化学肥料をできるだけ減らすなど、「環境にやさしい農業に取り組む農業者」や「環境にやさしい農産物」についての認証制度を設けています。次の農産物や制度を知っていますか。

※同封の資料①を参考にご回答ください。

n=1,659（○は**いくつでも**）

14.9 ちばエコ農産物

11.0 エコファーマー

39.1 有機農産物

49.4 どれも知らない

8.4 特別栽培農産物

1.7 無回答

問32 「千葉ブランド水産物」を知っていますか。

n=1,659（○は**1**つ）

3.0 よく知っている（認定マークや品目までわかる）

60.6 知らない

35.6 多少は知っている（聞いたことがある）

0.8 無回答

※ 千葉県では、千葉のさかなの認知度を高め、広く県内外にアピールするため、「銚子つりきんめ」、「外房イセエビ」、「九十九里地はまぐり」などの優良な県産水産物を「千葉ブランド水産物」として認定しています。



【都市農業について】 ※同封の資料②を参考にご回答ください。

県内の市街地及びその周辺で行われている農業のことを都市農業といい、その農地を、本調査では都市農地と呼びます。都市農業・都市農地は、新鮮な農産物の供給のほかに、農業体験・交流活動の場、災害時の防災空間など、様々な役割を担っています。

問33 あなたは、上記のように様々な役割を担う都市農地を、県内に残していきたいと思いますか。
n = 1,659（〇は1つ）

77.2	思う	2.3	思わない	18.4	どちらともいえない	2.0	無回答
------	----	-----	------	------	-----------	-----	-----

問34 千葉県の都市農業・都市農地にどのような機能や役割を期待しますか。

n = 1,659（〇は3つまで）

73.7	新鮮で安全な農産物の供給	13.0	地域の伝統・文化の継承
37.9	緑や環境の保全	26.6	災害時の避難場所などの防災機能
24.6	地域産業の活性化（他産業との連携を含む）	9.5	良好な景観の形成
16.8	農作業体験や食育などの教育機能	7.7	地域コミュニティの場
14.3	農作業体験などによる農業への関心の呼び起こし	4.9	園芸療法等の医療・福祉機能
20.4	生活の潤いや安らぎの場の提供	4.1	身近なレクリエーションの場
		0.6	その他（具体的に）
		3.4	特になし
		1.4	無回答

【防災に関する取組について】 ※同封の資料③を参考にご回答ください。

問35 自分の住んでいる地域で、大地震や風水害が起こるのではないかと不安を感じていますか。
n = 1,659（〇は1つ）

42.1	強く感じている	11.5	あまり感じていない	1.0	わからない
42.0	少し感じている	2.7	感じていない	0.7	無回答

問36 災害発生の危険度と、とるべき避難行動を示す各警戒レベルの意味や、その際にとるべき行動について知っていますか。
n = 1,659（〇は1つ）

7.1	よく知っている（それぞれのレベルの意味までわかる）
47.2	大体知っている（レベルにより取るべき行動が異なることを知っている）
40.4	ある程度知っている（言葉を聞いたことがある）
4.6	全く知らない
0.7	無回答

令和3年5月20日から災害対策基本法の一部改正に伴い、住民の方へ伝達される避難情報の伝え方が変更されました。今後、お住まいの地域で「警戒レベル4避難指示」が発令された場合は、「危険な場所から全員避難」となります。お近くの避難所の位置や避難経路の確認を行うなど、災害に備えていただきますようお願いいたします。



問37 あなたの家では、災害時に利用できる食料品等を何日分用意していますか。

*飲料水 1日分＝1人当たり3リットル×家族の人数

*トイレ 1日分＝1人当たり1日5回分×家族の人数

（○はそれぞれ1つずつ）

n = 1,659	4日分以上	3日分	2日分	1日分	用意していない	わからない	無回答
(ア) 食料品	16.6	27.1	21.3	11.2	17.7	4.8	1.4
(イ) 飲料水	22.7	23.6	18.9	12.8	16.8	3.8	1.4
(ウ) 災害用トイレ（携帯・簡易トイレ）	9.8	10.5	9.0	9.6	54.1	5.2	1.8

問38 災害時に利用できる災害伝言板や災害用伝言ダイヤルを知っていますか。

n = 1,659（○は1つ）

7.7 よく知っている（使い方や番号までわかる）	28.3 知らない
62.7 多少は知っている（聞いたことがある）	1.4 無回答

問39 地震による被害を防ぐため、どのような対策を行っていますか（行う予定ですか）。

n = 1,659（○はいくつでも）

60.9 家具（冷蔵庫、食器棚、本棚、タンス、テレビなど）の固定化
8.9 住宅（昭和56年以前に建築されたもの）の耐震化
5.8 住宅（昭和56年以前に建築されたもの）の建替え
8.6 家具や建築資材の不燃化・防災化
3.1 住宅の液状化対策
52.5 地震や津波が来た場合の避難場所と避難経路の確認
4.2 その他（具体的に
5.7 無回答

大規模な災害が発生した場合、避難所に飲料水や食料などの支援物資が届くまで時間がかかることや、断水や停電、給排水管の損壊、し尿処理施設の被災により、水洗トイレが使用できなくなることが予想されます。また、固定電話や携帯電話（音声及びメール）は、災害が発生した際には利用が急増し、平常時のように使用できなくなります。日頃から防災に対する意識を高めましょう。

【男女共同参画について】

問40 社会全体※で男女の地位は平等になっていると思いますか。

n = 1,659（○は1つ）

9.9 男性が非常に優遇されている	6.1 どちらかといえば女性が優遇されている
52.4 どちらかといえば男性が優遇されている	0.7 女性が非常に優遇されている
12.8 平等	16.9 わからない
	1.1 無回答

※ 社会全体とは、家庭、職場、学校教育の場、政治の場、法律や制度上、社会通念・慣習、地域活動の場等のあらゆる分野を想定しています。

問41 男女共同参画社会を実現するための様々な取組のなかで、今後、県はどのようなことにより力を入れるべきと考えますか。 n=1,659（○はいくつでも）

- | | |
|------|------------------------------------------------------------------|
| 64.6 | 子育てや介護中であっても仕事を続けられるよう支援する |
| 60.2 | 子育てや介護でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する |
| 57.5 | 保育及び介護の施設やサービスを充実する |
| 38.0 | 長時間労働の是正や在宅勤務の普及など男女ともに働き方の見直しを進める |
| 20.2 | 県の審議会委員や管理職に女性を積極的に登用するとともに、県内市町村の審議会など政策決定の場に女性を積極的に登用するよう働きかける |
| 21.4 | 政治分野における男女共同参画が進むよう支援する |
| 13.6 | 女性の起業・創業が進むよう支援する |
| 16.9 | 企業や団体等の管理職に女性の登用が進むよう支援する |
| 18.4 | 従来女性が少なかった分野（研究者等）への女性の進出を支援する |
| 19.3 | 女性の視点を踏まえた防災復興の取組を推進する |
| 45.3 | DV・児童虐待・性暴力等あらゆる暴力に対して対策を強化する |
| 9.5 | 男女共同参画に関する条例を制定する |
| 17.4 | 女性・男性の生き方、悩みに関する相談窓口を充実する |
| 14.7 | 男女の平等と相互の理解や協力について学習機会を充実する |
| 10.9 | 男女の平等と相互の理解や協力について広報・PR をする |
| 13.0 | 施策を実施するにあたって企業や民間団体（NPO 等）との連携を推進する |
| 2.5 | その他（具体的に |
| 3.9 | 無回答 |

【SDG s 等について】

問42 あなたは、SDG s※の言葉の意味を知っていましたか。 n=1,659（○は1つ）

- | | | | |
|------|------------|------|----------------------|
| 15.9 | 意味をよく知っている | 24.1 | 言葉を聞いたことはあるが、意味は知らない |
| 35.6 | 意味を大体知っている | 22.7 | 言葉を知らない |
| | | 1.6 | 無回答 |

※ SDG s（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標）とは、2015 年 9 月の国連サミットで採択された 2030 年を達成年限とする世界共通の目標です。経済・社会・環境の三側面の調和がとれた社会を目指す目標として、17 のゴールから構成され、「誰一人取り残さない」という理念を掲げています。

問43 「ダイバーシティ※」という概念を知っていましたか。 n=1,659（○は1つ）

- | | | | | | |
|------|----|------|-----|-----|-----|
| 42.3 | はい | 55.6 | いいえ | 2.2 | 無回答 |
|------|----|------|-----|-----|-----|

※ 「ダイバーシティ」とは、多様性のことをいい、性別や国籍、年齢、障害の有無などに関わりなく、多様な個性が力を発揮し、共存できる社会のことを「ダイバーシティ社会」といいます。

→（問 43 で「1」とお答えの方に）

問43-1 千葉県で「ダイバーシティ社会」が実現できていると思いますか。

3 または 4 を選んだ方は、その理由をご記載ください。（任意）

n=701（○は1つ）

- | | |
|------|---------------------|
| 4.3 | そう思う |
| 51.9 | どちらかといえばそう思う |
| 32.5 | どちらかといえばそう思わない（その理由 |
| 10.4 | そう思わない（その理由 |
| 0.9 | 無回答 |

問44 千葉県の魅力は、次のどれだと思いますか。

n = 1, 659 (○はいくつでも)

- 3. 6 地震や台風など災害への備えがなされている
- 26. 9 治安が良く、安心して生活ができる
- 11. 3 安心して出産・子育て・教育ができる環境がある
- 15. 1 医療施設や福祉施設が充実している
- 3. 2 魅力的な企業があり、希望した働き方ができる
- 11. 0 地域の祭りや音楽などの文化・芸術が楽しめる
- 14. 2 神社・仏閣やまち並みなど歴史を味わえる
- 23. 5 ゴルフやサーフィンなどのスポーツを体験できる
- 46. 9 新鮮な農林水産物を味わえる
- 57. 2 温暖な気候で豊かな自然がある
- 41. 6 海水浴や潮干狩り、釣りなどで海を楽しめる
- 35. 6 魅力的な観光施設（テーマパーク・水族館・旅館等）がある
- 31. 8 道路・鉄道・航空などによる交通アクセスがよい
- 2. 0 その他（具体的に
- 4. 6 特にな
- 1. 9 無回答

【広報について】

問45 県政に関する情報をどのような手段で得ていますか。

n = 1, 659 (○はいくつでも)

- 57. 4 県広報紙「ちば県民だより」
- 14. 2 千葉県ホームページ（パソコン・スマートフォン版）
- 4. 2 千葉県ホームページ（携帯版）
- 2. 4 県が運用している SNS 「千葉県広報 Twitter」「千葉県公式 LINE」
「チーバくん Instagram」「YouTube 千葉県公式 PR チャンネル」等
- 4. 6 千葉日報による新聞紙面広報「県からのお知らせ」、「特集」
- 12. 4 県の広報テレビ番組（チバテレ）
「千葉県インフォメーション」「ウィークリー千葉県～ちばの旬な話題をお届け～」
- 2. 5 県の広報ラジオ番組（bayfm78）
「サタデイ・プレイシング・モーニング」「チバ・プリフェクチャー・アップデイツ」
- 5. 4 県の魅力発信テレビ番組（フジテレビ）
「千葉の贈り物～まごころ配達人～」
- 1. 9 県の魅力発信ラジオ番組（bayfm78）
「ミンナノチカラ～CHIBA～」 「YOU 遊 チバ」
- 19. 5 5～9 以外の新聞記事、テレビ・ラジオの番組やニュース
- 1. 0 その他（具体的に
- 22. 9 特に情報を得ていない
- 1. 8 無回答



【県政への要望】

問46 県政全般について、今後特に力をいれてほしいと思われることを、次の県政への要望項目の中から**3つまで**選んで番号に○をつけてください。

なお、「問47(15～19ページ)」に具体的要望項目を記載していますので、参考にしてください。

n = 1,659

- 44.7 災害から県民を守る
- 3.6 消費生活のトラブルに関する対策をすすめる
- 13.0 食品の安全を守る
- 16.7 交通事故から県民を守る
- 5.3 中心市街地の活性化を推進する
- 1.6 国際交流・協力や外国人県民との共生をすすめる
- 17.5 公共交通網（バス・鉄道）を整備する
- 7.7 障害のある人の福祉や社会参加の支援を充実する
- 5.7 ひとり親家庭等の福祉を充実する
- 25.5 高齢者の福祉を充実する
- 17.6 次世代を担う子どもの育成支援を充実する
- 3.8 青少年を健全に育てる
- 1.5 男女共同参画を推進する
- 1.0 地域課題解決に向けた市民活動や協働の取組を推進する
- 5.2 健康づくりをすすめて、病気を予防する
- 21.0 医療サービス体制を整備する
- 6.0 大気汚染、水質汚濁、騒音などの環境対策をすすめる
- 9.5 自然を守り、緑を育てる
- 3.9 循環型社会を推進する
- 3.5 廃棄物対策をすすめる
- 2.8 商工業を振興し、地域経済の担い手を育成する
- 3.2 観光を振興する
- 7.9 雇用の場を広げる
- 12.1 仕事と子育てや介護が両立する働き方を実現する
- 3.5 農林水産業を振興し新鮮な農林水産物を供給する
- 13.3 道路を整備する
- 5.1 下水道を整備する
- 1.3 住宅対策を充実する
- 3.4 公園・緑地を整備する
- 5.5 安心して飲める良質な水道水を供給する
- 5.4 学校教育を充実する
- 2.3 生涯学習・スポーツ・レクリエーションを振興する
- 2.4 芸術・文化活動を振興する
- 9.2 犯罪防止対策をすすめる
- 1.6 施策実現や地域活性化のための I C T（情報通信技術）の利活用をすすめる
- 2.1 その他（具体的に
- 1.3 要望はない
- 1.0 無回答

（問46で「1」～「35」のうち1つでもお答えの方は、次の問47にお進みください。

問46で「36」または「37」だけにお答えの方は、19ページのF 1にお進みください。）⇒

⇒ 問47 問46で選んでいただきました県政の要望について、具体的にどのようなことを望まれますか。

問46で選んだ3項目についてのみ、具体的要望項目から1つずつ選んで番号に○をつけてください。

問46の番号及び項目	具体的要望項目（問46で選んだ項目についてのみお答えください）
1 n = 741 災害から県民を守る を選んだ方	⇒ 10.7 災害対応マニュアルの作成・防災マップ等の公表 39.5 災害時の支援、救援活動 10.7 避難場所・避難経路の整備 11.2 危険箇所の事前解消 4.0 災害に対する意識啓発、情報提供 0.5 放射性物質への対応 2.3 避難所における感染症対策 11.5 災害による停電対策 1.2 その他（具体的に） 8.4 無回答
2 n = 59 消費生活のトラブルに 関する対策をすすめる を選んだ方	⇒ 45.8 悪質商法などによる消費者トラブルの相談・救済 22.0 悪質な事業者の指導・処分 5.1 食品や生活用品などの適正な表示 0.0 商品・サービスに係る危害・危険の防止 1.7 消費者教育などの消費者の自立支援策の充実 6.8 高齢者や若者等の消費者被害の防止 6.8 安心して相談できる相談窓口などの情報提供 1.7 その他（具体的に） 10.2 無回答
3 n = 216 食品の安全を守る を選んだ方	⇒ 31.9 食品の安全確保 12.0 適正な食品表示 8.3 検査の強化 3.7 情報提供 33.8 添加物や農薬の規制 0.0 その他（具体的に） 10.2 無回答
4 n = 277 交通事故から県民を 守る を選んだ方	⇒ 37.2 交通事故多発箇所の点検、整備 5.1 交通安全教育の推進 13.4 自転車通行環境の整備 4.0 その他 12.6 自転車利用者のマナー向上 （具体的に） 16.6 ドライバーのマナー向上 11.2 無回答
5 n = 88 中心市街地の活性化を 推進する を選んだ方	⇒ 34.1 再開発などのまちづくり推進 29.5 駅周辺の活性化 11.4 商業による活性化 4.5 その他（具体的に） 20.5 無回答
6 n = 27 国際交流・協力や外国人 県民との共生をすすめる を選んだ方	⇒ 3.7 海外の良い点を県政に反映 14.8 姉妹都市をはじめとする世界との交流・協力 18.5 市民レベルでの文化交流・外国人県民との交流の機会の提供 33.3 外国人県民にも住みやすいまちづくり 25.9 外国人県民向けの多言語による相談窓口・情報提供の充実 3.7 その他（具体的に） 0.0 無回答
7 n = 291 公共交通網（バス・鉄道） を整備する を選んだ方	⇒ 27.1 鉄道やバスの増便などについて事業者に要望・働きかけ 19.2 鉄道やバス路線の維持のための支援体制の充実 13.7 鉄道新設などによる交通網の見直し 23.4 鉄道とバスとの乗り継ぎの円滑化など利便性向上 2.7 鉄道やバスのバリアフリー化の支援 6.5 その他（具体的に） 7.2 無回答
8 n = 128 障害のある人の福祉や 社会参加の支援を充実 する を選んだ方	⇒ 25.8 就労・社会参加の促進 18.8 入所施設やグループホームなど住まいの場の充実 32.8 障害のある人が暮らしやすいまちづくり 16.4 経済的な支援・負担の軽減 1.6 その他（具体的に） 4.7 無回答

問46の番号及び項目	具体的要望項目（問46で選んだ項目についてのみお答えください）
9 n=94 ひとり親家庭等の福祉を 充実する を選んだ方	25.5 子育て・生活支援体制の充実 4.3 就業支援体制の充実 ⇒ 36.2 経済的支援体制の充実 16.0 児童の就学・就職支援体制の充実 1.1 その他（具体的に） 17.0 無回答
10 n=423 高齢者の福祉を充実 する を選んだ方	42.1 在宅で暮らし続けるための医療・福祉・生活支援 25.5 特別養護老人ホーム等の入所施設の充実 11.1 高齢者が暮らしやすい住まいやまちづくりの支援 ⇒ 6.1 高齢期を充実して過ごすための生きがい対策 0.7 団塊世代や高齢者等の地域活動参加支援 0.2 高齢者虐待防止対策の強化 5.0 認知症対策の強化 0.5 その他（具体的に） 8.7 無回答
11 n=292 次世代を担う子どもの 育成支援を充実する を選んだ方	34.2 子育てに対する経済的な支援・負担軽減 8.6 地域住民参加の多様な子育て支援・子育て力の充実 8.6 幼稚園や保育所の特長を生かした就学前の子どもの教育・保育の 充実 ⇒ 6.5 児童虐待防止対策の推進 9.6 妊娠期から子育て期にわたる支援体制の充実 3.1 その他（具体的に） 29.5 無回答
12 n=63 青少年を健全に育てる を選んだ方	9.5 青少年のボランティア活動等社会参加の促進 28.6 家庭・学校・地域の連携強化 4.8 専門家による相談窓口の充実 ⇒ 12.7 ネットパトロールの実施・フィルタリング等の促進 14.3 非行・犯罪防止・立ち直り支援 11.1 ニート・ひきこもり等への支援 3.2 その他（具体的に） 15.9 無回答
13 n=25 男女共同参画を推進する を選んだ方	8.0 男性も女性もともに暮らしやすい社会の構築 4.0 ドメスティックバイオレンス（DV）やセクハラなどの根絶 20.0 子育てや介護、家庭生活と仕事を両立するための支援・環境整備 4.0 女性の再就職支援 24.0 働く場での男性・女性の均等な機会及び待遇の確保 ⇒ 8.0 政策・方針決定過程へ女性の参画 4.0 教育・学習の推進 0.0 広報・啓発活動の推進 8.0 男女共同参画に関する条例を制定する 0.0 男女共同参画の視点を踏まえた防災・復興への取組 0.0 その他（具体的に） 20.0 無回答
14 n=17 地域課題解決に向けた 市民活動や協働の取組を 推進する を選んだ方	23.5 官民連携など、協働の取組推進 5.9 市民活動への参加促進 ⇒ 41.2 活動を担う人材の育成 0.0 その他（具体的に） 17.6 活動を行う団体の活動支援 5.9 市民活動や協働の取組への理解促進 5.9 無回答
15 n=87 健康づくりをすすめて、 病気を予防する を選んだ方	19.5 運動の機会の増大 10.3 心の健康づくり ⇒ 29.9 高齢者の健康維持 1.1 歯科保健の充実 1.1 受動喫煙対策の推進 13.8 がんその他の生活習慣病対策 8.0 食生活改善の支援 1.1 その他（具体的に） 14.9 無回答
16 n=348 医療サービス体制を 整備する を選んだ方	16.1 医師・看護職員等医療従事者の確保 16.4 病院と診療所（かかりつけ医）との連携強化 ⇒ 23.3 医療施設の整備 19.5 休日・夜間等時間外診療の充実 13.2 救急医療体制の整備 2.0 その他（具体的に） 9.5 無回答

問46の番号及び項目	具体的要望項目（問46で選んだ項目についてのみお答えください）
17 n = 100 大気汚染、水質汚濁、騒音などの環境対策をすすめる を選んだ方	⇒ 11.0 低公害車の普及促進 7.0 光化学スモッグ・PM2.5 対策 1.0 アスベスト対策 8.0 航空機や自動車による騒音・振動に対する対策 20.0 河川・湖沼・海域の水質改善 7.0 建設残土・再生土の適正な埋立て 29.0 環境中に排出される有害な化学物質対策 4.0 その他（具体的に ） 13.0 無回答
18 n = 158 自然を守り、緑を育てる を選んだ方	⇒ 63.9 自然環境・自然景観の保全 5.1 環境保全に関する啓発・教育 6.3 希少な野生動植物の保全 1.3 県民参加での野生動植物調査 10.1 特定外来生物の防 1.3 その他（具体的に ） 12.0 無回答
19 n = 64 循環型社会を推進する を選んだ方	⇒ 4.7 ごみ分別徹底化 12.5 廃棄物の再資源化促進 20.3 ごみの発生抑制（プラスチックごみの削減、食品ロスの削減など） 20.3 地球温暖化対策・気候変動適応策に関する啓発・教育 23.4 再生可能エネルギーの導入促進・省エネルギーの推進 12.5 バイオマスの利活用（飼料化・堆肥化・燃料利用など） 0.0 その他（具体的に ） 6.3 無回答
20 n = 58 廃棄物対策をすすめる を選んだ方	⇒ 43.1 産業廃棄物の不法投棄防止対策 29.3 安心できる廃棄物処理施設の設置 10.3 廃棄物処理に関する広報・啓発活動 1.7 その他（具体的に ） 15.5 無回答
21 n = 47 商工業を振興し、地域経済の担い手を育成する を選んだ方	⇒ 29.8 新たな企業の誘致、産業拠点の整備 19.1 中小企業への資金支援の充実 12.8 創業及び新たな事業展開の支援 4.3 研究・技術開発の支援 2.1 販路開拓の支援 27.7 商店街の整備・活性化 0.0 その他（具体的に ） 4.3 無回答
22 n = 53 観光を振興する を選んだ方	⇒ 20.8 観光地域の魅力向上 7.5 観光地へのアクセスの改善 22.6 観光施設・宿泊施設の充実 1.9 その他 9.4 千葉県観光の積極的なPR （具体的に ） 24.5 新たな観光コンテンツの開発・磨き上げ 13.2 無回答
23 n = 131 雇用の場を広げる を選んだ方	⇒ 24.4 若年者に対する就業支援 6.9 女性に対する就業支援 9.2 就職氷河期世代に対する 8.4 障害のある人に対する就業支援 就業支援 1.5 その他（具体的に ） 33.6 中高年齢者に対する就業支援 16.0 無回答
24 n = 201 仕事と子育てや介護が両立する働き方を実現する を選んだ方	⇒ 13.4 女性の再就職支援 6.5 両立支援相談窓口の設置 21.9 ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の普及 9.0 男性の育児休業取得など働き方の見直しの啓発 16.4 短時間勤務制度等多様な働き方の普及 1.5 企業に対する税制上の優遇措置の創設 14.9 一時預かり、時間外保育等保育内容の充実 3.0 その他（具体的に ） 13.4 無回答

問46の番号及び項目	具体的要望項目（問46で選んだ項目についてのみお答えください）
25 n = 58 農林水産業を振興し 新鮮な農林水産物を供給する を選んだ方	⇒ 25.9 新鮮でおいしい農林水産物の供給 15.5 価格の安定 10.3 県産農林水産物の販売量の拡大 37.9 安全で安心して食べられる農林水産物の供給 3.4 その他（具体的に） 6.9 無回答
26 n = 221 道路を整備する を選んだ方	⇒ 38.0 交通渋滞対策 10.9 交通事故多発箇所の改修 2.3 沿道環境の改善（騒音・排ガス対策・景観形成） 7.7 観光、買い物などを支援する道路の整備 11.8 自然災害に強い道路の整備 20.8 その他（具体的に） 8.6 無回答
27 n = 85 下水道を整備する を選んだ方	⇒ 62.4 下水道の普及・改善 3.5 水洗化への支援 8.2 下水道施設の耐震化 3.5 その他（具体的に） 5.9 下水の高度処理化 16.5 無回答
28 n = 21 住宅対策を充実する を選んだ方	⇒ 33.3 安くて入居を拒まれない住宅の整備 9.5 子育て世帯や高齢者世帯に対応した住宅の整備 28.6 防犯や耐震性の向上など、安全で快適な住宅の整備 9.5 住み替えやリフォームに必要な市場の整備や情報の提供 9.5 省エネなど環境に優しい住宅の整備 0.0 その他（具体的に） 9.5 無回答
29 n = 56 公園・緑地を整備する を選んだ方	⇒ 37.5 公園・緑地等の設置・管理 12.5 公園等の緑化推進 35.7 子どもの遊び場の整備 1.8 公園・緑地等の管理への住民参加の機会充実 1.8 催物・講習会等の開催 1.8 その他（具体的に） 8.9 無回答
30 n = 91 安心して飲める良質な水道水を供給する を選んだ方	⇒ 44.0 上水道の水質の改善・維持 7.7 上水道の整備 23.1 水源となる湖沼や川の汚染対策 8.8 上水道施設の耐震化 2.2 その他（具体的に） 14.3 無回答
31 n = 89 学校教育を充実する を選んだ方	⇒ 31.5 教職員の資質向上・増員 0.0 障害のある児童生徒などの教育の充実 9.0 学力の向上 2.2 健康と体力の向上 9.0 学校施設の整備 10.1 特色ある教育活動の充実 2.2 その他 10.1 道徳や心の教育の充実（具体的に） 9.0 いじめ対策・不登校児童生徒支援 16.9 無回答
32 n = 38 生涯学習・スポーツ・レクリエーションを振興する を選んだ方	⇒ 2.6 指導者育成の支援 10.5 学習機会の充実 34.2 スポーツ・レクリエーション活動の充実 2.6 情報提供の充実 23.7 施設の整備・充実 7.9 その他（具体的に） 18.4 無回答
33 n = 39 芸術・文化活動を振興する を選んだ方	⇒ 46.2 文化・芸術にふれる機会の拡充 7.7 文化・芸術に関する情報提供の充実 15.4 文化・芸術活動への支援 2.6 伝統文化や文化財などの継承と活用 5.1 文化施設等の幅広い活用 0.0 その他（具体的に） 23.1 無回答

問46の番号及び項目		具体的要望項目（問46で選んだ項目についてのみお答えください）	
34	n = 153 犯罪防止対策をすすめる を選んだ方	⇒	11.1 警察官によるパトロールの強化 32.0 防犯カメラなどの防犯設備の整備・拡充 2.6 犯罪情報の発信や防犯対策等の広報活動を強化 11.1 警察官や交番相談員の増員による交番の不在時間短縮 8.5 人口や事件が増えている地域に警察署、交番、駐在所の新設 2.6 少年の非行防止対策 11.1 暴力団、来日外国人等による犯罪の防止 1.3 ボランティア、自治会等、地域主導型の防犯組織づくりの推進 0.7 その他（具体的に） 19.0 無回答
35	n = 27 施策実現や地域活性化の ためのICT（情報通信技 術）の利活用をすすめる を選んだ方	⇒	48.1 防災・環境・医療・福祉・健康等に関するICT利活用 11.1 子育て・教育等に関するICT利活用 0.0 国際交流・文化・スポーツ等に関するICT利活用 0.0 観光・商工業・農林水産業・街づくり・交通網の整備等に関するICT利活用 29.6 行政事務の利便性の向上、効率化へのICT利活用 3.7 情報セキュリティ対策の推進 7.4 Wi-Fi環境の整備促進 0.0 その他（具体的に） 0.0 無回答

以上で質問は終わりですが、調査結果を統計的に分析するために必要なことがらをお聞かせください。

F 1 あなたの性別は。

$n = 1,659$ (○は**1**つ)

41.1 男性	56.5 女性	0.1 その他	2.2 無回答
---------	---------	---------	---------

F2 あなたは満何歳ですか。

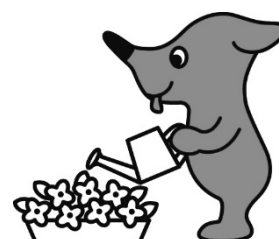
$n = 1,659$ (○は**1**つ)

1.4	18～19 歳	18.3	40～49 歳	8.9	65～69 歳
6.5	20～29 歳	17.8	50～59 歳	11.2	70～74 歳
10.1	30～39 歳	8.6	60～64 歳	15.1	75 歳以上
				2.2	無回答

F 3 あなたのご職業は何ですか。

$n = 1,659$ (○は**1**つ)

7.8 自営業者	19.4 主婦・主夫	17.4 無職
28.1 正規社員・職員	2.6 学生	2.2 その他（ ）
20.0 パート・アルバイト・契約社員		2.4 無回答



F 4 あなたは、次のどの市町村にお住まいですか。

n = 1,659（○は 1 つ）

12.5	千葉市	4.2	佐倉市	0.5	匝瑳市	0.5	勝浦市
6.0	市原市	2.1	四街道市	0.8	東金市	0.7	いすみ市
11.5	船橋市	0.5	八街市	0.4	山武市	0.0	夷隅郡大多喜町
5.7	市川市	1.3	印西市	1.1	大網白里市	0.4	夷隅郡御宿町
2.0	習志野市	1.0	白井市	0.4	山武郡九十九里町	0.5	館山市
3.4	八千代市	1.0	富里市	0.0	山武郡芝山町	0.5	鴨川市
2.2	浦安市	0.0	印旛郡酒々井町	0.0	山武郡横芝光町	0.8	南房総市
6.6	松戸市	0.7	印旛郡栄町	1.6	茂原市	0.0	安房郡鋸南町
2.8	野田市	0.9	香取市	0.5	長生郡一宮町	1.9	木更津市
6.7	柏市	0.0	香取郡神崎町	0.0	長生郡睦沢町	1.4	君津市
2.7	流山市	0.0	香取郡多古町	0.5	長生郡長生村	0.5	富津市
3.3	我孫子市	0.4	香取郡東庄町	0.0	長生郡白子町	0.4	袖ヶ浦市
1.6	鎌ヶ谷市	1.1	銚子市	0.0	長生郡長柄町		
1.3	成田市	0.7	旭市	0.0	長生郡長南町	4.2	無回答

以上で質問はすべて終わりです。

今までの設問について、ご意見やご提案がありましたらご自由にお書きください。

県や世論調査へのご意見やご提案がありましたらご自由にお書きください。



最後までご協力いただき、ありがとうございました。

ご記入いただいた調査用紙は、同封の返信用封筒に入れて、

12月17日（金）までに、郵便ポストにご投函ください。

なお、返信用封筒へのお名前やご住所の記入、切手は不要です。

令和３年度

(第62回)

県政に関する世論調査

令和４年５月発行

(令和３年11月実施)

千葉県総合企画部報道広報課

千葉市中央区市場町１番１号

(広聴室) 電話０４３－２２３－２４６９
